



取扱説明書

ビジネスプロジェクター

EB-L20002U

EB-L20000U

マニュアル中の表示の意味

・安全に関する表示

取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。 内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

・一般情報に関する表示

 注意	本機の故障や損傷の原因になるおそれがある内容を記載しています。
	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
【表記名】	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：【戻る】ボタン
【メニュー名】	環境設定メニューの項目を示しています。 例： [画質]から[明るさ]を選びます。 [画質] - [明るさ]

お使いになる前に必ず以下をお読みください。

☛ [『安全にお使いいただくために』](#)

設置に関する警告・注意

天吊りするにはオプションの天吊り金具が必要です。

☛ [「オプション」 p.236](#)

⚠ 警告

- 本機はクラスA機器です。住宅環境で使用する場合は、電波障害を発生させる恐れがあります。利用者は、製品使用時に適切な手段を講じなくてはならないことがあります。
- 屋外や風呂、シャワー室など、水や雨のかかるおそれのある場所、湿度の高い場所で使用・設置しないでください。火災・感電の原因となります。
- 塩害が発生する場所や、温泉から出る硫黄ガスなどの、腐食性ガスが発生する所には設置しないでください。腐食による落下の原因になることがあります。また、本機の故障の原因になることがあります。
- 天井への取り付け(天吊り設置)工事は、特別な技術が必要となります。正しく工事が行われないと、落下・転倒によりけがや事故の原因となります。お買い求めいただいた販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- ☛ [『お問い合わせ先』](#)
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下し事故やけがの原因となります。
- 天吊り設置や天吊り金具の調整に際しては、ネジゆるみ止め用接着剤・油などを使用しないでください。
- 天吊り金具とプロジェクターの取り付け不備により、プロジェクターの落下事故につながるおそれがあります。
- お使いのプロジェクターに対応したエプソン指定の金具を使用したうえで、十分強度のあるワイヤーなどを使ってプロジェクターと金具を固定してください。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 警告

- 燃えやすいものをプロジェクターのレンズの前に置かないでください。スケジュール機能により、プロジェクターの電源がオンになり、火災の原因となることがあります。
- 電源コードとその他の接続ケーブルを束ねないでください。火災の原因となります。
- 表示されている電源電圧以外は使用しないでください。指定外の電源電圧を使うと、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグの取り扱いには注意してください。取り扱いを誤ると、火災・感電の原因となります。取り扱いの際には、次の点を守ってください。
 - たこ足配線はしない。
 - 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - 電源プラグは根元まで確実に差し込む。
 - 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。
 - 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。必ず、プラグ本体を持って抜く。
- 破損した電源コードは、使用しないでください。火災・感電の原因となります。取り扱いの際は、次の点を守ってください。
 - 電源コードを加工しない。
 - 電源コードの上に重いものを載せない。
 - 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
 - 電熱器の近くに配線しない。

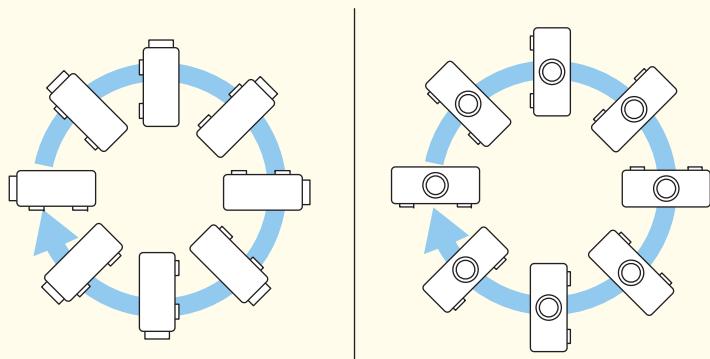
⚠ 注意

ぐらついた台の上・傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。本機の転倒、落下を防ぐため、適切で不備のない設置を行ってください。

転倒、落下によるけがの原因となることがあります。

注意

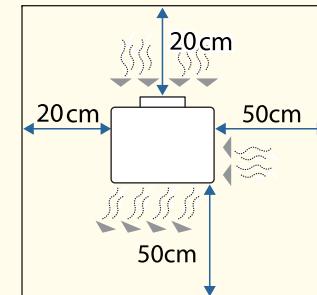
- ・振動や衝撃が伝わる場所には設置しないでください。
- ・高圧電線や磁気を発生するものの近くには設置しないでください。正しく、動作しない場合があります。
- ・温度が高すぎるところや、低すぎるところでは使用・保管しないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
動作温度範囲および保管温度範囲を守って使用・保管してください。
☞ 「本機仕様」 p.246
- ・直射日光が当たる場所には設置しないでください。本機に直射日光が当たると内部が高温になり、投写レンズ面や内蔵カメラなどの部品が劣化することがあります。
- ・高出力のレーザー光を使用する環境に本機を設置するときは、レーザー光が投写レンズ面に入らない位置に設置してください。
- ・標高1,500mを超える場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]にしてください。
☞ [拡張設定] - [動作設定] - [高地モード] p.142
- ・360°あらゆる角度で設置が可能です。垂直、水平方向ともに設置角度の制限はありません。



- ・本機を傾けて設置するには専用の金具が必要になる場合があります。金具は専門業者にご依頼のうえ、お客様でご用意ください。

注意

- ・金具は倒れないように設計してください。
- ・吸気口と排気口をふさがないように、本機の周囲に以下のスペースを確保してください。



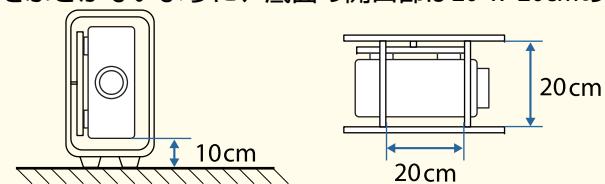
- ・本機を並べてお使いになるときは、プロジェクターとプロジェクターの間を50cm以上あけてください。また、排気口から出た熱が吸気口に入り込まないようにしてください。



- ・本機を直接重ねて投写するときは、次の点を守ってください。

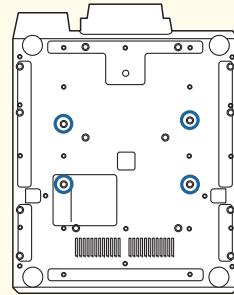
- 3台以上重ねないこと
- フットを伸縮できる範囲で傾けること
- 本機が落下しないように設置すること
- フットを付けたまま重ねるときは、すべてのフットがプロジェクターの上にしっかりと乗っているか確認すること

- ・吸気口を下にして設置するときは、床などから10cm以上離してください。吸気口をふさがないように、底面の開口部は20 x 20cmあけてください。



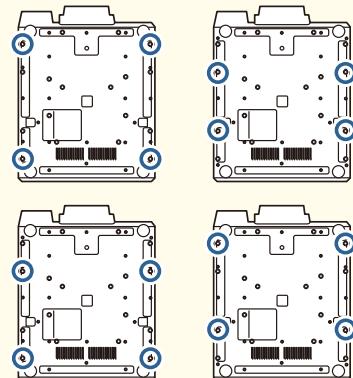
注意

- 天吊り金具やポートレー専用金具を使用するときは、市販のM6ネジ(最大深さ27mm)を使って、プロジェクターの天吊り固定部と金具を4箇所固定してください。



- クランプを使用してアルミトラスへ本機を取り付ける場合は、クランプ用のネジ穴8箇所のうち、左右対称になるよう少なくとも4箇所に取り付けてください。4箇所に取り付ける場合は、下図の組み合わせのネジ穴を使用してください。クランプのM6ネジ(最大かかり量27mm)のかかり量は10mm以上必要です。アルミトラスのパイプの中心と中心の距離が、ネジ穴とネジ穴の距離と一致しない場合は取り付けることができません。

☞ 「外形寸法図」 p.250



- プロジェクターを壁掛け、天吊り、またはアルミトラスなどの高い場所に設置するときは、必ず落下防止ワイヤー取付け部に市販のワイヤーを取り付ける等の落下防止対策を行ってください。

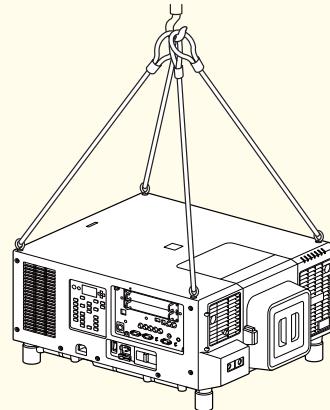


- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。フォーカス/ズーム/レンズシフトの設定は、映像を投写し始めてから30分以上たってから行ってください。
- 上下レンズシフトで画面の位置を調整するときは、画面を下から上に移動して調整し、終了してください。下に移動して終了すると、画面の位置が少し下がる場合があります。

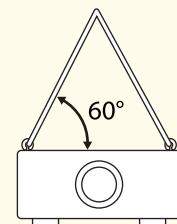
吊り上げに関する警告・注意

⚠ 注意

- 同一面上の4か所に取り付けたアイボルトを使用して吊り上げてください。

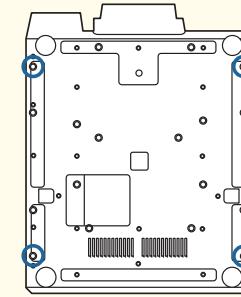
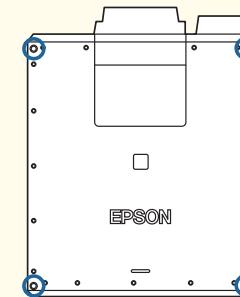


- アイボルトは、本機を一時的に運ぶときのみ使用し、常設には使用しないでください。本機の破損や故障の原因となります。
- 本機の前面/背面/側面を上にした状態で吊り上げないでください。
- 吊り上げる際の角度が60°以上になるようにしてください。



注意

市販のアイボルトM6(足首長さ12~27mm)を使って、アイボルト用のネジ穴4箇所に取り付けてください。



使用に関する警告・注意

⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 本機の下に布や紙などを置かないでください。投写中に本機底面の吸気口に吸着され、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 投写中はレンズをのぞかないでください。強い光が視力障害などの原因となります。小さなお子様のいるご家庭では特に注意してください。また、ルーペや望遠鏡などの光学機器を用いてレンズをのぞかないでください。本機から離れた場所からリモコンで電源を入れる場合は、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に、レンズカバー(着脱するもの)や本などで投写光を遮らないでください。
投写光をさえぎると投写光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因となります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機の故障の原因になることがあります。投写を中断する場合はシャッター機能を使うか、本機の電源を切ってください。
- 本機のケースを開けないでください。また、本機の分解・改造は、絶対にしないでください。内部に電圧の高い部分があり、火災・感電・事故の原因となります。
- 本機に異常が発生した場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。そのまま使用を続けると、感電や火災の原因だけでなく、視力障害の原因にもなります。

📞『お問い合わせ先』

- エアダスター や殺虫剤などの可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在するおそれのある場所で使用しないでください。

本機内部が高温になっています。

エアダスター や殺虫剤、消臭剤などに含まれる可燃成分がプロジェクター内部に吸いこまれ、引火による火災ややけどの原因となります。プロジェクターの周囲で可燃性スプレーを使用した場合は、十分に換気を行ってからプロジェクターをご利用ください。

⚠ 注意

- 投写中は、排気口の付近に、熱で変形したり、悪影響を受けるものをおいてください。手や顔を近づけたりしないでください。
- インターフェイスボードの取り付け・取り外しは、特別な技術が必要となるため、専門業者にご依頼ください。静電気などにより、予期しない故障が発生することがあります。
- インターフェイスボードの取り付け・取り外しは、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

注意

- お買い上げ直後は、レンズユニット装着部に保護キャップが取り付けてあります。レンズユニットを装着していないときは保護キャップを取り付けてください。本機内部にホコリやゴミが入りこむと投写品質の劣化や故障の原因となります。
- スロットにはスロットカバーまたはインターフェイスボードを常時取り付けてください。本機内部にホコリやゴミが入り込むと故障の原因となります。
- 高出力のレーザー光が投写レンズ面に入ると、液晶パネルの故障の原因となります。レーザー光が本機の投写レンズ面に入る可能性があるときは、レーザー光を遮断できるもの(透過性・可燃性のないアルミや鉄などの金属板等)で投写レンズ面を覆ってください。本機のシャッター機能を使用して、レーザー光による液晶パネルの損傷を防ぐこともできます。
☞「映像を一時的に消す（シャッター）」p.102
- 高出力のレーザー光が内蔵カメラに入ると、故障の原因となります。内蔵カメラには、内蔵カメラ保護プレートを取り付けてください。
☞「背面/側面」p.18
- レンズ部分に手や指が触れないように作業してください。レンズ面に指紋や皮脂が付くと投写品質が劣化します。
- レンズ面が汚れたまま投写を続けると、投写品質が劣化します。レンズを清掃してください。
☞「レンズの掃除」p.203
- 保管の際には電池をリモコンから取り出しておいてください。長期間電池を入れたままにしておくと、液もれなどを起こす原因になります。
- イベント等の演出により、スモークの中で本機を使用する場合、約240時間の使用でエアフィルターを交換してください。（オゾンナオイルの大気中濃度が約0.00000013%の環境で本機を使用した場合の目安です。使用環境によってはエアフィルターの交換時間がさらに短くなります。）
スモークの中で本機を使用するとエアフィルターの集じん機能が低下し、本機の内部や電源にホコリが付着して、故障の原因となることがあります。
☞「エアフィルターの交換」p.207



・液晶パネルについて

液晶パネルは、画素の欠けや、常時点灯する画素が発生する場合があります。これらの現象は故障ではありません。

・光源について

本機の光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のようないくつかの特性があります。

- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は「明るさ設定」で変更できます。
☞「明るさレベルと光源の使用時間の関係」p.75

・光源キャリブレーションについて

- 光源キャリブレーションで「定期的に実行」を「オン」にしていると、使用時間が100時間を経過するたびに、電源オフと同時に自動で光源キャリブレーションを開始します。ただし、以下の場合は光源キャリブレーションは自動で開始されません。

- 電源を入れてから30分以内
- シャッター機能を使用している場合
- シャッター機能を解除してから30分以内
- 24時間以上連続して使用する場合
- ダイレクトシャットダウンを使用する場合

- 光源キャリブレーションを実行すると、光源のホワイトバランスや明るさレベルのずれが補正されます。

- ☞「初期化」-「光源キャリブレーション」-「定期的に実行」p.158

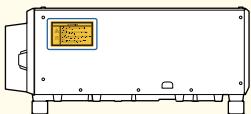
レーザーに関する警告・注意

⚠ 警告

- 本機にはレーザー警告ラベルが貼られています。
- 内部



側面



⚠ 警告

- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

- 本機はIEC60825-1に適合したクラス1レーザー製品です。
- 本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の法令や条例に従って廃棄してください。

輸送に関する注意

本機内部にはガラス部品や精密部品が数多く使われています。輸送の際には、衝撃による故障防止のため、次のように取り扱ってください。

⚠ 注意

本機は重いので、1人で運ばないでください。開梱や移動の際は3人以上で運んでください。

注意

• 近くへの移動

- 本機の電源を切り、すべての配線を外してください。
- レンズにカバーを取り付けてください。

• 輸送する場合

上記の「近くへの移動」の確認点に加えて、以下の準備を行ってから梱包してください。

- レンズを装着しているときは、レンズユニットを取り外してください。購入時に本機のレンズ装着部に付いていた保護キャップを取り付けてください。
- 運送業者(宅配業者他)にご相談の上、本機に衝撃が伝わらないように本機の周囲を保護し、堅固な箱に入れ、精密機器であることを告げて正置きでの輸送を依頼してください。

マニュアル中の表示の意味 2

はじめに

各部の名称と働き 17

前面/上面	17
背面/側面	18
接続端子部	19
インターフェイスボード	20
底面	21
操作パネル	22
リモコン	24
便利なリモコン操作	26
リモコンの電池交換	26
リモコンの操作可能範囲	27
リモコンにケーブルを接続して使用する	28

準備

設置する 30

投写レンズユニットの取り付けと取り外し	30
取り付け方	30
レンズキャリブレーション	32
取り外し方	33
設置設定	34
映像の向き（設置モード）を切り替える	34
スクリーン設定	34
画面内の映像の位置を調整する	35
テストパターンを表示する	36
投写映像の位置調整（レンズシフト）	36
映像のサイズを調整する	39
ピントのズレを補正する	40
ディストーション（映像のひずみ）を補正する	40
レンズの調整値を登録して呼び出す	41
傾斜を調整する（机上に正置きする場合）	43

IDの設定 43

プロジェクトIDを設定する	43
プロジェクトIDの確認方法	44
リモコンIDを設定する	44
時刻の設定	44
その他の設定	46
基本動作に関する設定	46
表示に関する設定	46

接続する 48

コンピューターの接続	48
映像機器の接続	49
外部モニターの接続	51
LANケーブルの接続	53
HDBaseTトランスミッターの接続	54

基本的な使い方

プロジェクターの電源を入れる 56

プロジェクターの電源を切る 58

投写映像を切り替える 59

投写映像を調整する 62

映像のゆがみを補正する	62
タテヨコ補正	63
Quick Corner	64
曲面投写補正	65
コーナー投写補正	68
ポイント補正	72
映り具合を選ぶ（カラー モードの選択）	73
明るさを設定する	74
残り時間目安の見方	75
明るさレベルと光源の使用時間の関係	75
投写映像の光量を設定する	76
投写映像のアスペクト比を切り替える	77
切り替え方法	77

画質を調整する	78
色相・彩度・明度の調整	78
ガンマの調整	78
映像の解像感を調整する（イメージ強調）	79
イメージ強調プリセット	80
フレーム補間	80
ノイズリダクション	81
MPEGノイズリダクション	81
超解像	82
ディテール強調	82

便利な機能

マルチプロジェクション機能 85

調整手順	85
オンラインで自動で調整する	85
オフラインで手動で調整する	86
タイミング	87
タイミングを自動で構成する	87
タイミングを手動で構成する	89
エッジブレンディング	89
黒レベル調整	91
エリア補正	93
スクリーンマッチング	94
自動調整機能の動作条件	94
複数のプロジェクターの明るさや色合いを自動で補正する	95
カラーマッチング	96
映像を切り出して表示する	96
タイミングアシスト	98
自動調整機能の動作条件	98

投写機能 100

2種類の映像を同時に投写する（2画面）	100
2画面投写できない入力ソースの組み合わせ	100
操作方法	100
2画面で投写中の制限事項	102
映像を一時的に消す（シャッター）	102

映像を停止させる（静止）	103
ユーザー口の登録	103

メモリー機能 105

メモリーの登録／呼び出し／削除／初期化	105
---------------------	-----

スケジュール機能 107

イベントを登録する	107
イベントを設定する	107
イベントを確認する	108
イベントを編集する	109

セキュリティー機能 111

利用者を管理する（パスワードプロテクト）	111
パスワードプロテクトの種類	111
パスワードプロテクトの設定方法	111
パスワードの認証	112
操作を制限する	113
操作ボタンロック	113
レンズロック	114
リモコンボタンロック	114

ネットワーク上のプロジェクターを使用する

有線LANでの映像投写 117

有線LANを設定する	117
------------	-----

無線LANでの映像投写 119

プロジェクターの無線LANを設定する	120
Windowsで無線LANを設定する	122
Macでの無線LANを設定する	122
無線LANのセキュリティーを設定する	122
サポートするクライアント・CA証明書の一覧	124
QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する	125
USBキーを使って接続する（Windowsのみ）	126

液晶ディスプレイを使って固定IPアドレスを設定する	127
セキュアHTTP	128
メニューからWebサーバー証明書を設定する	128
サポートするWebサーバー証明書の一覧	129
Webブラウザーで証明書を設定する	129
環境設定メニュー	
環境設定メニューの操作	132
機能一覧	134
環境設定メニュー一覧	134
ネットワークメニュー	136
画質メニュー	137
映像メニュー	138
設定メニュー	141
拡張設定メニュー	142
ネットワークメニュー	147
ネットワークメニュー操作上のご注意	148
ソフトキーボードの操作	149
基本設定メニュー	149
無線LANメニュー	150
有線LANメニュー	154
通知メニュー	155
その他メニュー	156
初期化メニュー	156
情報メニュー (表示のみ)	157
初期化メニュー	158
一括設定機能	160
USBメモリーを使って設定する	161
設定値をUSBメモリーに保存する	161
保存した設定値を他のプロジェクターに反映する	163
コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する	164
設定値をコンピューターに保存する	164
保存した設定値を他のプロジェクターに反映する	165

設定がうまくいかないときは	167
困ったときに	
ヘルプの見方	169
インジケーターの見方	170
ステータス情報の見方	177
ステータスの確認手順	177
画面の見方	178
画面表示 (液晶ディスプレイ) の設定	179
表示内容の説明	180
故障かなと思ったら	188
映像に関するトラブル	189
映像が表示されない	189
動画が表示されない	190
自動的に投写が消える	190
この信号は本プロジェクターでは受けられません。と表示される	190
映像信号が入力されていません。と表示される	190
ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ	191
ノイズが入る、乱れる	191
映像が切れる (大きい)、小さい、アスペクトが合っていない、反転している	192
色合いが違う	193
暗い	194
自動補正がうまくできない	194
投写開始時のトラブル	195
電源が入らない	195
その他のトラブル	196
リモコンで操作できない	196
Art-Netでの制御がうまくできない	197
外部モニターに表示されない	198
メッセージやメニューの言語を変更したい	198
プロジェクターに異常が起きててもメール通知されない	198
時刻を保持する電池残量が低下しています。と表示される	199

電源が正しく切れませんでした。と表示される	199
詳細なログやエラーメッセージが表示されない	199
インターフェースボードにエラーが発生しました。と表示される	199
Event IDについて	200

メンテナンス

各部の掃除	203
本機の掃除	203
レンズの掃除	203
エアフィルター/吸気口の清掃	203
エアフィルターの清掃方法	204
吸気口の清掃方法	206
消耗品の交換方法	207
エアフィルターの交換	207
エアフィルターの交換時期	207
エアフィルターの交換方法	207

映像のメンテナンス	209
カラーキャリブレーション	209
液晶アライメント	210
ユニフォーミティ	212

付録	244
監視と制御	215
Epson Projector Managementについて	215
Webブラウザーを使って設定を変更する (Epson Web Control)	215
Epson Web Control画面を表示する	215
ベーシックコントロール画面	216
OSDコントロールパッド画面	217
レンズコントロール画面	218
ステータス情報画面	220
リモートカメラアクセス画面	221

メール通知機能で異常を通知する	223
異常通知メールの見方	223
SNMPを使って管理する	224
ESC/VP21コマンド	224
コマンドリスト	224
ケーブル配線	225
PJLinkについて	226
Crestron Connected®について	226
コンピューターの画面上でプロジェクターを操作する	227
Art-Netについて	231
チャンネル定義	231
オプション・消耗品一覧	236
オプション	236
消耗品	236
スクリーンサイズと投写距離	237
レンズの種類と投写範囲	237
投写距離	237
レンズ別投写距離比	237
スクリーンサイズ	238
投写映像の補正範囲	239
タテヨコ補正	239
曲面投写補正	239
コーナー投写補正	241
対応解像度一覧	244
対応解像度	244
コンピューター映像 (アナログRGB)	244
コンポーネントビデオ	244
DVI-D In端子、HDMI In端子、HDBaseT端子からの入力信号	244
SDI In端子からの入力信号	245
仕様一覧	246
本機仕様	246

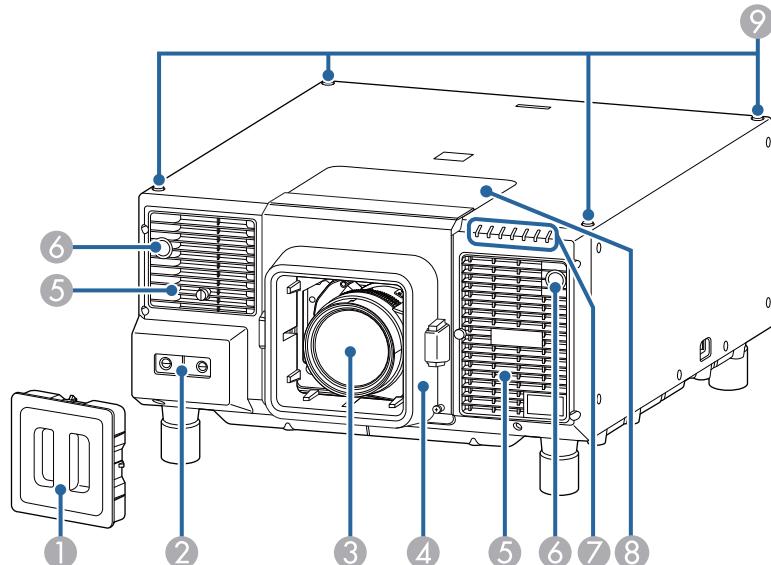
外形寸法図	250
一般のご注意	251
表記について	251
商標と著作権について	252
安全規格対応シンボルマーク	253
索引	255

はじめに

ここでは、各部の名称について説明しています。

本書では、断りがない限りレンズユニット(ELPLM15)が取り付けられた状態のイラストを用いて説明しています。

前面/上面



名称	働き
① 保護キャップ	本機を保管、輸送するときに取り付けます。
② 内蔵カメラ	投写映像を自動補正するときに映像を読み込むためのカメラです。

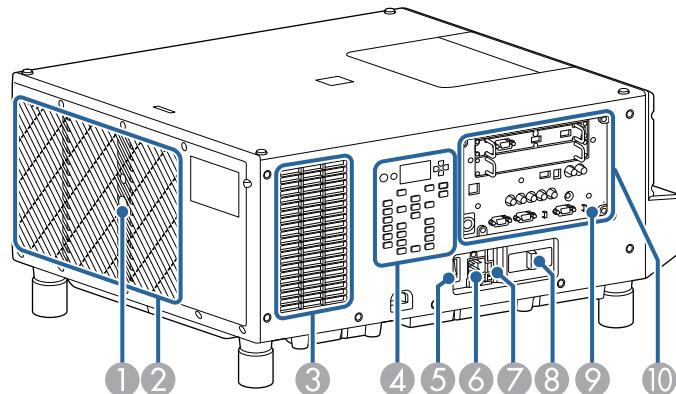
注意

強い光をカメラにあてると、光がカメラに焼きついたり故障の原因となることがあります。

名称	働き
③ 投写レンズ	ここから映像を投写します。
	<p>⚠ 警告</p> <p>レーザー光が放出されます。投写中はレンズをのぞかないでください。強い光で目を痛めるなどの原因となります。</p>
④ レンズ交換カバー	<p>レンズの取り付け、取り外しを行うときに外します。</p> <p>☞「投写レンズユニットの取り付けと取り外し」p.30</p>
	<p>⚠ 注意</p> <p>本機を移動するときは、レンズ交換カバーをつかまないでください。レンズ交換カバーが外れて本機が落下し、けがの原因となることがあります。</p>
⑤ 吸気口 (エアフィルター)	<p>本機内部を冷却するための空気を取り込みます。エアフィルターは定期的に清掃してください。</p> <p>☞「エアフィルター/吸気口の清掃」p.203</p> <p>☞「エアフィルターの交換」p.207</p>
⑥ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
⑦ 状態インジケーター	本機の状態を色や点灯・点滅で示します。

名称	働き
⑧ レンズ交換カバー (ELPLX02/ELPLX02W 用)	レンズユニット(ELPLX02/ELPLX02W)を取り付ける ときに外します。
⑨ アイボルト用ネジ穴	本機を一時的に運ぶときに、市販のアイボルトを取り付けることができます。

背面/側面



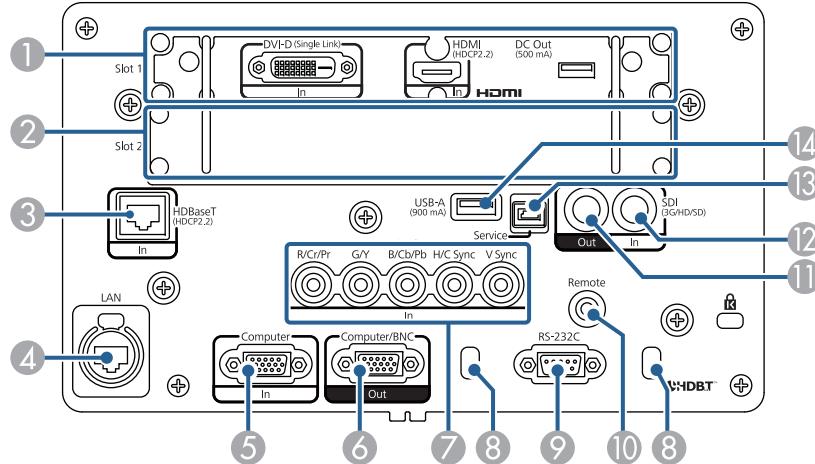
名称	働き
① リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
② 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。

注意

投写中は手や顔を排気口に近づけたり、変形など、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。

名称	働き
③ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。吸気口は定期的に清掃してください。 ☞「エアフィルター/吸気口の清掃」p.203
④ 操作パネル	☞「操作パネル」p.22
⑤ 主電源スイッチ	本機に電力を供給します。
⑥ 電源端子	電源コードを接続します。
⑦ ケーブルホルダー	電源コードが抜けないように、電源コードに取り付けます。
⑧ 内蔵カメラ保護プレート	他のレーザー光源照明器具と合わせて使用する場合に、他の機器からのレーザー光が内蔵カメラに当たらないよう、内蔵カメラに取り付けます。
⑨ セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットです。マイクロセーバーセキュリティーシステムについての詳細は、以下をご覧ください。 http://www.kensington.com/
⑩ インターフェイス	☞「接続端子部」p.19

接続端子部



名称	働き
① Slot1	インターフェイスボードを取り付けるためのスロットです。
② Slot2	オプションのインターフェイスボードと交換することもできます。 ➡ 「インターフェイスボード」 p.20
③ HDBaseT端子	オプション品のHDBaseTトランスミッターとLANケーブルで接続します。 ➡ 「HDBaseTトランスミッターの接続」 p.54 ➡ 「オプション」 p.236 本機はArt-Netに対応しています。Art-Netを使って本機を制御するときは、[ネットワーク]メニューで[Art-Net]を[オン]に設定します。 ➡ [ネットワーク] - [その他] - [Art-Net] p.156
④ LAN端子 (イーサコンLANケーブル対応)	LANケーブルを接続して、ネットワークに接続します。 本機はArt-Netに対応しています。Art-Netを使って本機を制御するときは、[ネットワーク]メニューで[Art-Net]を[オン]に設定します。 ➡ [ネットワーク] - [その他] - [Art-Net] p.156

名称	働き
⑤ Computer In端子	コンピューターのアナログRGB信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
⑥ Computer/BNC Out端子	外部モニターと接続し、Computer In端子またはBNC In端子から入力しているコンピューターのアナログRGB信号を出力します。他の端子から入力している信号やコンポーネントビデオ信号は出力できません。
⑦ BNC In端子	コンピューターのアナログRGB信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
⑧ ケーブルホルダー	ケーブル類を固定するための市販の結束バンド(ケーブルタイ)を通します。
⑨ RS-232C端子	コンピューターから本機を制御するときにRS-232Cケーブルでコンピューターと接続します。 ➡ 「ESC/VP21コマンド」 p.224
⑩ Remote端子	オプション品のワイヤードリモコンケーブルを接続し、リモコンからの信号を入力します。リモコンケーブルをこのRemote端子に差し込むと本機のリモコン受光部は機能しなくなります。 ➡ 「オプション」 p.236
⑪ SDI Out端子	外部モニターと接続し、SDI In端子から入力している映像機器のSDI信号を出力します。
⑫ SDI In端子	映像機器のSDI信号を入力します。
⑬ Service端子	一括設定機能で使用します。制御用の端子で通常は使用しません。 ➡ 「一括設定機能」 p.160

名称	働き
⑯ USB-A端子	<p>一括設定機能で使用します。</p> <p>「一括設定機能」p.160</p> <p>USBメモリーを接続して本機の動作ログを保存します。</p> <p>「[拡張設定] - [動作設定]- [ログ保存先]」p.142</p> <p>映像レシーバーやネットワーク機器、光HDMIケーブル(延長用)の給電端子を接続します。すべての機器の接続を保証するものではありません。お使いの機器で動作をご確認のうえ、使用してください。</p>

インターフェイスボード

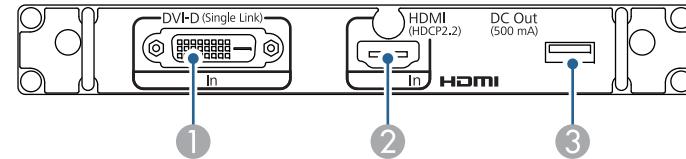
本機のSlot 1にはHDMI/DVI-Dインターフェイスボード、Slot 2にはスロットカバーが取り付けられています。

オプションのインターフェイスボードと交換することもできます。詳しくは、インターフェイスボードに添付の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 注意

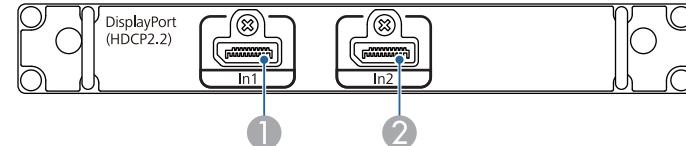
- インターフェイスボードの取り付け・取り外しは、特別な技術が必要となるため、専門業者にご依頼ください。静電気などにより、予期しない故障が発生することがあります。
- インターフェイスボードの取り付け・取り外しは、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

HDMI/DVI-Dインターフェイスボード(ELPIF01)



名称	働き
① DVI-D In端子	コンピューターのDVI-D信号を入力します。
② HDMI In端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。
③ DC Out端子	光HDMIケーブルの給電端子を接続します。給電専用の端子で、通信はできません。すべての機器の接続を保証するものではありません。お使いの機器で動作をご確認のうえ、使用してください。

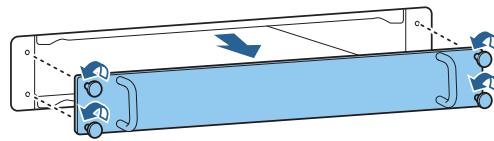
DisplayPortインターフェイスボード(ELPIF03)



名称	働き
① DisplayPort1 In端子	DisplayPortに対応したコンピューターの信号を入力します。
② DisplayPort2 In端子	

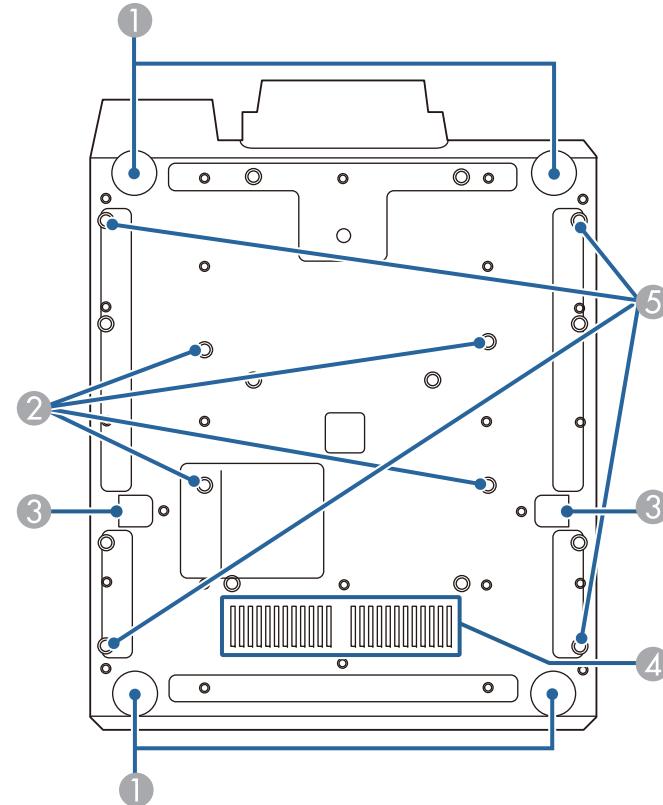
スロットカバーの外し方

固定ネジ(4箇所)をゆるめ、スロットカバーを引き抜きます。



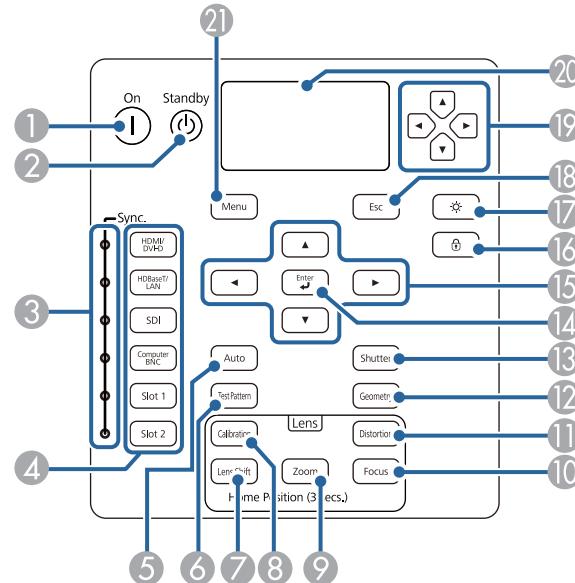
取り外したスロットカバーは安全な場所に保管してください。

底面



名称	働き
① フット	机上設置時に、フットを伸縮させて水平方向の傾きを調整します。 ➡「傾斜を調整する（机上に正置きする場合）」p.43
	<p>注意</p> <p>フットの固定部に他の金具を取り付けないでください。本機の破損や故障の原因になります。</p>
② 天吊り固定部 (ELPMB47/ELPMB48 用)	天井から吊り下げて使うときに、オプションの天吊り金具を取り付けます。 ➡「設置する」p.30 ➡「オプション」p.236
③ 落下防止ワイヤー取付け部	プロジェクターを壁掛け、天吊り、またはアルミトラスなど高い場所に設置するときに、落下防止のため市販のワイヤー（耐荷重100kg以上）を取り付けます。ワイヤーは、左右2箇所に確実に取り付けてください。 本機を天吊り設置するときは、ワイヤーにたるみがないようにしてください。詳細は、ワイヤーに添付の取扱説明書をご覧ください。
④ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。吸気口は定期的に清掃してください。 ➡「エアフィルター/吸気口の清掃」p.203
⑤ アイボルト用ネジ穴	本機を一時的に運ぶときに、市販のアイボルトを取り付けることができます。

操作パネル



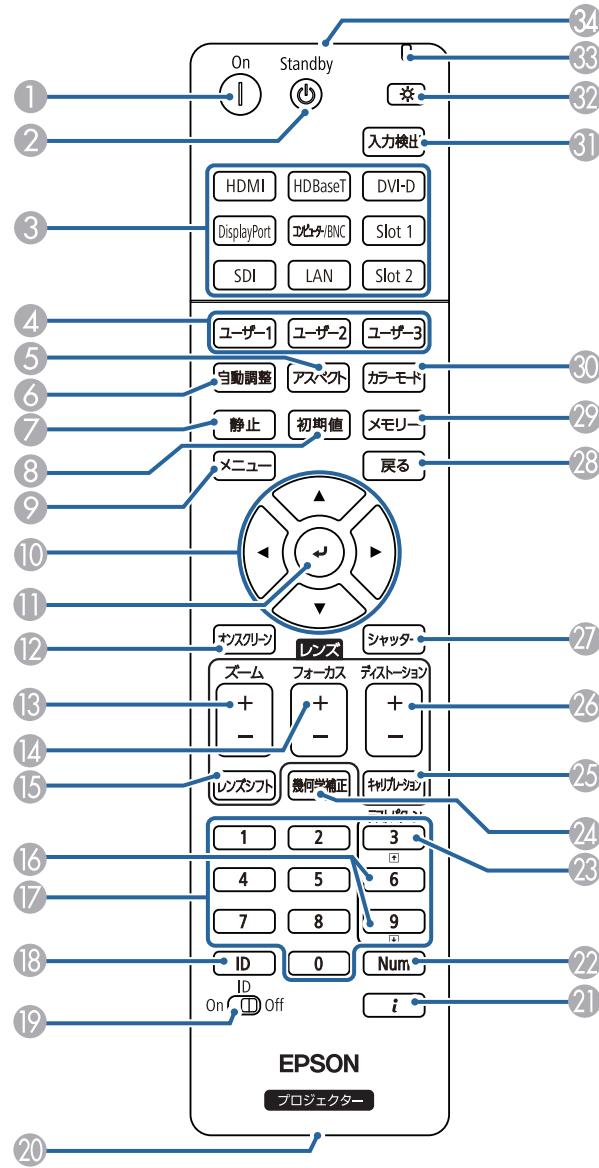
()内は本書の説明で使用している表記です。

名称	働き
① 【①】ボタン	主電源スイッチがオンでスタンバイ状態のときに投写を開始します。
② 【②】ボタン	主電源スイッチがオンで投写しているときにスタンバイ状態にします。
③ Sync.インジケーター	映像信号を検出した入力ソースを点灯で示します。
④ 入力切り替えボタン	各入力端子からの映像に切り替えます。投写中の入力ソースのボタンは点灯します。 ➡「投写映像を切り替える」p.59
⑤ 【Auto(自動調整)】ボタン	Computer In端子またはBNC In端子から入力しているアナログRGB信号を投写中に押すと、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。

名称	働き
⑥ 【Test Pattern(テストパターン)】ボタン	テストパターンを表示します。 ➡ 「テストパターンを表示する」 p.36
⑦ 【Lens Shift(レンズシフト)】ボタン	レンズシフトの調整をするときに押します。 ➡ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36 約3秒以上押したままにすると、レンズの位置がホームポジションに移動します。
⑧ 【Calibration(キャリブレーション)】ボタン	レンズキャリブレーションを実行します。 ➡ 「レンズキャリブレーション」 p.32
⑨ 【Zoom(ズーム)】ボタン	ズーム調整をするときに押します。 ➡ 「映像のサイズを調整する」 p.39
⑩ 【Focus(フォーカス)】ボタン	フォーカスを調整します。 ➡ 「ピントのズレを補正する」 p.40
⑪ 【Distortion (ディストーション)】ボタン	ディストーションを補正します。 ➡ 「ディストーション（映像のひずみ）を補正する」 p.40
⑫ 【Geometry(幾何学補正)】ボタン	映像のゆがみを補正します。 ➡ 「映像のゆがみを補正する」 p.62
⑬ 【Shutter (シャッター)】ボタン	映像を一時的に遮断/解除します。 ➡ 「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.102
⑭ 【↔】ボタン	環境設定メニュー/ヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.132
⑮ 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> フォーカス、ディストーション、ズーム、レンズシフトを調整します。 ➡ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36 ➡ 「映像のサイズを調整する」 p.39 ➡ 「ピントのズレを補正する」 p.40 環境設定メニュー/ヘルプの表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.132

名称	働き
⑯ 【⑥】ボタン	操作ボタンロック画面を表示して、操作パネルのボタンのロックを設定します。 ➡ 「操作を制限する」 p.113
⑰ 【⋮】ボタン	操作パネル上のボタンと液晶ディスプレイを点灯/消灯します。
⑱ 【Esc(戻る)】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 実行中の機能を終了します。 環境設定メニューの表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.132
⑲ 【↖】【↑】【↗】【↓】ボタン	液晶ディスプレイに表示されるメニュー項目や設定値の選択を行います。
⑳ 液晶ディスプレイ	<p>本機の状態を文字情報で表示します。 ➡ 「ステータス情報の見方」 p.177</p> <p>固定IPアドレス設定メニューを表示します。 ➡ 「液晶ディスプレイを使って固定IPアドレスを設定する」 p.127</p>
㉑ 【Menu(メニュー)】ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.132

リモコン



名称	働き
①【①】ボタン	主電源スイッチがオンでスタンバイ状態のときに投写を開始します。
②【↓】ボタン	主電源スイッチがオンで投写しているときにスタンバイ状態にします。
③ 入力切り替えボタン	各入力端子からの映像に切り替えます。 ☞「投写映像を切り替える」p.59
④【ユーザー1】ボタン 【ユーザー2】ボタン 【ユーザー3】ボタン	環境設定メニューの項目のうちよく使われる項目から任意に項目を選択して、それぞれのボタンに割り当てることができます。ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。 ☞「設定メニュー」p.141
⑤【アスペクト】ボタン	押すたびに、アスペクトモードが切り替わります。 ☞「投写映像のアスペクト比を切り替える」p.77
⑥【自動調整】ボタン	Computer In端子またはBNC In端子から入力しているアナログRGB信号を投写中に押すと、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
⑦【静止】ボタン	映像を一時停止/解除します。 ☞「映像を停止させる（静止）」p.103
⑧【初期値】ボタン	環境設定メニューのガイドに【初期値】：リセットと表示されているときに有効です。調整中の設定値を初期値に戻します。 ☞「環境設定メニューの操作」p.132
⑨【メニュー】ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。 ☞「環境設定メニューの操作」p.132
⑩【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> フォーカス、ズーム、ディストーション、レンズシフトを調整します。 環境設定メニューへヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。 ☞「環境設定メニューの操作」p.132

名称		働き
⑪	【➡】ボタン	環境設定メニュー やヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 ☞「環境設定メニューの操作」 p.132
⑫	【オンスクリーン】ボタン	環境設定メニュー画面の非表示/表示を切り替えます。
⑬	【ズーム】ボタン	ズーム調整をするときに押します。 ☞「映像のサイズを調整する」 p.39
⑭	【フォーカス】ボタン	フォーカス調整をするときに押します。 ☞「ピントのズレを補正する」 p.40
⑮	【レンズシフト】ボタン	レンズシフトの調整をするときに押します。 ☞「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36 約3秒以上押したままにすると、レンズの位置がホームポジションに移動します。
⑯	【▣】【▢】ボタン	• テストパターンを切り替えます。 • ネットワークで接続したコンピューターの映像を投写しているときに、画像ファイルを送り戻します。
⑰	テンキー ボタン	• パスワードを入力します。 ☞「パスワードプロテクトの設定方法」 p.111 • 環境設定メニューの[ネットワーク]で数字を入力します。
⑱	【ID】ボタン	リモコンで操作対象のプロジェクターのIDを選択するときに、このボタンを押しながらテンキー ボタンを押します。 ☞「IDの設定」 p.43
⑲	【ID】スイッチ	リモコンのID設定の有効(On)/無効(Off)を切り替えるスイッチです。 ☞「IDの設定」 p.43

名称		働き
⑳	リモート端子	オプション品のワイヤードリモコンケーブルを接続し、リモコンからの信号を出力します。 ☞「オプション」 p.236 リモコンケーブルをこのリモート端子に差し込むとリモコン発光部は機能しなくなります。
㉑	【i】ボタン	環境設定メニューの情報メニューを表示します。 ☞「情報メニュー（表示のみ）」 p.157
㉒	【Num】ボタン	パスワードや数字を入力するときに、このボタンを押しながらテンキー ボタンを押します。 ☞「パスワードプロテクトの設定方法」 p.111
㉓	【テストパターン】ボタン	テストパターンを表示します。 ☞「テストパターンを表示する」 p.36
㉔	【幾何学補正】ボタン	映像のゆがみを補正します。 ☞「映像のゆがみを補正する」 p.62
㉕	【キャリブレーション】ボタン	レンズキャリブレーションを実行します。 ☞「レンズキャリブレーション」 p.32
㉖	【ディストーション】ボタン	ディストーションを補正するときに押します。 ☞「ディストーション（映像のひずみ）を補正する」 p.40
㉗	【シャッター】ボタン	映像を一時的に遮断/解除します。 ☞「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.102
㉘	【戻る】ボタン	• 実行中の機能を終了します。 • 環境設定メニューを表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ☞「環境設定メニューの操作」 p.132
㉙	【メモリー】ボタン	メモリー機能の操作や設定を行います。 ☞「メモリー機能」 p.105
㉚	【カラーモード】ボタン	押すたびにカラーモードが切り替わります。 ☞「映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）」 p.73

名称	働き
③① 【入力検出】ボタン	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☞「投写映像を切り替える」 p.59
③② 【※】ボタン	リモコン上のボタンが約15秒間光ります。暗がりでリモコンを操作するときに便利です。
③③ インジケーター	リモコン信号を出力しているときに発光します。
③④ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

便利なリモコン操作

以下の動作は、リモコンの1つのボタンを押すだけで操作できます。

動作	設定
投写映像の上下を反転する。([設置モード]の[フロント]と[フロント・天吊り]を切り替える) ☞「映像の向き（設置モード）を切り替える」 p.34	【シャッター】ボタンを約5秒以上押したままにします。
パスワードを使ったセキュリティー設定をする。 ☞「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」 p.111	【静止】ボタンを約5秒以上押したままにします。[パスワードプロテクト]画面が表示されるので、各設定を行います。
一部のリモコンボタンの操作をロックする、ロックを解除する。 ☞「リモコンボタンロック」 p.114	【i】ボタンを約5秒以上押したままにします。
環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を初期化する。（本機のリモコン受光部をすべて有効にする。）	【メニュー】ボタンを約15秒以上押したままにします。

動作	設定
よく使う環境設定メニューの項目を直接表示する。	【ユーザー1】、【ユーザー2】、【ユーザー3】ボタンを押します。各ボタンに割り当てるメニュー項目は、[ユーザーボタン]で設定します。 ☞ [設定] - [ユーザーボタン] p.141 割り当てることのできるのは以下の項目です。 [光源モード]、[マルチプロジェクション]、[入力解像度]、[QRコード表示]、[イメージ強調]、[フレーム補間]、[スクリーンマッチング]、[カラーキャリブレーション]、[ヘルプ]、[2画面]

リモコンの電池交換

使い続けているうちに、リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなったりときは電池の寿命が考えられます。新しい電池と交換してください。交換用の電池は単3形アルカリあるいはマンガン乾電池2本を用意してください。単3形アルカリあるいはマンガン乾電池以外の電池は使用しないでください。

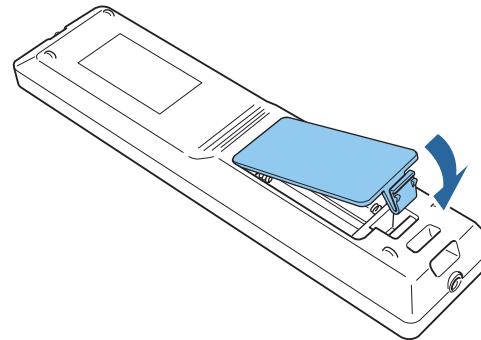
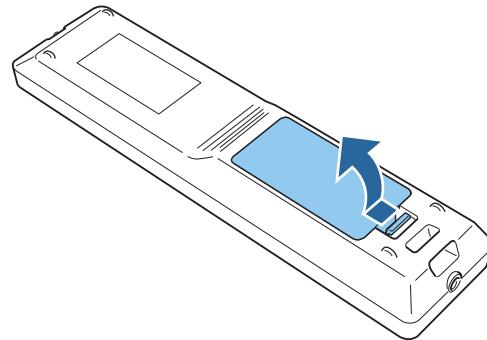
注意

電池を取り扱う前に、以下のマニュアルを必ずお読みください。

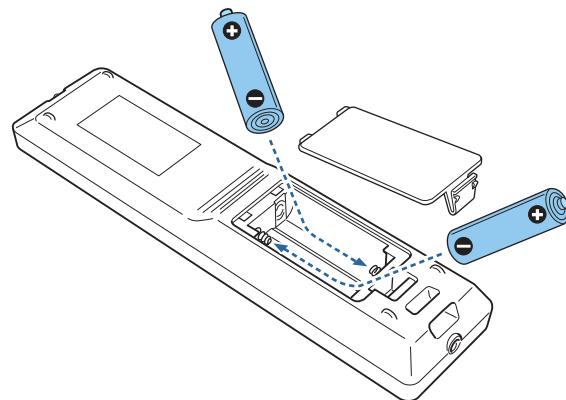
☞『安全にお使いいただくために』

1 電池カバーを外します。

電池カバーのツメを押さえながら、上へ持ち上げます。



- 2 新しい電池と交換します。



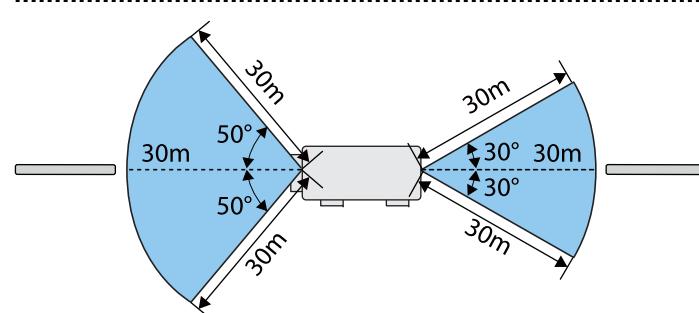
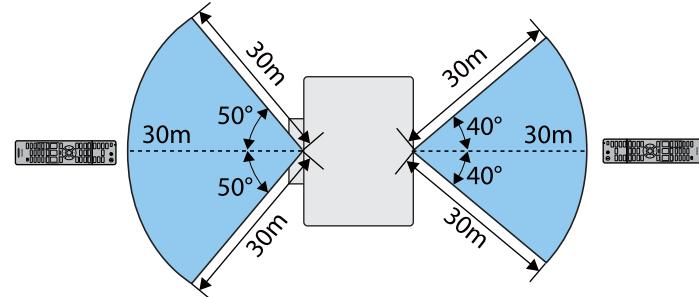
注意

電池ホルダー内の表示を確認し、(+)(-)を正しく入れてください。
電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

- 3 電池カバーを取り付けます。

カチッと音がするまでカバーを押し込みます。

リモコンの操作可能範囲





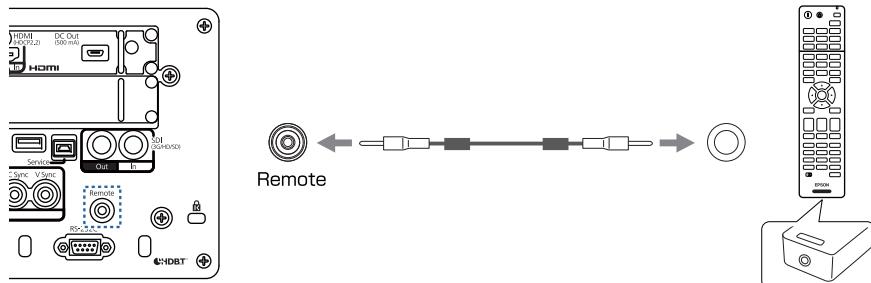
リモコンからの操作信号の受信を制限するときは、[リモコン受光部]で設定します。

👉 [設定] - [リモコン受光部] [p.141](#)

リモコンにケーブルを接続して使用する

同じ場所で本機を複数台使用するときや、リモコン受光部の周りに障害物があるときは、オプション品のワイヤードリモコンケーブルを使うと確実な操作ができます。

👉 「オプション」 [p.236](#)



- リモコンケーブルをRemote端子に差し込むと本機のリモコン受光部は機能しなくなります。
- オプション品のHDBaseTトランスミッターとリモコンをケーブルで接続して、本機を制御することもできます。

👉 「HDBaseTトランスミッターの接続」 [p.54](#)

準備

ここでは、本機の設置方法と投写機器の接続方法について説明します。

投写レンズユニットの取り付けと取り外し

警告

レンズユニットを本機に着脱する際は、事前に本機から電源コードを外してください。電源コードを接続したままの状態で着脱を行うと感電の原因となります。

取り付け方

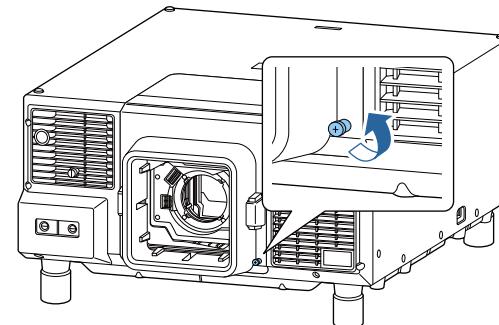
注意

- 本機のレンズ挿入部を上に向けた状態でレンズユニットを装着しないでください。ホコリやゴミが入る原因となります。
- レンズ部分に手や指が触れないように作業してください。レンズ面に指紋や皮脂が付くと投写品質が劣化します。

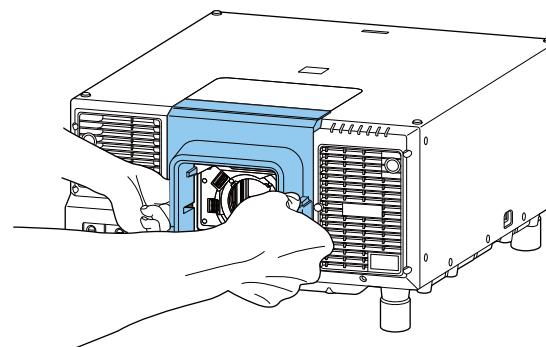


- 本機は以下の型番のレンズに対応しています。
ELPLX02、ELPLX02W、ELPLU03S、ELPLU04、ELPLW06、ELPLW08、ELPLM10、ELPLM11、ELPLM15、ELPLL08
- お使いのレンズによっては、正置きしたときに映像が傾く場合があります。フットで映像の傾きを調整してください。
👉「傾斜を調整する（机上に正置きする場合）」p.43
- ELPLX02/ELPLX02Wの取り付けについては、ELPLX02/ELPLX02Wに同梱の取扱説明書をご確認ください。

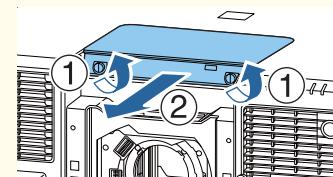
- 1** レンズカバー固定ネジをゆるめます。
ネジは手で回せます。



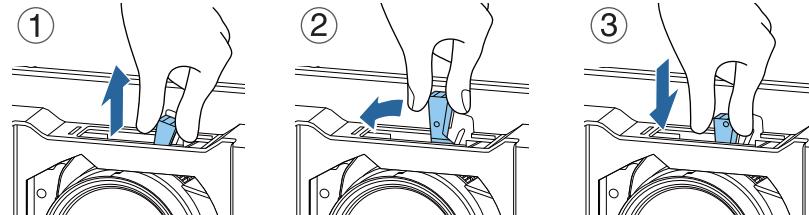
- 2** レンズ交換カバーの両側にある上下のボタンを押しながら、手前に引いて取り外します。



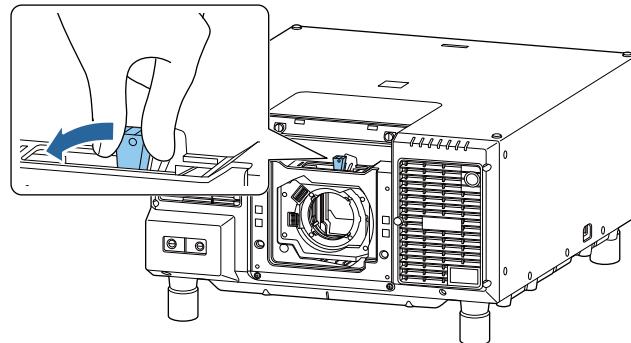
ELPLX02/ELPLX02Wをお使いになるときは、上面のレンズ交換カバーの固定ネジをゆるめ、カバーを手前に引いて取り外してください。



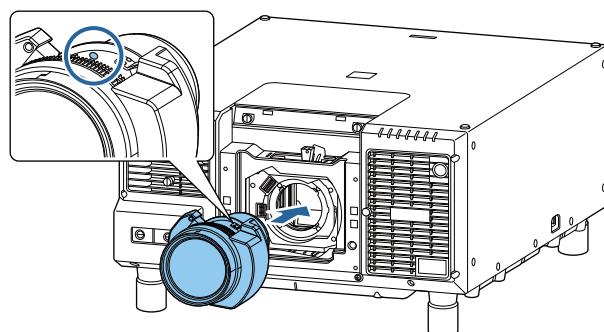
- 3** レバーがロックされているときはロックを解除します。
レバーロックを引き上げ、左側に倒してから押し込んでください。



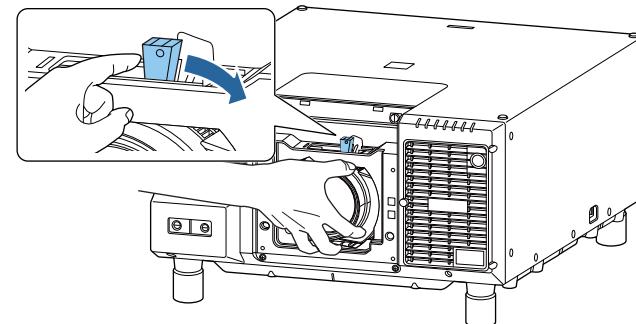
- 4** レバーをつまんで反時計回りに動かします。



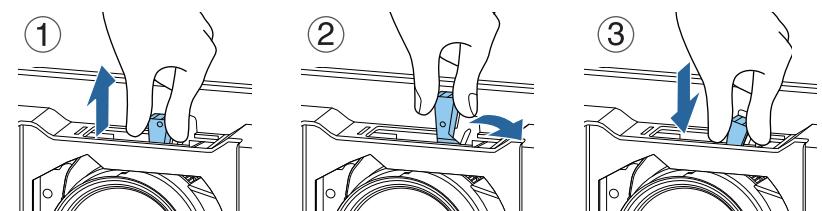
- 5** レンズユニットの白い丸印を上に向けた状態でレンズ装着部にまっすぐ挿入します。



- 6** レンズユニットをしっかり支えた状態で、レバーを時計回りに動かしてロックします。
ロック後は、レンズユニットが外れないことを確認してください。

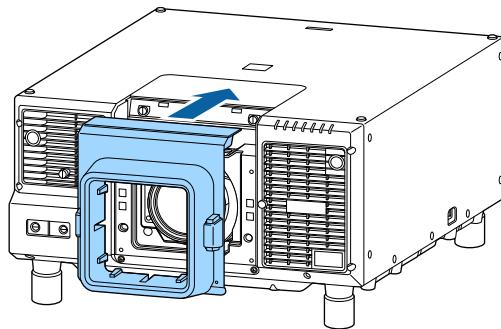


- 7** より確実にレバーを固定するには、レバーロックでレバーを固定します。
レバーロックを引き上げ、右側に倒してから押し込んでください。

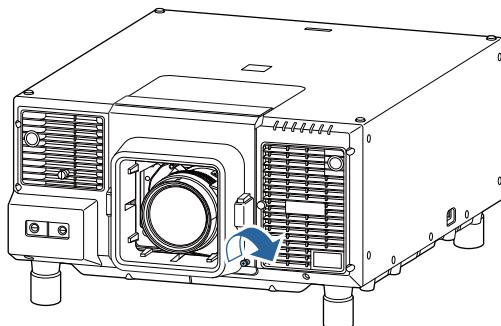


 レバーロックを使用しなくてもレバーは固定されています。

- 8** レンズ交換カバーを取り付けます。



9 レンズカバー固定ネジを締めます。



レンズキャリブレーション

本機がレンズの位置と調整範囲を正しく取得するために、レンズユニット交換後はレンズキャリブレーションを行ってください。

前回と異なるレンズユニットを取り付けた後、本機の電源を入れるとメッセージが表示されます。

[はい]を選択し、キャリブレーションを実行してください。

レンズキャリブレーションにかかる時間はレンズによって異なります。レンズによっては、最長で約3分かかります。終了するとキャリブレー

ションを行う前のレンズの位置に戻ります(ELPLX02/ELPLX02Wはホームポジションに戻ります)。

注意

「レンズキャリブレーションが完了しませんでした。」とメッセージが表示されたときは、レンズユニットを一度取り外してから、取り付け直してください。それでもメッセージが表示されるときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

『お問い合わせ先』



- レンズキャリブレーションは以下のいずれかの方法で実行できます。
 - リモコンまたは操作パネルの【キャリブレーション】ボタンを押す
 - リモコンの【初期値】ボタンを3秒以上押す
 - 環境設定メニュー
〔拡張設定〕 - 〔動作設定〕 - 〔レンズキャリブレーション〕 [p.142](#)
- レンズユニットを取り付けた後にメッセージが表示されない場合は、環境設定メニューからレンズキャリブレーションを実行してください。
- レンズキャリブレーションを行わないと、以下の機能は正しく機能しません。
 - レンズシフト
 - メモリー(レンズポジション)
 - ズーム
 - フォーカス
 - ディストーション

取り外し方

 **注意**

レンズユニットの取り外しは、本機の電源を切って、しばらくしてから行ってください(目安: 約30分)。投写中や電源を切った直後にレンズユニットに触ると、やけどの原因となることがあります。

注意

レンズシフトでレンズの位置を移動したときは、レンズの位置をホームポジションに移動してからレンズユニットを交換してください。

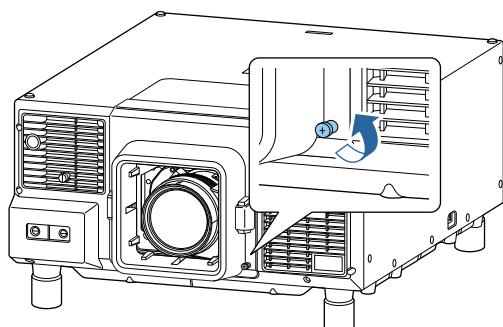
☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36



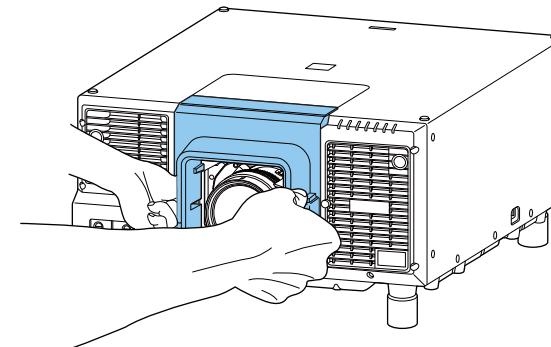
本機の光源はレーザーを使用しています。安全性を考慮し、レンズを外すと同時に光源が消灯します。再点灯するには、レンズを取り付けて【①】ボタンを押してください。

1 レンズカバー固定ネジをゆるめます。

ネジは手で回せます。

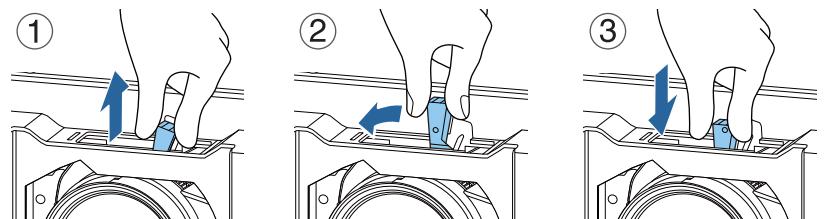


2 レンズ交換カバーの両側にある上下のボタンを押しながら、手前に引いて取り外します。



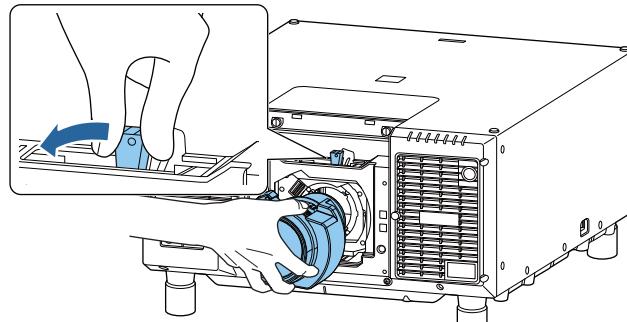
3 レバーがロックされているときはロックを解除します。

レバーロックを引き上げ、左側に倒してから押し込んでください。



4 レンズユニットをしっかり支えた状態で、レバーをつまんで反時計回りに動かしてロックを外します。

レンズユニットが外れますので、まっすぐに引き抜きます。



設置設定

映像の向き(設置モード)を切り替える

映像の向きは環境設定メニューの【設置モード】で切り替えます。

👉 [拡張設定] - [設置モード] [p.142](#)

フロントを基準にした場合、各設置モードの映像の向きは以下のとおりです。

フロント(初期値)



リア

フロント・天吊り



リア・天吊り



- リモコンの【シャッター】ボタンを約5秒間押し続けると、次のように設定を切り替えることができます。
フロント↔フロント・天吊り
リア↔リア・天吊り
- メニュー表示を回転させるには、環境設定メニューの【OSD回転】を設定します。
👉 [拡張設定] - [表示設定] - [OSD回転] [p.142](#)

スクリーン設定

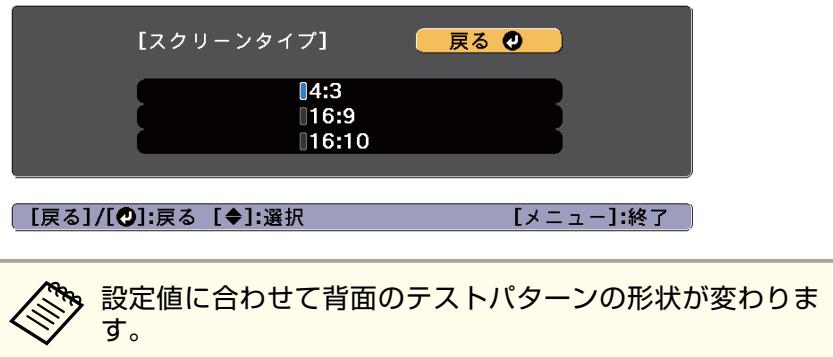
お使いのスクリーンのアスペクト比に合わせて、スクリーンタイプを設定します。

映像を表示する領域がスクリーンに合うように調整されます。



お買い上げ時の【スクリーンタイプ】の設定は[16:10]です。

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
👉 「環境設定メニューの操作」 [p.132](#)
- [拡張設定]から[表示設定]を選択します。
- [スクリーン設定]から[スクリーンタイプ]を選びます。
- スクリーンのアスペクト比を選択します。



5 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

- スクリーンタイプを変更したときは、投写映像のアスペクト比を調整してください。
☞ 「投写映像のアスペクト比を切り替える」 p.77
- Epson Projector Managementのメッセージ配信機能は本機能に対応していません。

画面内の映像の位置を調整する

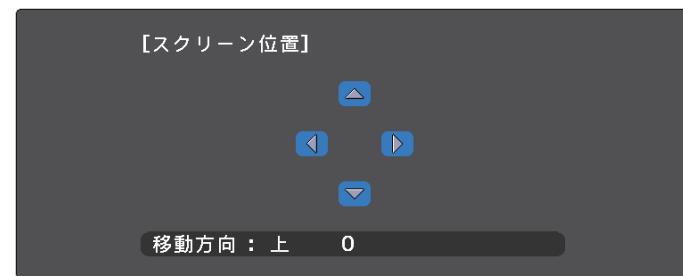
スクリーンタイプの設定により画面の枠と映像の間に余白が生じたときは、映像の位置を調整できます。

例：[スクリーンタイプ]が[4:3]の場合

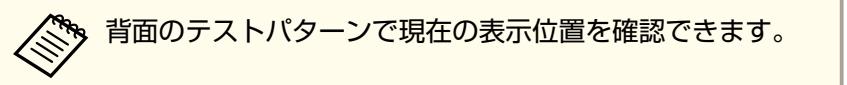


映像を左右に移動できます。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
☞ 「環境設定メニューの操作」 p.132
- 2 【拡張設定】から【表示設定】を選択します。
- 3 【スクリーン設定】から【スクリーン位置】を選びます。
- 4 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで映像の位置を調整します。



【戻る】:戻る 【◀◆▶】:移動 【メニュー】:終了



5 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

- [スクリーンタイプ]の設定が[16:10]の場合は[スクリーン位置]の調整はできません。

テストパターンを表示する

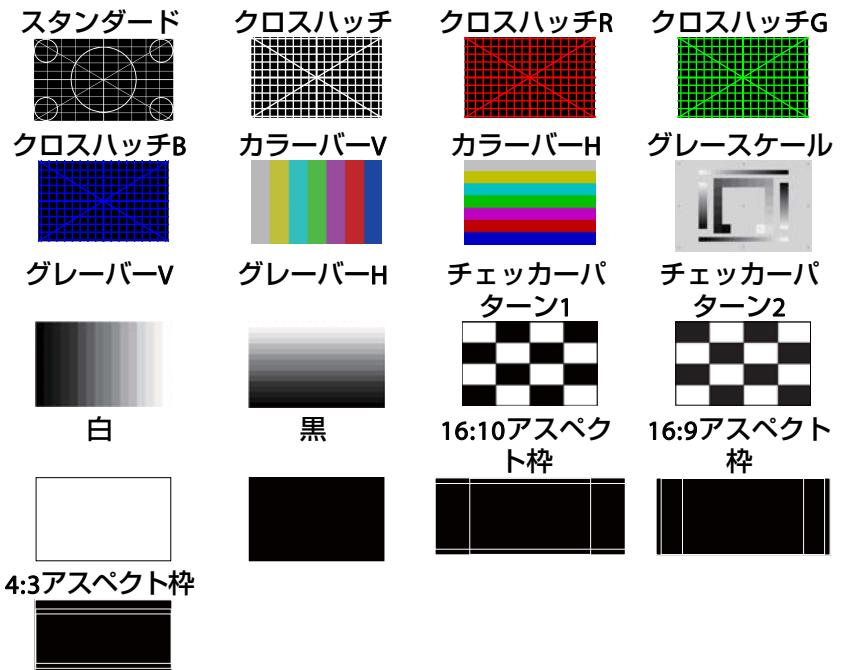
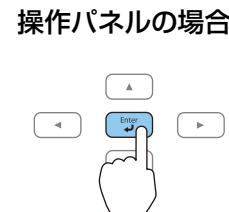
テストパターンを表示させると、映像機器を接続せずに投写状態を調整できます。

[スクリーンタイプ]の設定に合わせてテストパターンが表示されます。先に[スクリーンタイプ]を設定してください。

☞ 「スクリーン設定」 [p.34](#)

1 投写中にリモコンまたは操作パネルの【テストパターン】ボタンを押します。

2 テストパターンの表示中に、リモコンの【□】[□]ボタンまたは操作パネルの【↔】ボタンを押すと、テストパターンが切り替わります。



- テストパターンを表示中に設定できないメニュー項目の設定や、投写映像の細かい調整は、接続機器からの映像を投写して行ってください。
 - 環境設定メニューからもテストパターンを選択できます。
- ☞ 「設定」 - 「[テストパターン]」 [p.141](#)

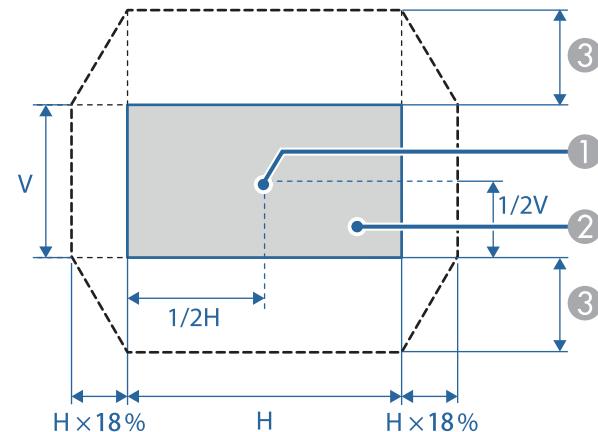
3 【戻る】ボタンを押してテストパターンの表示を終了します。

投写映像の位置調整(レンズシフト)

スクリーンの正面に本機を設置できないときや、映像の位置を調整したいときは、レンズシフト機能で映像の位置を上下左右に移動できます。

レンズシフトで映像を移動できる範囲は、以下のとおりです。映像の位置を上下、左右の両方とも最大値まで移動することはできません。

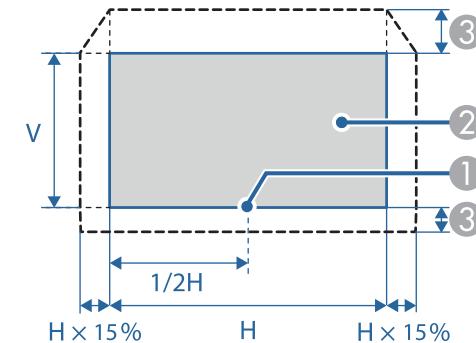
ELPLU04/ELPLW06/ELPLW08/ELPLM10/ELPLM11/ELPLM15/ELPLL08使用時



- ① レンズの中心
- ② レンズの位置をホームポジションに移動したときの投写映像
- ③ 最大可動領域※ : $V \times 60\%$

※左右方向が最大の場合は上下方向に移動できません。

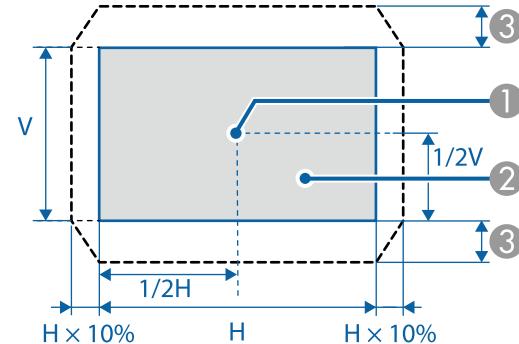
ELPLX02/ELPLX02W使用時



- ① レンズの中心
 - ② レンズの位置をホームポジションに移動したときの投写映像
 - ③ 最大可動領域※ : 上方向 $V \times 20\%$ 、下方向 $V \times 5\%$
- ※左右方向が最大の場合は上方向に移動できません。

ELPLU03S使用時

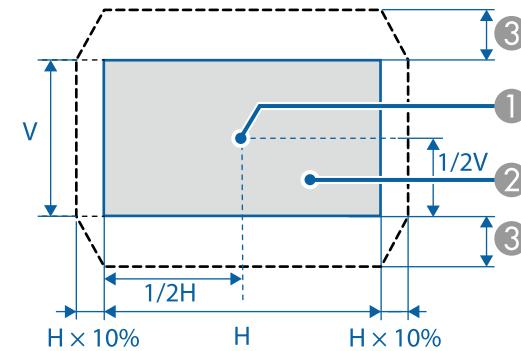
16:10



- ① レンズの中心
- ② レンズの位置をホームポジションに移動したときの投写映像
- ③ 最大可動領域※ : $V \times 24\%$

※この範囲を超えると、正しく表示できないことがあります。左右方向が最大の場合は上下方向に移動できません。

16:9

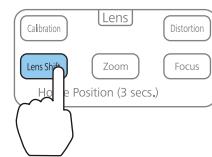
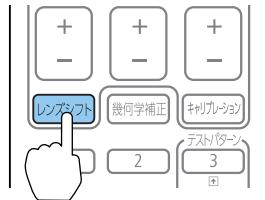


- ① レンズの中心
 - ② レンズの位置をホームポジションに移動したときの投写映像
 - ③ 最大可動領域※ : $V \times 32\%$
- ※左右方向が最大の場合は上下方向に移動できません。

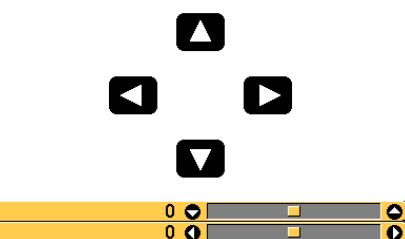
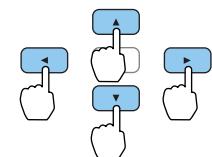
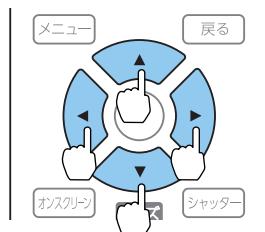


- 上下レンズシフトで画面の位置を調整するときは、画面を下から上に移動して調整し、終了してください。下に移動して終了すると、画面の位置が少し下がる場合があります。
 - プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。映像を投写後30分以上経過してからフォーカス/ズーム/レンズシフトの設定をされることをお勧めします。
 - レンズの位置をホームポジションに移動したときに、映像が最も鮮明になります。
 - リモコンまたは操作パネルの【レンズシフト】ボタンを3秒以上長押しすると、レンズの位置がホームポジションに移動します。
 - [A/V出力]を[常時]に設定すると、本機がスタンバイ状態のときもレンズの位置をホームポジションに移動できます。
- ☞ [拡張設定] - [A/V出力設定] - [A/V出力] p.142

- 1** リモコンまたは操作パネルの【レンズシフト】ボタンを押します。
リモコンの場合 操作パネルの場合



- 2** 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで投写映像の位置を合わせます。
リモコンの場合 操作パネルの場合

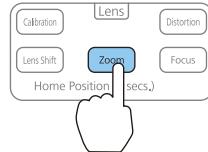


お使いのレンズにより表示画面が異なります。

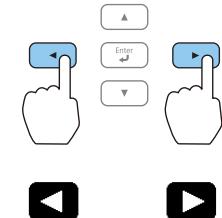
- 3** 【戻る】ボタンを押して調整を終了します。

映像のサイズを調整する

- 1** 操作パネルの【ズーム】ボタンを押します。



- 2** 【◀】【▶】ボタンを押して調整します。



お使いのレンズにより表示画面が異なります。

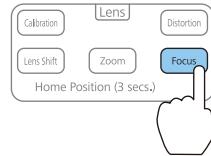
- 3** 【戻る】ボタンを押して調整を終了します。



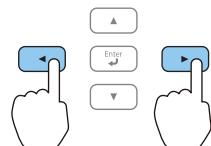
リモコンの【ズーム】ボタン【+】【-】でも映像のサイズを調整できます。

ピントのズレを補正する

- 1 操作パネルの【フォーカス】ボタンを押します。



- 2 【◀】【▶】ボタンを押して調整します。



お使いのレンズにより表示画面が異なります。



以下のレンズをお使いのときは、ディストーション(映像のひずみ)を調整するようメッセージが表示されます。ピントを調整後、ディストーションを調整してください。

ELPLX02、ELPLX02W、ELPLU03S、ELPLU04、ELPLW08

➡ 「ディストーション(映像のひずみ)を補正する」 p.40

- 3 【戻る】ボタンを押して調整を終了します。

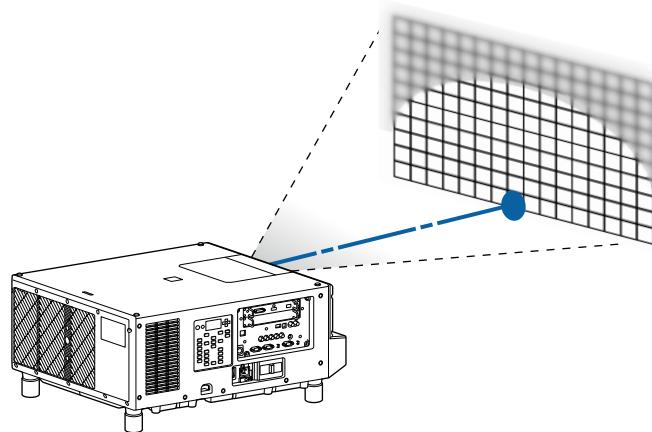


- リモコンの【フォーカス】ボタン【+】【-】でもピントのズレを補正できます。レンズキャリブレーション画面の表示中は、リモコンまたは操作パネルの【▲】【▼】ボタンも使えます。
- 明るさの異なる複数台のプロジェクターを並べて投写するときは、グレースケールのテストパターンを表示してピントのズレを補正することをお勧めします。
➡ 「テストパターンを表示する」 p.36
- フォーカス調整を行ってもピントのズレが補正されないときは、リモコンの【キャリブレーション】ボタンを押してレンズキャリブレーションを実行してください。レンズキャリブレーションが終了してから、再度フォーカス調整を行ってください。

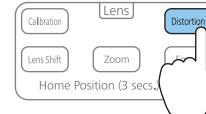
ディストーション(映像のひずみ)を補正する

短焦点レンズをお使いの場合、画面の中心のピントを合わせると周囲の映像がひずみ、ピントが合わないことがあります。以下の手順でひずみを補正します。

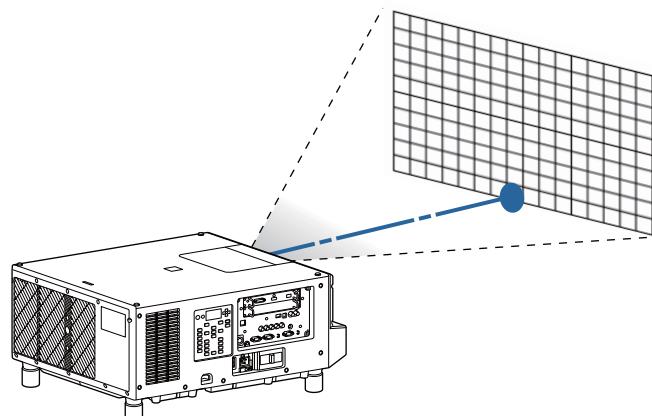
- 1 操作パネルの【フォーカス】ボタンを押します。
- 2 【◀】【▶】ボタンを押してレンズの中心の周りのピントを合わせます。



- 3 操作パネルの【ディストーション】ボタンを押します。



- 4 【◀】【▶】ボタンを押して周囲のピントを調整します。



周囲のピントを調整後に中心の周りのピントがずれた場合は、再度手順1~2を行ってください。



リモコンでも映像のひずみを調整できます。【フォーカス】ボタン【+】【-】でレンズの中心の周りのピントを合わせてから、【ディストーション】ボタン【+】【-】で周囲のピントを調整します。

レンズの調整値を登録して呼び出す

レンズシフト、ズーム、フォーカス、ディストーションで調整したレンズの位置をメモリーとして登録し、必要なときに呼び出せます。最大10件まで登録できます。



- お使いのレンズでレンズキャリブレーションを行っていない場合は、メモリーを登録するときにメッセージが表示されます。【はい】を選択してレンズキャリブレーションを実行してください。
 - メモリーを呼び出したときのレンズの位置と、メモリーを登録したときのレンズの位置は完全に一致しないことがあります。
 - メモリーを呼び出したときのレンズの位置と、メモリーを登録したときのレンズの位置のずれが大きいときは、レンズキャリブレーションを行ってください。
- ☞ [拡張設定] - [動作設定] - [レンズキャリブレーション]
p.142

- 1 投写中にリモコンの【メモリー】ボタンを押します。



環境設定メニューからも操作できます。
☞ [設定] - [メモリー] p.141

2 [レンズポジション]を選択し、【↔】ボタンを押します。

3 目的の機能を選択し、【↔】ボタンを押します。



【戻る】/[●]:戻る [◆]:選択

【メニュー】:終了

機能	説明
[メモリー名称変更]	メモリー名を変更します。変更するメモリー名を選択し、【↔】ボタンを押します。ソフトキーボードでメモリー名を入力します。 ☞「ソフトキーボードの操作」p.149 入力が終了したら[Finish]にカーソルを合わせて、【↔】ボタンを押します。
[メモリー初期化]	登録したメモリーの名称と設定値を初期化します。

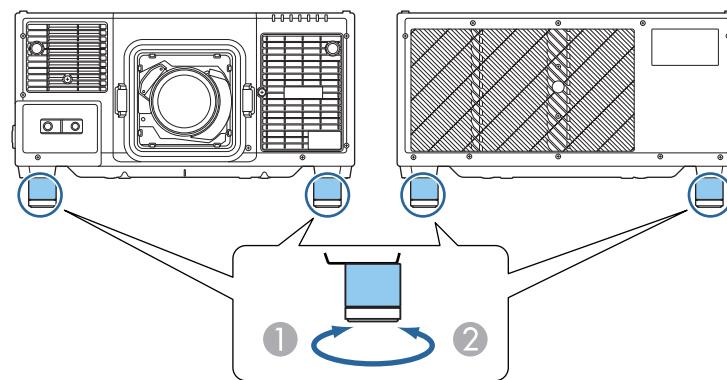


メモリー名の左のマークが青色のときは登録済みです。登録済みのメモリー名を選択したときは、上書きを確認するメッセージが表示されます。[はい]を選択すると、以前の内容を消去し、現在の設定を登録します。

機能	説明
[メモリー呼出]	登録したメモリーを呼び出します。メモリー名を選択し【↔】ボタンを押すと、選択したメモリーの設定値に自動でレンズが調整されます。
[メモリー登録]	現在の設定値をメモリーに登録します。メモリー名を選び、【↔】ボタンを押すと設定値が登録されます。
[メモリー削除]	登録したメモリーを削除します。メモリー名を選択し、【↔】ボタンを押すとメッセージが表示されます。[はい]を選択し、【↔】ボタンを押すと選択したメモリーが削除されます。

傾斜を調整する(机上に正置きする場合)

フットを伸縮して本機の垂直方向、水平方向の傾きを調整します。 $\pm 2^\circ$ の範囲で調整できます。



- ① フットを伸ばします。
- ② フットを縮めます。

注意

フットは着脱式です。約28mm以上伸ばすと外れますのでご注意ください。

IDの設定

プロジェクターとリモコンにIDを設定するとIDが一致するプロジェクターだけをリモコンで操作できるようになります。本機を複数台並べて使用するときに便利です。IDは最大30まで設定できます。



- リモコンの操作範囲内にあるプロジェクターのみ、リモコンで操作できます。
 - ☞ 「リモコンの操作可能範囲」 [p.27](#)
- プロジェクターIDが[オフ]、またはリモコンのIDが0のときは、IDは無効になります。
- Epson Web Controlを使うと、モバイルデバイスから特定のプロジェクターを操作できます。
 - ☞ 「Webブラウザを使って設定を変更する (Epson Web Control)」 [p.215](#)

プロジェクターIDを設定する

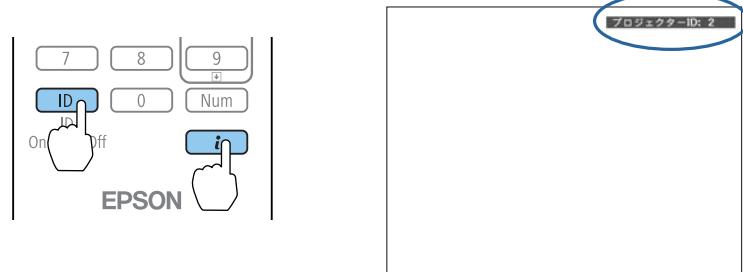
- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
 - ☞ 「環境設定メニューの操作」 [p.132](#)
- 2 [拡張設定]から[マルチプロジェクション]を選びます。
- 3 [プロジェクターID]を選び、【↔】ボタンを押します。
- 4 【↔】【↑】ボタンでIDを選択します。



- 5 [設定]を選び、【↔】ボタンを押します。
- 6 【メニュー】ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

プロジェクターIDの確認方法

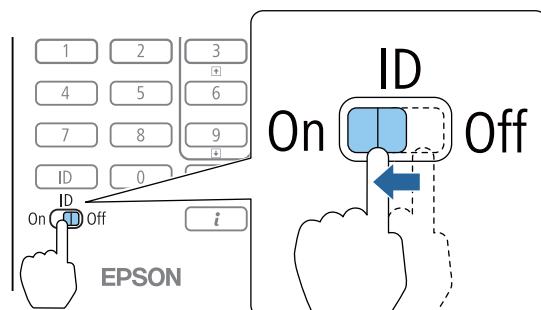
投写中に、リモコンの【ID】ボタンを押したまま【i】ボタンを押します。



ボタンを押すと、投写画面上に現在のプロジェクターIDが表示されます。表示は約3秒で消えます。

リモコンIDを設定する

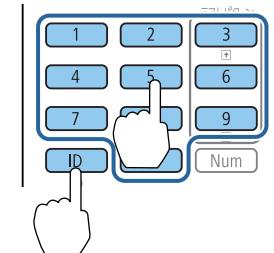
1 リモコンの【ID】スイッチをOnに設定します。



2 【ID】ボタンを押したまま、操作するプロジェクターのIDと同じ数字のボタンを押します。

☞「プロジェクターIDの確認方法」 p.44

数字は2桁で入力してください(ID : 1のときは01)。



設定が終了するとリモコンから操作できるプロジェクターが限定されます。



リモコンIDの設定はリモコンに記憶されます。記憶したID設定は、リモコンの電池交換などで、リモコンからいったん電池を外しても残ります。ただし、電池を取り外した状態で長期間放置すると初期値(ID0)に戻ります。

時刻の設定

本機に時刻を設定します。設定した時刻はスケジュール機能で使用します。

☞「スケジュール機能」 p.107



- 本機を購入後初めて電源をオンにしたとき、「時刻を設定しますか？」とメッセージが表示されます。[はい]を選択したときは手順4の画面が表示されます。
- [パスワードプロテクト]の[スケジュール保護]を[オン]にしていると、日付や時刻に関する設定の変更はできません。[スケジュール保護]を[オフ]にしてから設定を変更してください。
- 「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」[p.111](#)

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
「環境設定メニューの操作」[p.132](#)
- 【拡張設定】から【動作設定】を選択します。
- 【日付＆時刻】を選択し【↔】ボタンを押します。
- 日付や時刻に関する設定をします。

時刻や日付の入力はソフトキーボードで行います。

「ソフトキーボードの操作」[p.149](#)



日付＆時刻

サブメニュー	機能
日付	今日の日付を設定します
時刻	現在の時刻を設定します。

サブメニュー	機能
時差(UTC)	協定世界時からの時差を設定します。 (日本国内 : +9:00)
設定	[日付＆時刻]の設定内容を反映します。

夏時間設定

サブメニュー	機能
夏時間	夏時間有効にする([オン])/しない([オフ])を設定します。[夏時間調整(分)]では、標準時間と夏時間の差を調整します。
夏時間開始	夏時間開始する日時を設定します。
夏時間終了	夏時間終了する日時を設定します。
設定	[夏時間設定]の設定内容を反映します。

インターネット時刻

サブメニュー	機能
インターネット時刻	[オン]に設定すると、インターネット時刻サーバーへ接続し、時刻を自動的に更新します。
インターネット時刻サーバー	インターネット時刻サーバーのIPアドレスを入力します。
設定	[インターネット時刻]の設定内容を反映します。



設定を変更したときは、必ず[設定]を選択し【↔】ボタンを押してください。

- 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

その他の設定

基本動作に関する設定

目的	設定方法
主電源スイッチのオン/オフまたはプロジェクターの電源プラグの抜き差しによって、投写を開始/終了したい。	<ul style="list-style-type: none"> 【ダイレクトパワーオン】を【オン】に設定すると、本機に電力が供給されたときに投写を開始できます。(初期値:【オフ】) ➡ [拡張設定] - [動作設定] - [ダイレクトパワーオン] p.142 本機はダイレクトシャットダウン機能に対応していますので、電源ブレーカーで直接電源を切ることができます。
本機の電源をオン/オフしたときの「ピッ、ピッ」という確認音を消したい。	<p>【確認音】を【オフ】に設定します。(初期値:【オン】)</p> <p>➡ [拡張設定] - [動作設定] - [アドバンスト] - [確認音] p.142</p>
【↓】ボタンを1回押すだけで、電源をオフにしたい。	<p>【スタンバイ確認】を【オフ】に設定します。(初期値:【オン】)</p> <p>➡ [拡張設定] - [表示設定] - [スタンバイ確認] p.142</p>

表示に関する設定

目的	設定方法
メニューの表示位置を変更したい。	<p>[メニュー表示位置]で変更します。</p> <p>➡ [拡張設定] - [表示設定] - [メニュー表示位置] p.142</p>
メニューの表示方向を変更したい。	<p>[OSD回転]で変更します。</p> <p>➡ [拡張設定] - [表示設定] - [OSD回転] p.142</p>
メニューやメッセージ、警告などを画面に表示させたくない。	<p>リモコンの【オンスクリーン】ボタンを押すたびに、メニューやメッセージなどの非表示/表示が切り替わります。非表示中は環境設定メニューを操作できません(カラーモードまたは入力ソースの切り替えを除く)。</p>
入力ソースを切り替えたときのメッセージを投写画面に表示させないようにしたい。	<p>[メッセージ表示]を【オフ】に設定します。(初期値:【オン】)</p> <p>➡ [拡張設定] - [表示設定] - [メッセージ表示] p.142</p> <p>警告状態はインジケーターの表示で確認することができます。</p> <p>➡ 「インジケーターの見方」 p.170</p> <p>操作や動作に関するダイアログや、レーザー警告、Epson Projector Managementのメッセージ配信機能の終了、プロジェクターIDは表示されます。</p>
投写中の映像の設定を登録して保存したい。	<p>[メモリー]を設定します。</p> <p>➡ 「メモリー機能」 p.105</p> <p>登録できる内容は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【メモリー】: 環境設定メニューの一部の設定値 【レンズポジション】: レンズシフト、ズーム、フォーカス、ディストーションの調整値 【幾何学歪み補正】: 幾何学歪み補正の調整値

目的	設定方法
背景に表示する画面を変更したい。	<p>[表示設定] から変更します。青、黒、ロゴから選択できます。ロゴが登録されていないときは、EPSONロゴが表示されます。</p> <p>[背景表示]：映像信号が入力されていないときの画面表示を設定します。(初期値：[青])</p> <p>☛ [拡張設定] - [表示設定] - [背景表示] p.142</p> <p>[スタートアップスクリーン]：本機の電源をオンにしたときに、ユーザー ロゴを表示する([オン])、表示しない([オフ])を設定します。(初期値：[オン])</p> <p>☛ [拡張設定] - [表示設定] - [スタートアップスクリーン] p.142</p>
液晶ディスプレイや操作パネルのボタンを消灯させたい。	液晶ディスプレイで Lighting Time をOffに設定します。

接続する機器により、端子名称、位置や向きが異なります。

コンピューターの接続

コンピューターの映像を投写するには、以下の方法で接続します。

① 市販のコンピューターケーブルを使用するとき

コンピューターのディスプレイ出力端子と本機のComputer In端子を接続します。

② 市販の5BNCディスプレイケーブルを使用するとき

コンピューターのディスプレイ出力端子と本機のBNC In端子を接続します。

③ 市販のHDMIケーブルを使用するとき

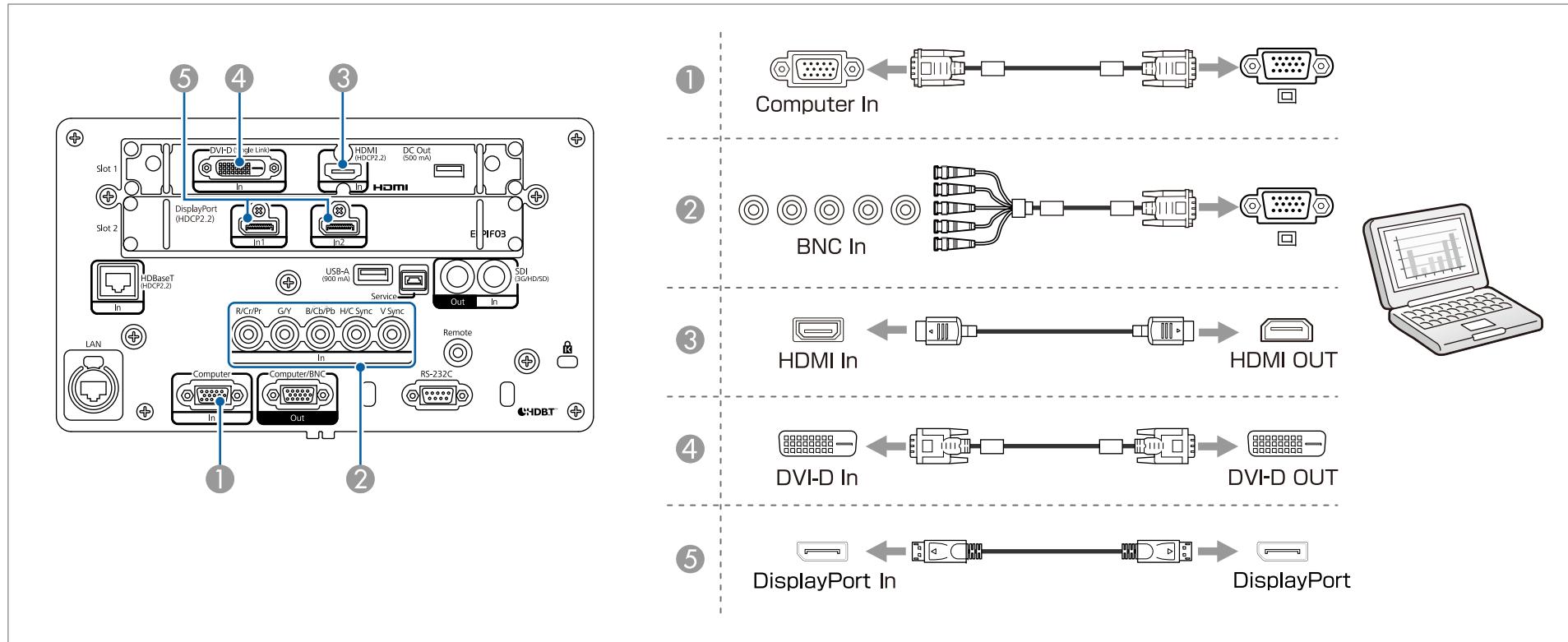
コンピューターのHDMI端子と本機のHDMI In端子を接続します。

④ 市販のDVI-Dケーブルを使用するとき

コンピューターのDVI-D端子と本機のDVI-D In端子を接続します。

⑤ 市販のDisplayPortケーブルを使用するとき(オプションのDisplayPortインターフェイスボード取り付け時)

コンピューターのDisplayPort端子と本機のDisplayPort In端子を接続します。



- 接続する機器が特有の端子形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- HDMIケーブルは、HDMI規格に準拠したケーブルを使用してください。HDMI規格に適合していないケーブルを使用すると、正しく表示できないことがあります。
- 光HDMIケーブルの給電端子を使用するときは、DC Out端子に接続してください。
- HDMIケーブルの長さや性能によっては、正しく表示できないことがあります。
- ケーブルはできるだけ短いものをお使いください。長いケーブルを使うと正しく表示されない場合があります。

映像機器の接続

ビデオ映像を投写するには、以下の方法で接続します。

- 市販のコンポーネントビデオケーブル(D-sub/コンポーネント変換)を使用するとき

映像機器のコンポーネント出力端子と本機のComputer In端子を接続します。

② 市販のコンポーネントビデオケーブル(RCA)とBNC/RCAアダプターを使用するとき

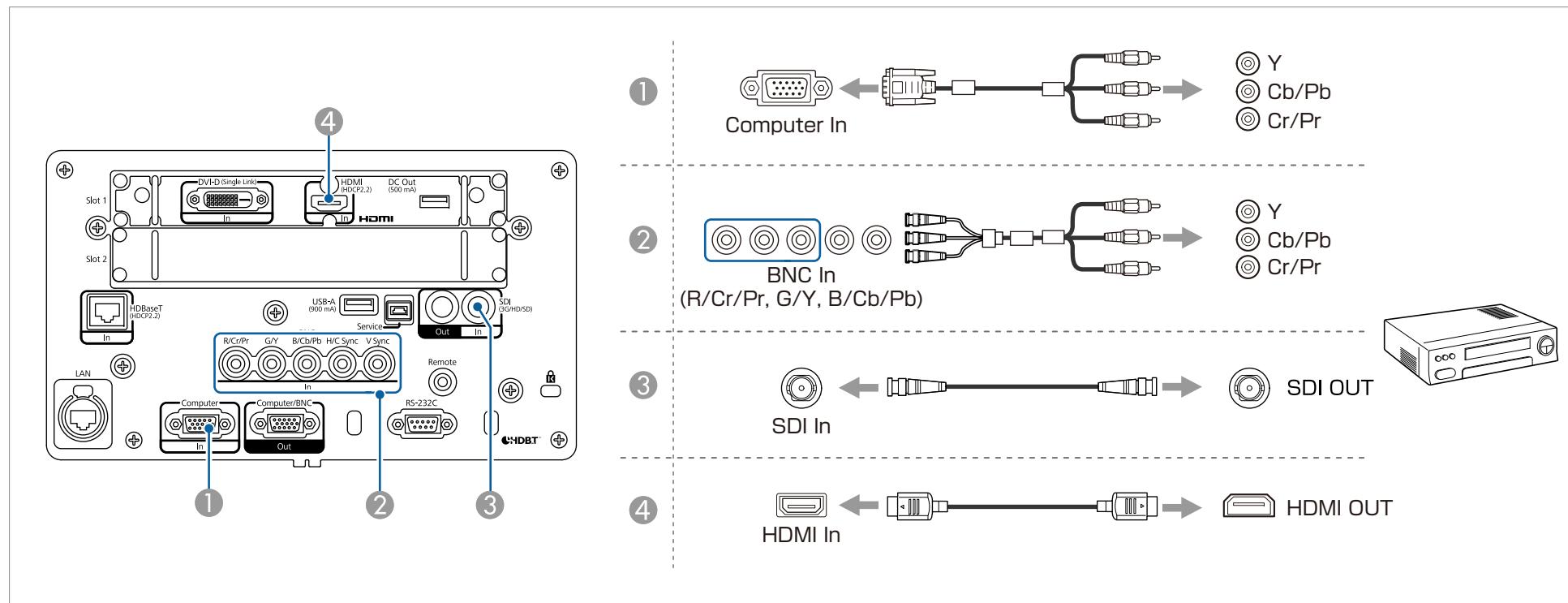
映像機器のコンポーネント出力端子と本機のBNC In端子(R/Cr/Pr、G/Y、B/Cb/Pb)を接続します。

③ 市販のBNCビデオケーブルを使用するとき(SDI入力)

映像機器のSDI端子と本機のSDI In端子を接続します。

④ 市販のHDMIケーブルを使用するとき

映像機器のHDMI端子と本機のHDMI In端子を接続します。



注意

- 接続機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。
- プラグの向きや形状が異なった状態で無理に押し込まないでください。機器の破損や故障の原因になります。



- 接続する機器が特有の端子形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- HDMIケーブルは、HDMI規格に準拠したケーブルを使用してください。HDMI規格に適合していないケーブルを使用すると、正しく表示できないことがあります。
- 光HDMIケーブルの給電端子を使用するときは、DC Out端子に接続してください。
- HDMIケーブルの長さや性能によっては、正しく表示できないことがあります。
- ケーブルはできるだけ短いものをお使いください。長いケーブルを使うと正しく表示されない場合があります。
- [SDI設定]でSDI In端子からの信号を設定できます。
👉 [拡張設定] - [SDI設定] [p.142](#)

外部モニターの接続

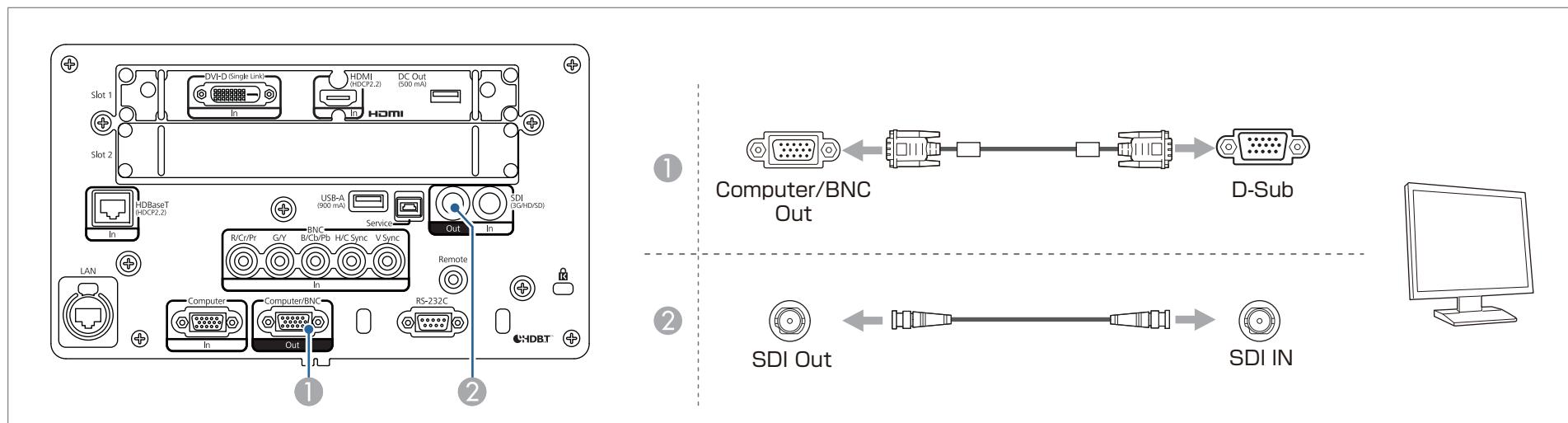
映像を外部モニターに出力できます。

① Computer In端子またはBNC In端子に接続している機器の映像を出力したいとき

外部モニターのD-Sub端子と本機のComputer/BNC Out端子を接続します。

② SDI In端子に接続している機器の映像を出力したいとき

外部モニターのSDI入力端子と本機のSDI Out端子を接続します。



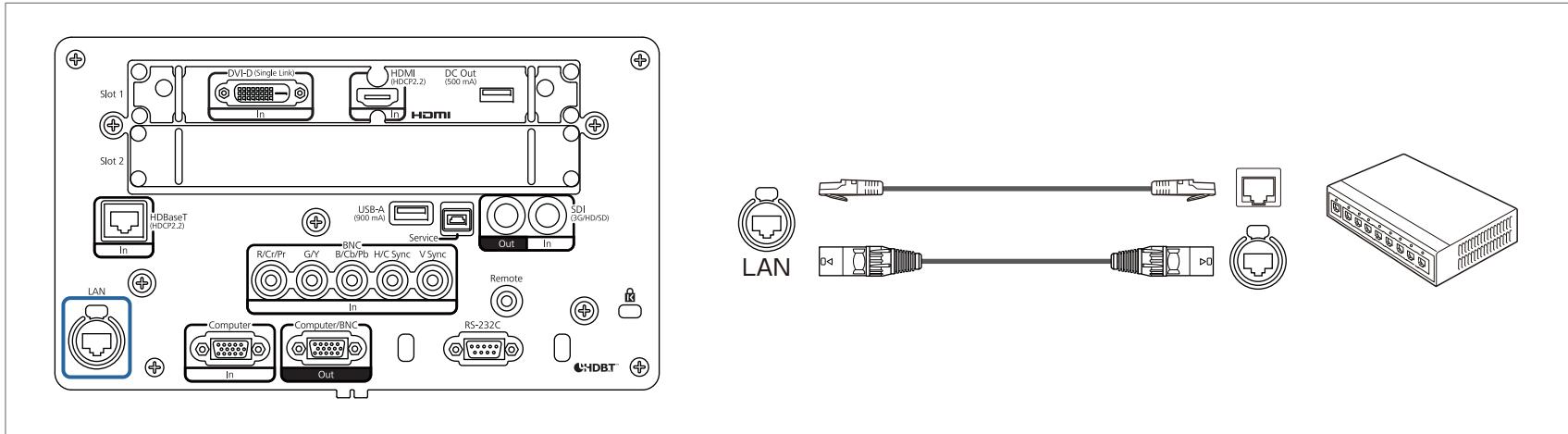


本機がスタンバイ状態のときは、映像は出力されません。

LANケーブルの接続

市販の100BASE-TXまたは10BASE-TタイプのLANケーブルで、ネットワークハブなどのLAN端子と本機のLAN端子を接続します。市販のイーサコン(etherCON)LANケーブルにも対応しています。

コンピューターとプロジェクターをネットワークで接続して映像を投写したり、プロジェクターの状態を確認したりできます。

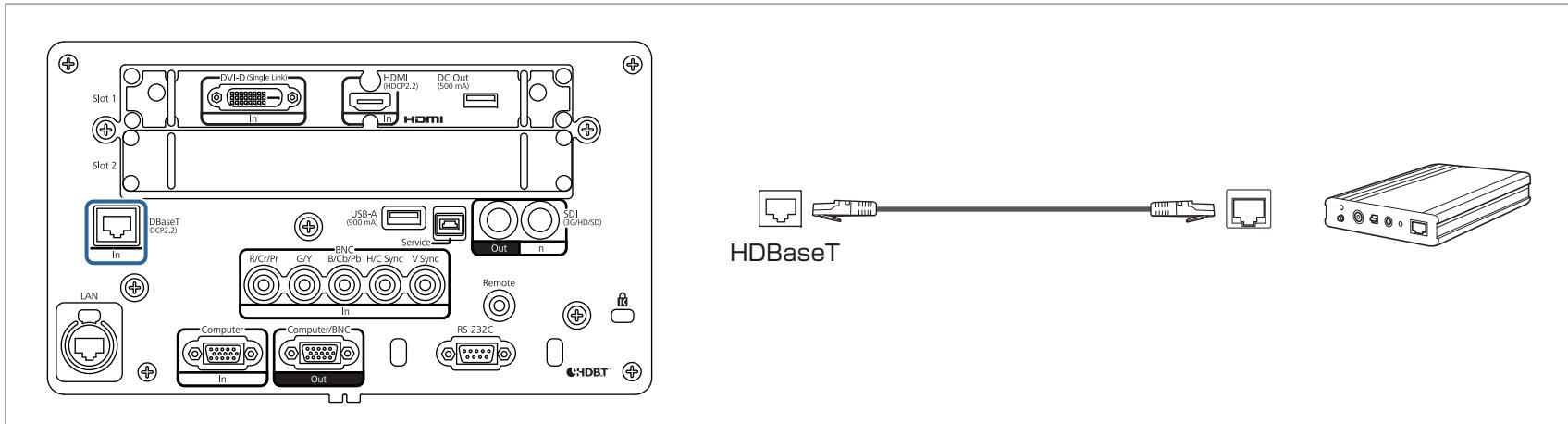


誤作動防止のために、LANケーブルはカテゴリー5以上のシールド付きをお使いください。

HDBaseTトランスミッターの接続

市販の100BASE-TXタイプのLANケーブルで、オプション品のHDBaseTトランスミッターを接続します。

☞ 「オプション」 [p.236](#)



- HDBaseTトランスミッターに添付の取扱説明書をよくお読みください。
- LANケーブルはHDBaseT Alliance推奨のカテゴリー6以上のSTPケーブル(ストレート)をお使いください。ただし、すべての入出力機器および環境において、動作を保証するものではありません。
- LANケーブルを抜き差しするときは、本機とHDBaseTトランスミッターの電源をオフにしてください。
- HDBaseT端子からEthernet通信やシリアル通信、有線リモコン制御をするときは、環境設定メニューの[制御通信]を[オン]にします。
☞ [拡張設定] - [HDBaseT設定] - [制御通信] [p.142](#)
[制御通信]を[オン]にすると、本機のLAN端子、RS-232C端子、Remote端子は無効になりますのでご注意ください。
- Extron社製のXTPトランスミッターまたはスイッチャーを使用するときは、本機のHDBaseT端子に接続します。[Extron XTP]を[オン]に設定してください([待機モード]、[制御通信]も自動的に[オン]に設定されます)。
☞ [拡張設定] - [HDBaseT設定] - [Extron XTP] [p.142](#)
- HDBaseT端子からの入力信号の状態を[HDBaseT信号レベル]で確認できます。
☞ [情報] - [プロジェクター情報] - [HDBaseT信号レベル] [p.157](#)

基本的な使い方

ここでは、映像の投写方法と映像補正方法について説明しています。

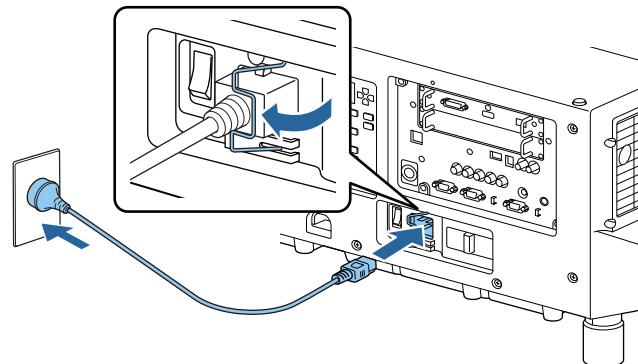
プロジェクターの電源を入れる前に、使用するコンピューターまたはビデオ機器を本機に接続してください。

☛ 「接続する」 p.48

注意

プロジェクターに電力を供給する建物の配線に、13Aから20Aの遮断器を取り付けてください。遮断器を取り付けた配線はプロジェクター専用とし、他の機器を接続しないでください。

1 本機とコンセントを電源コードで接続し、ケーブルホールダーを取り付けます。



警告

- 電源プラグは3芯です。3芯アース付きのコンセントに接続してください。
- お住まいの国や地域によっては、同梱の電源コードが100V用と200V用の2種類あります。お使いの環境に応じて、使用する電源コードが異なります。電源コードの取り扱いは専門業者にご依頼ください。

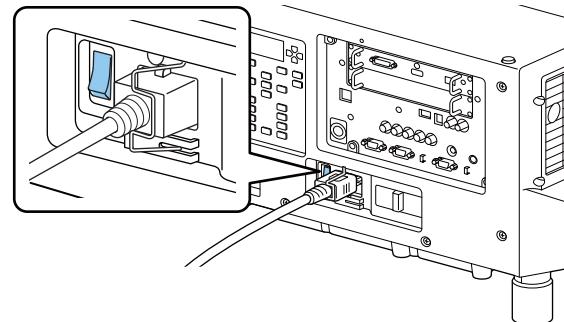


100V用の電源コードは、設置場所を決めるために本機を仮動作させるときなどにお使いいただけます。100V用の電源コードを使って投写すると、200Vの電源コードを使用したときに比べて投写画面の明るさが約55%程度になります。投写映像やレンズの調整を行うときは、200V用の電源コードをお使いください。

100V用電源コードでは以下の機能が使えません。

- 光源モード
- 残り時間目安
- 光源キャリブレーション

2 主電源スイッチをオンにして、本機に電力を供給します。



本機の電源インジケーターが青色に点灯します(スタンバイ状態)。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

3 操作パネルまたはリモコンの【①】ボタンを押して、本機の電源を入れます。

確認音が鳴り、ステータスインジケーターが青色に点滅します(ウォームアップ状態)。ウォームアップが終わると、ステータスインジケーターが青色に点灯します。

映像が投写されないときは、以下を試してください。

- 接続されているコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。
- ノート型コンピューターを使用するときは、コンピューターの画面出力を切り替えます。
- DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- リモコンの【入力検出】ボタンを押して入力ソースを検出します。
- リモコンで、投写したい入力ソースに対応するボタンを押します。

⚠ 警告

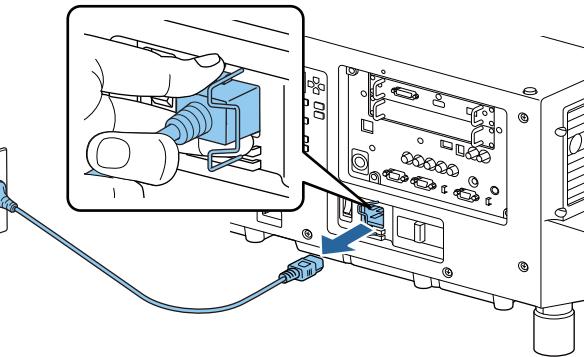
- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特に子様の行動にご注意ください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を長時間さえぎると投写光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因となります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機の故障の原因となることがあります。投写を中断する場合はシャッター機能を使うか本機の電源を切ってください。



- 【拡張設定】メニューの【ダイレクトパワーオン】が【オン】に設定されていると、本機に電力が供給されたときに自動で電源が入ります。停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると、本機の電源がオンになりますのでご注意ください。
☞ [拡張設定]-[動作設定]-[ダイレクトパワーオン] [p.142](#)
- 【拡張設定】メニューの【シャッター設定】で、本機の電源を入れたときのシャッターの状態を設定できます。
☞ [拡張設定]-[動作設定]-[シャッター設定]-[スタートアップ] [p.142](#)



- 本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境設定メニューの設定、環境条件、および使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、投写時間の経過にしたがって低下します。
 - 本機はダイレクトシャットダウン機能に対応しているため、電源ブレーカーで直接電源を切ることができます。
 - 24時間以上連続して使用する場合、または定期的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は、スケジュール機能で[光源キャリブレーション]を設定し、定期的に光源の補正をしてください。環境設定メニューからも設定できます。
- ☞ [スケジュール機能] p.107
 ☞ [初期化]-[光源キャリブレーション] p.158



電源コードは、販売国の電源仕様に基づき同梱されています。電源プラグにロックがあるときは、ロックを押しながら電源コードを抜いてください。

1 操作パネルまたはリモコンの【○】ボタンを押します。

シャットダウン確認画面が表示されます。

電源を切りますか？

はい :  を押す

いいえ: 他のボタンを押す

2 再度【○】ボタンを押します。(電源を切らないときは、他のボタンを押します。)

確認音が2回鳴った後、投写映像が消え、ステータスインジケーターが消灯します。

3 主電源スイッチをオフにします。

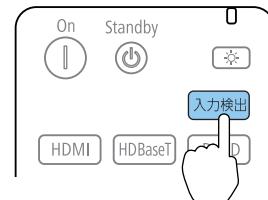
電源インジケーターが消灯します。

4 ケーブルホルダーを取り外し、電源コードを抜きます。

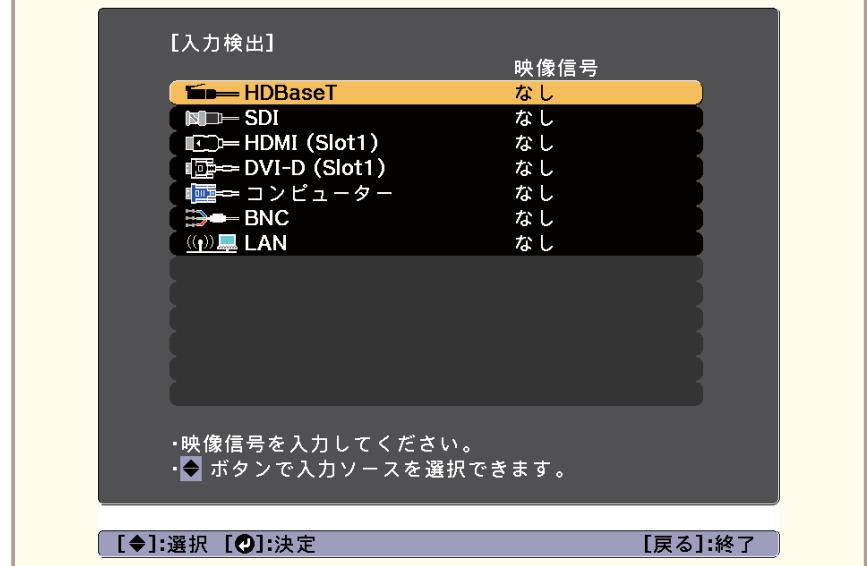
複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を投写するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** 次のいずれかの操作を行います。

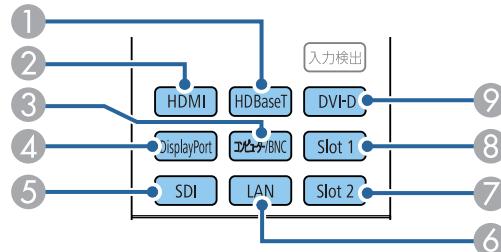
- 目的の機器からの映像が表示されるまで、リモコンの【入力検出】ボタンを押します。



 映像信号がなにも入力されていないときは、以下の画面が表示されます。

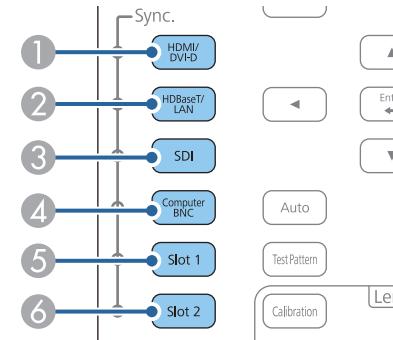


- リモコンで、投写したい入力ソースのボタンを押します。押したボタンに対応する入力ソースが複数あるときは、ボタンを再度押して入力ソースを切り替えます。



- ① HDBaseT端子
- ② HDMI端子
- ③ Computer In端子/BNC端子
- ④ DisplayPort1 In端子/DisplayPort2 In端子
(オプションのDisplayPortインターフェイスボード取り付け時)
- ⑤ SDI In端子
- ⑥ LAN
- ⑦ Slot2の入力端子
- ⑧ Slot1の入力端子
- ⑨ DVI-D端子

- 操作パネルで、投写したい入力ソースのボタンを押します。押したボタンに対応する入力ソースが複数あるときは、ボタンを再度押して入力ソースを切り替えます。



- ① HDMI端子/DVI-D端子
- ② HDBaseT端子/LAN
- ③ SDI In端子
- ④ Computer In端子/BNC端子
- ⑤ Slot1の入力端子
- ⑥ Slot2の入力端子

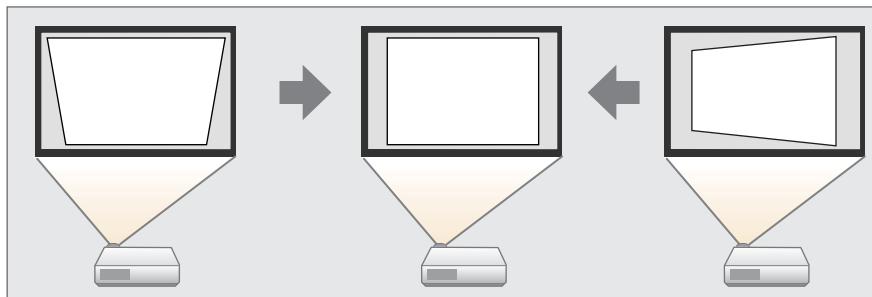


- 映像信号が入力されている入力ソースのSync.インジケーターが点灯します。また、投写中の入力ソースのボタンも点灯します。
- 各入力端子の有効/無効を設定できます。
👉 [拡張設定]-[動作設定]-[映像端子設定] [p.142](#)
- 押したボタンに対応する入力ソースが複数あるときは、[入力検出]画面と同じ順番で切り替わります。たとえば、HDMI/DVI-DインターフェイスボードをSlot1とSlot2に取り付けて【HDMI】ボタンを押した場合は、以下の順番で切り替わります。
HDMI (Slot1) - HDMI (Slot2)
- オプションのインターフェイスボードと交換した場合は、Slot1からSlot2の順番で切り替わります。たとえば、HDMI/DVI-DインターフェイスボードをSlot1とSlot2に取り付けて【HDMI/DVI-D】ボタンを押した場合は、以下の順番で切り替わります。
HDMI (Slot1) - DVI-D (Slot1) - HDMI (Slot2) - DVI-D (Slot2)

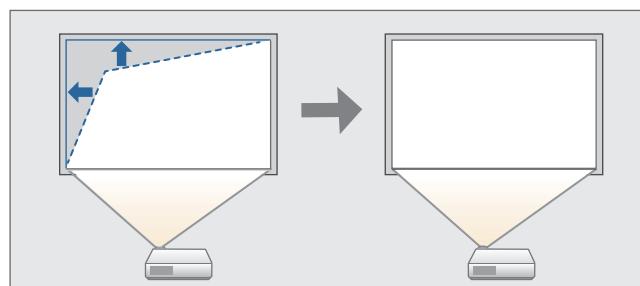
映像のゆがみを補正する

投写映像のゆがみを補正するには、以下の方法があります。

- タテヨコ補正
タテ方向とヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。
☞ 「タテヨコ補正」 p.63



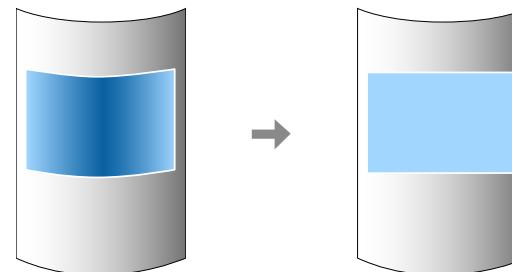
- Quick Corner
4つのコーナーを個別に補正します。
☞ 「Quick Corner」 p.64



• 曲面投写補正

曲面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整したりします。

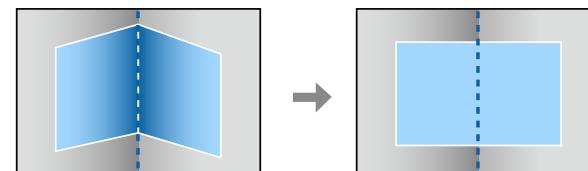
- ☞ 「曲面投写補正」 p.65



• コーナー投写補正

四角い柱や部屋の隅の壁など、直角の面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整します。

- ☞ 「コーナー投写補正」 p.68



• ポイント補正

部分的に発生するわずかなゆがみを補正したり、本機を複数台並べて投写するときに映像の重なり合う部分の位置を調整します。

- ☞ 「ポイント補正」 p.72





- 投写位置を再調整するときなどに、補正状態を一時的に解除したいときは、[幾何学歪み補正]を[オフ]に設定します。[オフ]にしても、補正值は保存されています。
- 〔設定〕 - [幾何学歪み補正] [p.141](#)
- [幾何学歪み補正]の[メモリー]で幾何学歪み補正の設定値を登録し、必要なときに呼び出すことができます。
- 〔メモリー機能〕 [p.105](#)
- 環境設定メニューからも設定できます。
- 〔設定〕 - [幾何学歪み補正] [p.141](#)

[タテヨコ]

戻る

タテ補正	0	◀	▶
タテバランス	0	◀	▶
ヨコ補正	0	◀	▶
ヨコバランス	0	◀	▶

〔戻る〕: 戻る 〔◀〕: 選択 〔▶〕: 調整
〔初期値〕: リセット

〔メニュー〕: 終了

タテヨコ補正

タテ方向とヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。

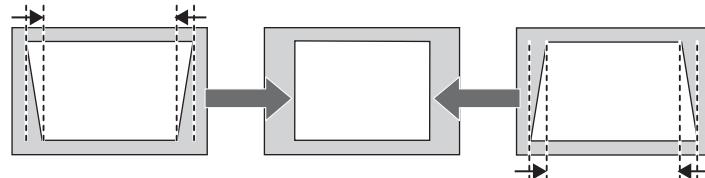
映像の補正範囲は以下で確認できます。

〔タテヨコ補正〕 [p.239](#)

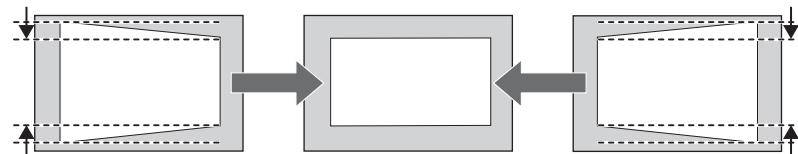
- 投写中に[幾何学補正]ボタンを押します。
- [タテヨコ]を選択し〔↔〕ボタンを押します。
「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、〔↔〕ボタンを押します。
- 〔▲〕〔▼〕ボタンで補正方法を選び、〔◀〕〔▶〕ボタンで補正します。

[タテ補正]と[ヨコ補正]で、台形にゆがんだ映像を補正します。

タテ補正

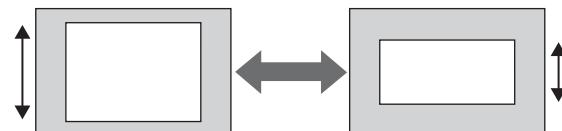


ヨコ補正

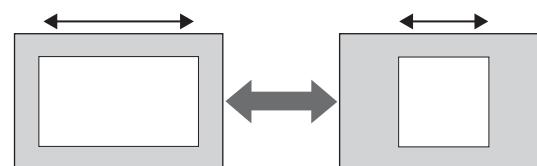


映像のアスペクトが崩れたときは、[タテバランス]と[ヨコバランス]で映像のバランスを調整します。

タテバランス



ヨコバランス



台形ゆがみを補正すると、投写映像のサイズが小さくなります。

4 補正を終了するには、[メニュー]ボタンを押します。



他の補正方法と組み合わせて使うことはできません。

Quick Corner

スクリーンに合わせて投写映像の4つのコーナーを個別に補正します。

- 1 投写中に【幾何学補正】ボタンを押します。
- 2 [Quick Corner]を選択し【↔】ボタンを押します。
「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、もう一度【↔】ボタンを押します。
- 3 補正するコーナーを【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで選択して、【↔】ボタンを押します。



[△/▽]:選択
 [○]:決定
 [戻る]:戻る(2秒間押下で初期化/切替)



【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、初期化実行確認画面が表示されます。

Quick Cornerで補正した結果を初期化する場合は【はい】を選択してください。

4 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでコーナーの位置を補正します。

【↔】ボタンを押すと、手順3の補正するエリアを選択する画面が表示されます。

補正中に「これ以上調整できません。」と表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。



5 手順3と4を繰り返して補正が必要なコーナーすべてを補正します。

6 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

曲面投写補正

曲面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整します。

レンズの位置をホームポジションに移動した状態で、スクリーンに正対して投写してください。

☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36



- ・同じ半径の円弧の面に投写してください。
- ・補正量が大きいと、ピントが均一にならない場合があります。

映像の補正範囲は以下で確認できます。

☞ 「曲面投写補正」 p.239

1 投写中に【幾何学補正】ボタンを押します。

2 【曲面投写補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



[戻る] : 戻る [◀] : 選択 [●] : 決定 [メニュー] : 終了

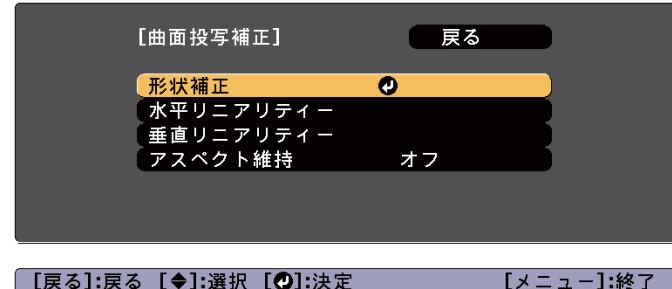
「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、【↔】ボタンを押します。

投写映像を調整する

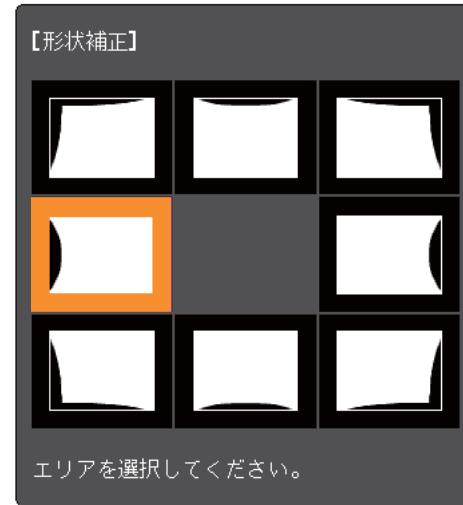
- 3 [曲面投写補正]を選択し【↔】ボタンを押します。



- 4 [形状補正]を選択し【↔】ボタンを押します。



- 5 補正する箇所を【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで選択して【↔】ボタンを押します。



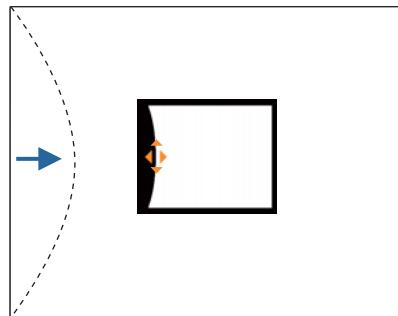
頂点を選択すると、隣接する2つの辺を調整できます。



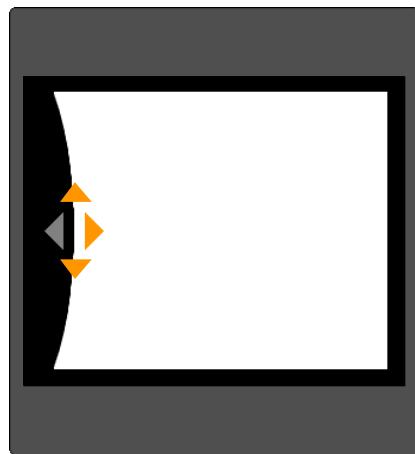
【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、初期化実行確認画面が表示されます。

曲面投写補正で補正した結果を初期化する場合は、[はい]を選択してください。

- 6 [▲][▼][◀][▶]ボタンで辺の位置を補正します。



補正中に以下の画面が表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。



- 7 【戻る】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

- 8 手順5～7を繰り返して、補正が必要な箇所すべてを補正します。
映像が伸縮しているときは、次の手順へ進んでリニアリティを調整します。

- 9 【戻る】ボタンを押して、手順4の画面に戻ります。【水平リニアリティ】または【垂直リニアリティ】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】:戻る 【◆】:選択 【○】:決定 [メニュー]:終了

左右方向の伸縮を補正する場合は【水平リニアリティ】、上下方向の伸縮を補正する場合は、【垂直リニアリティ】を選択します。



アスペクト比を維持しながら伸縮を補正するときは、【アスペクト維持】を【オン】に設定します。補正後に【オン】に設定すると、補正ができない場合があります。その場合は、補正を初期化するか、補正量を少なくしてから再度実行してください。

- 10 補正の基準線を選択し、【↔】ボタンを押します。

【水平リニアリティ】選択時は【◀】【▶】ボタン、【垂直リニアリティ】選択時は【▲】【▼】ボタンで選択し、【↔】を押します。
選択された基準線はオレンジと白の点滅で表示されます。



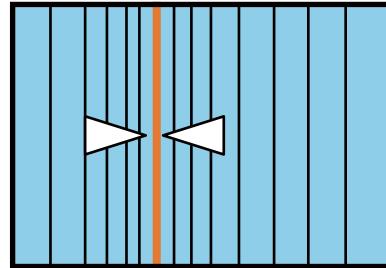
基準線を変更すると、それまでの設定がリセットされます。

11 伸縮補正をします。

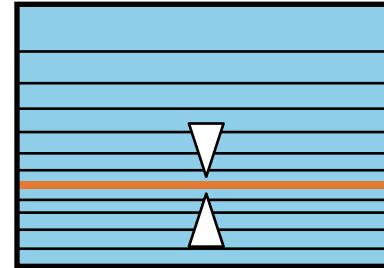
線と線の間が均等になるように補正します。

【◀】ボタンを押したとき

[水平リニアリティー]選択時

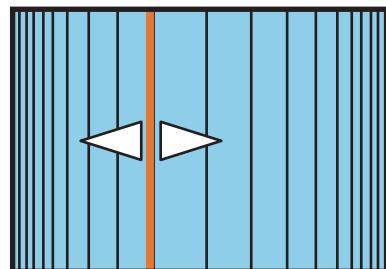


[垂直リニアリティー]選択時

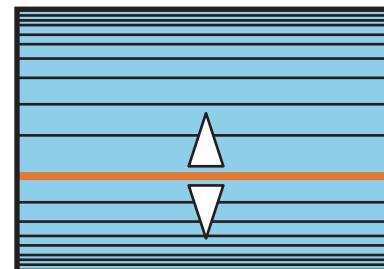


【▶】ボタンを押したとき

[水平リニアリティー]選択時



[垂直リニアリティー]選択時



12 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



補正した結果を微調整できます。[Quick Corner]で映像の傾きを調整し、[ポイント補正]で微調整します。手順3の画面で[Quick Corner]または[ポイント補正]を選択してください。

☞ 「Quick Corner」 p.64

☞ 「ポイント補正」 p.72

コーナー投写補正

四角い柱や部屋の隅の壁など、直角の面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整します。

レンズの位置をホームポジションに移動した状態で、スクリーンに正対して投写してください。

☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36



- ・直角の面に対して投写してください。
- ・補正量が大きいと、ピントが均一にならない場合があります。

映像の補正範囲は以下で確認できます。

☞ 「コーナー投写補正」 p.241

1 投写中に【幾何学補正】ボタンを押します。

2 [コーナー投写補正]を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【⊕】: 決定

【メニュー】: 終了

「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、もう一度【↔】ボタンを押します。

- 3 [コーナー投写補正]を選択し【↔】ボタンを押します。

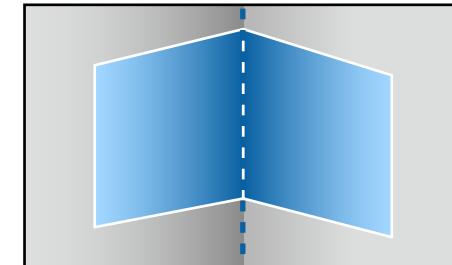


- 4 [コーナータイプ]を選択し【↔】ボタンを押します。

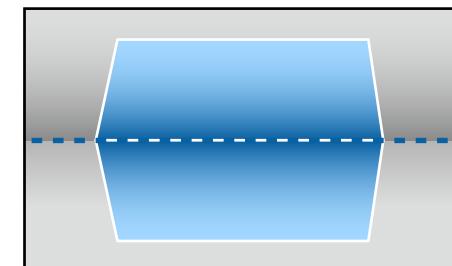


- 5 投写する場所に合わせて、[水平コーナー]または[垂直コーナー]を選択し【↔】ボタンを押します。

面と面が横に並んでいる場合：
[水平コーナー]を選択します。



面と面が縦に並んでいる場合：
[垂直コーナー]を選択します。

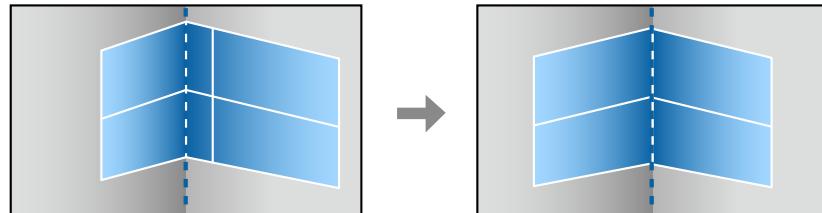


以降、[水平コーナー]で補正するときを例に説明します。

- 6 【戻る】ボタンを押し、手順4の画面に戻ります。[形状補正]を選択し【↔】ボタンを押します。

- 7 調整用の画面の中央の線と、コーナー(2つの面が接する場所)の線が合うように、プロジェクターの位置やレンズシフトを調整します。

「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36



【↔】ボタンを押すたびに、画像や格子を表示/非表示できます。

- 8 補正する箇所を【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで選択して【↔】ボタンを押します。

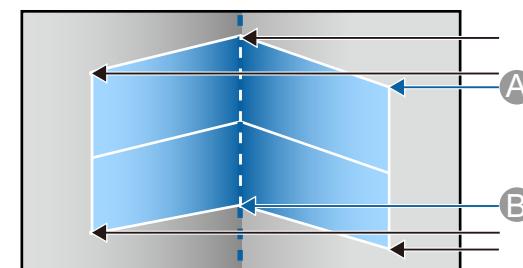


補正のポイント

[水平コーナー]選択時：

上部の補正は、一番低い点(Ⓐの矢印が指している点)を基準にして補正します。

下部の補正は一番高い点(Ⓑの矢印が指している点)を基準にして補正します。



[垂直コーナー]選択時：

左辺、右辺ともに画面中央の垂直線に一番近い点を基準にします。



【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、初期化実行確認画面が表示されます。

[コーナー投写補正]で補正した結果を初期化する場合は[はい]を選択してください。

9 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで形状を補正します。

補正中に「これ以上調整できません。」と表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。

10 手順8と9を繰り返して、補正が必要な箇所すべてを補正します。

映像が伸縮しているときは、次の手順へ進んでリニアリティを調整します。

11 【戻る】ボタンを押し、手順3の画面に戻ります。[リニアリティ]を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】:戻る [◆]:選択 [⊕]:決定 [メニュー]:終了

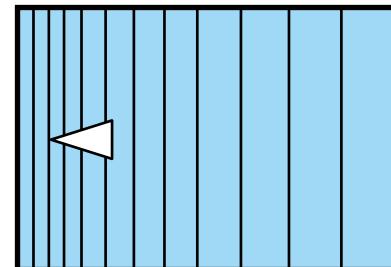
12

【◀】【▶】ボタンで伸縮補正をします。

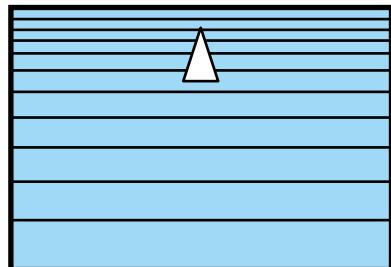
線と線の間が均等になるように補正します。

【◀】ボタンを押したとき

[水平コーナー]選択時

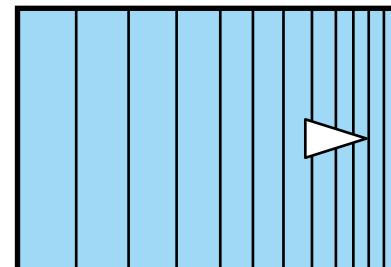


[垂直コーナー]選択時

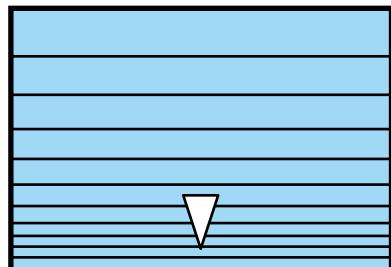


【▶】ボタンを押したとき

[水平コーナー]選択時



[垂直コーナー]選択時



13

補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



補正した結果を微調整できます。[Quick Corner]で映像の傾きを調整し、[ポイント補正]で微調整します。手順3の画面で[Quick Corner]または[ポイント補正]を選択してください。

☞「Quick Corner」 p.64

☞「ポイント補正」 p.72

ポイント補正

投写画像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します。

 各方向にそれぞれ0.5画素ずつ、最大32画素まで補正できます。

- 1 投写中に【幾何学補正】ボタンを押します。
- 2 【ポイント補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、もう一度【↔】ボタンを押します。

- 3 【ポイント補正】を選択し【↔】ボタンを押します。

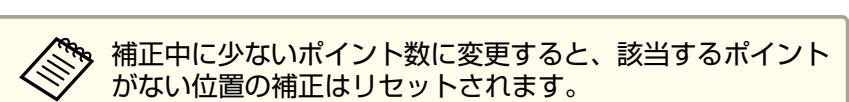


- 4 【ポイント補正】を選択し【↔】ボタンを押します。

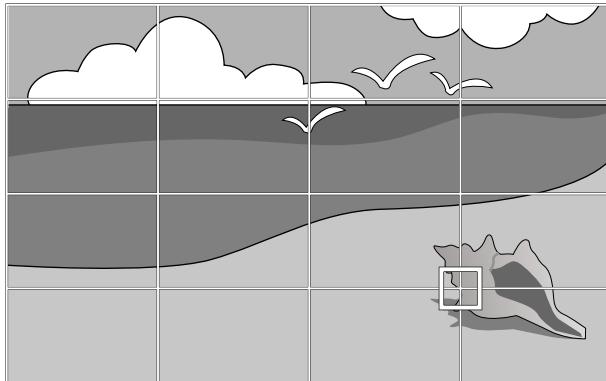


ポイント補正	ポイント数 ([3x3]、[5x5]、[9x9]、[17x17])を選択し、ポイント補正を行います。
パターン色	補正時に表示する格子の色を選択します。
初期化	【ポイント補正】の補正值、設定値をすべて初期値に戻します。

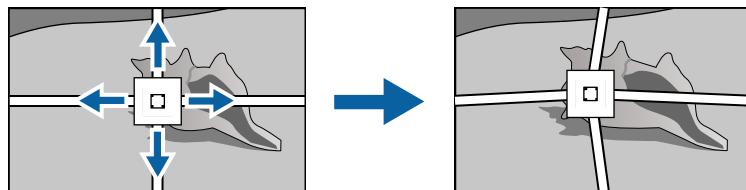
- 5 ポイントの数([3x3]、[5x5]、[9x9]、[17x17])を選択し【↔】ボタンを押します。



- 6 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでガイドを補正したいポイントに合わせ、【↔】ボタンを押します。



- 7 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでゆがみを補正します。



続けて他のポイントを修正する場合は、【戻る】ボタンを押して前の画面に戻り、手順6、7を行います。



【↔】ボタンを押すたびに、画像や格子を表示/非表示できます。

- 8 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



補正した結果を微調整できます。手順3の画面で【Quick Corner】を選択し、映像の傾きを調整します。

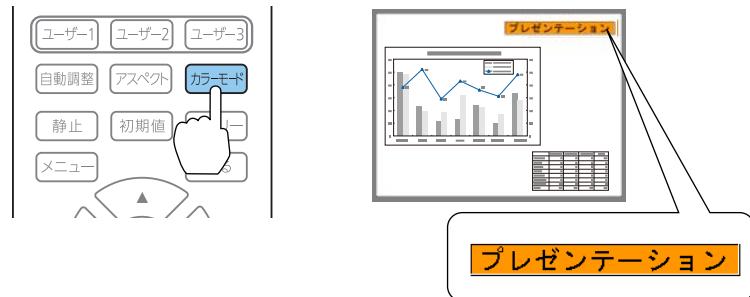
●「Quick Corner」 p.64

映り具合を選ぶ(カラー モードの選択)

投写時の環境に応じて次の設定から選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが変わります。

モード名	使い方
ダイナミック	一番明るいモードです。明るい部屋での使用に最適です。
プレゼンテーション	鮮やかで臨場感のある映像になります。明るい部屋で、プレゼンテーションを行ったり、テレビ番組を楽しむのに適しています。
ナチュラル	色が忠実に再現されます。写真などの静止画を投写するのに適しています。
シネマ	自然な色合いの映像になります。暗い部屋で、映画を楽しむのに適しています。
BT.709	ITU-R BT.709に準拠した映像になります。デジタルテレビ放送やブルーレイディスクなどを楽しむのに適しています。
DICOM SIM	陰影のくっきりした映像になります。エックス線写真などの医用画像を投写するのに最適です。なお、本機は医療機器ではありませんので、医療診断の用途ではご利用いただけません。
マルチプロジェクション	各映像の色のトーンの違いを最小化します。複数のプロジェクターを利用して投写するのに最適です。

リモコンの【カラー モード】ボタンを押すたびに画面上にカラー モード名が表示され、カラー モードが切り替わります。

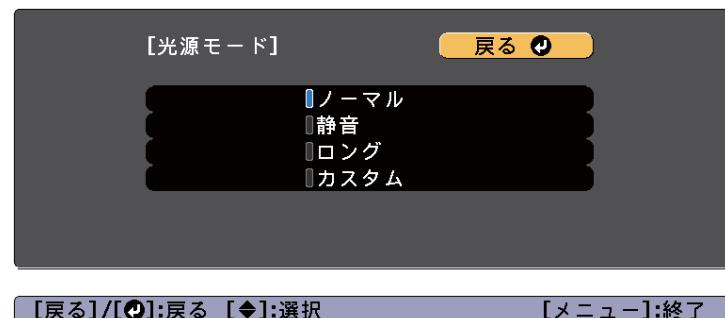


 カラー モードは環境設定メニューからも設定できます。
👉 [画質]-[カラー モード] [p.137](#)

明るさを設定する

光源の明るさを設定します。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【設定】から【明るさ設定】を選択します。
- 3 【光源モード】を選択し【↔】ボタンを押します。
- 4 設定したい項目を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】/[✖]: 戻る [◀]: 選択 [メニュー]: 終了

【ノーマル】: 明るさを落としたくないときに選択します。光源の使用時間の目安は約20,000時間です。

【静音】: ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源の使用時間の目安は約20,000時間です。

【ロング】: 光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源の使用時間の目安は約43,000時間です。

【カスタム】: 【明るさレベル】を手動で設定するときに選択します。【カスタム】を選択したときは、【一定モード】が選択可能になります。

- 5 【光源モード】を【カスタム】にしたときは、【明るさレベル】を選択し【◀】【▶】ボタンで明るさを設定します。

 明るさレベルで調整できる上限が制限されるときは、【明るさレベル】の下に上限値が表示されます。

- 6 明るさを一定に保ちたいときは、【一定モード】を選択し【オン】にします。



- ・[一定モード]を[オン]にすると、[光源モード]と[明るさレベル]の変更ができなくなります。変更したい場合は[一定モード]を[オフ]にしてください。
 - ・[一定モード]を[オフ]にすると、そのときの光源状態に応じて[明るさレベル]の値が変わります。
 - ・[明るさレベル]の数値には誤差があります。
 - ・24時間以上連続して使用する場合、または定期的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は、スケジュール機能で[光源キャリブレーション]を設定してください。設定しないと、明るさの一定モード機能が動作しません。環境設定メニューからも設定できます。
- ☞ 「スケジュール機能」 p.107
 ☞ 「初期化」-[光源キャリブレーション] p.158

表示レベル	実際の残り時間
■■■■■	8,000~9,999時間
■■■■■	6,000~7,999時間
■■■■■	4,000~5,999時間
■■■■■	2,000~3,999時間
■■■■■	0~1,999時間



【残り時間目安】には、実際の残り時間の下位桁を切り捨てた数値が表示されます。

残り時間目安の見方

[一定モード]を[オン]にしたときは、残り時間目安が表示されます。残り時間目安は明るさを一定に保つことができる時間の目安です。



表示レベル	実際の残り時間
■■■■■	10,000時間以上

明るさレベルと光源の使用時間の関係

明るさレベルと光源の使用時間との関係は次の通りです。

一定モードがオフの場合

①：明るさレベル

②：光源の使用時間(光源の明るさが半減するまでの目安時間)

①	②
100%	20,000時間
90%	36,000時間
80%	41,000時間
70%	43,000時間
60%	46,000時間
50%	57,000時間
40%	75,000時間
30%	103,000時間

一定モードがオンの場合

- ①：明るさレベル
②：一定目安時間(光源の明るさを一定に保つことができる目安時間)

①	②	イメージ図
85%	7,000時間	
80%	15,000時間	
70%	25,000時間	
60%	35,000時間	
50%	47,000時間	
40%	66,000時間	
30%	95,000時間	

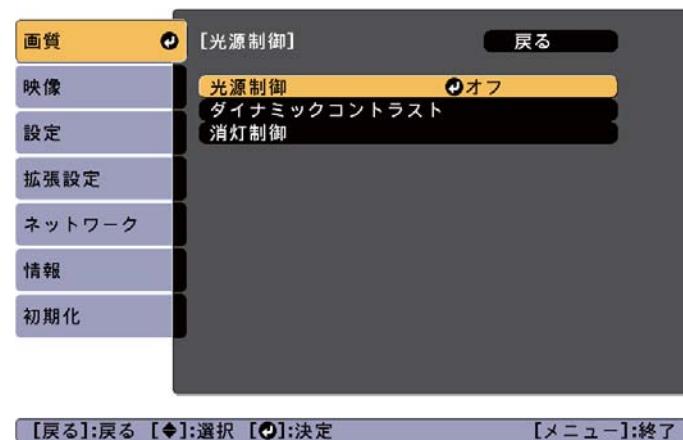


- 本機の使用条件や使用環境によって、光源の使用時間に達しない場合があります。
- 目安時間は【明るさレベル】や【一定モード】の設定を変更せずに使用し続けた場合の目安であり、保証期間ではありません。
- 本機の使用条件や使用環境によっては、光源の使用目安時間より短い時間でも、本機内部の部品交換が必要となる場合があります。
- 【一定モード】が【オン】のときに、一定目安時間を超えて使用した場合、【一定モード】を【オフ】にしても【明るさレベル】の設定を高くすることはできません。

投写映像の光量を設定する

表示される映像の明るさに合わせて、光量を自動的に設定することで、奥行きと深みのある画像が楽しめます。また、光源を自動的に消灯する設定もできます。

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 【画質】から【光源制御】を選択して【↔】ボタンを押します。
- 【光源制御】を選択して【↔】ボタンを押します。



- 映像信号に応じた光源の動作を選択して【↔】ボタンを押します。



- ・[オフ]：光源制御を行わない場合に選択します。
- ・[ダイナミックコントラスト]：映像の明るさに合わせて、投写時の光量を自動的に調整します。
- ・[消灯制御]：指定の映像レベルで指定した時間が経過した後に、光源を自動的に消灯します。

5 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

6 手順4で[ダイナミックコントラスト]を選択した場合は、[ダイナミックコントラスト]で以下の設定をします。

- ・[反応速度]：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整するときは[高速]を選択します。
- ・[黒レベル]：映像信号の明るさレベルがゼロの場合の黒レベルを設定します。[0%]を選択すると光源を消灯します。

7 手順4で[消灯制御]を選択した場合は、[消灯制御]で以下の設定をします。

- ・[消灯検出信号レベル]：消灯制御の対象となる映像信号の明るさレベルを設定します。自動的に消灯した後に指定の映像レベルを超えると、即座に点灯します。
- ・[消灯検出タイマー]：光源を自動的に消灯するまでの時間を設定します。

8 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

投写映像のアスペクト比を切り替える

入力信号の種類、縦横比、解像度に合わせて、投写映像のアスペクト比を切り替えます。

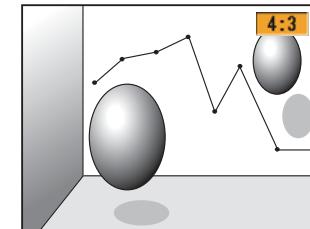
スクリーンタイプの設定により、選択できるアスペクトモードは異なります。



- ・アスペクト比を切り替える前に、[スクリーンタイプ]を設定してください。
 - ➡ 「スクリーン設定」 p.34
- ・[表示倍率モード]を[ズーム表示]に設定しているときは切り替えられません。
 - ➡ [映像]-[表示倍率]-[表示倍率モード] p.138

切り替え方法

リモコンの【アスペクト】ボタンを押すたびに画面上にアスペクトモード名が表示され、アスペクト比が切り替わります。



アスペクトモード	説明
オート	入力した信号の情報に基づき適切なアスペクト比で投写します。
ノーマル	入力した映像のアスペクト比のまま投写します。
4:3	4:3のアスペクト比で投写します。
16:9	16:9のアスペクト比で投写します。
フル	画面いっぱいに投写します。
Hズーム	入力した映像のアスペクト比のまま横方向が画面いっぱいになるように投写します。画面からはみ出した分は投写されません。

アスペクトモード	説明
Vズーム	入力した映像のアスペクト比のまま縦方向が画面いっぱいになるように投写します。画面からはみ出した分は投写されません。
リアル	入力した映像の解像度のまま画面の中央に投写します。画面からはみ出した分は投写されません。



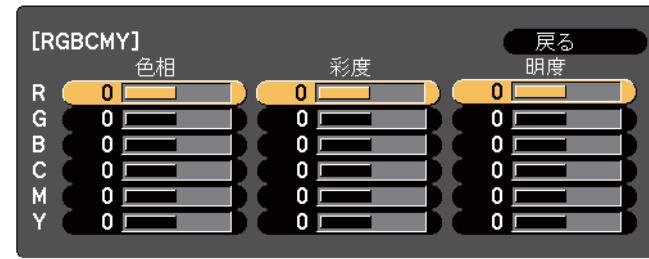
- 選択できるアスペクト比は、接続機器からの入力信号によって異なります。
- アスペクト比は環境設定メニューからも設定できます。
👉 [映像]-[アスペクト] [p.138](#)
- コンピューターの映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターの解像度に合わせて環境設定メニューの[入力解像度]を[ワイド]または[ノーマル]に設定してください。
👉 [映像] - [入力解像度] [p.138](#)

画質を調整する

色相・彩度・明度の調整

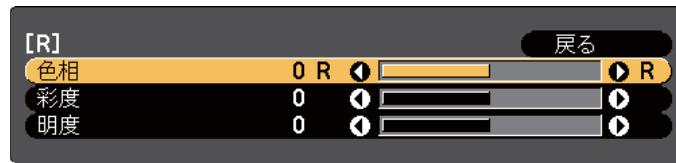
R(赤)、G(緑)、B(青)、C(シアン)、M(マゼンタ)、Y(イエロー)の6軸の[色相](色み)[彩度](鮮やかさ)[明度](明るさ)をお好みに合わせて調整できます。

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 【画質】から【アドバンスト】を選択し【↔】ボタンを押します。
- 【RGBCMY】を選択し【↔】ボタンを押します。
- 【▲】【▼】ボタンで調整する色を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【●】: 決定 【メニュー】: 終了

- 【▲】【▼】ボタンで調整する項目を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【↔】: 調整 【メニュー】: 終了
【初期値】: リセット 【●】: 切替

【↔】ボタンを押すたびに調整用の画面を切り替えられます。

- 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

ガンマの調整

接続する機器の違いにより生じる、中間調の明るさの違いを調整します。



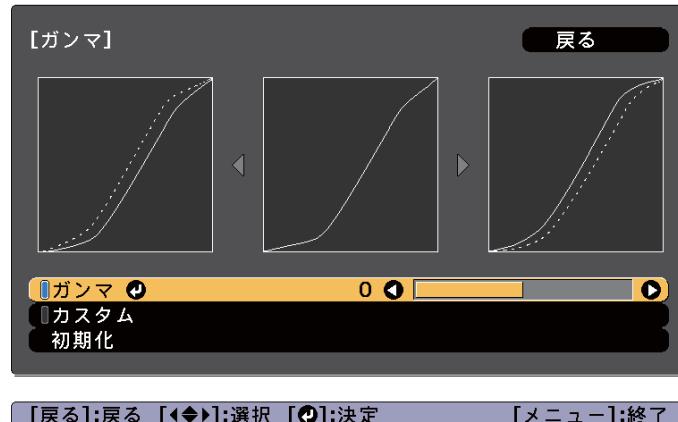
静止画を投写して調整してください。動画では正しく調整できません。

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 [画質]から[アドバンスト]を選択し【↔】ボタンを押します。

3 [ガンマ]を選択し【↔】ボタンを押します。

4 【◀】【▶】ボタンで調整します。



数値が大きいほど、映像の暗い部分が明るくなり、明るい部分は色の濃淡が小さくなります。

数値を小さくすると、映像全体の明るさを抑えてメリハリのある映像になります。

[画質]メニューの[カラー モード]で**DICOM SIM**を選択したときは、投写サイズに応じた補正值を選択します。

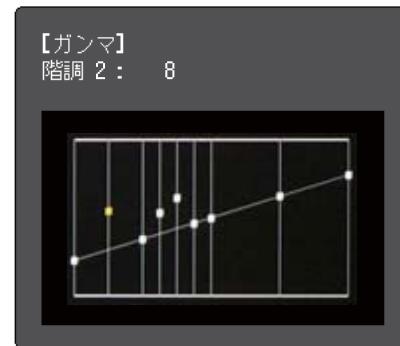
- 投写サイズが150インチ以下：より小さい数値を選択します。
- 投写サイズが150インチ以上：より大きい数値を選択します。



お使いの設置環境やスクリーンの仕様によっては、医用画像を正しく再現できない場合があります。

5 調整の精度を上げるには、[カスタム]を選択し、【↔】ボタンを押します。

6 ガンマ調整グラフで、【◀】【▶】ボタンを使って変更したい階調を選択します。選択された階調を【▲】【▼】ボタンで調整し、【↔】ボタンを押します。



7 【メニュー】ボタンを押して調整を終了します。

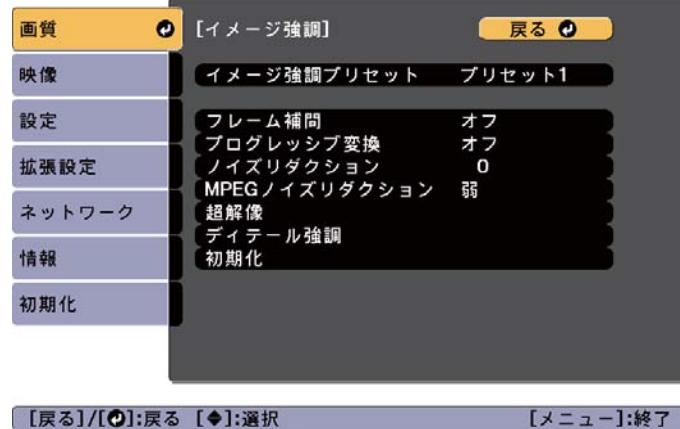
映像の解像感を調整する(イメージ強調)

[イメージ強調]で映像の解像感を調整すると、質感や素材感のあるくっきりとした映像を表現できます。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 [画質]から[イメージ強調]を選択し【↔】ボタンを押します。

以下の画面が表示されます。



2 次のいずれかを選択し【↔】ボタンを押します。

[プリセット1]~[プリセット5]：あらかじめ登録されている設定値が映像に反映されます。

[オフ]：プリセットを使用しないときに選択します。



イメージ強調プリセット

あらかじめ用意された5つのプリセット値から投写映像に合わせて最適なものを選択します。

プリセット値には以下の項目の設定値が登録されています。

[フレーム補間]、[プログレッシブ変換]、[ノイズリダクション]、[MPEGノイズリダクション]、[超解像]、[ディテール強調]



- 遅延を一番小さくするには、[イメージ強調プリセット]で[オフ]を選択します。
- [イメージ強調プリセット]を[オフ]に設定すると、[イメージ強調]のその他の項目は設定できません。

1 [イメージ強調]から[イメージ強調プリセット]を選択し【↔】ボタンを押します。



[プリセット1]~[プリセット5]を選択してから、それぞれの設定値を個別に微調整できます。調整後の設定値は上書きされます。

3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

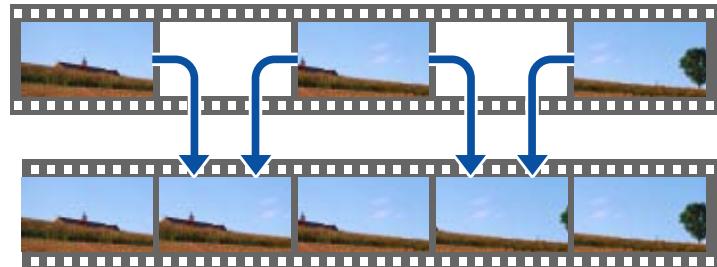
フレーム補間

前後のコマから中間のコマを自動生成し補間することで、滑らかな映像にします。速い動きのある映像など、コマ飛びのような動きのぎこちなさが解消されます。



以下の場合はフレーム補間を設定できません。

- 水平解像度が1920を超える信号が入力されているとき
- [アスペクト]を[Vズーム]に設定しているとき
- [表示倍率]を[オート]または[マニュアル]に設定しているとき
- [エッジブレンディング]を[オン]に設定しているとき



- 1 [イメージ強調]から[フレーム補間]を選択し【↔】ボタンを押します。
- 2 [弱]、[標準]、[強]から補間の加減を選択します。



- 3 【メニュー】ボタンを押して、設定を終了します。

ノイズリダクション

プログレッシブ信号やプログレッシブ変換されたインターレース信号入力時に、映像のざらつきを抑えソフトな画質にします。



水平解像度が1920を超える信号が入力されているときはノイズリダクションを設定できません。

- 1 [イメージ強調]から[ノイズリダクション]を選択し【↔】ボタンを押します。

- 2 【↔】【↑】ボタンで調整します。



【戻る】/[◀]:戻る 【◆]:選択 [メニュー]:終了

- 3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

MPEGノイズリダクション

MPEG動画を投写したときに輪郭に生じる点状のノイズやブロック状のノイズを抑えます。



水平解像度が1920を超える信号が入力されているときはMPEGノイズリダクションを設定できません。

- 1 [イメージ強調]から[MPEGノイズリダクション]を選択し【↔】ボタンを押します。

- 2** [弱]、[標準]、[強]からノイズを抑えるレベルを選択し、[↔]ボタンを押します。

[オフ]を選択すると[MPEGノイズリダクション]は機能しません。



- 3** 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

超解像

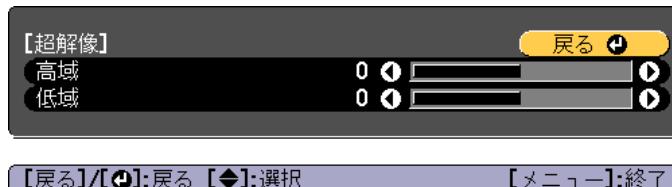
映像信号の解像度を拡大して投写した際に発生するエッジ部分などのボケを低減し、よりハッキリとした映像で表示します。

- 1** [イメージ強調]から[超解像]を選択し[↔]ボタンを押します。

- 2** 【▲】【▼】ボタンで調整する項目を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。

[高域]：+側に設定すると、髪の毛や衣服の模様などの細かい部分が強調されます。

[低域]：+側に設定すると、被写体全体の輪郭や背景などの粗い部分が強調され、くっきりとした映像になります。



- 3** 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

ディテール強調

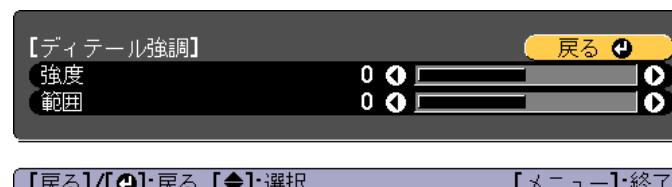
映像の細部の明暗差を強調し、質感や素材感を際立たせます。

- 1** [イメージ強調]から[ディテール強調]を選択し[↔]ボタンを押します。

- 2** 【▲】【▼】ボタンで調整する項目を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。

[強度]：値が大きいほど、明暗差がより強調されます。

[範囲]：値が大きいほど、広い範囲にディテール強調がかかります。



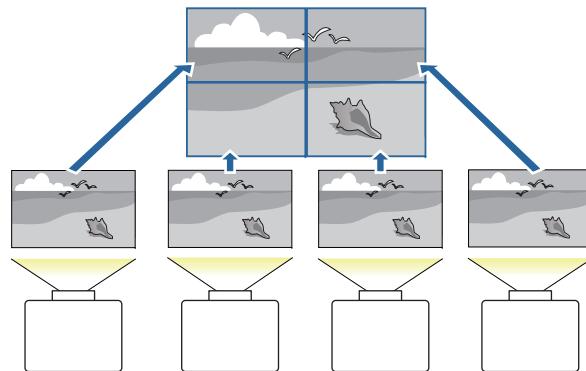


映像によっては色の境目にハイライトが目立つ場合があります。気になるときは、設定値を小さく設定してください。

- 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

便利な機能

ここでは、マルチプロジェクション機能、2画面投写機能、メモリー機能、スケジュール機能、セキュリティ機能について説明しています。



最大で15台のプロジェクターを設置して、1つの大きな映像やワイドな映像を投写できます。

プロジェクター間の明るさや色合いの個体差を調整したり、つなぎ目を目立たなくできます。



- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しませんので、フォーカス/ズーム/レンズシフトの設定は、映像を投写し始めてから30分以上たってから行うことをお勧めします。
- [幾何学歪み補正]の補正值が大きいと、投写映像を重ねたときに、映像の位置を合わせるのが困難になります。
- テストパターンを表示させると、映像機器を接続せずに投写状態を調整できます。
 - ☛ 「テストパターンを表示する」 [p.36](#)
- 拡大・縮小などの処理を加えずにそのまま表示できるドットバイドットの画像を使うと補正作業を簡単に行えます。
- 光源キャリブレーションで[定期的に実行]を[オン]にしていると、自動でキャリブレーションが実行され、マルチプロジェクションで調整した色が変化してしまう場合があります。投写映像を維持するときは、[オフ]にしてください。
 - ☛ 「初期化」 - 「光源キャリブレーション」 - 「定期的に実行」 [p.158](#)
- 定期的にスクリーンマッチングを行う場合は、光源キャリブレーションを実行した後に、必ずスクリーンマッチングを行うようにしてください。それでも色が変化してしまう場合は、「光源キャリブレーション」で[定期的に実行]を[オフ]にしてください。

調整手順

オンラインで自動で調整する

基準となる1台のプロジェクター(マスタープロジェクター)を使って、投写するすべてのプロジェクターの配置(タイリング)と映像の調整(エッジブレンディング)を自動で行います。

Epson Projector Professional Toolのタイリングアシスト機能を使うと、複数の投写映像のゆがみやつなぎ目を自動で補正できます。

☛ 「タイリングアシスト」 [p.98](#)



著しく暗いプロジェクターが含まれる場合は、暗いプロジェクターに合わせて明るさを自動で調整します。以下の方法でマスタープロジェクターを選んでください。

- できるだけ明るく使いたい場合：
すべてのプロジェクターの[光源モード]を[ノーマル]または[カスタム] - [明るさレベル] - [100%]に設定します。色と明るさの基準として1台のプロジェクターをマスタープロジェクターとしてください。
- 特定の明るさに合わせたい場合：
投写映像が一番暗いプロジェクターをマスタープロジェクターとし、[光源モード] - [カスタム] - [明るさレベル]で特定の明るさになるように調整してください。
☞ [設定] - [明るさ設定] - [光源モード]、[明るさレベル] [p.141](#)

事前準備

- (1) ネットワークに接続する
 - すべてのプロジェクターとネットワークハブをLANケーブルで接続する。
 - すべてのプロジェクターの[DHCP]が[オン]になっている、またはIPアドレスが割り振られていることを確認する。
☞ [ネットワーク] - [ネットワーク設定画面へ] - [有線LAN] - [IP設定] [p.154](#)
- (2) マスタープロジェクターとリモコンにIDを設定する
☞ 「プロジェクターIDを設定する」 [p.43](#)
- (3) [スリープモード]を[オフ]にする
☞ [拡張設定] - [動作設定] - [スリープモード] [p.142](#)

投写映像を個別に調整する

- (1) 映像のサイズを揃える
☞ 「映像のサイズを調整する」 [p.39](#)

- (2) 映像の向きと位置を調整する
 - ☞ 「設置設定」 [p.34](#)
 - ☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 [p.36](#)
- (3) 映像のピントやゆがみを微調整する
 - ☞ 「ピントのズレを補正する」 [p.40](#)
 - ☞ 「ポイント補正」 [p.72](#)

複数の投写映像を組み合わせる

- (1) 映像の配置を設定する
☞ 「タイリングを自動で構成する」 [p.87](#)
- (2) 映像のつなぎ目を補正する
☞ 「エッジブレンディング」 [p.89](#)
☞ 「黒レベル調整」 [p.91](#)
- (3) 映像の明るさと色合いを統一する
☞ 「スクリーンマッチング」 [p.94](#)
- (4) 映像を切り出して1つの大きな映像にする
☞ 「映像を切り出して表示する」 [p.96](#)

オフラインで手動で調整する

投写するすべてのプロジェクターの映像を手動で調整します。

事前準備

すべてのプロジェクターとリモコンにIDを設定する。
☞ 「プロジェクターIDを設定する」 [p.43](#)

投写映像を個別に調整する

- (1) 映像のサイズを揃える
☞ 「映像のサイズを調整する」 [p.39](#)

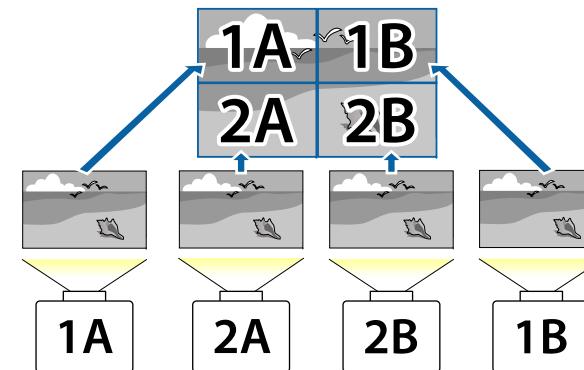
- (2) 映像の向きと位置を調整する
 - 「設置設定」 p.34
 - 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36
- (3) 映像のピントやゆがみを微調整する
 - 「ピントのズレを補正する」 p.40
 - 「ポイント補正」 p.72

複数の投写映像を組み合わせる

- (1) 映像の配置を設定する
 - 「タイリングを手動で構成する」 p.89
- (2) 映像のつなぎ目を補正する
 - 「エッジブレンディング」 p.89
 - 「黒レベル調整」 p.91
- (3) 映像の明るさと色合いを統一する
 - 「カラーマッチング」 p.96
- (4) 映像を切り出して1つの大きな映像にする
 - 「映像を切り出して表示する」 p.96

タイリング

複数のプロジェクターから同じ映像を投写して1つの大きな映像を作るときに、それぞれのプロジェクターに投写位置を割り当てます。



タイリングを実行する前に、投写映像を矩形になるように配置してください。また、映像のサイズとフォーカスを調整してください。

- 「映像のサイズを調整する」 p.39
- 「ピントのズレを補正する」 p.40

タイリングを自動で構成する

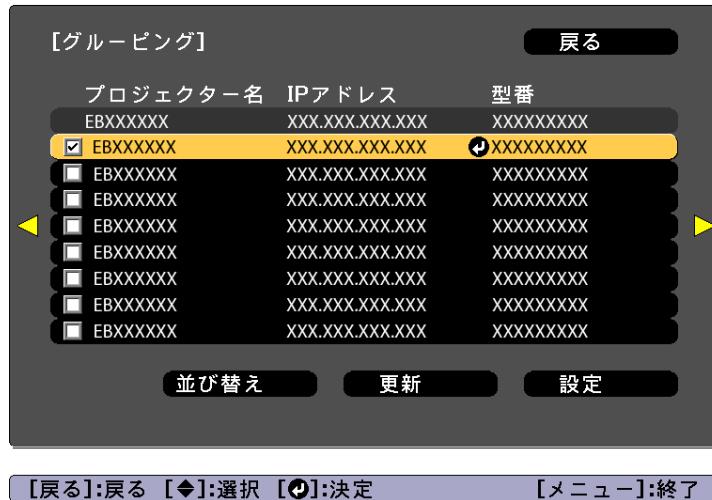
使用するプロジェクターの配置を自動で設定します。マスタープロジェクターのみを操作して設定できます。



本体前面の内蔵カメラを使用して配置設定を行います。カメラや投写映像を遮らないでください。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 [拡張設定]から[マルチプロジェクション]を選び【↔】ボタンを押します。
- 3 [グルーピング]を選び【↔】ボタンを押します。

- 4 タイリングを構成するプロジェクターを選び【↔】ボタンを押します。



- (1) 使用するすべてのプロジェクターにチェックを入れます。
一覧を更新するときは[更新]を選択します。順番を並び替えるときは[並び替え]を選択します。
- (2) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。

- 5 [タイリング]を選び【↔】ボタンを押します。

- 6 [タイリング]を選択します。[オート]を選択し、【戻る】ボタンを押します。



- 7 [配置設定]を選び【↔】ボタンを押します。

映像が自動で配置されます。

「配置設定されたプロジェクターにIDを割り付けます。よろしいですか?」とメッセージが表示されたら[はい]を選択します。
設定が完了したら、以下の画面が表示されます。



 映像がうまく配置されなかったときは、手順6で[マニュアル]を選択し、以下の手順で手動で配置してください。

- (1) [画面構成]で[タテ台数]と[ヨコ台数]を設定します。
- (2) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。
- (3) [配置設定]で配置するプロジェクターを選択し、【↔】ボタンを押します。
- (4) 配置する位置を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (5) (3)(4)を繰り返し、すべてのプロジェクターの配置を設定します。
- (6) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。

8 映像信号を入力し映像を表示します。

☛ 「投写映像を切り替える」 [p.59](#)

タイリングが完了したら、投写映像の位置ずれや色合いを調整します。

☛ 「投写映像を個別に調整する」 [p.86](#)



- タイリング完了後は、プロジェクターのIPアドレスやプロジェクター名を変更しないでください。投写映像の自動調整ができなくなります。
- タイリング完了後は、1つのリモコンで各プロジェクターの設定ができます。設定するプロジェクターのプロジェクターIDをリモコンで選択してください。プロジェクターIDは[タイリング] - [配置情報]で確認できます。
- ☛ 「リモコンIDを設定する」 [p.44](#)

タイリングを手動で構成する

使用するプロジェクターの映像を、それぞれのプロジェクターで手動で配置します。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 [拡張設定]から[マルチプロジェクション]を選び【↔】ボタンを押します。

3 [タイリング]を選び【↔】ボタンを押します。

4 [画面構成]を選び【↔】ボタンを押します。

(1) [タテ台数]、[ヨコ台数]でプロジェクターの台数を設定します。

(2) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。

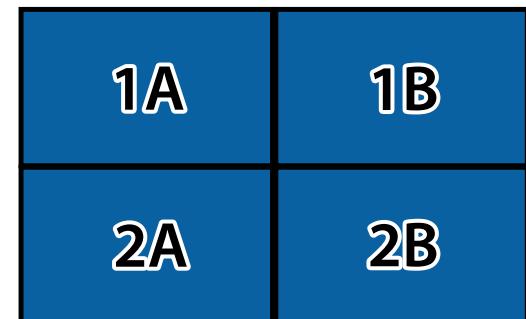
5 タイリングを構成する各プロジェクターで手順1から手順4を行います。

6 [配置設定]を選び【↔】ボタンを押します。

(1) [タテ順番]、[ヨコ順番]で投写位置を設定します。

[タテ順番]：上端の画面から下の画面へ向かって[1]、[2]、[3]の順に配置します。

[ヨコ順番]：左端の画面から右の画面へ向かって[A]、[B]、[C]の順に配置します。



(2) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。

7 各プロジェクターで手順6を行います。

8 映像信号を入力し映像を表示します。

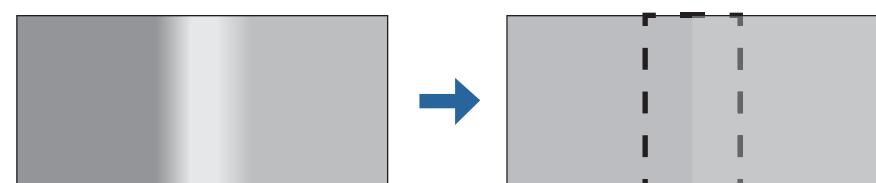
☛ 「投写映像を切り替える」 [p.59](#)

タイリングが完了したら、投写映像の位置ずれや色合いを調整します。

☛ 「投写映像を個別に調整する」 [p.86](#)

エッジブレンディング

映像のつなぎ目を目立たなくします。

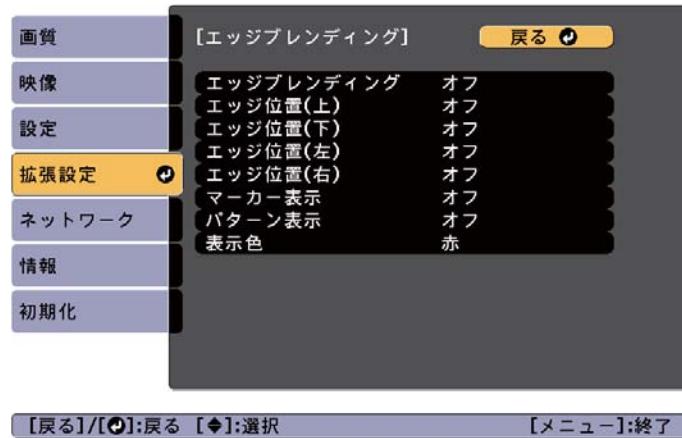




補正の精度を高めるために、エッジブレンディングを実行する前に、リモコンの【カラーモード】ボタンを押して【カラーモード】を【マルチプロジェクション】に設定してください。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【拡張設定】から【マルチプロジェクション】を選びます。
- 3 【エッジブレンディング】を選び、【↔】ボタンを押します。

以下の画面が表示されます。



サブメニュー	機能
エッジブレンディング	【オン】に設定すると、本機のエッジブレンディング機能が有効になります。マルチスクリーンで投写しないときは、【オフ】に設定します。

サブメニュー	機能
エッジ位置(上)/エッジ位置(下)/エッジ位置(右)/エッジ位置(左)	【ブレンディング】: 【オン】に設定すると、設定中の方向に対してエッジブレンディング機能が有効になり、ブレンド範囲にグラデーションをかけます。 【ブレンド開始位置】: ブレンディングの開始位置を赤線で表示し、1画素単位で調整します。 【ブレンド範囲】: グラデーションをかける範囲を調整します。1画素単位での調整が可能です。範囲の最大はプロジェクターの解像度の45%です。 【ブレンド曲線】: グラデーションのかけ方を調整できます。
マーカー表示	【オン】に設定すると、エッジブレンディングの設定範囲を示す線が表示されます。
パターン表示	【オン】に設定すると、エッジブレンディングの設定範囲の位置を合わせるための格子模様が表示されます。
表示色	マーカーの色の組み合わせを6通りの中から選択できます。

- 4 エッジブレンディングを有効にします。

- (1) 【エッジブレンディング】を選び、【↔】ボタンを押します。
- (2) 【オン】を選び、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押します。

- 5 【マーカー表示】を【オン】にします。

- (1) 【マーカー表示】を選び、【↔】ボタンを押します。
- (2) 【オン】を選び、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押します。



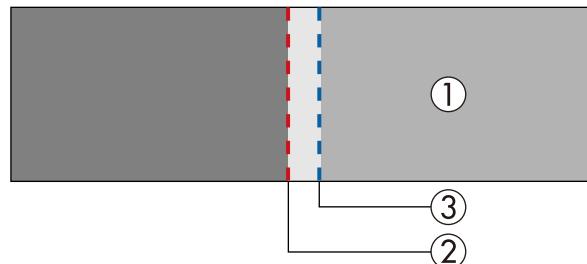
マーカーが見えにくいときは、[表示色]で色を変更できます。

6 [パターン表示]を[オン]にします。

- (1) [パターン表示]を選び、【↔】ボタンを押します。
- (2) [オン]を選び、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押します。

7 映像が重なり合っている箇所に合わせて、エッジ位置を設定します。

ここでは、下図①の画面を設定する場合を例に説明します。



上図①では、投写映像の左側が重なり合うので、[エッジ位置(左)]を調整します。

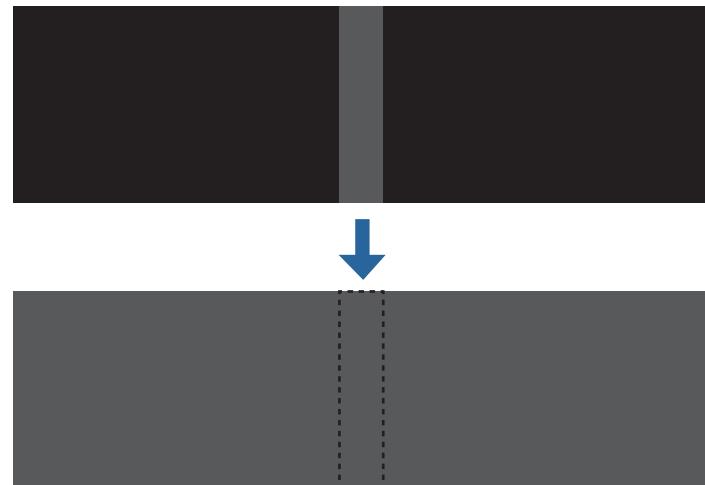
- (1) [エッジ位置(左)]を選び、【↔】ボタンを押します。
- (2) [ブレンディング]を選び、【↔】ボタンを押します。
- (3) [オン]を選び、【↔】ボタンを押します。
- (4) 【戻る】ボタンを押します。
- (5) [ブレンド開始位置]でブレンディングの開始位置を映像の端②に合わせます。
- (6) 【戻る】ボタンを押します。

- (7) [ブレンド範囲]でグラデーションをかける範囲③を調整します。映像の重なり合う範囲とマーカーの位置が等しくなる値が最適になります。
- (8) [ブレンド曲線]でグラデーションのかけ方を調整します。
- (9) 【戻る】ボタンを押します。

8 設定が終わったら、[マーカー表示]と[パターン表示]を[オフ]にして終了します。

黒レベル調整

黒色を表示したときに、映像が重なった箇所だけ明るく目立つ場合があります。黒レベル調整は、映像が重なっていない箇所の明るさや色合いを、重なった箇所に合わせ、目立たなくする機能です。





- ・テストパターン表示中は、黒レベル調整はできません。
- ・[幾何学歪み補正]の補正值が大きいときは、正しく調整できない場合があります。
- ・黒レベル調整を行っても、映像が重なり合っている箇所やその他の箇所で、明るさや色合いが異なる場合があります。
- ・[エッジ位置(上)]/[エッジ位置(下)]/[エッジ位置(右)]/[エッジ位置(左)]の設定を変更すると、黒レベル調整の調整値は初期値に戻ります。
☞「エッジブレンディング」 p.89
- ・スクリーンマッチングの自動調整を開始すると、カラー調整の設定が自動で補正されます。
☞「複数のプロジェクターの明るさや色合いを自動で補正する」 p.95

1 [マルチプロジェクト]から[黒レベル調整]を選び、[↔]ボタンを押します。

2 [カラー調整]を選び、[↔]ボタンを押します。

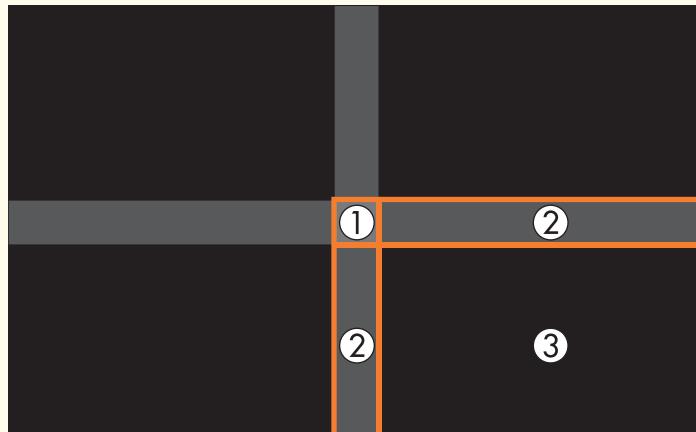
[エッジ位置(上)]/[エッジ位置(下)]/[エッジ位置(右)]/[エッジ位置(左)]の設定に合わせて領域が表示されます。

3 調整する箇所を選び、[↔]ボタンを押します。

選択している箇所はオレンジ色で表示されます。



画面が複数重なっているときは、重なりが多い箇所(一番明るい箇所)を基準に調整します。下図の場合、先に②を①に合わせ、次に③を②に合わせるように調整します。



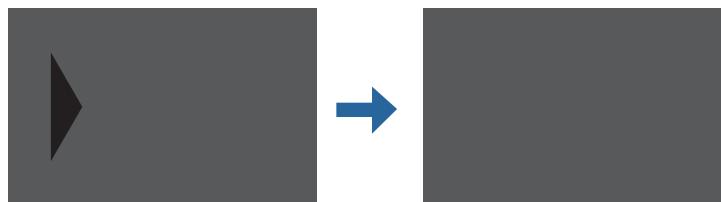
4 黒の色合いや明るさを調整します。



- 5 手順3,4を繰り返して、必要な箇所をすべて調整します。
- 6 調整を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

エリア補正

黒レベル調整後、色合いが同じにならない箇所がある場合は、[エリア補正]で個別に調整します。



- 1 [黒レベル調整]から[エリア補正]を選び、【↔】ボタンを押します。

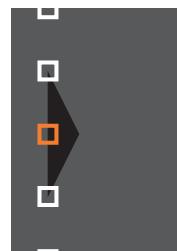
- 2 [調整開始]を選び、【↔】ボタンを押します。

映像が重なっている箇所を示す境界線が表示されます。
境界線は[エッジ位置(上)]/[エッジ位置(下)]/[エッジ位置(右)]/[エッジ位置(左)]の設定に合わせて表示されます。

- 3 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで調整する箇所の境界線を選択します。
選択している線はオレンジ色で表示されます。



- 4 【↔】ボタンを押して決定します。
- 5 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで境界線の位置を調整し、【↔】ボタンを押します。
- 6 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで移動するポイントを選択し、【↔】ボタンを押します。
選択しているポイントはオレンジ色で表示されます。



7 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでポイントを移動します。

続けて他のポイントを移動する場合は、【戻る】ボタンを押して手順6に戻り、手順6、7を行います。

他の境界線を調整するときは、手順3の境界線を選択する画面が表示されるまで【戻る】ボタンを押します。



【黒レベル調整】を初期値に戻すときは、【戻る】ボタンを押し手順1の画面に戻り、【初期化】を選んで【↔】ボタンを押します。

8 調整を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

スクリーンマッチング

複数のプロジェクターの色合いや明るさを補正します。

プロジェクターがネットワークにつながっているときは、一番暗いプロジェクターを基準にして、複数のプロジェクターの色合いや明るさを自動調整します。

プロジェクターがネットワークにつながっていないときや、自動調整がうまくいかないときは、すべてのプロジェクターの色合いや明るさを手動で調整します。



- スクリーンマッチングは、プロジェクターの電源オンまたはシャッター解除から30分以上たってから行なうことをお勧めします。
- 補正の精度を高めるために、映像投写時の部屋の明るさよりも明るさを落として補正することをお勧めします。
- 補正を開始する前に、マスタープロジェクターで以下を行ってください。
 - 【カラーモード】を【マルチプロジェクト】に設定する。
 - シャッターを解除する。
 - 必要に応じて、画質メニューの以下の項目を調整する。
明るさ、コントラスト、色の濃さ、色合い、ホワイトバランス、アドバンスト
- 「画質メニュー」 [p.137](#)
- 投写映像の明るさを設定する。
- 「明るさを設定する」 [p.74](#)
- 光源の経時変化によりプロジェクターごとの明るさのばらつきが大きくなったときは、再度スクリーンマッチングを行ってください。
- スクリーンマッチングがうまくいかないときは以下をご覧ください。
 - 「自動補正がうまくできない」 [p.194](#)

自動調整機能の動作条件

スクリーンマッチングの自動調整機能は以下の条件を満たすときに有効です。

- スクリーンの表面にそりやゆがみがなく、平らである
- 拡散型のホワイトマットスクリーンを使用している
- 投写サイズが100インチから300インチである
- タイミング後の投写映像が矩形になっている
- すべての投写映像が隙間なく並んでいる(または映像の一部が重なっている)
- 本機が投写面に対して平行に設置されている

- ・エッジブレンディングでのブレンド幅が15~45%である
- ・すべてのプロジェクターの型番が同じである



- ・以下のレンズを使用しているときは、自動調整が機能しません。
ELPLX02、ELPLX02W、ELPLU03S、ELPLU04、ELPLL08
 - ・自動調整後、一部のレンズでレンズシフトの調整がうまくいかない場合があります。
- ☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.36

複数のプロジェクターの明るさや色合いを自動で補正する

配置した映像の明るさや色合いを、一番暗いプロジェクターに合わせて自動で補正します。



- ・自動調整を開始する前に以下を確認してください。
 - プロジェクターがネットワークにつながっていること
 - プロジェクターの[配置設定]が設定済みであること
 - すべてのプロジェクターの[明るさレベル]が最大値であること

☞ [設定] - [明るさ設定] - [光源モード]、[明るさレベル] p.141
- ・本体前面の内蔵カメラを使用して自動調整を行います。カメラや投写映像を遮らないでください。
- ・自動調整にかかる時間はプロジェクターの配置と台数によって異なり、最大で約17分かかります。
- ・明るさ設定、黒レベル調整([カラー調整]のみ)、ブレンド曲線の設定を自動で補正します。
- ・自動調整後、ユニフォーミティーとカラーマッチングは初期値に戻ります。
- ・自動調整後、光源制御はオフに設定されます。
- ・[スケジュール設定画面へ]からスケジュール設定できます。

- 1 [マルチプロジェクト機能]から[スクリーンマッチング]を選び、
【↔】ボタンを押します。

- 2 [自動調整開始]を選び、【↔】ボタンを押します。



【戻る】:戻る 【◆】:選択 【○】:決定 【メニュー】:終了

メッセージが表示されたら[はい]を選択します。調整パターンが表示され、補正が開始されます。補正前の投写映像が表示されたら終了です。



- ・エラーが出た場合は以下をご覧ください。

☞ 「自動補正がうまくできない」 p.194
- ・自動調整開始前の状態に戻すときは[元に戻す]を選択してください。[元に戻す]を選択した後で[やり直し]を選択すると、自動調整後の状態に戻ります。
- ・ブレンド幅やレンズシフトの量が大きいと、ブレンド曲線が適切に補正されない場合があります。[ブレンド曲線]を手動で調整してください。

☞ 「エッジブレンディング」 p.89

- ・[スクリーンマッチング]を初期値に戻すときは、[初期化]を選択してください。

カラーマッチング

全白から全黒の間で階調ごとに色味と明るさを調整します。

プロジェクターがネットワークにつながっていないときや、自動調整後にさらに手動で調整したいときは、すべてのプロジェクターで次の手順を実施してください。

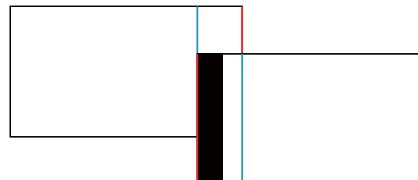
1 [マルチプロジェクション]から[スクリーンマッチング]を選び、
【↔】ボタンを押します。

2 [カラーマッチング]を選び、【↔】ボタンを押します。

以下の画面が表示されます。



映像の端を確認しやすいように、重なった範囲の半分が黒表示になります。



調整レベル：白 - グレー - 黒まで8つのレベルがあります。それぞれのレベルに対して調整を行います。

赤、緑、青：各色の色味を調整します。

明るさ：明るさを調整します。



【↔】を押すたびに、投写映像/調整用画面が切り替わります。

3 [調整レベル]を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整レベルを設定します。

4 [赤][緑][青]のいずれかを選択し、【◀】【▶】ボタンで色味を調整します。

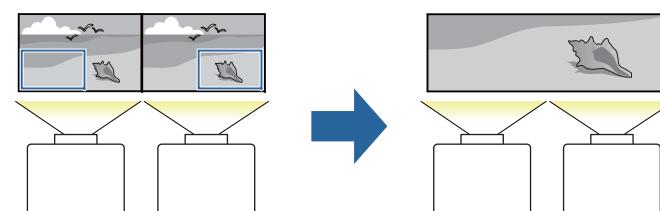
5 [明るさ]を選択し、【◀】【▶】ボタンで明るさを調整します。

6 手順2に戻り、それぞれのレベルで調整を行います。

7 【戻る】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

映像を切り出して表示する

投写中の映像を部分的に切り出して表示します。他のプロジェクターの投写映像と合わせて、1つの大きな映像を作ります。



1 映像を投写し、【メニュー】ボタンを押します。

2 [拡張設定]から[マルチプロジェクション]を選びます。



表示倍率は、[映像]の[表示倍率]からも設定できます。

3 [表示倍率]を選び【↔】ボタンを押します。

4 [表示倍率]を有効にします。

- (1) [表示倍率]を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) [オート]、[マニュアル]のいずれかを選び、【↔】ボタンを押します。
[オート]：エッジブレンディングとタイリングの調整値に合わせて、自動で切り出し範囲を調整します。手順6以降の作業は不要です。
[マニュアル]：切り出し範囲を手動で調整します。
- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。



切り出し範囲の自動調整がうまくいかないときは、アスペクトを調整して再度[オート]を選択してください。

☞「投写映像のアスペクト比を切り替える」 p.77

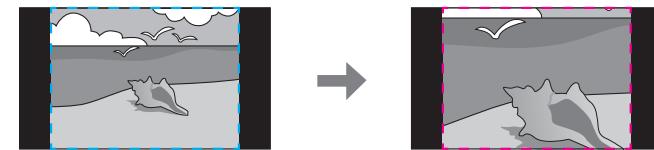
5 [表示倍率モード]を設定します。

- (1) [表示倍率モード]を選択し、【↔】ボタンを押します。

- (2) [ズーム表示]、[フル表示]のいずれかを選び、【↔】ボタンを押します。

[ズーム表示]：現在表示している映像のサイズを基準にして調整します。

拡大

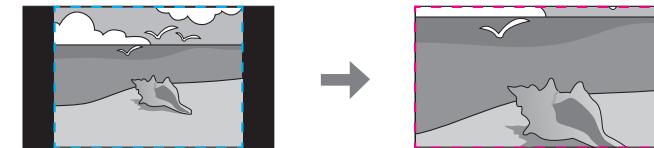


移動



[フル表示]：プロジェクターのパネルサイズ(映像を表示できる最大領域)を基準にして調整します。

拡大



移動



- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

6 表示倍率を調整します。

【▲】【▼】ボタンで調整方法を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。(最小倍率0.5倍～最大倍率10倍)

[-][+]：垂直方向、水平方向同時に映像を拡大/縮小します。

[タテ倍率]：垂直方向に映像を拡大/縮小します。

[ヨコ倍率]：水平方向に映像を拡大/縮小します。

7 切り出し範囲を調整します。

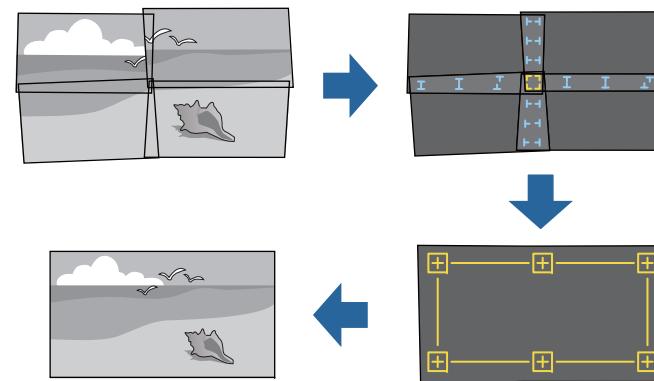
- (1) [切り出し調整]を選択し、【↔】ボタンを押します。
[切り出し範囲]を選択すると、本機が投写する画像の範囲と座標を表示します。
- (2) 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで映像をスクロールします。
画面を見ながら、それぞれの映像の座標やサイズを調整します。
- (3) 【メニュー】ボタンを押して終了します。



[切り出し範囲]から、映像全体に対する切り出し後の表示範囲を確認できます。

タイミングアシスト

本機の内蔵カメラを使用して、オーバーラップエリアの画素の位置調整を自動で行い、エッジブレンディング機能とあわせてシームレスな映像を作ります。



タイミングアシストはEpson Projector Professional Tool(バージョン1.20以降)から実行できます。以下のWebサイトからダウンロードしてください。

<http://www.epson.jp/download/>

自動調整機能の動作条件

タイミングアシストは以下の条件を満たすときに有効です。

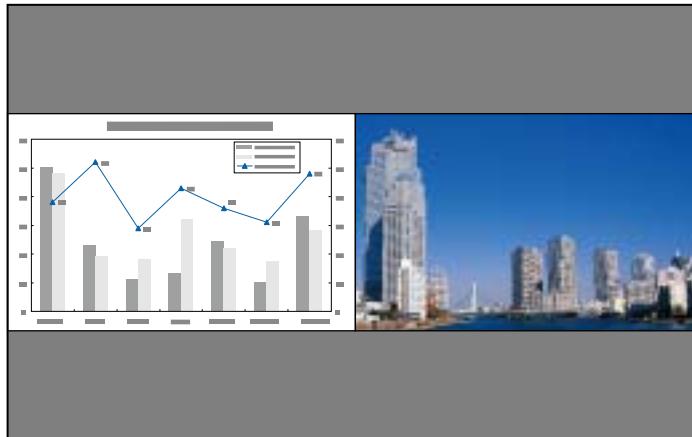
- ・スクリーンの表面にそりやゆがみがなく、平らである
- ・拡散型のホワイトマットスクリーンを使用している
- ・投写サイズが100インチから300インチである
- ・タイミング後の投写映像が矩形になっている
- ・すべての投写映像の一部が重なっている
- ・本機が投写面に対して平行に設置されている
- ・エッジブレンディングでのブレンド幅が15～43%である
- ・すべてのプロジェクターの型番が同じである



- タイリングアシストは、プロジェクターの電源オンまたはシャッター解除から30分以上たってから行うことをお勧めします。
- 補正の精度を高めるために、映像投写時の部屋の明るさよりも明るさを落として補正することをお勧めします。
- 以下のレンズを使用しているときは、自動調整が機能しません。
ELPLX02、ELPLX02W、ELPLU03S、ELPLU04、ELPLL08
- 自動調整を開始する前に以下を確認してください。
 - プロジェクターがネットワークにつながっていること
 - Epson Projector Professional Toolでプロジェクターの配置が済んでいること
- 本体前面の内蔵カメラを使用して自動調整を行います。カメラや投写映像を遮らないでください。
- 自動調整にかかる時間はプロジェクターの配置と台数によって異なり、最大で約6分かかります。
- ポイント補正と黒レベル調整の設定を自動で補正します。

2種類の映像を同時に投写する(2画面)

2つの入力ソースからの映像を、1つのスクリーンの左右に同時に投写できます。



2画面投写できない入力ソースの組み合わせ

以下の入力ソースの組み合わせでは、2画面投写はできません。



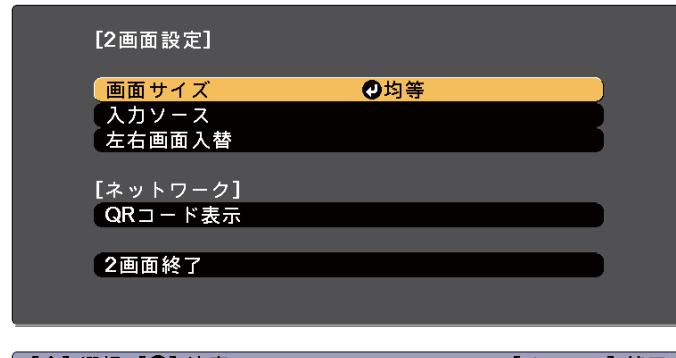
入力ソースの組み合わせの詳細は『仕様一覧』をご覧ください。以下のWebサイトからダウンロードできます。
<https://www.epson.jp/products/bizprojector/setup/>

- SDI/コンピューター/BNC/LAN
- 同じインターフェイスボード上に端子がある入力ソース(例: Slot1のHDMIとDVI-D)

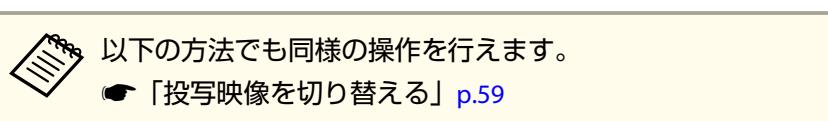
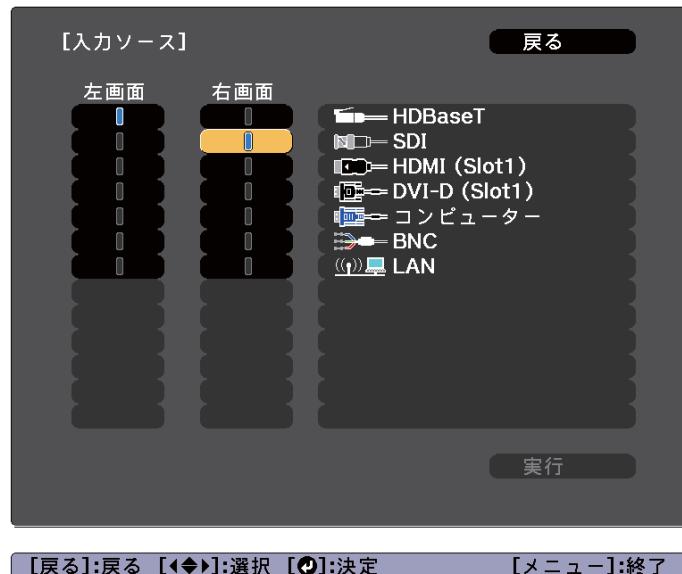
操作方法

2画面で投写する

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【設定】から【2画面】を選択します。
投写している入力ソースの映像が左画面に投写されます。
- 3 【メニュー】ボタンを押します。
2画面設定画面が表示されます。



- 4 【入力ソース】を選択して【↔】ボタンを押します。
- 5 【左画面】、【右画面】でそれぞれ投写する入力ソースを選択します。



6 [実行]を選択して【↔】ボタンを押します。

2画面で投写中に各画面の入力ソースを切り替えるときは、手順3から始めます。

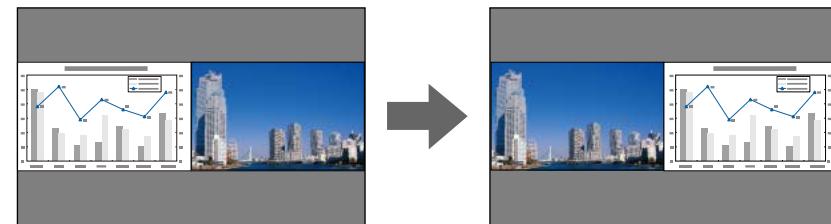
左画面/右画面を入れ替える

投写映像を左右で入れ替えるときは、以下の操作を行います。

1 2画面で投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 [左右画面入替]を選択して【↔】ボタンを押します。

投写映像の左右が入れ替わります。



左画面/右画面の画面サイズを切り替える

1 2画面で投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 [画面サイズ]を選択して【↔】ボタンを押します。

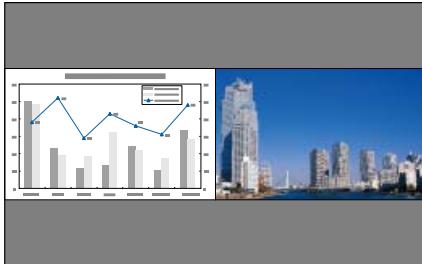
3 表示したい画面サイズを選択して【↔】ボタンを押します。



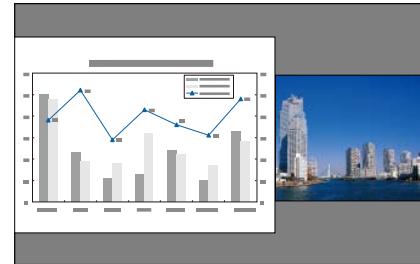
【戻る】:戻る 【◆】:選択 【○】:決定 【メニュー】:終了

画面サイズ設定後の投写イメージは以下のとおりです。

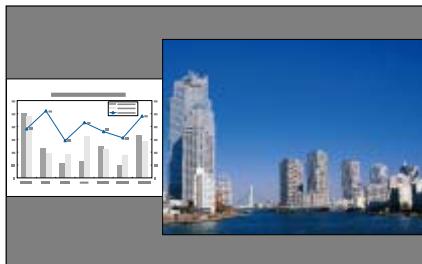
[均等]



[左拡大]



[右拡大]



- 左画面、右画面の両方を同時に拡大することはできません。
- 片方の画面を拡大したときは、もう片方の画面は縮小されます。
- 入力している映像信号によっては、[均等]に設定しても左右の画面が同じサイズに見えない場合があります。

2画面を終了する

2画面を終了するときは、以下のいずれかの操作を行います。

- 【戻る】ボタンを押す。
- 2画面設定画面で[2画面終了]を選択する。  p.100

2画面で投写中の制限事項

操作に関する制限事項

2画面で投写中は、以下の操作はできません。

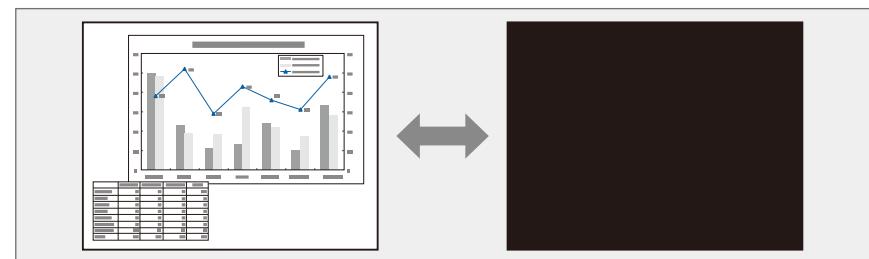
- 環境設定メニューの設定
- アスペクトモードの切り替え
- リモコンの【ユーザー1】ボタン、【ユーザー2】ボタン、【ユーザー3】ボタンでの操作

映像に関する制限事項

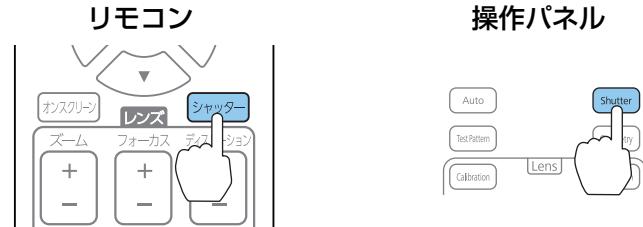
- 右画面の映像には、[画質]メニューの初期値が適用されます。[カラー モード]や[色温度]などの映像全体に対する設定は、両方の画面に適用されます。
- [プログレッシブ変換]、[ノイズリダクション]、[MPEGノイズリダクション]は左画面でのみ有効です。

映像を一時的に消す(シャッター)

シャッターを実行すると、メカニカルシャッターが閉まり投写を遮断します。



【シャッター】ボタンを押すたびにシャッターが実行/解除されます。

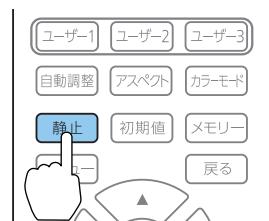


- シャッターの中も光源は点灯し続けます。
- 本機の電源をオン/オフにしたときのシャッターの動作や、映像を非表示/表示するタイミングを【シャッター設定】で設定できます。
👉【拡張設定】 - 【動作設定】 - 【シャッター設定】 [p.142](#)
- 映像の場合は、シャッターの中も映像は再生されていますので、遮断したときの画面からは再開できません。

映像を停止させる(静止)

静止を実行したときの画面が投写されたままになりますので、動画の一場面を静止画で投写できます。また、ファイル切り替えの前に静止を実行すれば、操作内容を投写せずに操作できます。

リモコンの【静止】ボタンを押すたびに静止が実行/解除されます。



- 映像の場合は、停止している間も映像は進んでいますので、静止したときの画面からは再開できません。
- 環境設定メニュー・ヘルプを表示中に【静止】ボタンを押すと、表示中のメニュー・ヘルプは消去されます。

ユーザー口の登録

現在表示している映像をユーザー口として登録します。



- 【パスワードプロテクト】で【ユーザー口保護】を【オン】に設定しているときは、メッセージが表示され操作することはできません。【ユーザー口保護】を【オフ】にしてから操作してください。
👉「利用者を管理する(パスワードプロテクト)」 [p.111](#)
- 一括設定機能を使用して、複数のプロジェクター間でメニュー設定をコピーすると、ユーザー口もコピーされます。複数のプロジェクター間で共有したくない画像は、ユーザー口として設定しないでください。
- ユーザー口は、本機のパネル解像度に合わせて以下のように登録されます。
 - パネル解像度より入力解像度が大きい場合は、入力映像の一部が登録されます。
 - パネル解像度より入力解像度が小さい場合は、入力映像のネイティブ表示で登録され、中央に表示されます。
- DisplayPort In端子からの映像はユーザー口として登録できません。

1 ユーザー口として登録したい映像を投写し、【メニュー】ボタンを押します。

👉「環境設定メニューの操作」 [p.132](#)

2 【拡張設定】から【ユーザー口】を選びます。



[ユーザー口ゴ]を選択すると、幾何学歪み補正、アスペクト、表示倍率、スクリーンタイプなどの設定が一時的に無効になります。

3 [設定開始]を選択して【↔】ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

4 [はい]を選択して【↔】ボタンを押します。

5 「この映像を保存しますか？」とメッセージが表示されるので、[はい]を選択します。

映像が保存されます。保存が終了すると「ユーザー口ゴの設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。



- 登録した画像を消去して初期設定に戻すには、[初期化]を選択します。
- ユーザー口ゴはWebブラウザーからも設定できます。Epson Web Controlの[詳細設定]画面の[初期設定]から以下の画像をロゴデータとしてアップロードできます。
 - 形式：PNG
 - サイズ：10MB以内
 - 色深度：24bit(透過は非対応、ユーザー口ゴとしては16bitで保存、表示されます)
 - 推奨解像度：1920×1080（推奨解像度以外では、画像のアスペクト比に応じて上下または左右に黒帯が発生し、解像度1920×1080に合わせて表示されます）

☛ 「Epson Web Control画面を表示する」 p.215

表示している映像の設定値や幾何学歪み補正の補正值をメモリーとして登録し、必要なときに呼び出せます。

メモリーの登録／呼び出し／削除／初期化

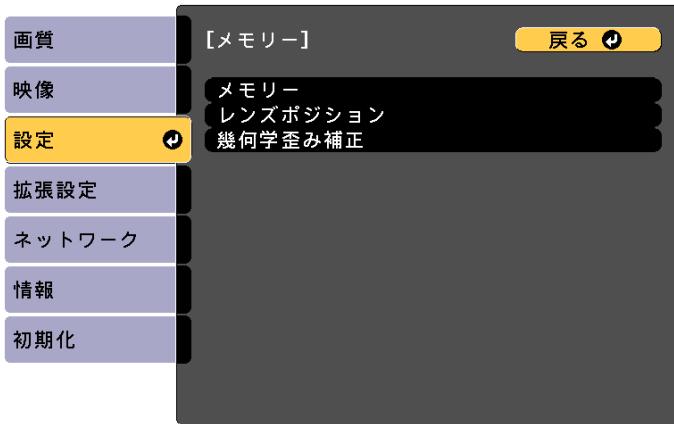
- 1 投写中にリモコンの【メモリー】ボタンを押します。



環境設定メニューからも操作できます。

➡ [設定]-[メモリー] [p.141](#)

- 2 メモリーの種類を選択し、【↔】ボタンを押します。



【戻る】/[①]:戻る [◆]:選択

【メニュー】:終了

[メモリー]：以下のメニュー項目の設定値が登録されます。10件まで登録できます。

トップメニュー	サブメニュー
画質	すべての設定項目
映像	オーバースキャン ビデオレンジ 表示倍率
設定	明るさ設定
拡張設定	エッジブレンディング 黒レベル調整 カラーマッチング

[レンズポジション]：レンズシフト、ズーム、フォーカス、ディストーションで調整したレンズの位置が登録されます。10件まで登録できます。

➡ 「レンズの調整値を登録して呼び出す」 [p.41](#)

[幾何学歪み補正]：幾何学歪み補正の補正值が登録されます。3件まで登録できます。

- 3 目的の機能を選択し、【↔】ボタンを押します。



機能	説明
【メモリー呼出】	登録したメモリーを呼び出します。メモリーネームを選択し【↔】ボタンを押すと、表示中の映像の設定値が選択したメモリーの設定値に変更されます。
【メモリー登録】	現在の設定値をメモリーに登録します。メモリーネームを選び、【↔】ボタンを押すと設定値が登録されます。
【メモリー削除】	登録したメモリーを削除します。メモリーネームを選択し、【↔】ボタンを押すとメッセージが表示されます。[はい]を選択し、【↔】ボタンを押すと選択したメモリーが削除されます。

機能	説明
【メモリー名称変更】	メモリーネームを変更します。変更するメモリーネームを選択し、【↔】ボタンを押します。ソフトキーボードでメモリーネームを入力します。 ☞「ソフトキーボードの操作」p.149 入力が終了したら[Finish]にカーソルを合わせて、【↔】ボタンを押します。
【メモリー初期化】	登録したメモリーの名称と設定値を初期化します。【メモリー】、【レンズポジション】、【幾何学歪み補正】で登録したすべてのメモリーを初期化するときは、【メモリー全初期化】から行います。 ☞ [初期化] - [メモリー全初期化] p.158



メモリーネームの左のマークが青色のときは登録済みです。登録済みのメモリーネームを選択したときは、上書きを確認するメッセージが表示されます。[はい]を選択すると、以前の内容を消去し、現在の設定を登録します。

特定の日、あるいは毎週の決まった時間に電源のオン/オフを行ったり、入力ソースを切り替えるなど、スケジュールに登録したイベントを自動的に実行することができます。

[スケジュール]のイベントは30個まで、[拡張スケジュール]のイベントは1個まで登録できます。

イベントを登録する

イベントを設定する

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

「環境設定メニューの操作」[p.132](#)

2 [拡張設定]から[スケジュール設定画面へ]を選びます。

3 [スケジュール]または[拡張スケジュール]から[新規追加]を選びます。



4 スケジュールの内容を設定します。

サブメニュー名	機能
イベント設定	<p>イベント実行時のプロジェクターの動作を設定します。特にイベント実行時の動作を指定しない項目は[変更しない]を選択します。以下の項目の動作を設定できます。</p> <p>[スケジュール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電源 • 入力ソース • 光源モード • シャッター • 光源キャリブレーション <p>[拡張スケジュール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • カラーキャリブレーション • スクリーンマッチング
日付/時刻設定	<p>イベントを実行する日付や曜日、時刻を設定します。日付や時刻の入力はソフトキーボードで行います。</p> <p>「ソフトキーボードの操作」p.149</p>

5 [保存]を選択し、[↔]ボタンを押します。

引き続きイベントを登録するときは手順3から手順5を行います。

 光源キャリブレーションを実行した後は、必ずスクリーンマッチングを行うようにしてください。

6 光源キャリブレーションまたはスクリーンマッチングイベントを設定した場合で、タイリング設定されている他のプロジェクターにも同じスケジュールを上書きするときは、[スケジュール同期]で[オン]を選択します。

7 [設定完了]を選択し、[はい]を選択して、登録を終了します。



- 24時間以上連続して使用する場合や定期的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は、光源キャリブレーションが自動的に実施されません。使用時間100時間を目安に実施されるように、[光源キャリブレーション]を設定してください。
- スケジュールイベントと拡張スケジュールイベントが競合するスケジュールは登録できません。
- 以下の時間内には他のイベントを設定できません。
 - ・カラーキャリブレーションイベントを実行する前後の5分間
 - ・スクリーンマッチングイベントを実行する前の5分間と後の30分間

イベントを確認する

スケジュールイベントの確認方法を説明します。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 [拡張設定]から[スケジュール設定画面へ]を選びます。

3 【◀】【▶】ボタンで目的の日付にカーソルを合わせます。

その日に登録されているイベントの詳細が表示されます。イベントが登録されている時刻にはインジケーターが点灯します。



■ (青)：有効のイベント

■ (グレー)：無効のイベント

⟳ : 定期のイベント

■ (水色) : 単発のイベント

■ (橙) : 定期のイベント

■ (緑) : 通信監視のオン/オフ

■ (グレー) : 無効のイベント

イベントを編集する

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

☞ 「環境設定メニューの操作」 p.132

2 【拡張設定】から【スケジュール設定画面へ】を選びます。

3 【◀】【▶】ボタンで編集するイベントが登録されている日付にカーソルを合わせます。



4 編集するイベントにカーソルを合わせ、【戻る】ボタンを押します。



5 イベントを編集します。

サブメニュー名	機能
有効/無効	選択したイベントを有効または無効にします。
編集	選択したイベントの内容を編集します。[保存]を選択し、【➡】ボタンを押して編集を終了します。
削除	選択したイベントを削除します。
新規追加	イベントを新規に登録します。[保存]を選択し、【➡】ボタンを押して登録を終了します。

6 [設定完了]を選択し、[はい]を選択して、編集を終了します。

登録されているイベントをすべて削除するには[スケジュール初期化]を選択して[はい]を選択します。[設定完了]を選択し、[はい]を選択するとイベントが削除されます。

本機には、次の充実したセキュリティ機能が備わっています。

- パスワードプロテクト

本機を使用する人を制限・管理できます。

- 操作ボタンロック/リモコンボタンロック

本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。

☞ 「操作を制限する」 [p.113](#)

利用者を管理する(パスワードプロテクト)

パスワードプロテクト機能を有効にすると、電源を入れてもパスワードを知らない人は投写できません。さらに、電源を入れたときに表示される社名ロゴ等を変更できなくなります。この結果、本機を持ち出しても使用できないため、盗難等の防止につながります。ご購入時は、パスワードプロテクト機能は無効になっています。

パスワードプロテクトの種類

本機のパスワードプロテクトは利用シーンに応じて次の5種類の設定ができます。

- [電源投入時]

[電源投入時]を[オン]にすると、電源コードで本機とコンセントを接続後、最初に電源を入れたとき(ダイレクトパワーオンも同様)に、事前に設定してあるパスワードの入力が要求されます。正しいパスワードを入力しないと、投写は開始しません。

- [ユーザー口ゴ保護]

せっかくプロジェクターの所有者を明示するためにユーザー口ゴを登録していても、口ゴ表示を変更されることは意味がありません。[ユーザー口ゴ保護]を[オン]にすると、ユーザー口ゴに関する次の設定変更を禁止できます。

- ユーザー口ゴのキャプチャー

- [表示設定]の[背景表示]、[スタートアップスクリーン]の設定

☞ [拡張設定]-[表示設定] [p.142](#)

- [ネットワーク保護]

[ネットワーク保護]を[オン]にすると、[ネットワーク]の設定変更を禁止できます。

☞ 「ネットワークメニュー」 [p.147](#)

- [スケジュール保護]

[スケジュール保護]を[オン]にすると、本機のシステム時刻やスケジュール設定の変更を禁止できます。

- [リモートカメラアクセス]

[リモートカメラアクセス]を[オン]にすると、[ネットワーク]メニューの[リモートカメラアクセス]の変更を禁止できます。初期値は[オン]です。

パスワードプロテクトの設定方法

パスワードプロテクトの設定は、下記の手順で行います。

1 投写中にリモコンの【静止】ボタンを約5秒間押し続けます。

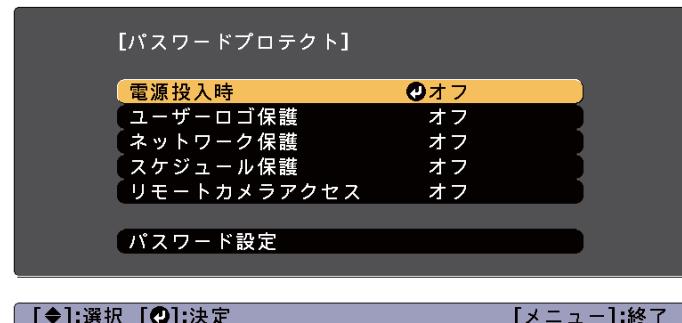
パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。



すでにパスワードプロテクトが有効になっていると、パスワードの入力が要求されます。
パスワードを正しく入力するとパスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

☞ 「パスワードの認証」 p.112

2 設定したいパスワードプロテクトの種類を選択し、【↔】ボタンを押します。

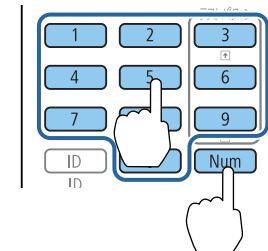


3 [オン]を選択し、【↔】ボタンを押します。

【戻る】ボタンを押して、手順2の画面に戻ります。

4 パスワードを設定します。

- (1) [パスワード設定]を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) 「パスワードを変更しますか？」と表示されるので、[はい]を選択し、【↔】ボタンを押します。初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。必ず任意のパスワードに変更してください。[いいえ]を選択すると、手順2の画面に戻ります。
- (3) 【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンで4桁の数字を入力します。入力したパスワードは「****」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面に切り替わります。



- (4) 入力したパスワードを再度入力します。
「パスワード設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。
間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

パスワードの認証

パスワードの入力画面が表示されたら、設定してあるパスワードをリモコンで入力します。

【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押してパスワードを入力します。

【パスワード】

設定されているパスワードを入力してください。



#操作については「取扱説明書」を参照してください。

【0-9】:入力

正しいパスワードを入力すると、一時的にパスワードプロテクトが解除されます。

注意

- ・パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などをお聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報+正式保証書発行カード』と照合して本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報+正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。
- ・間違ったパスワードを続けて3回入力した場合は、「プロジェクターの動作を停止します。」と、メッセージが約5分間表示され、本機がスタンバイ状態になります。この場合は、電源プラグを抜いて差し直し、本機の電源を入れます。パスワードの入力を求める画面が表示されますので、パスワードを正しく入力してください。
- ・万一、パスワードを忘れてしまったときは、画面に表示されている問い合わせコード：xxxxxの番号を控えて、プロジェクターインフォメーションセンターにご連絡いただき、その指示に従ってください。

〔お問い合わせ先〕

- ・上記の操作を繰り返し、間違ったパスワードを続けて30回入力した場合は、次のメッセージが表示されパスワード入力もできなくなります。「プロジェクターの動作を停止します。各修理窓口へ修理を依頼してください。」

〔お問い合わせ先〕

操作を制限する

本機には、次の3種類の操作制限機能が装備されています。

・操作ボタンロック

イベントやショーなどで投写中に本機を操作できないようにしたり、学校などで操作できるボタンを制限したいときに便利な機能です。

・レンズロック

本機を設置後に誤って操作することができないように、リモコンのレンズ操作用のボタンを操作できなくする機能です。

・リモコンボタンロック

リモコンを誤って操作することができないように、リモコンの基本操作に必要になる主要なボタン以外の操作をできなくする機能です。

操作ボタンロック

次のどちらかを選んで本機の操作パネルのボタンをロックできます。操作ボタンロックを行ってもリモコンからは通常どおりに操作できます。

・全ロック

操作パネルのボタンをすべてロックします。操作パネルからは電源のオン/オフを含めまったく操作できなくなります。

・操作ロック

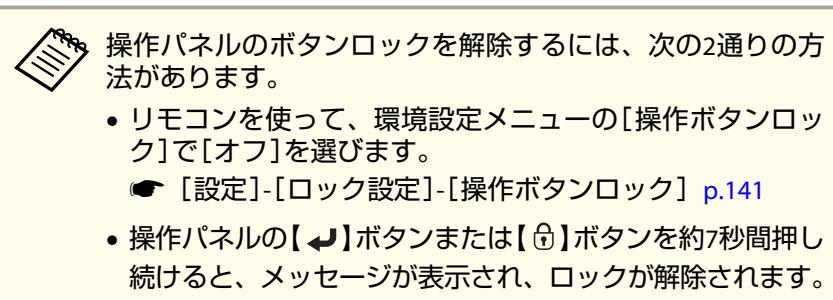
操作パネルの【↓】ボタンを除くすべてのボタンをロックします。

- 1 投写中に操作パネルの【↓】ボタンを押して、操作ボタンロック画面を表示します。

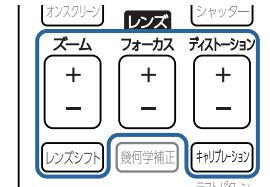


環境設定メニューの[操作ボタンロック]からも設定できます。

〔設定〕-[ロック設定]-[操作ボタンロック] p.141

2 目的に応じて、[全ロック]または[操作ロック]を選択します。**3** 確認のメッセージが表示されるので、[はい]を選びます。
設定に従い、操作パネルのボタンがロックされます。**レンズロック**

リモコンの以下のレンズ操作用ボタンをロックできます。

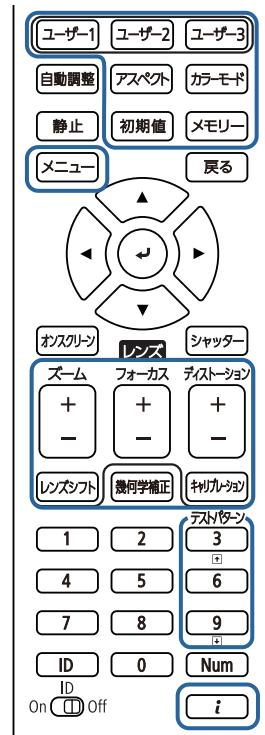


環境設定メニューの[レンズロック]を[オン]に設定してください。

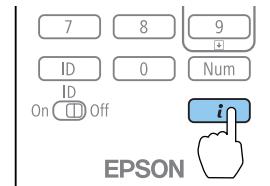
👉 [設定]-[ロック設定]-[レンズロック] p.141

リモコンボタンロック

リモコンの以下のボタンをロックできます。



【i】ボタンを約5秒間押し続けるたびにロック/解除されます。



リモコンボタンロックが設定されていても、以下の操作は可能です。

- リモコン受光部の設定の初期化
- リモコンボタンロックの解除

ネットワーク上のプロジェクターを使用する

ネットワーク経由でプロジェクターから映像を投写するための設定について説明します。

有線LAN経由でプロジェクターから映像を投写できます。ネットワーク経由で投写するには、プロジェクターをネットワークに接続し、プロジェクターおよびコンピューターのネットワーク設定をします。

プロジェクターの接続とネットワーク設定が終わったら、EPSON Projector Software CD-ROM(同梱されている場合)またはWebサイトから、Epson iProjectionをインストールします。

Epson iProjectionを使用すると、コンピューターの映像をネットワーク経由で投写できます。また、ネットワークに接続された複数のコンピューターの映像を同時に投写して、ミーティングをより活発にできます。詳しくは『Epson iProjection 操作ガイド(Windows/Mac)』をご覧ください。

有線LANを設定する

ネットワーク経由でコンピューターの映像を投写するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。



設定の前に、LAN端子にLANケーブルを接続し、プロジェクターを有線LANに接続してください。

「LANケーブルの接続」 p.53

- 1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【ネットワーク】を選択し、【決定】ボタンを押します。
- 3 【ネットワーク設定画面へ】を選択し、【決定】ボタンを押します。

4

【基本設定】を選択し、【決定】ボタンを押します。



5

必要に応じて設定します。

「基本設定メニュー」 p.149



名前、パスワード、およびキーワードの入力には、表示されたソフトキーボードを使用します。リモコンの【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンを押して文字を選択し、【決定】ボタンを押して入力します。

- 6 [有線LAN]を選択し、[決定]ボタンを押します。



- 7 必要に応じてプロジェクターにIPアドレスを割り当てます。

- DHCPを使用できるネットワークの場合は、[IP設定]を選択して、[DHCP]を[オン]にします。
- DHCPを使用できないネットワークの場合は、[IP設定]を選択して[DHCP]を[オフ]にし、プロジェクターの[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイアドレス]を入力します。
- IPv6を使用してプロジェクターをネットワークに接続する場合は、[IPv6設定]を選択します。

☞ 「有線LANメニュー」 p.154

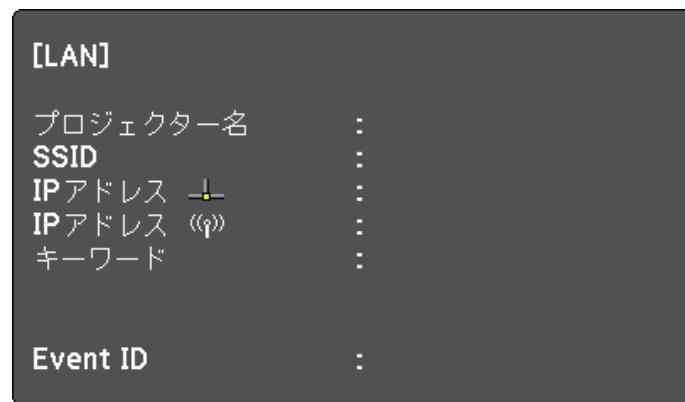


リモコンの【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンを押して、表示されたソフトキーボードで入力する数字を選択します。【決定】ボタンを押して入力します。

- 8 設定したIPアドレスがLAN待機画面に表示されないようにするには、[IPアドレス表示]を[オフ]に設定します。

- 9 設定が終わったら、[設定完了]を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

- 10 リモコンの【LAN】ボタンを押します。
LAN待機画面に正しいIPアドレスが表示されていれば、設定完了です。



本機に内蔵の無線LAN機能を使って無線LAN経由でプロジェクターから映像を投写できます。

無線LAN経由で投写するときは、プロジェクターとコンピューターの無線LAN設定をしてください。

[ネットワーク]メニューから、無線LAN設定をすると、本機を無線接続できます。

ネットワークメニューを設定する前に、本機の時刻を設定してください。時刻を設定しないと、無線LANの設定が正しくできないことがあります。

⌚ 「時刻の設定」 [p.44](#)

プロジェクターのネットワーク設定が終わったら、EPSON Projector Software CD-ROM(同梱されている場合)またはダウンロードしたソフトウェアから、ネットワークソフトウェアをインストールします。無線LAN経由で映像を投写するには、以下のネットワークソフトウェアを使用します。

- Epson iProjection (Windows/Mac)を使用すると、ネットワークに接続された複数のコンピューターの映像を同時に投写して、ミーティングをより活発にできます。詳しくは『Epson iProjection 操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。
- Epson iProjection (iOS/Android)を使用すると、iOSやAndroidなどのモバイルデバイスから映像を投写できます。
Epson iProjection (iOS/Android)は、App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

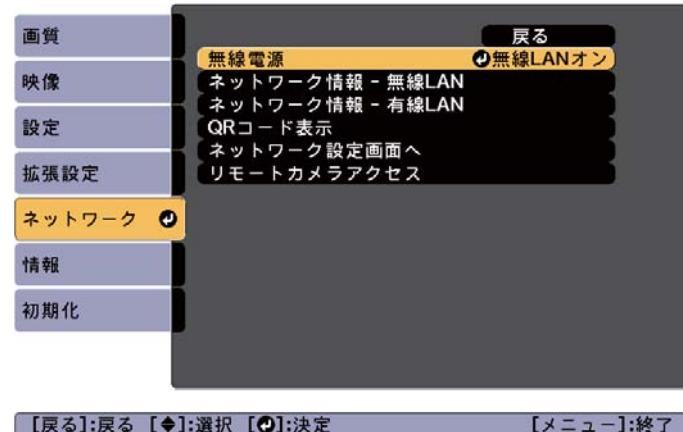
- Epson iProjection (Chromebook)を使用すると、Chromebookから映像を投写できます。

Epson iProjection (Chromebook)は、Chromeウェブストアから無料でダウンロードできます。Chromeウェブストアへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

プロジェクターの無線LANを設定する

無線LAN経由でコンピューターの映像を投写するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。

- 1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【ネットワーク】を選択し、【決定】ボタンを押します。
- 3 【無線電源】を【無線LANオン】に設定します。



- 4 【ネットワーク設定画面へ】を選択し、【決定】ボタンを押します。

- 5 【基本設定】を選択し、【決定】ボタンを押します。



- 6 必要に応じて設定します。
☞「基本設定メニュー」 p.149

 名前およびパスワードの入力には、表示されたソフトキーボードを使用します。リモコンの【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンを押して文字を選択し、【決定】ボタンを押して入力します。

7 [無線LAN]を選択し、[決定]ボタンを押します。



8 [接続モード]を選択します。

- [かんたんモード]：スマートフォンやタブレット端末、コンピューターとワイヤレスに直接接続できます。
- [マニュアルモード]：無線LANアクセスポイント経由でスマートフォンやタブレット端末、コンピューターと接続できます。

9 [マニュアルモード]を選択した場合は、[アクセスポイント検索]を行って接続する無線LANアクセスポイントを選択します。



手動でSSIDを割り当てるときは、[SSID]を選択してSSIDを入力します。

10 [マニュアルモード]の場合は、必要に応じてプロジェクターにIPアドレスを割り当てます。

- DHCPを使用できるネットワークの場合は、[IP設定]を選択して、[DHCP]を[オン]にします。

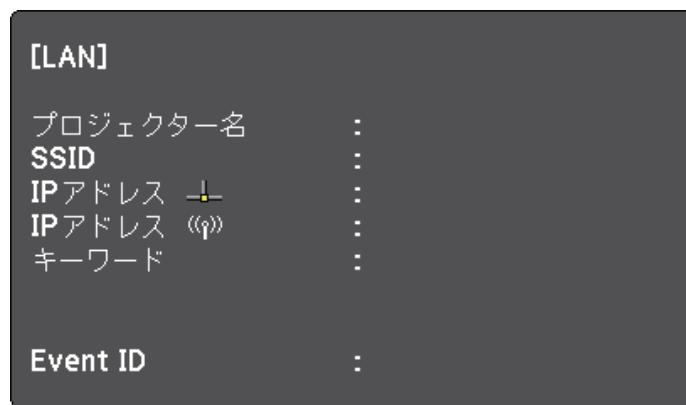
- DHCPを使用できないネットワークの場合は、[IP設定]を選択して[DHCP]を[オフ]にし、プロジェクターの[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイアドレス]を入力します。
 - IPv6を使用してプロジェクターをネットワークに接続する場合は、[IPv6設定]を選択します。
- ☞ 「無線LANメニュー」 p.150

11 設定したSSIDやIPアドレスがLAN待機画面に表示されないようにするには、[SSID表示]または[IPアドレス表示]を[オフ]に設定します。

12 設定が終わったら、[設定完了]を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

13 リモコンの[LAN]ボタンを押します。

LAN待機画面に正しいIPアドレスが表示されていれば、設定完了です。



無線LAN設定が完了したら、コンピューターの無線LAN設定をしてください。ネットワークソフトウェアを起動して、無線LAN経由で映像をプロジェクターに送ります。

Windowsで無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

- 1 Windowsタスクバーのネットワークアイコンをダブルクリックし、無線ユーティリティソフトウェアを起動します。
- 2 マニュアルモードで接続するときは、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名(SSID)を選択します。
- 3 [接続]をクリックします。

Macでの無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

- 1 画面上部にあるメニューバーのAirMacアイコンをクリックします。
- 2 マニュアルモードで接続するときは、AirMacがオンに設定されていることを確認し、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名(SSID)を選択します。

無線LANのセキュリティーを設定する

プロジェクターの無線通信に使うセキュリティーを設定できます。無線LANの設定に合わせて、以下のいずれかのセキュリティーを設定します。

- WPA2-PSKセキュリティー
- WPA2-EAPセキュリティー*
- WPA/WPA2-PSKセキュリティー*
- WPA/WPA2-EAPセキュリティー*

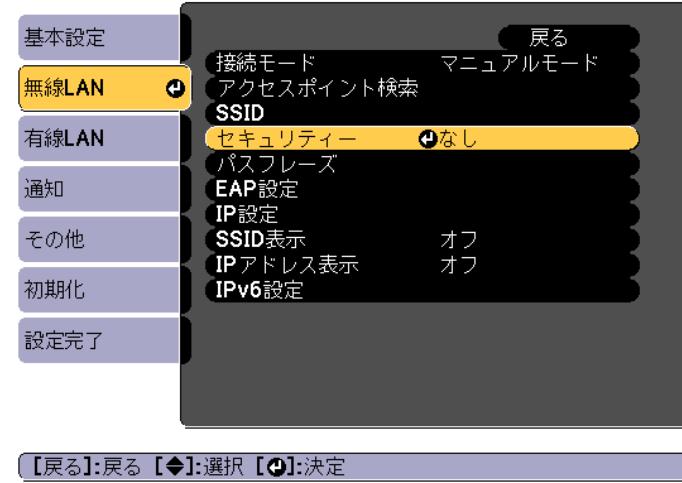
*マニュアルモードで接続しているときのみ



無線LANのネットワーク設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 1 本機に対応した形式の証明書をUSBストレージのルートディレクトリーに保存します。
☞「サポートするクライアント・CA証明書の一覧」[p.124](#)
- 2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。
- 3 【ネットワーク】を選択し、【決定】ボタンを押します。
- 4 【ネットワーク設定画面へ】を選択し、【決定】ボタンを押します。
- 5 【無線LAN】を選択し、【決定】ボタンを押します。

- 6 [セキュリティー]を選択し、[決定]ボタンを押します。



- 7 無線LANの設定に合わせて、セキュリティーを設定します。

- WPA2-PSK、WPA/WPA2-PSKを選択した場合
[設定完了]を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。
- WPA2-EAP、WPA/WPA2-EAPを選択した場合
[EAP設定]を選択し、[決定]ボタンを押します。

- 8 [EAP種類]で認証プロトコルを選択します。

- 9 証明書の種類を選択し、[決定]ボタンを押します。

- [クライアント証明書]：[PEAP-TLS]、[EAP-TLS]用のクライアント証明書をインポートします。
- [CA証明書]：[PEAP]、[PEAP-TLS]、[EAP-TLS]、[EAP-FAST]用のCA証明書をインポートします。



電子証明書はWebブラウザーからも設定できます。ただし、Webブラウザーとプロジェクトメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

☞ 「Webブラウザーで証明書を設定する」 p.129

- 10 画面の指示に従って[登録]を選択し、[決定]ボタンを押します。

- 11 本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。

- 12 [決定]ボタンを押して証明書の一覧を表示します。

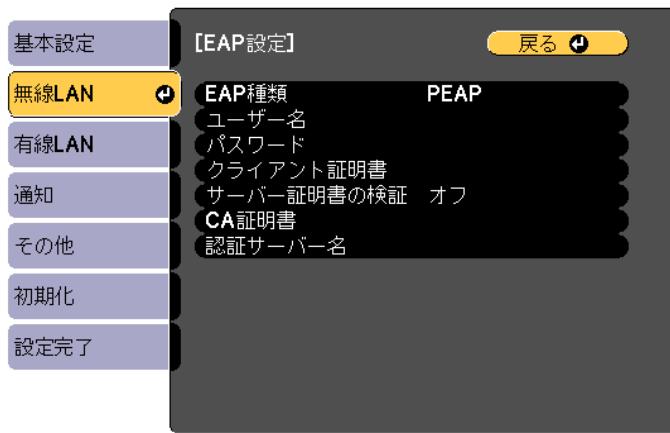
- 13 一覧からインポートする証明書を選択します。

パスワードの入力求めめるメッセージが表示されます。

- 14 証明書のパスワードを入力し、[決定]ボタンを押します。

証明書がインストールされ、完了メッセージが表示されます。

- 15 必要に応じてEAPセキュリティーを選択します。



- [ユーザー名] : ユーザー名を入力します。半角英数字で64文字以内で入力します。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。クライアント証明書をインポートしたときは、証明書の発行先が自動で設定されます。
- [パスワード] : [PEAP]、[EAP-FAST]、[LEAP]の認証用パスワードを入力します。半角英数字で64文字以内で入力します。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。
- [サーバー証明書の検証] : CA 証明書が設定されているときに、サーバー証明書を照合するかどうかを選択します。
- [認証サーバー名] : 認証サーバー名を入力します。

16 設定が終わったら、[設定完了]を選択します。画面の指示に従つて設定を保存してメニューを終了します。

サポートするクライアント・CA証明書の一覧

以下の種類の電子証明書を設定できます。

クライアント証明書(PEAP-TLS/EAP-TLS)

項目	説明
フォーマット	PKCS#12
拡張子	PFX、P12
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
パスワード*	設定が必要。32文字以内の半角英数字

CA証明書(PEAP/PEAP-TLS/EAP-TLS/EAP-FAST)

項目	説明
フォーマット	X509v3
拡張子	DER/CER/PEM
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
エンコード	BASE64/バイナリー

*パスワードは半角英数字で64文字以内で設定できます。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。

☞ 「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」
p.215

QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する

プロジェクターの無線LAN設定が完了したら、LAN待機画面に投写されるQRコードをEpson iProjection (iOS/Android)で読み取って、スマートフォンやタブレット端末などのモバイルデバイスを接続できます。



- お使いのモバイルデバイスに、最新版のEpson iProjectionがインストールされていることを確認してください(本機能は、V1.3.0以降のEpson iProjectionでサポートされています)。
- Epson iProjectionは、App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。
- かんたんモードでEpson iProjectionを使うときは、セキュリティーの設定をすることをお勧めします。



投写画面に近づいて、正面からQRコードを読み取ります。QRコードがモバイルデバイスのQRコードリーダーのガイド内に収まっていることを確認します。画面から離れすぎると、正しく読み取れないことがあります。

接続が完了したら、をタップして[コンテンツ]から投写するファイルを選択します。

1 リモコンの【LAN】ボタンを押すか、[ネットワーク]メニューで[QRコード表示]を選択します。

QRコードが投写画面に表示されます。



- QRコードが表示されないときは、[LAN情報表示]を[テキストとQRコード]に設定します。
 [ネットワーク] - [ネットワーク設定画面へ] - [LAN情報表示] [p.147](#)
- QRコードを非表示にしたいときは、【戻る】ボタンを押してください。
- QRコードが非表示のときは、【決定】ボタンを押すと表示されます。

2 モバイルデバイスにインストールされているEpson iProjectionを起動します。

3 投写されているQRコードを読み取ってプロジェクターに接続します。

USBキーを使って接続する(Windowsのみ)

USBメモリーをUSBキーとして設定し、無線LANに対応したWindowsコンピューターとプロジェクターを簡単に無線接続します。USBキーを使うと、お使いのコンピューターの無線LAN設定を自動で選択し、ワイヤレスに映像を投写できます。

1 Epson iProjection (Windows)でUSBキーを設定します。

詳しくは、『Epson iProjection 操作ガイド(Windows/Mac)』をご覧ください。

2 プロジェクターの電源を入れます。

3 リモコンの【LAN】ボタンを押します。

LAN待機画面が表示されます。SSIDおよびIPアドレスが表示されていることを確認します。

4 本機のUSB-A端子にUSBキーを接続します。

5 USBキーを取り外します。

6 コンピューターのUSB端子にUSBキーを接続します。

7 画面の指示に従って、必要なアプリケーションのインストールを進めます。



- Windowsファイアウォールのメッセージが表示されたときは、【はい】をクリックしてファイアウォールを無効にします。
- コンピューターにソフトウェアをインストールするには、管理者権限が必要です。
- 自動的にインストールされないときは、USBキー内の **MPPLaunch.exe** をダブルクリックします。

しばらくすると、コンピューターの映像がプロジェクターから投写されます。投写されないときは、リモコンの【LAN】ボタンを押すか、コンピューターを再起動します。

8 資料や映像を投写します。

9 投写が終了したら、Windowsタスクバーの【ハードウェアの安全な取り外し】を選択し、コンピューターからUSBキーを取り外します。



再度無線LANに接続するには、コンピューターの再起動が必要になることがあります。

スタンバイ時に本機の液晶ディスプレイを使って、プロジェクターで画面を投写せずに手動で固定IPアドレスを設定できます。



本機がスタンバイ状態のときに固定IPアドレスを設定するには、以下の設定をします。

- [A/V出力]を[常時]に設定する。
➡ [拡張設定] - [A/V出力設定] - [A/V出力] [p.142](#)
- [待機モード]を[通信オン]に設定する。
➡ [拡張設定] - [待機モード] [p.142](#)

1 本機を有線LANで接続し、主電源スイッチをオンにします。

2 操作パネルの【HDBaseT/LAN】ボタンを3秒間以上押します。

液晶ディスプレイにIPアドレス設定メニューが表示されます。

Start
IP Setting



設定をキャンセルするときは【戻る】ボタンを押してください。

3 操作パネルまたはリモコンで【↔】、【▼】の順にボタンを押して【OFF】を選択し、【↔】ボタンを押します。

DHCP
□ON
■OFF

4

操作パネルまたはリモコンの【▲】【▼】ボタンで値の変更、【◀】【▶】ボタンで入力位置の移動をしてIPアドレスの値を設定し、【↔】ボタンを押します。

IP Address
192.168.100.100



リモコンのテンキー部の数字のボタンを押して設定することもできます。

5

続けて、必要に応じてサブネットマスクとゲートウェイアドレスを設定し、確認画面で【↔】ボタンを押します。

Finish
IP Setting

6

【↔】ボタンを押してステータス情報に戻ります。

HTTPSプロトコルを用いて、プロジェクトとWebブラウザ間の通信のセキュリティーを強固にできます。HTTPSプロトコルを用いたセキュリティーを適用するには、Webブラウザから信頼性を検証できるサーバー証明書を作成してプロジェクトにインストールし、[セキュアHTTP]設定をオンにします。

☛ [ネットワーク] - [ネットワーク設定画面へ] - [その他] - [セキュアHTTP] [p.147](#)

サーバー証明書がないときは、プロジェクト内部で自己署名証明書を自動作成して通信します。自己署名証明書はWebブラウザから信頼性を検証できないため、Webブラウザからプロジェクトにアクセスしたときにサーバーの信頼性に関する警告が表示されます。この警告を無視することで通信を継続できます。

メニューからWebサーバー証明書を設定する

プロジェクトメニューとUSBメモリーを使って、作成したWebサーバー証明書を本機にインストールします。



電子証明書はWebブラウザからも設定できます。ただし、Webブラウザとプロジェクトメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

☛ 「Webブラウザで証明書を設定する」 [p.129](#)

1 本機に対応した形式の証明書をUSBストレージのルートディレクトリーに保存します。

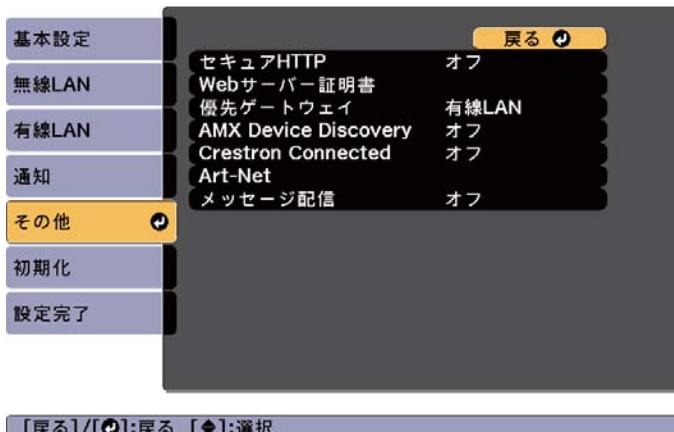
☛ 「サポートするWebサーバー証明書の一覧」 [p.129](#)

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

3 [ネットワーク]を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 [ネットワーク設定画面へ]を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 [その他]を選択し、【決定】ボタンを押します。



- 6 [セキュアHTTP]を[オン]に設定します。
- 7 [Webサーバー証明書]を選択し、[決定]ボタンを押します。
- 8 画面の指示に従って[登録]を選択し、[決定]ボタンを押します。
- 9 本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。
- 10 [決定]ボタンを押して証明書の一覧を表示します。
- 11 一覧からインポートする証明書を選択します。
パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。
- 12 証明書のパスワードを入力し、[決定]ボタンを押します。
証明書がインストールされ、完了メッセージが表示されます。

サポートするWebサーバー証明書の一覧

以下の種類の電子証明書を設定できます。

Webサーバー証明書(セキュアHTTP)

項目	説明
フォーマット	PKCS#12
拡張子	PFX、P12
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
Common Name	ネットワークホスト名
Organization	任意
パスワード*	設定が必要。32文字以内の半角英数字

*パスワードは半角英数字で64文字以内で設定できます。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。

☞ 「Webブラウザーで証明書を設定する」 [p.129](#)

Webブラウザーで証明書を設定する

セキュリティ設定に用いる電子証明書を本機に設定します。



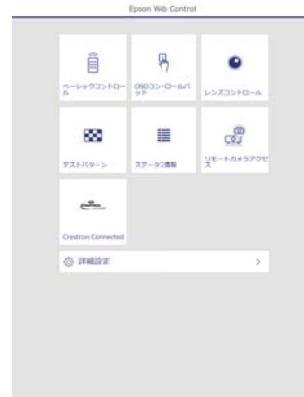
本機への電子証明書のインストールは、ネットワークメニューからも行うことができます。ただし、Webブラウザーとプロジェクトメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

☞ 「無線LANのセキュリティを設定する」 [p.122](#)

- 1 本機に対応した形式の証明書を用意します。
- 2 本機の電源がオンになっていることを確認します。
- 3 ネットワークに接続されているコンピューターまたはモバイルデバイスでWebブラウザーを起動します。

- 4 ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。

Epson Web Control画面が表示されます。



- 5 [詳細設定]を選択します。



詳細設定画面を表示するには、ログインが必要です。ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。(ユーザー名はEPSONWEB、デフォルトのパスワードはadminです。)

- 6 [ネットワーク]から[証明書]を選択します。

- 7 ファイルを選択ボタンをクリックし、証明書ファイルを選択します。

- 8 [パスワード]ボックスにパスワードを入力して[送信]をクリックします。

- 9 設定が終了したら、[反映]をクリックします。

環境設定メニュー

ここでは、環境設定メニューの機能と操作方法について説明しています。

環境設定メニューの操作方法を説明します。

リモコンで操作を行ったときを例に説明していますが、操作パネルでも同様の操作を行えます。使用できるボタンと操作はメニューの下に表示されるガイドでご確認ください。

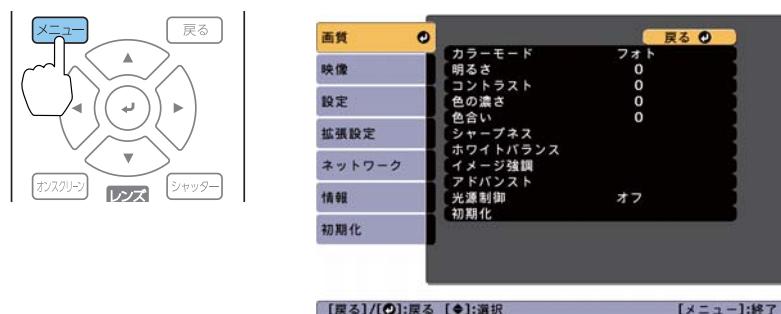


投写中にメニューを操作すると、直前に操作したメニュー画面が表示されます。ただし、以下のメニューを操作した後は初期画面に戻ります。

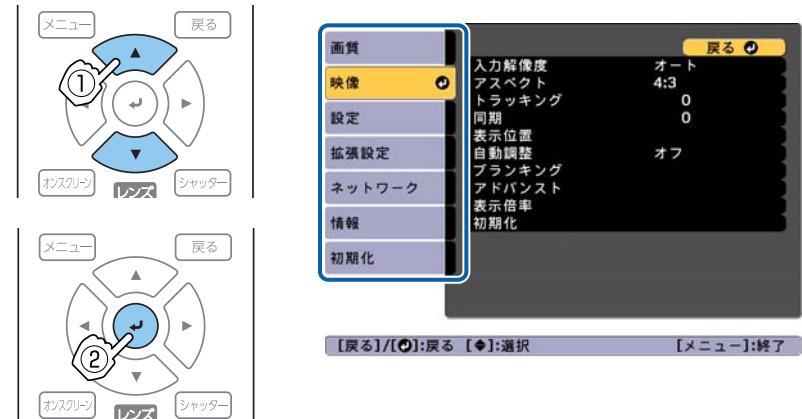
- ・テストパターン
- ・フォーカス、ディストーション、ズーム、レンズシフト
- ・ガンマ
- ・液晶アライメント
- ・ユーザーロゴ
- ・グルーピング、タイリング
- ・日付時刻設定
- ・ネットワーク設定
- ・全初期化(工場出荷状態)
- ・黒レベル調整

【戻る】ボタンを長押しすると、一番上の階層のメニュー画面を表示します。本機の電源をオフにすると、メニュー操作は初期画面に戻ります。

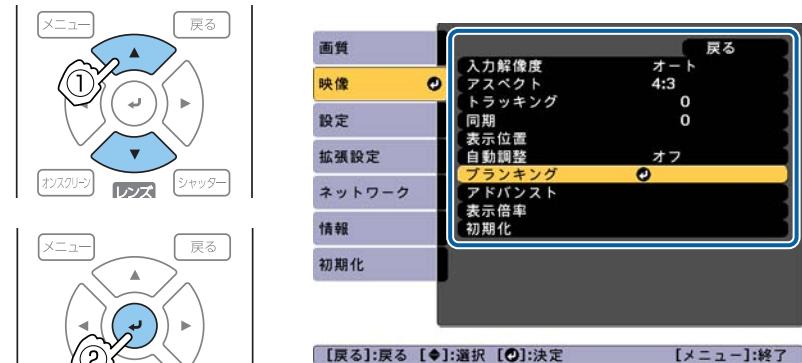
1 環境設定メニュー画面を表示します。



2 トップメニュー項目を選択します。



3 サブメニュー項目を選択します。



4 設定を変更します。



ガイドに【初期値】:リセットと表示されているときは、リモコンの【初期値】ボタンを押すと調整中の設定値が初期値に戻ります。

5 【メニュー】ボタンを押して、設定を終了します。

環境設定メニュー一覧

お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
画質メニュー ☛ p.137	カラーモード	ダイナミック、プレゼンテーション、ナチュラル、シネマ、BT.709、DICOM SIM、マルチプロジェクトション
	明るさ	0～100
	コントラスト	0～100
	色の濃さ	0～100
	色合い	0～100
	シャープネス	スタンダード、高域強調、低域強調
	ホワイトバランス	色温度、G-M補正、オフセットR、オフセットG、オフセットB、ゲインR、ゲインG、ゲインB
	イメージ強調	イメージ強調プリセット、フレーム補間、プログレッシブ変換、ノイズリダクション、MPEGノイズリダクション、超解像、ディテール強調、初期化
	アドバンスト	ガンマ、RGBCMY
	光源制御	光源制御、ダイナミックコントラスト、消灯制御
映像メニュー ☛ p.138	入力解像度	オート、ワイド、ノーマル、マニュアル
	アスペクト	オート、ノーマル、4:3、16:9、フル、Hズーム、Vズーム、リアル
	トラッキング	-

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
設定メニュー ☛ p.141	同期	0～31
	表示位置	-128～127
	自動調整	オン、オフ
	オーバースキャン	オート、オフ、4%、8%
	ブランкиング	上、下、左、右
	カラースペース	オート、BT.709、BT.2020
	ダイナミックレンジ	ダイナミックレンジ、HDR10設定、HLG設定
	アドバンスト	ビデオレンジ、入力信号方式、BNC同期終端、EDID、DDCバックファバー
	表示倍率	表示倍率、表示倍率モード、タテ倍率、ヨコ倍率、切り出し調整、切り出し範囲
	幾何学歪み補正 ☛ p.141	オフ、タテヨコ、Quick Corner、曲面投写補正、コーナー投写補正、ポイント補正、メモリー
2画面	2画面	-
	ロック設定	操作ボタンロック、レンズロック
	明るさ設定	光源モード、明るさレベル、一定モード、残り時間目安
	リモコン受光部	フロント・リア、フロント、リア、オフ
	ユーザーボタン	ユーザーボタン1、ユーザーボタン2、ユーザーボタン3

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
	テストパターン	スタンダード、クロスハッチ、クロスハッチR、クロスハッチG、クロスハッチB、カラーバーV、カラーバーH、グレースケール、グレーバーV、グレーバーH、チェックカーパターン1、チェックカーパターン2、白、黒、アスペクト枠
	メモリー	メモリー、レンズポジション、幾何学歪み補正
拡張設定メニュー  p.142	表示設定	メニュー表示位置、メッセージ表示位置、メッセージ表示、背景表示、スタートアップスク린、スタンバイ確認、エアフィルター清掃通知、スクリーン設定、液晶アライメント、ユニフォーミティー、OSD回転
	ユーザー口ゴ	設定開始、初期化
	設置モード	フロント、フロント・天吊り、リア、リア・天吊り
	動作設定	ダイレクトパワーオン、スリープモード、スリープモード時間、高地モード、起動時入力検出、シャッター設定、映像端子設定、アドバンスト、日付&時刻、レンズキャリブレーション
	A/V出力設定	A/V出力
	待機モード	通信オン、通信オフ
	HDBaseT設定	制御通信、Extron XTP
	SDI設定	SDI
	カラーキャリブレーション	自動調整開始、元に戻す、やり直し、ユニフォーミティー

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
	マルチプロジェクトション	プロジェクトID、グルーピング、タイリング、幾何学歪み補正、エッジブレンディング、黒レベル調整、表示倍率、初期化、スクリーンマッチング
	スケジュール設定画面へ	-
	言語	27言語
情報メニュー  p.157	プロジェクター情報	使用時間、入力ソース、入力信号、入力解像度、リフレッシュレート、同期情報、カラーフォーマット、ステータス、シリアル番号、レンズタイプ、Event ID、HDBaseT信号レベル
	光源情報	光源使用時間、残り時間目安
	バージョン	Main、Video2、Sub、Sub2、HDBaseT、HDBaseT2、SDI、Status Monitor、AC Monitor
	バージョン(Slot)	Slot1、Slot2
	ステータス情報	Status Information、Source、Signal Information、Network Wired、Network Wireless、Maintenance、Version
	電圧警告情報	-
	温度警告情報	-
	電源オンオフ履歴	-
	初期化メニュー  p.158	メモリー全初期化
	光源キャリブレーション	今すぐ実行、定期的に実行、スケジュール設定画面へ、最終実行日時
	全初期化	-

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
	全初期化(工場出荷状態)	全初期化(工場出荷状態)、パスワード設定

ネットワークメニュー

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
基本設定メニュー p.149	プロジェクト名	-
	PJLinkパスワード	-
	Remoteパスワード	-
	Web制御パスワード	-
	モデレーターパスワード	-
	プロジェクトキー	オン、オフ
	キーワード通知	オン、オフ
	LAN情報表示	テキストとQRコード、テキスト
無線LANメニュー p.150	接続モード	かんたんモード、マニュアルモード
	アクセスポイント検索	-
	SSID	-
	セキュリティー	なし、WPA2-PSK、WPA/WPA2-PSK、WPA2-EAP、WPA/WPA2-EAP
	パスフレーズ	-

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
有線LANメニュー p.154	EAP設定	EAP種類、ユーザー名、パスワード、クライアント証明書、サーバー証明書の検証、CA証明書、認証サーバー名
	チャンネル設定	1ch、6ch、11ch
	IP設定	DHCP、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス
	SSID表示	オン、オフ
	IPアドレス表示	オン、オフ
	IPv6設定	IPv6、自動構成、一時アドレスの使用
	IP設定	DHCP、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス
	IPアドレス表示	オン、オフ
	IPv6設定	IPv6、自動構成、一時アドレスの使用
通知メニュー p.155	メール通知機能	オン、オフ
	SMTPサーバー	-
	ポート番号	-
	差出人	-

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
その他のメニュー 	宛先1設定、宛先2設定、宛先3設定	メールアドレス、ノーザンナル、システム異常、レーザー異常、内部高温異常、エアフィルター異常、レーザー警告、高温警告、エアフィルター警告、シャッター警告、エアフィルター清掃通知、明るさ一定終了通知
	SNMP	オン、オフ
	トラップIPアドレス1、トラップIPアドレス2	-
	コミュニティー名	-
	PJLink通知	オン、オフ
	通知先IPアドレス	-
	セキュアHTTP	オン、オフ
	Webサーバー証明書	-
	優先ゲートウェイ	有線LAN、無線LAN
	AMX Device Discovery	オン、オフ
	Crestron Connected	オン、オフ
	Art-Net	Art-Net、Net、Sub-Net、Universe、開始チャンネル
	メッセージ配信	オン、オフ

画質メニュー

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容はカラー モードごとに保持されます。

☛ 「投写映像を切り替える」 p.59



サブメニュー	機能
カラー モード	使用シーンに応じて、画質を選択できます。 ☛ 「映り具合を選ぶ（カラー モードの選択）」 p.73
明るさ	映像の明るさを調整します。
コントラスト	映像の明暗の差を調整します。
色の濃さ	映像の色の濃さを調整します。
色合い	映像の色合いを調整します。
シャープネス	[スタンダード]：映像のシャープ感を調整します。 [高域強調]：+側に設定すると、髪の毛や衣服の模様などの細かい部分が強調されます。 [低域強調]：+側に設定すると、被写体全体の輪郭や背景などの粗い部分が強調され、くっきりとした映像になります。

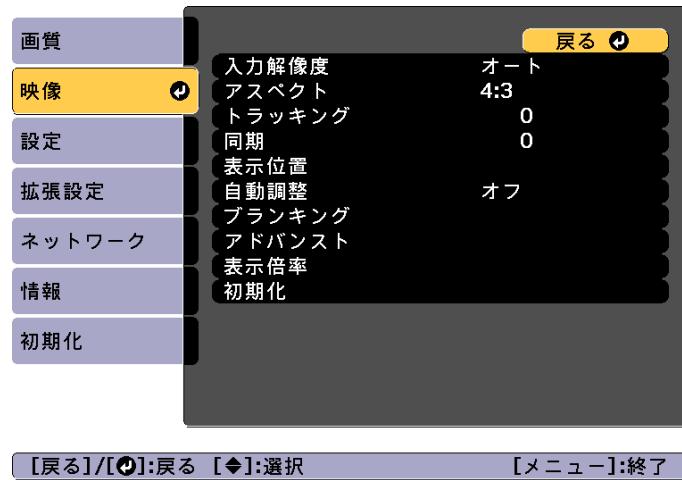
サブメニュー	機能
ホワイトバランス	<p>[色温度]：映像全体の色合いを3200K～10000Kの14段階で調整します。高い値を選択すると青みがかった映像になり、低い値を選択すると赤みを帯びた映像になります。</p> <p>[カラーモード]を[ダイナミック]に設定しているときは、設定した色温度と実際の投写光の色温度が大きく異なる場合があります。このメニューは目安としてご使用ください。</p> <p>[G-M補正]：-側に設定すると赤みを帯びた色調になり、+側に設定すると緑がかった色調になります。</p> <p>[オフセットR/G/B] [ゲインR/G/B]：R(赤)、G(緑)、B(青)ごとにオフセットとゲインを調整します。</p>
イメージ強調	<p>映像の解像感を調整します。</p> <p>☛ 「映像の解像感を調整する（イメージ強調）」 p.79</p> <p>[イメージ強調プリセット]：あらかじめ用意された5つのプリセット値から、投写映像に合わせて最適なものを選択します。</p> <p>[フレーム補間]：映像と映像の間に中間画像を生成し、動きの速い動画を滑らかに再生することができます。</p> <p>[プログレッシブ変換]※：インターレース信号をプログレッシブ信号に変換します。（IP変換）</p> <p>動きの大きい映像には[オフ]、一般的のビデオ映像には[ビデオ]、映画フィルムやCG、アニメーション映像には[フィルム/オート]が適しています。</p> <p>[ノイズリダクション]：プログレッシブ映像のざらつきを抑えます。</p> <p>[MPEGノイズリダクション]：MPEG動画を投写したときに輪郭に生じる点状のノイズやブロック状のノイズを抑えます。</p> <p>[超解像]：映像信号の解像度を拡大して投写した際に発生するエッジ部分などのボケを低減し、よりハッキリとした映像で表示します。</p> <p>[ディテール強調]：映像の細部の明暗差を強調します。</p> <p>[初期化]：[イメージ強調]の調整値を初期値に戻します。</p>

サブメニュー	機能
アドバンスト	<p>以下の項目を選んで調整できます。</p> <p>[ガンマ]：補正値を選んだり、映像やグラフを見ながら映像の発色を調整します。</p> <p>[RGBCMY]：R(赤)、G(緑)、B(青)、C(シアン)、M(マゼンタ)、Y(イエロー)ごとに色相、彩度、明度を調整します。</p>
光源制御	<p>[光源制御]：映像信号に応じた光源の動作を選択します。</p> <p>☛ 「投写映像の光量を設定する」 p.76</p> <p>[ダイナミックコントラスト]：（[光源制御]を[ダイナミックコントラスト]に設定しているときのみ設定可能）映像の明るさに合わせて、投写時の光量を自動的に調整します。</p> <p>[消灯制御]：（[光源制御]を[消灯制御]に設定しているときのみ設定可能）指定の映像レベルで指定した時間が経過した後に、光源を自動的に消灯します。</p>
初期化	<p>[カラーモード]を除く[画質]メニューの調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。</p> <p>☛ 「初期化メニュー」 p.158</p>

※ 480i、576i、1080i信号入力時のみ設定可能

映像メニュー

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。



サブメニュー	機能
入力解像度	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) [オート]にすると、入力信号の解像度を自動で判別します。[オート]に設定していて投写映像が欠けるときは、接続しているコンピューターに合わせてワイド画面は[ワイド]に、4:3や5:4画面は[ノーマル]に設定してください。 [マニュアル]にすると、特定の入力解像度に設定できます。接続するコンピューターが固定のときに適しています。
アスペクト	映像のアスペクト比を設定します。 ☞「投写映像のアスペクト比を切り替える」 p.77
トランクリング	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) 映像に縦の縞模様が出るときに調整します。
同期	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) 映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。
表示位置	映像の一部が欠けているときに表示位置を上下左右に移動し映像がすべて投写されるように調整します。

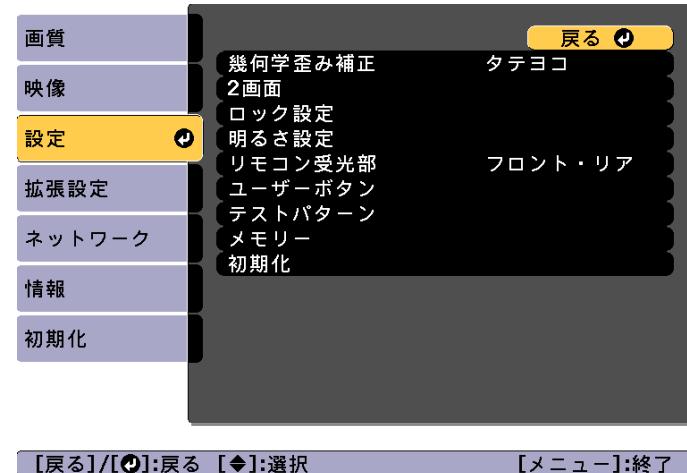
サブメニュー	機能
自動調整	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) [オン]にすると、入力信号が切り替わったときに、トランクリング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
オーバースキャン	出画率(投写する映像の範囲)を変更します。トリミングする範囲の設定を、[4%]、[8%]のいずれかに変更できます。[オート]に設定したときは、入力信号に応じて自動的に調整されます。
ブランディング	設定した領域の映像を非表示にします。[◀][▶]ボタンで領域を調整します。[上]、[下]、[左]、[右]を組み合わせて調整できます。それぞれの方向に最大で投写画面の半分を非表示にできます(1画素を除く)。
カラースペース*	(カレントソースがHDMI、DVI-D、HDBaseT、SDI、DisplayPortの場合に表示) 色空間の変換方式を設定します。[オート]を選択すると、自動で変換方式を設定します。必要な場合は、[BT.709]または[BT.2020]を選択します。
ダイナミックレンジ*	(カレントソースがHDMI、DVI-D、HDBaseT、SDI、DisplayPortの場合に表示) ダイナミックレンジに関する設定を行います。 [ダイナミックレンジ]：HDR(High Dynamic Range)信号受信時に自動的にレンジを選択します。映像信号にHDR情報が正しく記載されていない場合に使用します。 [HDR10設定]：HDR PQ(Perceptual Quantizer)信号のPQカーブを設定できます。 [HLG設定]：HDR HLG(Hybrid Log Gamma)信号のHLGカーブを設定できます。

サブメニュー	機能
アドバンスト	<p>以下の項目を選んで設定できます。</p> <p>[ビデオレンジ]：HDMI In端子、DVI-D In端子、HDBaseT端子、SDI In端子、DisplayPort In端子からの入力信号のビデオレベルを選択します。輝度レンジが16-235の場合は[リミテッド(16-235)]、0-255の場合は[フル(0-255)]を選択してください。</p> <p>[入力信号方式]：Computer In端子、BNC In端子からの入力信号を選択します。[オート]にすると、接続機器に応じて自動的に入力信号を設定します。[オート]に設定していて、色が正しく表示されないときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。</p> <p>[BNC同期終端]：BNC In端子からの信号の終端処理を設定します。通常は[オフ]で使用します。スイッチャーなど、アナログ(75Ω) 終端が必要なときは[オン]に設定します。</p> <p>[EDID]：(カレントソースがHDMI、DVI-D、HDBaseT、DisplayPortの場合に表示)EDIDに関する設定を行います。解像度の違う複数のディスプレイが設置されている環境でも、基準となるディスプレイのEDIDと同じ設定をすることで、カレントソースのEDIDを切り替えて、ディスプレイ間のEDIDを統一することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [EDIDプリセット]：あらかじめ用意されたプリセット値から最適なものを選択します。必要に応じて、[解像度][リフレッシュレート][色深度]のプリセット値の

サブメニュー	機能
	<p>設定を変更します。[設定]を選び【➡】ボタンを押します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [解像度]：表示された解像度から選択します。 [リフレッシュレート]：表示されたリフレッシュレートから選択します。 [色深度]：本機が対応する色深度の上限を選択します。[12bit]を選択すると、12bitまでの信号に対応して投写します。 [初期化]：[EDID]の調整値を初期値に戻します。 <p>[DDCバッファー]：(カレントソースがHDMI、DVI-Dの場合に表示)HDMI延長ケーブルやDVI延長ケーブルを使用して接続した機器からの映像が正しく表示されないときは、[オン]にすると改善される場合があります。</p>
表示倍率	<p>本機を複数台使用して1つの映像を投写するときに、それぞれのプロジェクターで表示する映像の範囲を調整します。</p> <p>☞「映像を切り出して表示する」p.96</p>
初期化	<p>[映像]メニューのうち、[入力信号方式]を除くすべての調整値を初期値に戻します。</p> <p>全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。</p> <p>☞「初期化メニュー」p.158</p>

※ [カラーモード]が[BT.709]のときは設定不可

設定メニュー

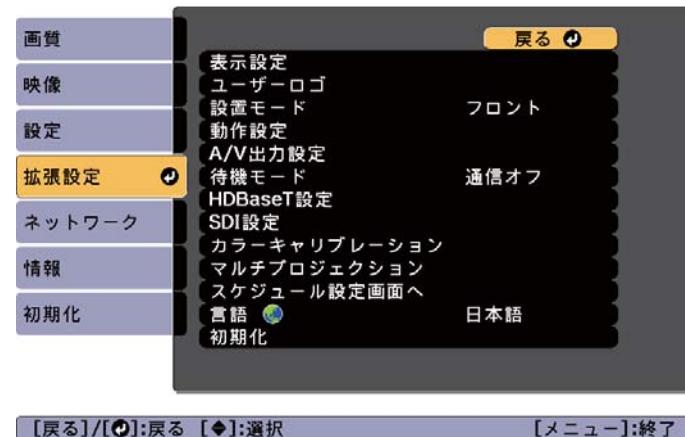


サブメニュー	機能
幾何学歪み補正	<p>ゆがんだ画面を補正します。</p> <p>👉 「映像のゆがみを補正する」 p.62</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ] : 幾何学歪み補正で補正された状態を一時的に解除します。 • [タテヨコ] : [タテ補正]、[タテバランス]、[ヨコ補正]、[ヨコバランス]を調整して縦・横方向のゆがみを補正します。 • [Quick Corner] : 投写映像の4つの角を選んで補正します。 • [曲面投写補正] : 曲面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正します。 • [コーナー投写補正] : 直角の面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正します。 • [ポイント補正] : 投写画像を格子で区切り、選択した格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正することができます。 • [メモリー] : 幾何学歪み補正の調整値を登録し、必要な時に呼び出します。 <p>👉 「メモリー機能」 p.105</p>
2画面	2画面で投写します。 👉 「2種類の映像を同時に投写する（2画面）」 p.100
ロック設定	<p>[操作ボタンロック] : 本機操作パネルの操作制限を設定します。</p> <p>👉 「操作ボタンロック」 p.113</p> <p>[レンズロック] : [オン]に設定すると、リモコンのレンズの操作に関するボタンが無効になります。</p> <p>👉 「レンズロック」 p.114</p>

サブメニュー	機能
明るさ設定	<p>[光源モード]：光源の明るさを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[ノーマル]：明るさを落とさないときに選択します。光源の使用時間の目安は約20,000時間です。 ・[静音]：ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源の使用時間の目安は20,000時間です。 ・[ロング]：光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源の使用時間の目安は約43,000時間です。 ・[カスタム]：明るさレベルを30~100%の範囲で設定します。 <p>[明るさレベル]：([光源モード]が[カスタム]のときのみ設定可)光源の明るさを設定します。</p> <p>[一定モード]：([光源モード]が[カスタム]のときのみ設定可)[オン]にすると、[明るさレベル]で設定した光源の明るさを一定に保ちます。[一定モード]が[オン]のときは、[光源モード]と[明るさレベル]の変更ができないになります。</p> <p>☞「明るさを設定する」p.74</p> <p>[残り時間目安]：[一定モード]が[オン]のときに、明るさを一定に保つことができる残り時間を表示します。</p> <p>☞「残り時間目安の見方」p.75</p>
リモコン受光部	リモコンからの操作信号の受信を制限します。 [オフ]に設定すると、リモコンからの操作ができなくなります。リモコンから操作したいときは、リモコンの【メニュー】ボタンを15秒以上押して、設定を初期値に戻してください。
ユーザーボタン	リモコンの【ユーザー1】ボタン、【ユーザー2】ボタン、【ユーザー3】ボタンにそれぞれ割り当てる環境設定メニューの項目を選択します。割り当てることのできるのは以下の項目です。 [光源モード]、[マルチプロジェクション]、[入力解像度]、[QRコード表示]、[イメージ強調]、[フレーム補間]、[スクリーンマッチング]、[カラーキャリブレーション]、[ヘルプ]、[2画面]

サブメニュー	機能
テストパターン	本機を設置する際に、機器を接続せずに投写状態を調整できるようにテストパターンを表示します。
☞「テストパターンを表示する」 p.36	
メモリー	メモリー機能に関する操作や設定を行います。
☞「メモリー機能」 p.105	
初期化	[設定]メニューのうち[ユーザーボタン]を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。
☞「初期化メニュー」 p.158	

拡張設定メニュー



サブメニュー	機能
表示設定	<p>本機の表示に関する設定を行います。</p> <p>[メニュー表示位置]：投写画面でメニューを表示する位置を設定します。</p> <p>[メッセージ表示位置]：投写画面でメッセージを表示する位置を設定します。</p> <p>[メッセージ表示]：[オフ]に設定すると、次の表示がされなくなります。</p> <p>入力ソースやカラー モード、アスペクトを切り替えたときの項目名の表示、映像信号が入力されていないときなどのメッセージの表示、高温警告などの警告表示。</p> <p>[背景表示]※：映像信号が入力されていないときなどの画面の状態を[黒]、[青]、[ロゴ]のいずれかで設定します。</p> <p>[スタートアップスクリーン]※：[オン]にすると、投写開始時に[ユーザーロゴ]を表示します。</p> <p>[スタンバイ確認]：[オフ]に設定すると、[待機]ボタンを1回押すだけで電源がオフになります。</p> <p>[エアフィルター清掃通知]：エアフィルターの清掃通知をする([オン])/しない([オフ])を設定します。[オン]に設定していると、エアフィルターの詰まりを感知した場合にメッセージを表示します。</p> <p>[スクリーン設定]：(ネットワークで接続したコンピューターの映像を投写中は設定不可。)お使いのスクリーンに合わせて画面のアスペクト比や位置を設定します。</p> <p>☞「スクリーン設定」p.34</p> <p>[液晶アライメント]：画面の色ずれ(赤・青)を補正します。</p> <p>☞「液晶アライメント」p.210</p> <p>[ユニフォーミティ]：画面全体の色味のバランスを調整します。</p> <p>☞「ユニフォーミティ」p.212</p> <p>[OSD回転]：メニューの表示方向を90°回転させます。</p>
ユーザーロゴ ※	背景表示、シャッター時などに表示するユーザーロゴを変更します。

サブメニュー	機能
設置モード	<p>本機の設置状態に合わせて次の中から設定します。</p> <p>[フロント]、[フロント・天吊り]、[リア]、[リア・天吊り]</p> <p>【シャッター】ボタンを約5秒間押し続けると、天吊りの設定を次のように切り替えることができます。</p> <p>[フロント]↔[フロント・天吊り] [リア]↔[リア・天吊り]</p>

サブメニュー	機能
動作設定	<p>[ダイレクトパワーオン] : [オン]にすると、電力を供給するだけで本機の電源が入ります。</p> <p>停電復旧時などに、コンセントに電源プラグが差し込まれて主電源スイッチがオンの状態になっていると、本機の電源がオンになりますので注意してください。</p> <p>[スリープモード] : [オン]に設定すると、映像信号が未入力のまま、なにも操作しないときに自動で電源を切ります。</p> <p>[スリープモード時間] : [スリープモード]を[オン]に設定したときに、自動で電源を切るまでの時間を1~30分の範囲で設定します。</p> <p>[高地モード] : 標高約1,500m以上でお使いの場合は[オン]にします。</p> <p>[起動時入力検出] : [オン]にすると、現在の入力ソースからの映像信号がないときに、自動的に他の入力ソースからの入力信号を検出して映像を投写します。</p> <p>[シャッター設定] : シャッターに関する設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.102 [フェードイン] : 映像を表示するときにフェードインさせる秒数を指定します。 [フェードアウト] : 映像を消すときにフェードアウトさせる秒数を指定します。 [シャッタータイマー] : [オン]に設定すると、シャッターを実行してから何も操作しない状態が約2時間続くと、自動的に本機の電源が切れます。 [シャッター解除] : [シャッター]に設定すると、シャッターを実行したまま以下の操作ができます。 <ul style="list-style-type: none"> リモコンの入力切り替えボタンで入力ソースを切り替える。 Epson Projector Professional ToolやEpson Projector Managementで通信コマンドを使ってコンピューターから本機を制御する。 <p>【シャッター】ボタンを押したとき(またはシャッターをオフにするコマンドを送信したとき)のみシャッターが解除されます。</p>

サブメニュー	機能
	<p>[すべて]に設定すると、本機を操作したときにシャッターが解除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [スタートアップ] : 本機の電源を入れたときのシャッターの状態を設定します。 [スタンバイ] : 本機がスタンバイ状態のときのシャッターの状態を設定します。[維持]を選択すると、本機の電源を切ったときに、現状のシャッター状態を維持します。 <p>[映像端子設定] : 各入力端子の有効/無効を設定します。</p> <p>[アドバンスト] : 以下の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> [確認音] : [オン]に設定すると、本機の電源のオン/オフ時や、クールダウンの終了時を音でお知らせします。 [インジケーター表示] : [オフ]に設定すると、異常/警告以外は、本機のインジケーターを消灯します。 [ログ保存先] : 本機の動作ログの保存先を設定します。本機のUSB-A端子に接続したUSBメモリーにログを保存するときは、[USBおよび内部メモリー]を選択します。ログがUSBメモリーにテキストファイル(.log)として保存されます。 <p>以下のログが保存されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - エラー情報 - レーザー情報 - 温度ログ - 操作ログ <ul style="list-style-type: none"> [一括設定範囲] : 一括設定機能を使って、すべてのメニュー設定をコピーするときは[すべて]を選択します。以下の設定をコピーしたくないときは[一部]を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [EDID] [ネットワーク]メニューの[通知]メニューと[その他]メニューを除いた全項目 [電源電圧監視] : [オン]に設定すると、電源ボタンを押す以外の方法(ダイレクトシャットダウンを含む)で本機の電源がオフになった場合に、次に電源を入れたときに電源電圧警告ダイアログが表示されます。定期

サブメニュー	機能
	<p>的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は[オフ]に設定してください。</p> <p>☞ 「表示内容の説明」 p.180</p> <ul style="list-style-type: none"> [レンズタイプ]：以下のレンズをお使いのときは、レンズの型番を選択します。 ELPLS04、ELPLU02、ELPLR04、ELPLW04、ELPLM06、ELPLM07、ELPLL07 <p>[日付＆時刻]：本機のシステム時刻に関する設定を行います。</p> <p>☞ 「時刻の設定」 p.44</p> <p>[レンズキャリブレーション]：本機に装着されたレンズの情報を取得します。</p>
A/V出力設定	[A/V出力]：本機がスタンバイ状態のときに固定IPアドレスを設定するときは[常時]に設定します。
待機モード	<p>[通信オン]に設定すると、本機がスタンバイ状態のときでも以下の操作が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本機をネットワーク監視・制御する。 HDBaseT端子からの通信を有効にする。([制御通信]が[オン]のときのみ。) 液晶ディスプレイでIPアドレスを設定する。([A/V出力]が[常時]のときのみ) <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>本機を無線LAN経由で監視・制御するときは、[接続モード]を[マニュアルモード]に設定してください。</p> <p>☞ 「ネットワーク」 - 「無線LAN」 - 「接続モード」 p.150</p> </div>

サブメニュー	機能
HDBaseT設定	<p>[制御通信]：([Extron XTP]が[オン]のときは設定不可。)[オン]にすると、HDBaseT端子からのEthernet通信、シリアル通信、有線リモコン制御が有効になります。</p> <p>[Extron XTP]：Extron社製のXTPトランスマッターまたはスイッチャーを本機のHDBaseT端子に接続して使用するときは[オン]に設定します。XTPシステムについて詳しくはExtron社のWebページを参照してください。</p> <p>http://www.extron.jp/</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <ul style="list-style-type: none"> [制御通信]または[Extron XTP]を[オン]にすると、[待機モード]が自動的に[通信オン]に設定されます。 [制御通信]または[Extron XTP]が[オン]のときは、本機のLAN端子、RS-232端子、Remote端子は無効になります。 [Extron XTP]が[オン]のときは、スタンバイ状態でもファンが回転することがありますか異常ではありません。 </div>

サブメニュー	機能
SDI設定	<p>SDI In端子からの信号を設定します。</p> <p>[SDI] : [リンクタイプ]で[シングル(オート)]を選択すると、入力信号のペイロードIDを読み取り自動で映像を表示します。入力信号の種類がわかっている場合は、[シングル(マニュアル)]を選択し、[手動設定]で入力信号と同じ信号を設定すると、入力信号と同じ信号に固定できます。</p> <p>[手動設定]では、以下の項目を設定してから[設定]を選び【➡】ボタンを押します。[手動設定]の項目のすべての組み合わせに対応しているわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [SDIタイプ] : 表示されたSDIタイプから選択します。 • [解像度] : 表示された解像度から選択します。 • [リフレッシュレート] : 表示されたリフレッシュレートから選択します。 • [カラーサンプリング] : 表示されたカラーサンプリングから選択します。 • [色深度] : 表示された色深度から選択します。 • [初期化] : [手動設定]の調整値を初期値に戻します。
カラーキャリブレーション	<p>[自動調整開始] : 画面全体の色味の変化を自動で補正します。</p> <p>☛ 「カラーキャリブレーション」 p.209</p> <p>[元に戻す] : 自動調整開始前の画質に戻します。</p> <p>[やり直し] : [元に戻す]を選択した後に[やり直し]を選択すると、自動調整後の状態に戻ります。</p> <p>[ユニフォーミティ] : 画面全体の色味のバランスを調整します。</p> <p>☛ 「ユニフォーミティ」 p.212</p> <p>[初期化] : [カラーキャリブレーション]の調整値を初期値に戻します。</p>

サブメニュー	機能
マルチプロジェクション	<p>本機を2台以上並べて使用するときの設定を行います。</p> <p>☛ 「マルチプロジェクション機能」 p.85</p> <p>[プロジェクターID] : 1~30までのIDを設定します。[オフ]はIDを設定していない状態です。</p> <p>☛ 「IDの設定」 p.43</p> <p>[グルーピング] : 本機を複数台使用して1つの映像を投写するときに、使用するプロジェクターを選択します。</p> <p>[タイリング] : 映像の分割数と、各映像の投写位置を設定します。</p> <p>☛ 「タイリング」 p.87</p> <p>[幾何学歪み補正] : 映像のゆがみを補正します。</p> <p>☛ 「映像のゆがみを補正する」 p.62</p> <p>[エッジブレンディング] : 各映像のつなぎ目を補正し、目立たなくします。</p> <p>☛ 「エッジブレンディング」 p.89</p> <p>[黒レベル調整] : 映像が重なっている箇所と重なっていない箇所の明るさや色合いの差を調整します。</p> <p>☛ 「黒レベル調整」 p.91</p> <p>[表示倍率] : 本機を複数台使用して1つの映像を投写するときに、それぞれのプロジェクターで表示する映像の範囲を調整します。</p> <p>☛ 「映像を切り出して表示する」 p.96</p> <p>[初期化] : [マルチプロジェクション]メニューの調整値を初期値に戻します。</p> <p>[スクリーンマッチング] : 各映像の色合いや明るさを補正します。</p> <p>☛ 「スクリーンマッチング」 p.94</p>
スケジュール設定画面へ	プロジェクターが決まった時刻に特定の動作をするスケジュールを設定します。
言語	メッセージやメニューに表示する言語を設定します。

サブメニュー	機能
初期化	<p>[拡張設定]メニューの調整値を初期値に戻します。ただし、以下の項目を除きます。</p> <p>[スクリーンタイプ]、[スクリーン位置]、[液晶アライメント]、[ユニフォーミティー]、[設置モード]、[高地モード]、[起動時入力検出]、[シャッター解除]、[レンズタイプ]、[日付&時刻]、[レンズキャリブレーション]、[A/V出力]、[待機モード]、[制御通信]、[Extron XTP]、[プロジェクトーID]、[カラーキャリブレーション]、[マルチプロジェクトション]、[言語]</p> <p>全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。</p> <p>☞ 「初期化メニュー」 p.158</p>

- ※ [パスワードプロテクト]の[ユーザー口ゴ保護]を[オン]にしていると、ユーザー口ゴに関する設定の変更はできません。[ユーザー口ゴ保護]を[オフ]にしてから設定を変更してください。
- ☞ 「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」 p.111

ネットワークメニュー

[パスワードプロテクト]の[ネットワーク保護]を[オン]に設定していると、メッセージが表示されネットワークの設定を変更することはできません。[ネットワーク保護]を[オフ]にしてからネットワークの設定を行ってください。

☞ 「パスワードプロテクトの設定方法」 p.111



【戻る】/[●]:戻る 【◆]:選択

【メニュー】:終了

サブメニュー	機能
無線電源	本機とコンピューターを無線LANで接続するときは[無線LANオン]に設定します。無線LANで接続しないときは、[オフ]に設定しておくと他人からの不正なアクセス等を防ぐことができます。

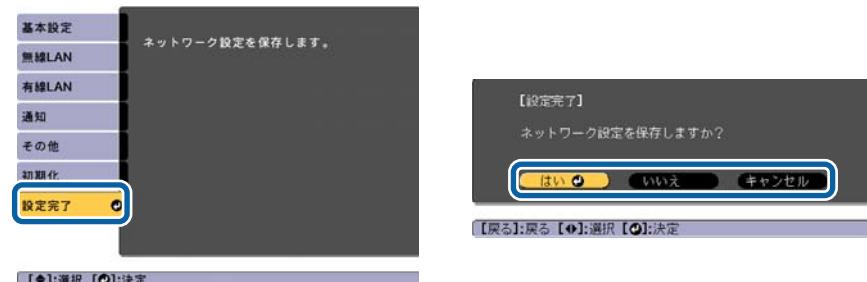
サブメニュー	機能
ネットワーク情報 報-無線LAN	<p>以下のネットワーク設定状況を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 接続モード 無線LAN方式 アンテナレベル プロジェクトターナー名 SSID DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス MACアドレス 地域コード <p>[IPv6]を選択すると以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> IPv6アドレス(手動)： IPv6アドレス、プレフィックス長、ゲートウェイアドレス IPv6アドレス(自動)： 一時アドレス、リンクローカルアドレス、ステートレスアドレス、ステートフルアドレス
ネットワーク情報 報-有線LAN	<p>以下のネットワーク設定状況を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトターナー名 DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス MACアドレス IPv6アドレス(手動)： IPv6アドレス、プレフィックス長、ゲートウェイアドレス IPv6アドレス(自動)： 一時アドレス、リンクローカルアドレス、ステートレスアドレス、ステートフルアドレス
QRコード表示	Epson iProjectionを使って、iOSまたはAndroid機器を接続するときに読み取るQRコードを表示します。

サブメニュー	機能
ネットワーク設定画面へ	以下の項目についてネットワークの設定を行います。 [基本設定]、[無線LAN]、[有線LAN]、[通知]、[その他]、[初期化]
リモートカメラアクセス	投写映像を遠隔地で確認したい場合は、[オン]にします。 また、Epson Web Controlのリモートカメラアクセスで撮影するときのパスワードを設定します。 ☞「遠隔地から投写映像を確認する」p.221

ネットワークメニュー操作上のご注意

トップメニュー やサブメニューの選択、選択した項目を変更する操作は環境設定メニューと同様に行います。

ただし、終了する際には必ず[設定完了]メニューを選択して、[はい]、[いいえ]、[キャンセル]のいずれかを選択します。[はい]または[いいえ]を選択すると、環境設定メニューに戻ります。



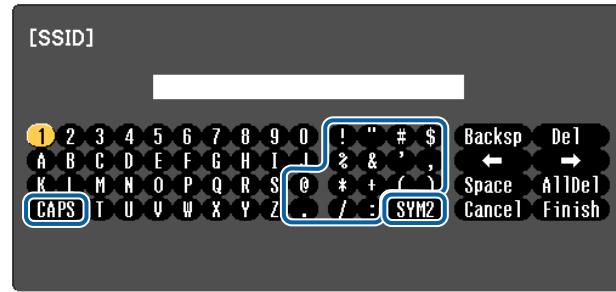
[はい]： 設定を保存してネットワークメニューを終了します。

[いいえ]： 設定を保存しないでネットワークメニューを終了します。

[キャンセル]： ネットワークメニューを続けます。

ソフトキーボードの操作

ネットワークメニューでは英数字を入力して設定する項目があります。その際には以下のようなソフトキーボードが表示されます。【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで目的のキーにカーソルを移動し、【↔】ボタンを押して入力します。数字は、リモコンの【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押して入力することもできます。入力後キーボードの【Finish】を選択すると入力が確定します。キーボードの【Cancel】を選択すると入力は取り消されます。

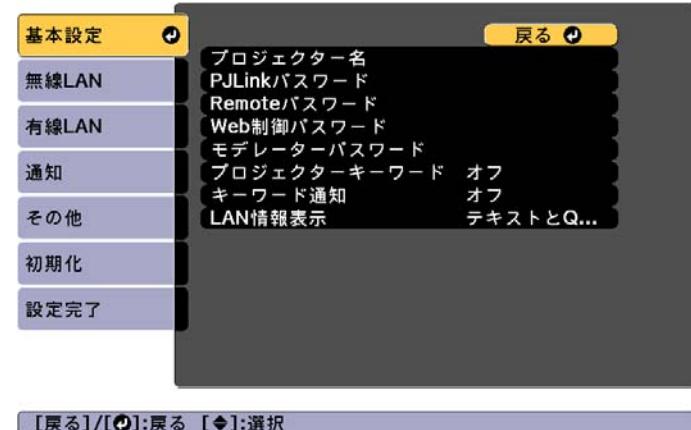


- 【CAPS】キーを選択して【↔】ボタンを押すたびに、アルファベットキーの大文字/小文字が切り替わります。
- 【SYM1/2】キーを選択して【↔】ボタンを押すたびに、枠で囲った部分の記号キーが切り替わります。

入力できる文字の種類は以下のとおりです。

数字	0123456789
アルファベット	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
記号	!"#\$%&'()*+,-./;:<=>?@[¥]^_`{ }~

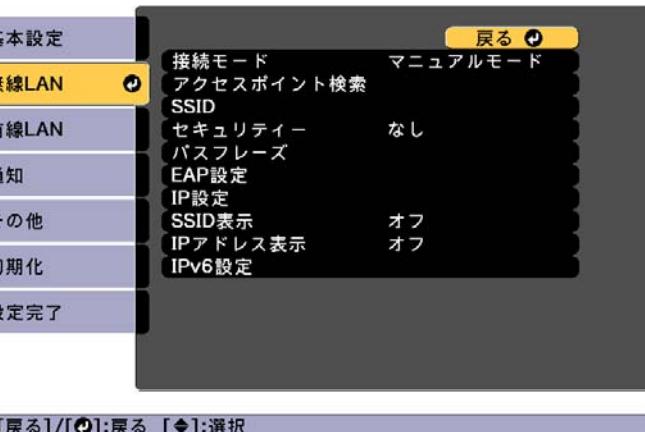
基本設定メニュー



サブメニュー	機能
プロジェクター名	ネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。 変更するときは、半角英数字16文字以内で入力します。(* +,-./;:<=>?@[¥]` スペースは使用不可。)
PJLink パスワード	PJLink対応アプリケーションソフトを使って本機にアクセスするときの認証用パスワードを設定します。 半角英数字で最大32文字まで入力できます。(@以外の記号とスペースは使用不可。) ☞「PJLinkについて」 p.226
Remoteパスワード	Epson Web ControlのRemoteを使用するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で最大8文字まで入力できます。(*:スペースは使用不可。)デフォルトのユーザー名は「EPSONREMOTE」、デフォルトのパスワードは「guest」です。 ☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.215

サブメニュー	機能
Web 制御 パスワード	Epson Web ControlのWeb制御で本機を設定・制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字8文字以内で入力します(*:スペースは使用不可)。デフォルトのユーザー名は「EPSONWEB」、デフォルトのパスワードは「admin」です。 ☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.215
モデレーターパスワード	Epson iProjectionを使って、モデレーターとして本機に接続するときの認証用パスワードを4桁の数字で入力します。（デフォルトのパスワードは設定されていません。）
プロジェクターキーワード	[オン]にすると、他のユーザーが誤って映像を投写しないように、セキュリティーパスワードを有効にできます。コンピューターやモバイルデバイスの映像を投写するときは、投写画面に表示されるキーワードをEpson iProjectionで入力する必要があります。
キーワード通知	[オン]にすると、Epson iProjectionでプロジェクターに接続したときに、投写画面にプロジェクターキーワードを表示します。[プロジェクターキーワード]が[オン]に設定されているときのみ有効です。
LAN情報表示	本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。QRコードを表示させると、Epson iProjectionでQRコードを読み取るだけでネットワーク接続ができるようになります。初期値は、[テキストとQRコード]に設定されています。

無線LANメニュー



[戻る]/[●]:戻る [◆]:選択

サブメニュー	機能
接続モード	本機とコンピューターを無線LANで接続するときの接続モードを設定します。 [かんたんモード]：スマートフォンやタブレット端末、コンピューターと無線で直接接続できます。 [マニュアルモード]：無線LANアクセスポイント経由でスマートフォンやタブレット端末、コンピューターと接続できます。インフラストラクチャーモードで接続が構成されます。
アクセスポイント検索	接続モードを[マニュアルモード]に設定しているときは、周囲のアクセスポイントを検索し、その中から接続するSSIDを指定できます。アクセスポイントの設定によっては一覧に表示されない場合があります。 ☞「アクセスポイント検索画面」 p.153
SSID	SSIDを入力します。本機が参加する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを入力します。半角英数字で最大32文字まで入力できます。

サブメニュー	機能
セキュリティー	<p>無線LANの設定に合わせてセキュリティーの種類を選択します。</p> <p>[なし]：セキュリティーを設定しません。</p> <p>[WPA2-PSK]：WPA2によるセキュリティーを使って通信を行います。暗号化にはAES方式を使用します。コンピューターからプロジェクトに接続するときは、パスフレーズに設定した値を入力してください。</p> <p>[WPA/WPA2-PSK]※：WPAパーソナルモードで接続を行います。暗号化方式はアクセスポイントの設定に応じて自動的に選択されます。アクセスポイントと共にパスフレーズを設定します。</p> <p>[WPA2-EAP]※：WPA2によるセキュリティーを使って通信を行います。暗号化方にはAESを使用します。</p> <p>[WPA/WPA2-EAP]※：WPAエンタープライズモードで接続を行います。暗号化方式はアクセスポイントの設定に応じて自動的に選択されます。</p>
パスフレーズ	<p>[セキュリティー]で[WPA2-PSK] または [WPA/WPA2-PSK]を選択したときは、ネットワークに接続するためのパスフレーズを入力します。</p> <p>半角英数字で8文字以上、63文字まで入力できます。</p> <p>環境設定メニューで入力できる文字数は32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。</p> <p>☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」p.215</p> <p>接続モードが[かんたんモード]に設定されているときは、初期状態でパスフレーズが設定されています。</p>

サブメニュー	機能
EAP設定	<p>WPA2-EAP、WPA/WPA2-EAPの認証用プロトコルを設定します。</p> <p>[EAP種類]：認証プロトコルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PEAP]：Windows Serverで広く使われている認証プロトコルです。 • [PEAP-TLS]：Windows Serverで使われている認証プロトコルです。クライアント証明書を使用する場合に選択します。 • [EAP-TLS]：一般的に広く使われている、クライアント証明書を使用する認証プロトコルです。 • [EAP-FAST]、[LEAP]：これらの認証プロトコルが使用されているときに指定します。 <p>[ユーザー名]：認証に使用するユーザー名を入力します。半角英数字で最大64文字まで入力できます。</p> <p>環境設定メニューで入力できる文字数は最大32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。</p> <p>☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」p.215</p> <p>ドメイン名を含めて入力する必要があるときは、ユーザー名の前にバックスラッシュで区切ってドメイン名を追加します(ドメイン名\ユーザー名)。</p> <p>[パスワード]：PEAP、EAP-FAST、LEAPで認証に使用するパスワードを入力します。半角英数字で最大64文字まで入力できます。環境設定メニューで入力できる文字数は最大32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。</p> <p>☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」p.215</p> <p>パスワードを入力し、[Finish]を選択すると、パスワードはアスタリスク(*)で表示されます。</p> <p>[クライアント証明書]：PEAP-TLS、EAP-TLSで使用するクライアント証明書をインポートします。</p> <p>[サーバー証明書の検証]：[オン]に設定すると、認証サーバーの証明書の正当性を検証します。サーバー証明書を検証するためのCA証明書を設定する必要があります。</p>

サブメニュー	機能
	<p>[CA証明書]：PEAP、PEAP-TLS、EAP-TLS、EAP-FASTで使用するCA証明書をインポートします。</p> <p>[認証サーバー名]：認証サーバーの名前を指定します。半角英数字で最大32文字まで入力できます。</p>
チャンネル設定	かんたんモードで接続するときに使用するチャンネルを選択できます。他の電波の干渉を受けるときは、別のチャンネルに設定してください。
IP設定*	<p>ネットワークの設定を行います。</p> <p>[DHCP]：[オン]にすると、DHCPを使用してネットワークを設定します。ここで[オン]に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。</p> <p>[IPアドレス]：本機に割り当てるIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)</p> <p>[サブネットマスク]：本機のサブネットマスクを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255</p> <p>[ゲートウェイアドレス]：本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)</p>
SSID表示	LAN待機画面上にSSIDを表示させないときは、[オフ]に設定します。
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、[オフ]に設定します。

サブメニュー	機能
IPv6設定	<p>IPv6プロトコルを使用するための設定をします。</p> <p> • 本機では以下の機能がIPv6プロトコルに対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Epson Web Control - PJLink <p>• 手動でIPv6アドレスを設定する場合は、Epson Web Controlの[詳細設定]で設定します。</p> <p> 「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.215</p> <p>[IPv6]：IPv6プロトコルを使用するときは[オン]にします。IPv6使用中は必ず1個のリンクローカルアドレスが設定されています。fe80::と本機のMACアドレスから生成されたインターフェイスIDで構成されます。</p> <p>[自動構成]：RA(Router Advertisement)からIPv6アドレスを自動で取得する場合は[オン]にします。アドレスの構成は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステートレスアドレス(0～6個)：RA(Router Advertisement)から取得したプレフィックスと本機のMACアドレスから生成されたインターフェイスIDを組み合わせてアドレスを自動構成します。 • ステートフルアドレス(0～1個)：DHCPv6を使ってDHCPサーバーからアドレスを自動で構成します。 <p>[一時アドレスの使用]：[自動構成]が[オン]のときに一時IPv6アドレス(0～1個)を有効にするには[オン]にします。</p>

※ 接続モードを[マニュアルモード]に設定しているときのみ選択可能。

セキュリティーの種類

マニュアルモードでお使いの際は、必ずセキュリティーの設定を行うことをお勧めします。

WPAは無線ネットワークのセキュリティ強度を向上するための暗号化規格です。本機は暗号化方式TKIPとAESに対応しています。

WPAは、ユーザー認証機能も備えています。WPAの認証方式には、認証サーバーを使う方法と、認証サーバーは使わずコンピューターとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバーを使わない認証方法に対応しています。



設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。

アクセスポイント検索画面

検出されたアクセスポイントが一覧で表示されます。



【戻る】/[①]: 戻る 【◆】: 選択

サブメニュー	機能
更新	アクセスポイントを再検出します。
■	すでに設定済みのアクセスポイントを表します。

サブメニュー	機能
■	セキュリティが設定されているアクセスポイントを表します。 セキュリティが設定されていないアクセスポイントを選択すると、無線LANメニューに移行します。 セキュリティが設定されているアクセスポイントを選択すると、セキュリティメニューに移行します。アクセスポイントのセキュリティ設定に応じて、設定するセキュリティの種類を選択してください。

有線LANメニュー



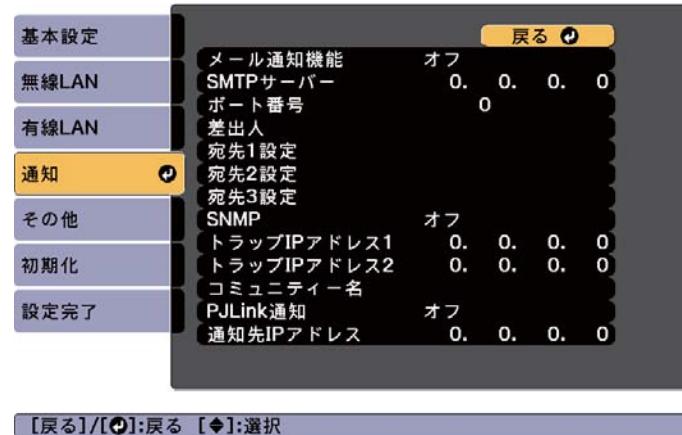
サブメニュー	機能
IP設定	<p>以下のアドレスに関する設定を行います。</p> <p>[DHCP] : [オン]にすると、DHCPを使用してネットワークを設定します。ここで[オン]に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。</p> <p>[IPアドレス] : 本機に割り当てるIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)</p> <p>[サブネットマスク] : 本機のサブネットマスクを入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255</p> <p>[ゲートウェイアドレス] : 本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)</p>

サブメニュー	機能
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、[オフ]に設定します。
IPv6設定	<p>IPv6プロトコルを使用するための設定をします。</p> <p> • 本機では以下の機能がIPv6プロトコルに対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Epson Web Control - PJLink <p>• 手動でIPv6アドレスを設定する場合は、Epson Web Controlの[詳細設定]で設定します。</p> <p> 「Webブラウザーを使って設定を変更する (Epson Web Control)」 p.215</p>

通知メニュー

プロジェクトが異常／警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。

☞ 「異常通知メールの見方」 [p.223](#)



サブメニュー	機能
メール通知機能	[オン]にすると、プロジェクトが異常/警告状態になったときに、設定した宛先にメールで通知します。
SMTPサーバー	本機が使うSMTPサーバーのIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。初期値は25です。1～65535までの有効な数値を入力できます。

サブメニュー	機能
差出人	送信者のメールアドレスを入力します。半角英数字で最大64文字まで入力できます。環境設定メニューで入力できる文字数は最大32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。("(),:;<>[\]スペースは使用不可。) ☞ 「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.215
宛先1設定/宛先2設定/宛先3設定	通知メールの送信先のメールアドレスと、通知する内容を設定します。送信先は最大3件まで登録できます。半角英数字で最大64文字まで入力できます。環境設定メニューで入力できる文字数は最大32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。("(),:;<>[\]スペースは使用不可。) ☞ 「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.215
SNMP	[オン]にすると、SNMPを使用して本機の監視をします。本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。初期値は[オフ]に設定されています。
トラップIPアドレス1/トラップIPアドレス2	SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
コミュニティ名	SNMPのコミュニティ名を設定します。半角英数字で最大32文字まで入力できます。（@以外の記号とスペースは使用不可。）
PJLink通知	PJLinkの通知機能を使うときは[オン]に設定します。

サブメニュー	機能
通知先IPアドレス	PJLink通知機能が有効なときに、プロジェクターのステータスを通知するコンピューターのIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)

その他メニュー

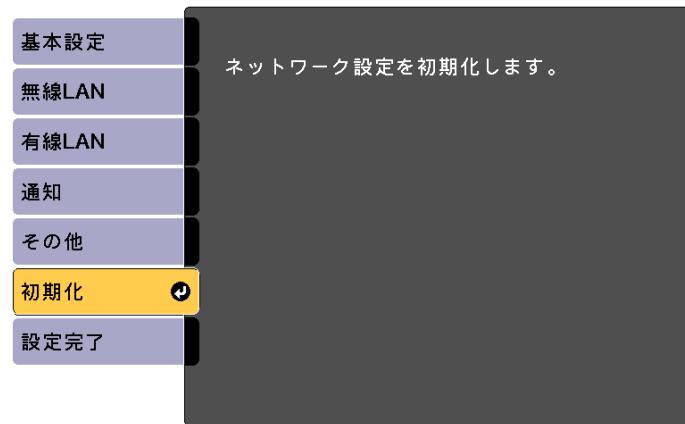


サブメニュー	機能
セキュアHTTP	Epson Web Controlでのプロジェクターとコンピューターの通信を暗号化し、セキュリティーを強化します。セキュリティーの設定をEpson Web Controlで行う場合は、「[オン]」に設定することをお奨めします。
Webサーバー証明書	セキュアHTTPで使用するWebサーバー証明書をインポートします。
優先ゲートウェイ	優先ゲートウェイを[有線]/[無線]のどちらにするか選択します。

サブメニュー	機能
AMX Device Discovery	AMX Device Discoveryによる本機の検出を有効にしたいときは[オン]に設定します。AMX社のコントローラーやAMX Device Discoveryで制御する環境に接続していないときは、[オフ]に設定してください。
Crestron Connected	Crestron Connected®を使用して、ネットワーク経由で本機の監視・制御を行うときのみ[オン]に設定します。通常は[オフ]に設定してください。 ☞「Crestron Connected®について」 p.226 設定の変更は、本機を再起動したときに有効になります。 [オン]に設定したときは、Epson Projector Managementのメッセージ配信機能はご利用になれません。
Art-Net	[Art-Net] : Art-Netを使ってプロジェクターを制御するときは[オン]に設定します。 ☞「Art-Netについて」 p.231 [Net]/[Sub-Net]/[Universe] : プロジェクターのNet/Sub-Net/Universeを設定します。 [開始チャンネル] : Art-Netを処理する開始チャンネルを設定します。 ☞「チャンネル定義」 p.231
メッセージ配信	Epson Projector Managementのメッセージ配信機能で配信された情報を受信するには[オン]に設定します。 ソフトウェアおよび取扱説明書は、以下のWebサイトよりダウンロードしてください。 http://www.epson.jp/download/

初期化メニュー

ネットワークの設定をすべて初期化します。



[◆]:選択 [●]:決定

サブメニュー	機能
ネットワーク設定を初期化します。	ネットワーク設定をすべて初期化するときは[はい]を選択します。

情報メニュー(表示のみ)

投写している映像信号や本機の状態を確認できます。現在投写している入力ソースにより表示される項目が異なります。



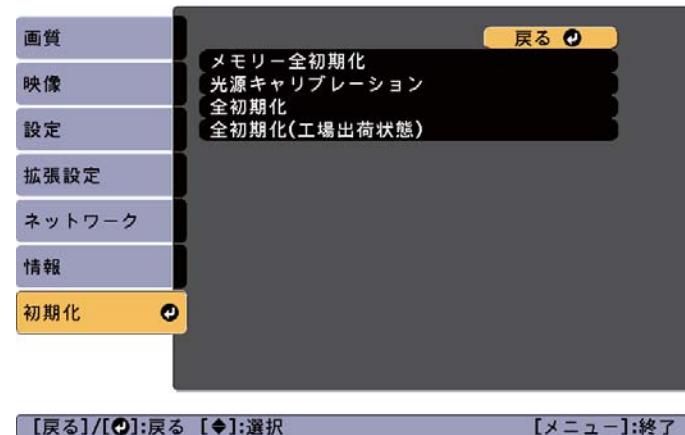
[戻る]/[●]:戻る [◆]:選択 [メニュー]:終了

サブメニュー	機能
プロジェクト情報	プロジェクトの電源をオンにしてからの使用時間を表示します。
入力ソース	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示しています。
入力信号	[映像]メニューの[入力信号方式]の設定内容を入力ソースに応じて表示しています。
入力解像度	入力解像度を表示しています。
リフレッシュレート	リフレッシュレートを表示しています。
同期情報	映像信号の情報を表示しています。お問い合わせ時に、この値を確認することができます。
カラーフォーマット	カラースペースとダイナミックレンジの情報を表示します。
ステータス	本機に発生した異常についての情報です。お問い合わせ時に、この値を確認することができます。
シリアル番号	本機のシリアル番号を表示します。

サブメニュー		機能
	レンズタイプ	お使いのレンズの型番を表示します。
	Event ID	ネットワークを介して本機とコンピューターを接続しているときにトラブルが生じると、トラブルの内容が番号(Event ID)で表示されます。Event IDの見方は、次を参照してください。 ☞「Event IDについて」 p.200
	HDBaseT信号レベル	HDBaseT端子から入力される映像信号のレベルを表示しています。黄色で表示される場合は、信号レベルが減衰しています。目安として、以下の信号レベルを推奨します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1080p : 16dB以上 • 4K : 18dB以上
光源情報	光源使用時間	光源モード別に光源の使用時間を表示します。
	残り時間目安	[一定モード]が[オン]のときに、明るさを一定に保つことができる時間の目安を表示します。
バージョン	Main Video2 Sub Sub2 HDBaseT HDBaseT2 SDI Status Monitor AC Monitor	本機のソフトウェアや本機に接続された機器のバージョンを表示します。
バージョン (Slot)	Slot1 Slot2	Slotに接続されたインターフェイスボードのバージョンを表示します。
ステータス情報		本機の状態を表示します。 ☞「ステータス情報の見方」 p.177
電圧警告情報		電源電圧についての警告を表示します。

サブメニュー	機能
温度警告情報	高温異常についての警告を表示します。WarningまたはErrorが表示された状態で[詳細]ボタンを選択すると、異常検出前後の詳細なログを確認できます。
電源オンオフ履歴	電源オン、電源オフのログを表示します。

初期化メニュー



サブメニュー	機能
メモリー全初期化	[メモリー]、[レンズポジション]、[幾何学歪み補正]で登録したすべての名称と設定値を初期化します。 ☞「メモリー機能」 p.105

サブメニュー	機能
光源キャリブレーション	<p>光源キャリブレーションに関する設定を行います。光源キャリブレーションを実行すると、光源のホワイトバランスや明るさレベルのずれが補正されます。定期的に実行することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none">・[今すぐ実行]：光源キャリブレーションを開始します。以下の場合は開始できません。<ul style="list-style-type: none">・本機の電源を入れて30分以内のとき・使用する環境の温度が高く、光源の明るさが自動的に落ちているとき・[定期的に実行]：[オン]に設定すると、使用時間が100時間を経過するたびに光源キャリブレーションを行います。マルチプロジェクトで調整した投写映像を維持するために[オフ]を選択したときは、[今すぐ実行]で補正を実行するか、スケジュール機能で[光源キャリブレーション]を定期的に実行するよう設定してください。・[スケジュール設定画面へ]：スケジュール設定画面を表示します。光源キャリブレーションを定期的に実行するよう設定してください。・[最終実行日時]：光源キャリブレーションを実行した最後の日時を表示します。
全初期化	環境設定メニューの全項目を初期設定に戻します。 [入力信号方式]、[メモリー]、[ユーザーロゴ]、[ネットワーク]メニューの全項目、[言語]、[日付&時刻]、[液晶アライメント]、[ユニフォーミティー]、[レンズキャリブレーション]、[カラーキャリブレーション]、[グルーピング]、[スクリーンマッチング]、[カラーマッチング]、[使用時間]、[光源情報]は初期値に戻りません。
全初期化(工場出荷状態)	本機のすべての設定を初期化します。ただし、[日付&時刻]、[使用時間]、[光源情報]、パスワードプロテクトされている項目とそのパスワードは初期化されません。初期化するには初期化専用のパスワードが必要です。初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。必ず任意のパスワードに変更してください。

1台のプロジェクターで設定した環境設定メニューの内容を、他の複数のプロジェクターに一括で設定できます（一括設定機能）。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。

以下のいずれかの方法で設定します。

- USBメモリーを使って設定する。
- コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する。
- Epson Projector Managementを経由して設定する。

本書では、USBメモリーを使う方法とUSBケーブルを使う方法を説明します。



- 情報メニューの光源情報、ステータス情報の内容は一括設定機能では反映されません。
- 投写画面の調整を行う前に一括設定を行ってください。一括設定機能では、幾何学歪み補正などの投写画面の調整値も反映されます。投写画面の調整後に一括設定を行うと、調整した投写画面が変わってしまうことがあります。
- 一括設定機能を使うと、登録してあるユーザーロゴも他のプロジェクターに反映されます。機密情報などをユーザーロゴとして登録しないでください。
- 以下の設定をコピーしたくないときは[一括設定範囲]を[一部]に設定してください。
 - [映像]メニューの[EDID]
 - [ネットワーク]メニュー（[通知]メニュー、[その他]メニューを除く）
 - ☛ [拡張設定] - [動作設定] - [アドバンスト] - [一括設定範囲]
[p.142](#)
- パスワードプロテクトが設定されている項目はコピーされません。

⚠ 注意

一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。

USBメモリーを使って設定する

USBメモリーを使って一括設定する方法を説明します。

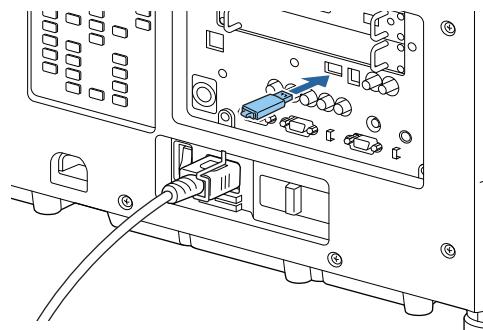


- FAT形式でフォーマットしたUSBメモリーを使用してください。
- セキュリティー機能が付いているUSBメモリーでは、一括設定機能が利用できません。セキュリティー機能の付いていないUSBメモリーをお使いください。
- USBカードリーダーやUSBハードディスクでは、一括設定機能は利用できません。

設定値をUSBメモリーに保存する

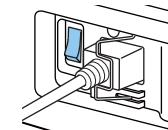
1 プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。

2 USBメモリーをプロジェクターのUSB-A端子に接続します。

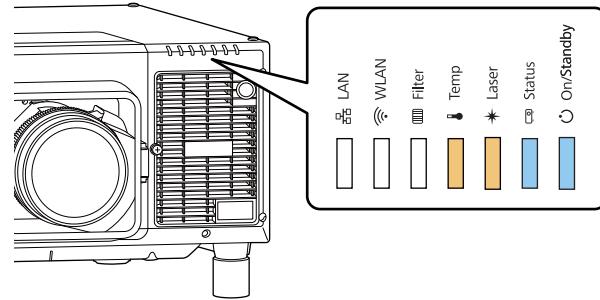


- USBメモリーは、プロジェクターに直接接続してください。USBハブを介してUSBメモリーを接続すると、設定値が正常に保存されないことがあります。
- 空のUSBメモリーを接続してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく保存できないことがあります。
- USBメモリー内に他のプロジェクターの一括設定ファイルを保存しているときは、ファイルを削除するかファイル名を変更してください。一括設定機能では、一括設定ファイルの上書きはできません。
- 一括設定したファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後ろに任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、プロジェクターが正しく認識できないことがあります。
- 2バイト以上の文字は、ファイル名に使えません。

3 【戻る】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、
【戻る】ボタンを離してください。



電源 青点灯	Status 青点灯	Laser 橙点灯	Temp 橙点灯
-----------	---------------	--------------	-------------

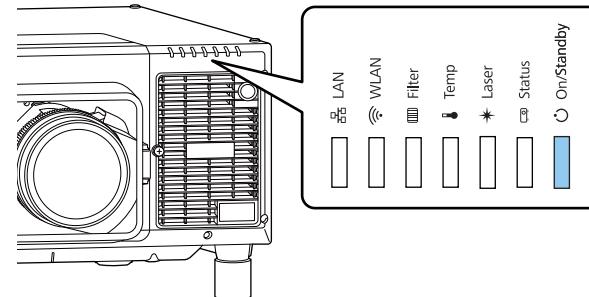
インジケーターが点滅に変わると、一括設定ファイルの書き込み
が始めります。



注意

- ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜いたり主電源スイッチをオフにしたりしないでください。電力が供給されなくなると、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- ファイルの書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

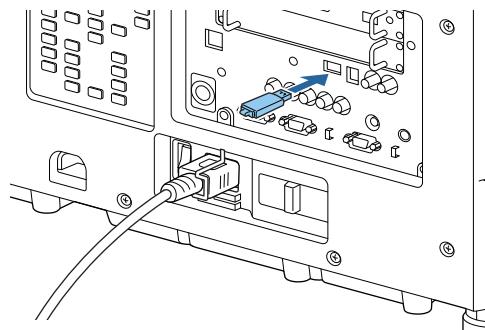


電源
青点灯

プロジェクターがスタンバイ状態になったら、USBメモリーを抜きます。

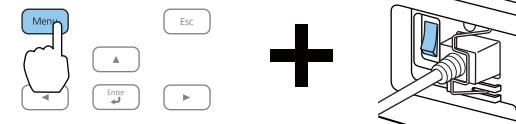
保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

- 1 プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
- 2 設定値が保存されているUSBメモリーを、プロジェクターのUSB-A端子に接続します。

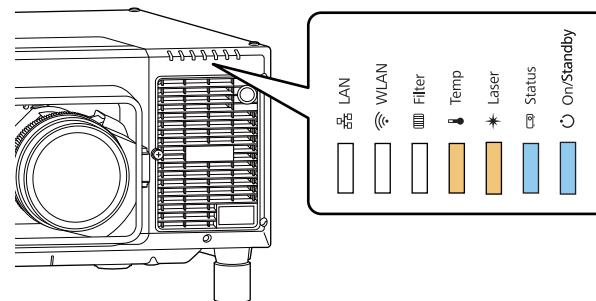


- USBメモリー内に一括設定ファイルが1～3種類あるとき、同じ型番のプロジェクターのファイルを反映します。同じ型番のプロジェクターのファイルが2つ以上あるときは、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリー内に4種類以上の一括設定ファイルがあるとき、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリーには一括設定ファイル以外のデータを入れないでください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく反映できないことがあります。

- 3 【メニュー】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。



電源	Status	Laser	Temp
青点灯	青点灯	橙点灯	橙点灯

インジケーターは、約75秒点灯します。

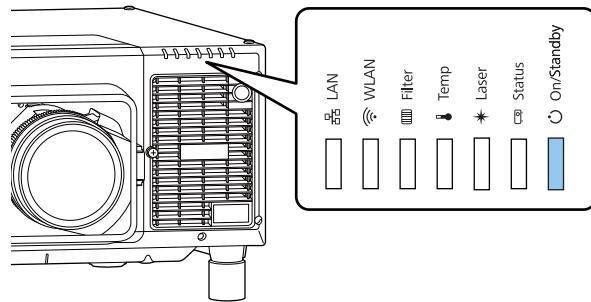
すべてのインジケーターが点滅に変わると、設定値の書き込みが始まります。



注意

- 設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜いたり主電源スイッチをオフにしたりしないでください。電力が供給されなくなると、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- 設定値の書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

- 4 書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。



電源
青点灯

プロジェクターがスタンバイ状態になったら、USBメモリーを抜きます。

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する

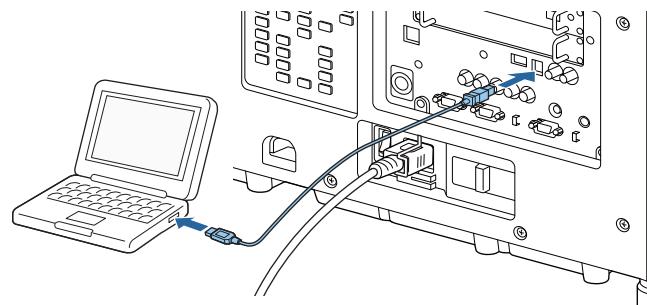


一括設定機能の対応OSは以下の通りです。

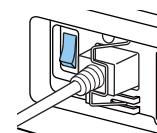
- Windows Vista以降
- OS X 10.7.x以降

設定値をコンピューターに保存する

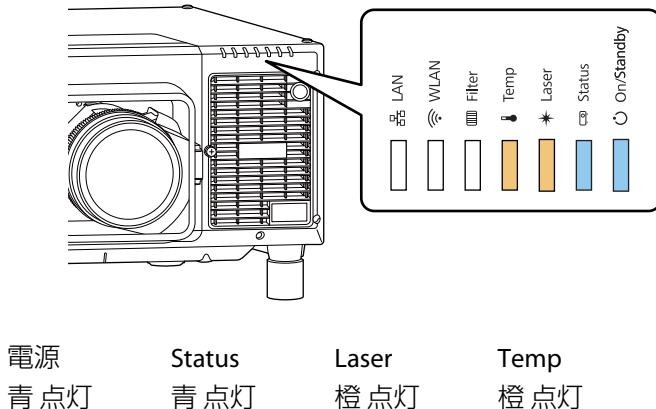
- 1 プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
- 2 コンピューターのUSB端子とプロジェクターのService端子をUSBケーブルで接続します。



- 3 【戻る】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、
【戻る】ボタンを離してください。



コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

- 4** リムーバブルディスクを開き、一括設定ファイル(PJCONFDATA.bin)をコンピューターに保存します。



一括設定ファイルのファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後に任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、正しく認識できないことがあります。

- 5** コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜きます。

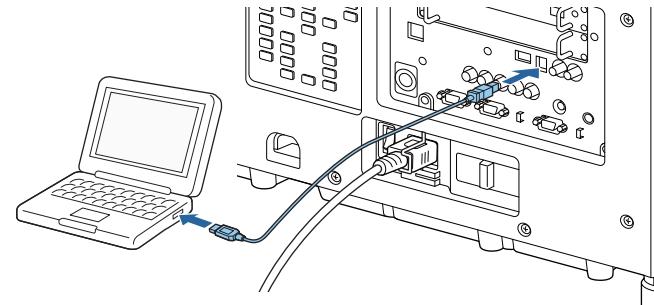


Macをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

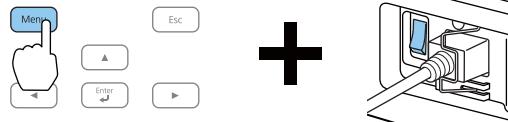
プロジェクターがスタンバイ状態になります。

保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

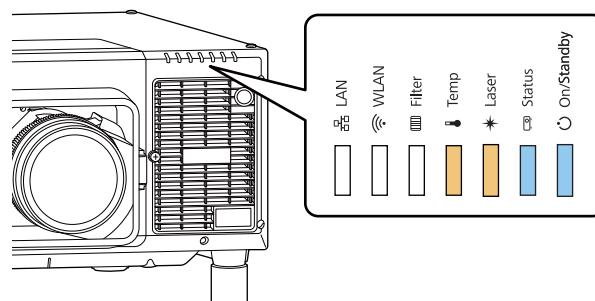
- 1 プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
- 2 コンピューターのUSB端子とプロジェクターのService端子をUSBケーブルで接続します。



3 【メニュー】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。



電源	Status	Laser	Temp
青 点灯	青 点灯	橙 点灯	橙 点灯

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

4 保存した一括設定ファイル(PJCONFDATA.bin)をリムーバブルディスクの最上位フォルダーにコピーします。

 リムーバブルディスク上に、一括設定ファイル以外のファイルやフォルダーをコピーしないでください。

5 コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜きます。



Macをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

インジケーターが点滅すると、設定値の書き込みが始まります。

 **注意**

設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜いたり主電源スイッチをオフにしたりしないでください。電力が供給されなくなると、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

設定がうまくいかないときは

エラーが生じたときは、インジケーターでお知らせします。インジケーターの状態をご確認ください。

インジケーターの状態	対処法
 Temp : 橙 速点滅 Laser : 橙 速点滅	一括設定ファイルに異常があるか、USBメモリーが正しく接続できていない可能性があります。USBメモリーを取り外し、プロジェクターの電源コードを抜いて差し直してから、もう一度お試しください。
 Temp : 橙 速点滅 Laser : 橙 速点滅 Status : 青 速点滅 電源 : 青 速点滅	設定値の書き込みに失敗して、プロジェクターのファームウェアに異常が生じた可能性があります。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。  『お問い合わせ先』

困ったときに

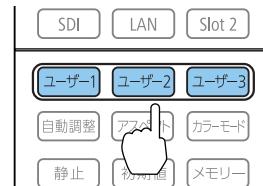
ここでは、想定されるトラブルと、その対処法などについて説明しています。

トラブル発生時の解決方法を投写映像に表示できます。質問に答えていくと適切な状態に設定することもできます。

 ヘルプ画面を表示する前に、[ユーザー]ボタンに[ヘルプ]を割り当ててください。
 ➡ [設定] - [ユーザー]ボタン p.141

1 [ヘルプ]が割り当てられた[ユーザー]ボタンを押します。

ヘルプ画面が表示されます。

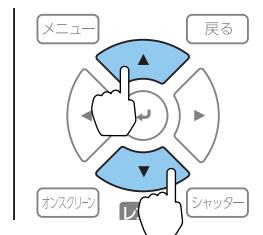


2 項目を選択します。

 [ヘルプ]
 映像が小さい。 ?
 映像がゆがんで表示される。
 色合いがおかしい。
 動画部分が表示されない。

【◆】:選択 【○】:決定

【メニュー】:終了



3 項目を決定します。



以下の画面のように質問と対処法が表示されます。
 【メニュー】ボタンを押すとヘルプは解除されます。

映像が小さい。

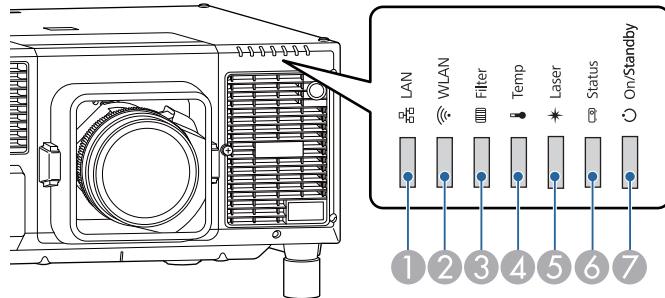
- ②ズームが最小になってしまいませんか?
 -[ズーム]ボタンを押して、映像の大きさを変更してください。
- ②プロジェクターがスクリーンに近すぎませんか?
 -プロジェクターをスクリーンから離してください。

【戻る】:戻る

【メニュー】:終了

 ヘルプ機能を使ってもわからないときは、以下をご覧ください。
 ➡ 「インジケーターの見方」 p.170

本機には、次の7種類のインジケーターがあり本機の状態をお知らせします。



① LANインジケーター

有線LANまたはHDBaseTの状態をお知らせします。

② WLANインジケーター

無線LANの状態をお知らせします。

③ Filterインジケーター

エアフィルターの状態をお知らせします。通常は消灯しています。

④ Tempインジケーター

内部温度の状態をお知らせします。通常は消灯しています。

⑤ Laserインジケーター

光源の状態をお知らせします。

⑥ Statusインジケーター

本機の状態をお知らせします。

⑦ 電源インジケーター

本機の状態をお知らせします。

通常動作時のインジケーター表示は以下のとおりです。

状態依存とは、エラーが起きたときのプロジェクターボディの状態によって、点灯、点滅、もしくは消灯していることを示しています。

インジケーター					本機の状態	説明
電源	Status	Laser	Temp	Filter		
青点灯	消灯	消灯	消灯	消灯	スタンバイ状態	本機に電力が供給されている状態です。この状態でリモコンまたは操作パネルの【①】ボタンを押すと投写を開始します。 (電源コードを抜いても電源インジケーターがしばらく点灯したままになることがありますが故障ではありません)。
						ネットワーク監視状態 ネットワーク経由で、本機の監視と制御を行っている状態です([待機モード]を[通信オン]にしているとき)。 この状態のときに電源コードの抜き差しをすると、電源インジケーターが青色に点滅します。

インジケーター					本機の状態	説明
電源	Status	Laser	Temp	Filter		
■ 青点灯	■ 青点滅	■ 状態依存	□ 消灯	□ 消灯	ウォームアップ状態	本機の電源を入れた直後の状態です。光源の点灯後、約30秒間ウォームアップ状態になります。 ウォームアップ中は【↓】ボタンの操作が無効になります。
■ 青点灯	■ 青点灯	■ 状態依存	□ 消灯	□ 消灯	投写中	映像を投写中の状態です。
■ 青点灯	■ 青点滅	□ 消灯	□ 消灯	□ 消灯	クールダウン状態	電源を切った直後の状態です。この状態のときは、すべてのボタン操作が無効になります。
■ 青点滅	□ 消灯	□ 消灯	□ 消灯	□ 消灯	ネットワーク監視準備中	ネットワーク経由で、本記の監視と制御を行う準備をしています。 ネットワーク監視準備中は全ボタン操作が無効になります。
■ 青点灯	■ 青点灯	■ 青点滅	□ 消灯	□ 消灯	シャッター実行中	シャッター実行中の状態です。
■ 青点滅	■ 青点灯	■ 橙点滅	□ 消灯	□ 消灯	低電圧動作中	100-120V電源で動作しています。

本機にエラーが発生したときなどには、各インジケーターの色と点滅/点灯の組み合わせでエラー状態をお知らせします。

インジケーターの状態とその対処方法については、次の表を参照してください。

インジケーター					原因	状態と対処方法	液晶ディスプレイの表示
電源	Status	Laser	Temp	Filter			
○ 消灯	● 青点滅	● 橙点滅	○ 消灯	○ 消灯	内部異常	<p>インターフェイスボードのネジが確実に締まっているかご確認ください。本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、インターフェイスボードを抜き差ししてみてください。インターフェイスボードの取り付け・取り外しは、特別な技術が必要となるため、専門業者にご依頼ください。</p> <p>上記を確認後も異常が発生するとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>☞ 『お問い合わせ先』</p>	Internal Error
○ 消灯	● 青点滅	○ 消灯	● 橙点滅	○ 消灯	ファン異常 センサー異常 冷却システム異常	<p>ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>☞ 『お問い合わせ先』</p>	Fan Error Sensor Error Pump Error
○ 消灯	● 青点滅	○ 消灯	● 橙点灯	○ 消灯	内部高温異常 (オーバーヒート)	<p>光源が自動的に消灯し、投写できなくなります。約5分間は、そのままの状態で待ちます。約5分後、スタンバイ状態になりますので、次の4点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口・吸気口がふさがっていないか、壁際に設置されていないか確認します。 吸気温度が高すぎないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。 ☞ 『エアフィルター/吸気口の清掃』 p.203 ☞ 『エアフィルターの交換』 p.207 高温にならない環境で使用するようにします。 <p>上記を確認後も異常が発生するとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>☞ 『お問い合わせ先』</p>	Temp Error

インジケーター					原因	状態と対処方法	液晶ディスプレイの表示
電源	Status	Laser	Temp	Filter			
						標高1500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]にしてください。 ➡ [拡張設定] - [動作設定] - [高地モード] p.142	
○ 消灯	● 青点滅	○ 橙点灯	○ 消灯	○ 消灯	レーザー異常 位相差板異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ➡ 『お問い合わせ先』	Laser Error
○ 消灯	● 青点滅	○ 消灯	○ 消灯	○ 橙点灯	エアフィルター風量低下異常	<p>次の2点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがっていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。 <p>➡ 「エアフィルター/吸気口の清掃」 p.203 ➡ 「エアフィルターの交換」 p.207</p> <p>確認後、再び電源プラグをコンセントに接続します。</p> <p>上記を確認後も異常が発生するとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>➡ 『お問い合わせ先』</p>	Airflow Error
○ 消灯	● 青点滅	○ 橙点灯	○ 橙点灯	○ 消灯	レンズシフト異常 電源電圧異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ➡ 『お問い合わせ先』	Lens Error Power Error
○ 消灯	● 青点滅	○ 橙点灯	○ 橙点灯	○ 消灯	レンズ異常 レンズ未装着	レンズユニットを装着してください。レンズユニットを取り付けるときは、一度取り外してから、取り付け直してください。上記を確認後も異常が発生するとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ➡ 『お問い合わせ先』	Lens Error
○ 消灯	● 青点滅	● 橙点滅	● 橙点滅	○ 消灯	シャッター異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ➡ 『お問い合わせ先』	Shutter Error

インジケーター					原因	状態と対処方法	液晶ディスプレイの表示
電源	Status	Laser	Temp	Filter			
 青点滅	 状態依存	 状態依存	 橙点滅	 状態依存	高温警告	<p>異常ではありません。ただし、さらに高温になると投写を自動停止します。次の4点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口・吸気口がふさがっていないか、壁際に設置されていないか確認します。 吸気温度が高すぎないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしている場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。 「エアフィルター/吸気口の清掃」p.203 「エアフィルターの交換」p.207 <p>・高温にならない環境で使用するようにします。</p>	Temp Warning
 青点滅	 状態依存	 橙点滅	 状態依存	 状態依存	レーザー警告	<p>ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>「お問い合わせ先」</p>	Laser Warning
 青点滅	 状態依存	 橙点滅	 状態依存	 状態依存	レンズ警告	<p>サポート対象外のレンズが取り付けられています。サポート対象のレンズをお使いください。</p> <p>「オプション・消耗品一覧」p.236</p>	Lens Error
 青点滅	 状態依存	 橙点滅	 状態依存	 状態依存	電源電圧警告	<p>電源電圧の計測に異常が生じたため、光源の明るさを落としています。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>「お問い合わせ先」</p>	Power Warning
 青点滅	 状態依存	 橙点滅	 橙点滅	 状態依存	シャッター警告	<p>ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>「お問い合わせ先」</p>	Shutter Warning

インジケーター					原因	状態と対処方法	液晶ディスプレイの表示
電源	Status	Laser	Temp	Filter			
					エアフィルター風量低下	<p>異常ではありません。ただし、さらに風量低下の状態になると投写を自動停止します。</p> <p>「エアフィルターが目詰まりしています。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」とメッセージも表示されます。以下の2点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。 <p>👉 「エアフィルター/吸気口の清掃」 p.203 👉 「エアフィルターの交換」 p.207</p> <p>上記を確認後も異常が発生するとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>👉 「お問い合わせ先」</p>	Airflow Decline
					エアフィルター清掃通知	<p>「エアフィルターの清掃時期です。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」とメッセージも表示されます。</p> <p>電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、エアフィルターの掃除をしてください。</p> <p>👉 「エアフィルター/吸気口の清掃」 p.203</p> <p>エアフィルター清掃通知のインジケーターとメッセージは、環境設定メニューの[エアフィルター清掃通知]を[オン]に設定しているときに表示されます。</p> <p>👉 「拡張設定」 - 「表示設定」 - 「エアフィルター清掃通知」 p.142</p>	Clean Filter
					明るさ一定終了通知	[明るさ設定]の[一定モード]が終了します。	ConstBRT Expired

無線LANの状態

WLANインジケーター	状態と対処方法
■ 青点灯	無線LANを使用できます。
■■■ 速い青点滅	機器に接続中です。
■■■ 遅い青点滅	異常状態です。本機の電源を切り、再度電源を入れます。
□ 消灯	無線LANを使用できません。無線LANの設定が正しいことを確認してください。

有線LAN/HDBaseTの状態

LANインジケーター	状態と対処方法
■ 青点灯	有線LANまたはHDBaseTトランスマッターを使用できます。
□ 消灯	有線LANまたはHDBaseTトランスマッターを使用できません。有線LANまたはHDBaseTトランスマッターの設定が正しいことを確認してください。 また、LANケーブルが正しく接続されていることを確認してください。



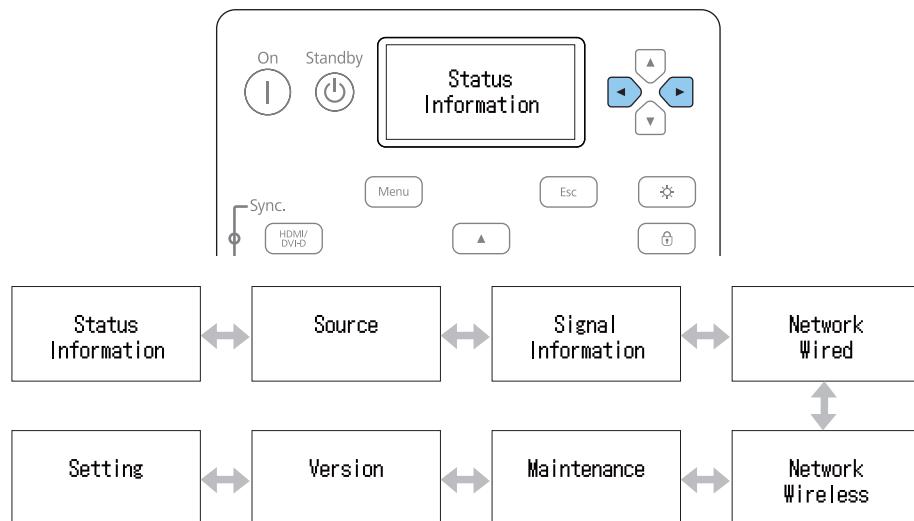
- ・インジケーターは異常を示していないのに、投写映像に異常があるときは以下をご覧ください。
 - 👉「故障かなと思ったら」 [p.188](#)
- ・各インジケーターがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。
 - 👉『お問い合わせ先』

操作パネルの液晶ディスプレイで、本機の状態を表示します。また、操作パネルのボタン操作で、本機の詳細な状況やエラーの履歴などを確認できます。

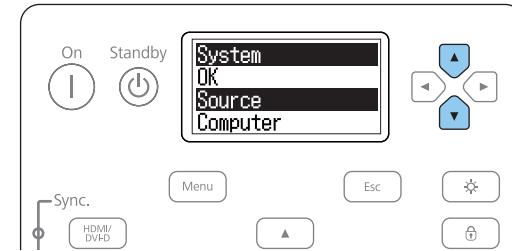
ステータスの確認手順

ステータスを表示するには、操作パネルの【※】ボタンを押します。

ステータスの表示カテゴリーは8つに分かれており、【□】【▽】ボタンを押すたびに下図の順番で切り替わります。



【□】【▽】ボタンでそれぞれのカテゴリーの項目と情報を確認できます。



液晶ディスプレイは以下のときに点灯します。

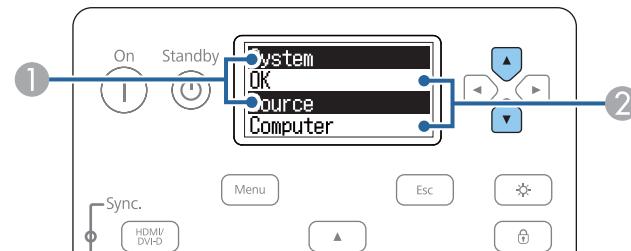
- ・操作パネルのいずれかのボタンを押したとき
 - ・異常および警告が発生したとき
 - ・ズーム、フォーカス、レンズシフト調整したとき
 - ・プロジェクターIDを確認したとき
- ☞ 「プロジェクターIDの確認方法」 p.44

画面の見方

通常表示

カテゴリーごとに表示される情報は以下のとおりです。

Status Information	： 本機の動作状態
Source	： 入力映像信号情報
Signal Information	： 入力デジタル映像信号情報
Network Wired	： 有線LAN設定
Network Wireless	： 無線LAN設定
Maintenance	： 本機や光源の使用時間
Version	： 本機のソフトウェアのバージョン



①	項目名を表示します。 ☞「表示内容の説明」 p.180
②	項目に関する情報を表示します。

異常および警告発生時の表示

本機に問題が発生すると以下のように表示されます。

異常発生時

Temp
Error

警告発生時

Temp
Warning

異常が解消されるか、【↑】【↓】【□】【△】ボタンのいずれかを押すと通常表示に戻ります。

異常および警告の内容と対処方法は、以下を参照してください。
☞「インジケーターの見方」[p.170](#)

画面表示(液晶ディスプレイ)の設定

コントラストの調整と、バックライトの点灯時間を設定します。

- 1 【□】【△】ボタンでSettingを選択します。



- 2 【▽】ボタンを押して以下の画面を表示します。



- 3 【□】【△】ボタンでコントラストを調整します。

- 4 【▽】ボタンを押して以下の画面を表示します。



- 5 【□】【△】ボタンでバックライトの点灯時間を設定します。

初期値は**30sec**(30秒)です。Off(点灯させない)、10-60sec、
30min(30分)、Always(常時)から設定できます。

表示内容の説明

お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより表示される項目が異なります。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Status Information	System	本機の状態を表示します。表示される異常や警告の詳細および対処方法については、以下を参照してください。 ☞ 「インジケーターの見方」 p.170	
		OK	通常状態です。
		Warm-Up	ウォームアップ状態です。
		Standby	スタンバイ状態です。
		Cool Down	クールダウン状態です。
	Last Warn/Err	–	Systemに表示される状態のうち、直近の警告および異常を表示します。
	Source	–	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示します。
	On-Screen Display	On	[オンスクリーン表示]の設定を表示します。Offのときは、メニューやメッセージなど投写映像以外は一切表示されません。
		Off	
	Shutter	On	シャッターの動作状態を表示します。
		Off	
Shutter Startup	Open	[スタートアップ]の設定を表示します。	
		☞ [拡張設定] - [動作設定] - [シャッター設定]- [スタートアップ] p.142	
	Close		
Shutter Standby	Last Used	[スタンバイ]の設定を表示します。	
	Open	☞ [拡張設定] - [動作設定] - [シャッター設定]- [スタンバイ] p.142	
	Close		
Intake Air Temp	–	吸気温度を表示します。 【□】【△】ボタンを同時に5秒間押すと、Warning/Error Log画面が表示されます。【□】ボタンを2回押すとTemp Log画面が表示されます。【□】【△】ボタンを同時に5秒間押すと、Status Informationに戻ります。	
	Internal Temp Lv	–	製品内部の温度を表示します。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Status Information	AC Voltage		<p>入力電圧の状況を監視して、瞬間的な電圧低下が発生したときに警告またはエラーを表示します。</p> <p>【□】【□】ボタンを同時に5秒間押すと、Warning/Error Log画面が表示されます。【□】ボタンを押すとVoltage Log画面が表示されます。</p> <p>Voltage Log画面では、直近のログを最大30件まで表示します。</p> <p>例：</p> <p>175V：電圧が175Vであることを示します。</p> <p>B50V：電圧が50V以下であることを示します。</p> <p>--V：電圧のログが測定できないことを示します。</p> <p>【□】【□】ボタンを同時に5秒間押すと、Status Informationに戻ります。</p> <p>ログが正しく表示されないときは、以下を確認してください。</p> <p>●「詳細なログやエラーメッセージが表示されない」p.199</p>
	<Warning1>		<p>電圧低下(200V駆動時)：入力電圧180V以下の状態が1000msec以上継続したときに、前後約1秒※のログ(120個)が表示されます。</p> <p>電圧低下(100V駆動時)：入力電圧89V以下の状態が1000msec以上継続したときに、前後約1秒※のログ(120個)が表示されます。</p> <p>※電源周波数(50Hz/60Hz)によって秒数が若干異なります。</p>
	<Warning2>		<p>電圧低下(200V駆動時)：入力電圧160V以下の状態が500msec以上継続したときに、前後約1秒※のログ(120個)が表示されます。</p> <p>※電源周波数(50Hz/60Hz)によって秒数が若干異なります。</p>
	<Warning3>		<p>瞬断状態：入力電圧85V以下の状態が40msec以上継続し、60msec以内に電圧値が復帰したときに、瞬断検出前1秒のログ(54個)と、瞬断検出後約0.1秒のログ(6個)が表示されます。</p>
	<Error>		<p>遮断状態：入力電圧85V以下の状態が60msec以上継続すると、自動的に本機の電源が切れます。電源が切れる直前の約1秒のログ(60個)が表示されます。</p> <p>ダイレクトシャットダウンが有効になっている場合は、ダイレクトシャットダウンしたときに<Error>が検出されますが異常ではありません。</p>
Status Information	Laser Status	On	光源の点灯状態を表示します。
		Off	
Status Information	SLOT1 Model	-	Slot1に取り付けたインターフェイスボードの製品名を表示します。
	SLOT1 Condition	-	Slot1に取り付けたインターフェイスボードの状態を表示します。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
	SLOT1 Board ID	–	Slot1に取り付けたインターフェイスボードのIDを表示します。
	SLOT1 Board Ver	–	Slot1に取り付けたインターフェイスボードのバージョンを表示します。
	SLOT2 Model	–	Slot2に取り付けたインターフェイスボードの製品名を表示します。
	SLOT2 Condition	–	Slot2に取り付けたインターフェイスボードの状態を表示します。
	SLOT2 Board ID	–	Slot2に取り付けたインターフェイスボードのIDを表示します。
	SLOT2 Board Ver	–	Slot2に取り付けたインターフェイスボードのバージョンを表示します。
Source	Source	–	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示します。
	Resolution	–	現在投写中の映像信号の入力解像度を表示します。 No Signal : 映像信号が入力されていません。 Not Supported : 本機に対応していない映像信号が入力されています。
	Color Space	–	現在投写中の映像信号の色空間を表示します。
	H-Frequency	–	現在投写中の映像信号の水平周波数を表示します。
	V-Frequency	–	現在投写中の映像信号の垂直周波数を表示します。
	Sync Polarity	H:Posi / V:Posi H:Posi / V:Nega H:Nega / V:Posi H:Nega / V:Nega	同期極性を表示します。
	Sync Mode	Composite Sync Separate Sync Sync On Green	同期種別を表示します。
	Detected Mode	–	現在投写中の映像信号の判別解像度を表示します。
	Transport	Interlace Progressive	走査方式を表示します。
	Video Range	Auto(Limited) Auto(Full) Limited(16-235) Full(0-255)	本機のビデオレベルを表示します。



Sourceで表示される項目は、お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより異なります。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Signal Information	5V Detect	Detected	5V信号の検出結果を表示します。
		Not Detected	
	TMDS Clock	–	現在投写中の映像信号のTMDS周波数を表示します。
	H-Frequency	–	現在投写中の映像信号の水平周波数を表示します。
	V-Frequency	–	現在投写中の映像信号の垂直周波数を表示します。
	DetChg 5CFHMP123	–	信号変化の要因を表示します。
	Stable Time	–	映像信号が確定してから現在までの時間を表示します。
	HDCP Status	Non-HDCP	HDCPの状態を表示します。
		Passed	
		Failed	
	HDCP Ver	–	HDCPのバージョンを表示します。
	AVI VIC	–	現在投写中の映像信号のVIC情報(AVI)を表示します。
	AVI Checksum	OK	AVIのチェックサム結果を表示します。
		NG	
	AVI Sampling Str	RGB4:4:4	AVIのカラーサンプリングを表示します。
		YCbCr4:4:4	
		YCbCr4:2:2	
		YCbCr4:2:0	
	Signal Mode	HDMI	信号モードを表示します。
		DVI	
	Color Space	–	色空間の変換方式を表示します。
	HDR Mode	–	HDRのモードを表示します。
	EDID Mode	–	EDIDのモードを表示します。
	HDBaseT Level	–	HDBaseT端子からの信号品質の情報を表示しています。
	SDI Link Mode	–	SDIのリンクタイプを表示します。
	Sync Detect	–	SDI端子ごとの信号有無の検出結果を表示します。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
	PayloadID Detect	—	SDIのペイロードIDの検出結果を表示します。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Signal Information	Resolution	—	解像度を表示します。
	Refresh Rate	—	SDIのリフレッシュレートを表示します。
	Color Sampling	—	カラーサンプリングを表示します。
	Pixel Depth	—	SDIの色深度を表示します。
	SDI Type	—	SDIの種類を表示します。
	Division Type	—	SDIの分割伝送方式を表示します。
	3G Mapping Level	—	3G-SDIのマッピングレベルを表示します。
	Cable Detect	—	DisplayPortのAUXチャンネルの検出結果を表示します。
	Pixel Clock	—	DisplayPortの映像信号の周波数を表示します。



Signal Informationで表示される項目は、お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより異なります。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Network Wired	Projector Name	–	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示します。
	Connection Mode	HDBaseT	LANの接続経路を表示しています。
		LAN	
	DHCP	On	DHCPの設定状態を表示します。
		Off	
	IP Display	On	IPアドレス表示の設定状態を表示します。
		Off	
Network Wireless	IP Address	–	IPアドレスを表示します。
	MAC Address	–	MACアドレスを表示します。
	Projector Name	–	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示します。
	Connection Mode	Quick	本機とコンピューターを無線LANで接続するときの接続モードを表示します。
		Advanced	(Quick : かんたんモード、Advanced : マニュアルモード)
	SSID Display	On	SSID表示の設定状態を表示します。
		Off	
	IP Display	On	IPアドレス表示の設定状態を表示します。
		Off	
	SSID	–	SSIDを表示します。
	IP Address	–	IPアドレスを表示します。
	DHCP	On	DHCPの設定状態を表示します。
		Off	
	MAC Address	–	MACアドレスを表示します。
	Security	–	セキュリティの設定状態を表示します。
	Antenna Level	LEVEL 0-5	Wi-Fiの受信状態を表示します。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Maintenance	Operation Time	—	本機の累積稼働時間を表示します。
	Laser Op.Time	—	光源モード(設定値)ごとのレーザー稼働時間を表示します。
Version	Serial No.	—	本機のシリアル番号を表示します。
	Main	—	本機のソフトウェアのバージョンを表示します。
	Video2	—	
	Sub	—	
	Sub2	—	
	HDBaseT	—	
	Status Monitor	—	

まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

映像に関するトラブル

• 映像が表示されない 投写を開始しない、真っ黒の映像になる、青い映像になる	 p.189
• 動画が表示されない コンピューターで再生する動画が黒くなり映像が投写されない、コンピューターで動画が再生されない。	 p.190
• 自動的に投写が消える	 p.190
• 「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される	 p.190
• 「映像信号が入力されていません。」と表示される	 p.190
• ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ	 p.191
• ノイズが入る、乱れる	 p.191
• 映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクト比が合っていない、反転している 映像の一部分しか投写されない、映像の縦横の比率が正しくない、映像の上下左右が反転している	 p.192
• 色合いが違う 全体が赤紫がかっている、緑色がかっている、モノクロになる、色がくすむ	 p.193
• 暗い	 p.194
• 自動補正がうまくできない	 p.194

投写開始時のトラブル

• 電源が入らない	 p.195
-----------	---

その他のトラブル

• リモコンで操作できない	 p.196
• Art-Netでの制御がうまくできない	 p.197

• 外部モニターに表示されない	 p.198
• メッセージやメニューの言語を変更したい	 p.198
• プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない	 p.198
• 「時刻を保持する電池残量が低下しています。」と表示される	 p.199
• 「電源が正しく切られませんでした。」と表示される	 p.199
• 詳細なログやエラーメッセージが表示されない	 p.199
• 「インターフェースボードにエラーが発生しました。」と表示される	 p.199

映像に関するトラブル

映像が表示されない

確認	対処法
主電源スイッチがオフになっていますか？	主電源スイッチをオンにして、本機に電力を供給します。
リモコンまたは操作パネルの【①】ボタンを押しましたか？	【①】ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していますか？	電源コードが正しく接続されていない、または電力が供給されていません。 本機に電源コードを正しく接続してください。 または、電力が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
シャッターの状態になっていますか？	【シャッター】ボタンを押してシャッターを解除します。 ☞ 「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.102
環境設定メニューの設定で間違っているものはありませんか？	全初期化してみてください。 ☞ [初期化] - [全初期化] p.158
入力映像そのものが真っ黒になっていますか？ (コンピューター投写時のみ)	スクリーンセーバーなどで入力映像が真っ黒になっていることがあります。
Windows Media Centerを全画面表示にしていますか？ (ネットワーク接続時のみ)	Windows Media Centerを全画面で表示すると、ネットワーク接続で投写できません。縮小画面表示にしてください。
WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションを表示していますか？ (ネットワーク接続時のみ)	WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションは、正しく表示されない可能性があります。
他の映像表示機器と本機を使用していますか？	解像度が違う映像表示機器があります。【映像】メニューの[EDID]の設定を変更してください。 ☞ [映像] - [アドバンスト] - [EDID] p.138
SDI In端子からの信号は正しく設定されていますか？	環境設定メニューの[SDI設定]の設定を確認してください。 ☞ [拡張設定] - [SDI設定] p.142
EDIDを正しく設定しましたか？	投写している映像のケーブルを本機から抜いて、EDIDを再設定してください。 ☞ [映像] - [アドバンスト] - [EDID] p.138

動画が表示されない

確認	対処法
コンピューター映像信号が外部と液晶画面の両方に出力されませんか? (ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ)	コンピューター側の映像信号を外部のみの出力に切り替えます。コンピューターに添付の取扱説明書、あるいはお使いのコンピューターのメーカーにお問い合わせください。
動画コンテンツが著作権保護されませんか?	著作権保護された動画コンテンツをコンピューターで再生すると、プロジェクターから投写されないことがあります。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

自動的に投写が消える

確認	対処法
[スリープモード]を[オン]にしていませんか?	【①】ボタンを押して電源を入れます。スリープモードを働かせないときは設定を[オフ]にしてください。 👉 [拡張設定] - [動作設定] - [スリープモード] p.142

「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

確認	対処法
映像信号の解像度やリフレッシュレートが対応するモードですか? (コンピューター投写時のみ)	コンピューターから出力されている映像信号の解像度・リフレッシュレートの変更は、コンピューターの取扱説明書などでご確認ください。 👉 「対応解像度一覧」 p.244

「映像信号が入力されていません。」と表示される

確認	対処法
ケーブル類が正しく接続されていますか?	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ケーブルが断線・接触不良を起こしていないか確認します。
接続した入力端子を正しく選択していますか?	【入力検出】ボタンを押して映像を切り替えます。 👉 「投写映像を切り替える」 p.59

確認	対処法
接続されたコンピューターやビデオ機器の電源は入っていますか？	それぞれの機器の電源を入れます。
プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ (ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ)	映像信号がコンピューターの液晶モニターや付属モニターにだけ出力されている場合は、外部にも出力するように切り替えてください。外部に映像信号を出力すると、液晶モニターや付属モニターに映像が出せないモデルもあります。 本機やコンピューターの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替えるFnキー(ファンクションキー)が働かないことがあります。本機およびコンピューターの電源を入れ直してください。 ☞コンピューターの取扱説明書など

ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ

確認	対処法
ピントは正しく調整されていますか？	映像を投写し始めてから30分以上たっていることを確認し、リモコンの【フォーカス】ボタンを押して、ピントを調整します。 ☞「ピントのズレを補正する」p.40
投写距離は最適ですか？	投写距離の推奨範囲を外れていませんか？ 推奨範囲内で設置してください。 ☞「スクリーンサイズと投写距離」p.237
レンズが結露していませんか？	寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に使用する部屋に本機を設置するようにします。結露してしまったときは、電源を切ってしばらくそのまま放置してください。

ノイズが入る、乱れる

確認	対処法
ケーブル類は正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☞「接続する」p.48
ケーブルを延長していませんか？	ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。同梱のケーブルを接続して確認してください。

確認	対処法
解像度の選択は正しいですか? (コンピューター投写時のみ)	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ➡ 「対応解像度一覧」 p.244 ➡ コンピューターの取扱説明書など
同期・トラッキングは正しく調整されていますか? (コンピューター投写時のみ)	リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【↔】ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューから調整することもできます。 ➡ [映像] - [トラッキング]、[同期] p.138
[入力解像度]を[オート]以外に設定していますか? (2画面投写時のみ)	環境設定メニューの[入力解像度]で設定している解像度と、投写している映像の入力解像度が異なるときは、映像が乱れことがあります。 映像が乱れるときは[入力解像度]を[オート]に設定してください。 ➡ [映像] - [入力解像度] p.138

映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない、反転している

確認	対処法
[スクリーン設定]を正しく設定していますか?	お使いのスクリーンに合わせて[スクリーン設定]を設定してください。 ➡ 「スクリーン設定」 p.34
アスペクトは正しく設定されていますか?	【アスペクト】ボタンを押して入力信号に合ったアスペクトを選択してください。 ➡ 「投写映像のアスペクト比を切り替える」 p.77
[表示倍率]を有効にしていますか?	環境設定メニューの[表示倍率]を[オフ]にしてください。 ➡ [映像] - [表示倍率] - [表示倍率] p.138
[ブランкиング]で表示範囲を制限していませんか?	環境設定メニューの[ブランкиング]を適切な設定にしてください。 ➡ [映像] - [ブランкиング] p.138
表示位置は正しく調整されていますか?	(Computer In端子、BNC In端子から入力しているアナログRGB信号の投写時のみ) リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【↔】ボタンを押して、表示位置を調整します。 表示位置は環境設定メニューからも調整できます。 ➡ [映像] - [表示位置] p.138
デュアルディスプレイの設定をしていませんか? (コンピューター投写時のみ)	接続しているコンピューターのコントロールパネルの[画面のプロパティ]でデュアルディスプレイの設定をしていると、コンピューター画面の映像が半分くらいしか投写されません。コンピューター画面の映像をすべて投写するときは、デュアルディスプレイの設定を解除します。 ➡ コンピューターのビデオドライバーの取扱説明書

確認	対処法
解像度の選択は正しいですか? (コンピューター投写時のみ)	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☞「対応解像度一覧」 p.244 ☞コンピューターの取扱説明書など
映像の向きは正しいですか?	環境設定メニューの[設置モード]で正しく設定してください。 ☞「設置設定」 p.34

色合いが違う

確認	対処法
入力信号の設定が接続機器の信号と合っていますか?	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☞[映像] - [アドバンスト] - [入力信号方式] p.138
映像の明るさは正しく調整されていますか?	環境設定メニューの[明るさ]を調整してください。 ☞[画質] - [明るさ] p.137
ケーブル類が正しく接続されていますか?	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ケーブルが断線・接触不良を起こしていないか確認します。 ☞「接続する」 p.48
コントラストは正しく調整されていますか?	環境設定メニューの[コントラスト]を調整してください。 ☞[画質] - [コントラスト] p.137
適切なカラー調整に設定されていますか?	環境設定メニューの[ガンマ]、[RGBCMY]を調整してください。 ☞[画質] - [アドバンスト] p.137 ☞「画質を調整する」 p.78
色の濃さ、色合いは正しく調整されていますか?	環境設定メニューの[色の濃さ]、[色合い]を調整してください。 ☞[画質] - [色の濃さ]、[色合い] p.137
部屋の明るさは適切ですか?	自動補正機能で色合わせを行ったときよりも部屋が暗いときは、投写映像の色合いが正しく表示されないことがあります。部屋の明るさを投写中よりも暗くし、再度自動補正を実施してください。 ☞「スクリーンマッチング」 p.94 ☞「カラーキャリブレーション」 p.209

確認	対処法
本機を複数台並べて投写していますか？	[初期化]メニューの[光源キャリブレーション]が、すべてのプロジェクターで正しく設定されているか確認します。一部のプロジェクターでのみ光源キャリブレーションが実行されると、ホワイトバランスや明るさレベルのずれが生じことがあります。 定期的にスクリーンマッチングを行う場合は、光源キャリブレーションを実行した後に、必ずスクリーンマッチングを行うようにしてください。それでも色が変化してしまう場合は、[光源キャリブレーション]を[オフ]にしてください。

暗い

確認	対処法
映像の明るさは正しく設定されていますか？	環境設定メニューから[明るさ]や[明るさ設定]の設定を確認してください。 👉 [画質] - [明るさ] p.137 👉 [設定] - [明るさ設定] p.141
コントラストは正しく調整されていますか？	環境設定メニューから[コントラスト]を調整してください。 👉 [画質] - [コントラスト] p.137
本機を単体でお使いですか？	以下の項目を暗く設定していないかご確認ください。 👉 [拡張設定] - [マルチプロジェクション] - [スクリーンマッチング] - [明るさ設定] p.142
HDRは正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[HDR10設定]、[HLG設定]を調整してください。 👉 [映像] - [ダイナミックレンジ] - [HDR10設定]、[HLG設定] p.138
ビデオレベルは正しく設定されていますか？	環境設定メニューの[ビデオレンジ]の設定を確認してください。 👉 [映像] - [ダイナミックレンジ] - [アドバンスト] - [ビデオレンジ] p.138

自動補正がうまくできない

確認	対処法
電源をオンにしてから30分以上経過していますか？	プロジェクター本体の温度が安定しないと、自動補正が正しく機能しないことがあります。自動補正機能は、電源オンまたはシャッター解除から30分後に実行してください。
内蔵カメラのカバーに汚れはありませんか？	内蔵カメラのカバーに汚れがないことを確認してください。汚れがある場合は拭いてください。
内蔵カメラに保護プレートを付けたまま自動補正をしていませんか？	保護プレートを外してください。

確認	対処法
動作対象外のレンズを使用していませんか？	<p>以下のレンズを使用しているときは、自動調整が機能しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> スクリーンマッチング、タイリングアシスト ELPLX02、ELPLX02W、ELPLU03S、ELPLU04、ELPLL08 カラーキャリブレーション ELPLX02、ELPLX02W、ELPLL08
アナログ入力信号を入力していませんか？	アナログ入力信号を入力しているときは、入力映像の色や明るさが変化し、補正結果が正しく反映されないことがあります。
幾何学歪み補正で映像を補正していませんか？	<p>スクリーンに対して投写角度が大きい場合は、幾何学歪み補正で補正された映像に対して自動補正が正しく動作しないことがあります。[幾何学歪み補正]を[オフ]にするか、補正範囲を小さくしてください。</p> <p>👉 [設定] - [幾何学歪み補正] p.141</p>
補正環境の明るさは適切ですか？	自動補正を実行中に強いスポット光や外光が入ると、補正環境の明るさが変化し、自動補正が正しく機能しないことがあります。補正環境の明るさが均一になるようにしてください。
ブレンド幅は適切ですか？	<p>エッジブレンディングでのブレンド幅が以下の範囲を超えると、自動補正が正しく機能しないことがあります。ブレンド幅を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> スクリーンマッチング：15～45% タイリングアシスト：15～43% <p>👉 [拡張設定] - [マルチプロジェクション] - [エッジブレンディング] p.142</p>
「自動調整中にエラーが発生しました。」と表示されましたか？	<p>メッセージに表示されているエラーコードには以下の意味があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> スクリーンマッチング時： 0101 測定値異常、0102 測定失敗、0103 カメラ切替失敗 カラーマッチング時： 0201 測定値異常、0202 測定失敗、0203 カメラ切替失敗 <p>詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</p> <p>👉 『お問い合わせ先』</p>

投写開始時のトラブル

電源が入らない

確認	対処法
主電源スイッチがオフになっていませんか？	主電源スイッチをオンにして、本機に電力を供給します。
リモコンまたは操作パネルの【①】ボタンを押しましたか？	【①】ボタンを押して電源を入れます。

確認	対処法
インジケーターがすべて消灯していませんか？	<p>電源コードが正しく接続されていない、または電力が供給されていません。 電源コードを抜いて差し直してください。 または、電力が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。</p>
電源コードを触ると、インジケーターが点いたり消えたりしませんか？	<p>電源コードが接触不良を起こしているか、電源コードが故障している可能性があります。電源コードを差し直してください。それでも直らないときは、ご使用をやめ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</p> <p>☞ 【お問い合わせ先】</p>
[操作ボタンロック]が[全ロック]になっていませんか？	<p>リモコンの【①】ボタンを押します。[操作ボタンロック]を働かせないときは設定を[オフ]にしてください。</p> <p>☞ 【操作ボタンロック】 p.113</p>
リモコン受光部の設定は正しいですか？	<p>環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を確認してください。</p> <p>☞ 【設定】 - [リモコン受光部] p.141</p>
ダイレクトシャットダウンをした直後に電源コードのプラグを挿し直したりブレーカーをオンにしたりしていませんか？	<p>[ダイレクトパワーオン]を[オン]に設定しているときに左記の操作をすると電源が入らないことがあります。【①】ボタンを押して電源を入れます。</p>
リモコンの【ID】スイッチがOnになっていませんか？	<p>OnになっているとIDが一致するプロジェクターだけが操作対象になります。【ID】スイッチをOffにしてください。</p> <p>☞ 【リモコンIDを設定する】 p.44</p>

その他のトラブル

リモコンで操作できない

確認	対処法
リモコンの発光部を本機のリモコン受光部に向けて操作していますか？	<p>リモコン受光部に向かって操作してください。</p> <p>☞ 【リモコンの操作可能範囲】 p.27</p>
本機から離れすぎていませんか？	<p>操作可能距離をご確認ください。</p> <p>☞ 【リモコンの操作可能範囲】 p.27</p>
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていませんか？	<p>強い光などがリモコン受光部に当たる場所を避けて設置してください。</p>

確認	対処法
[リモコン受光部]の設定は正しいですか？	<p>環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を確認してください。</p> <p>👉 [設定] - [リモコン受光部] p.141</p>
乾電池が消耗していたり、乾電池の向きを間違えてセットしていませんか？	<p>新しい乾電池を正しい向きにセットします。</p> <p>👉 「リモコンの電池交換」 p.26</p>
リモコンIDはプロジェクターIDと一致していますか？	<p>操作したいプロジェクターのIDとリモコンのIDを一致させてください。IDの設定に関わらずすべてのプロジェクターをリモコンで操作できるようにするには、リモコンの【ID】スイッチをOffにします。</p> <p>👉 「IDの設定」 p.43</p>
本機のRemote端子にオプションのリモコンケーブルを接続していませんか？	<p>リモコンケーブルが差し込まれていると本機のリモコン受光部が働かなくなります。ワイヤードリモコンケーブルを使用しないときは、ワイヤードリモコンケーブルをRemote端子から取り外してください。</p>
[制御通信]または[Extron XTP]が[オン]になっていませんか？	<p>Remote端子が無効です。オプションのワイヤードリモコンケーブルをお使いになるときは、[制御通信]または[Extron XTP]を[オフ]に設定してください。</p> <p>👉 [拡張設定] - [HDBaseT設定] p.142</p>
リモコンボタンロックが設定されていませんか？	<p>リモコンボタンロックが設定されていると、基本操作に必要なボタン以外は無効になります。リモコンの【】ボタンを長押しして、リモコンボタンロックを解除してください。</p> <p>👉 「リモコンボタンロック」 p.114</p>

Art-Netでの制御がうまくできない

確認	対処法
Art-Netでの制御中に、リモコンや操作パネルで本機を操作していませんか？	<p>Art-Netで制御しながらリモコンや操作パネルで本機を操作すると、DMXコントローラーやアプリケーションソフトでの操作が本機にうまく反映されないことがあります。すべてのチャンネルの制御を本機に反映するときは、チャンネル13を「操作不可」に設定し、再度「操作可能」に設定してください。</p> <p>👉 「Art-Netについて」 p.231</p>

外部モニターに表示されない

確認	対処法
外部モニターを接続している端子は正しいですか？	表示したい映像を入力している端子によって、外部モニターを接続する端子が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> 映像信号をComputer In端子またはBNC In端子に入力している場合は、Computer/BNC Out端子に接続します。 映像信号をSDI In端子に入力している場合は、SDI Out端子に接続します。
2画面で投写していますか？	外部モニターに表示できる映像は、左画面で投写しているComputer In端子、BNC In端子からのRGB信号のみです。  「2種類の映像を同時に投写する（2画面）」 p.100
本機がスタンバイ状態ではありませんか？	本機がスタンバイ状態のときは、映像は出力されません。

メッセージやメニューの言語を変更したい

確認	対処法
言語の設定を変更します。	環境設定メニューの言語で目的の言語を選択してください。  [拡張設定] - [言語] p.142

プロジェクターに異常が起きててもメール通知されない

確認	対処法
[待機モード]を[通信オン]に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの[待機モード]を[通信オン]に設定します。  [拡張設定] - [待機モード] p.142
本機に電力が供給されていますか？	本機が設置されている地域が停電になっていたり、本機の電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
環境設定メニューでメール通知機能が正しく設定されていますか？	異常通知のメールは環境設定メニューの[通知]の設定に従って発信されます。正しく設定されているか確認してください。  「通知メニュー」 p.155

「時刻を保持する電池残量が低下しています。」と表示される

確認	対処法
時刻を保持する内部電源の残量が低下している可能性があります。	お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞ 『お問い合わせ先』

「電源が正しく切れませんでした。」と表示される

確認	対処法
ダイレクトシャットダウンが有効になっていたり、瞬時停電などにより電圧が低下したりしましたか？	ステータスマニターで詳細なログを確認します。 ☞ 「ステータス情報の見方」 p.177

詳細なログやエラーメッセージが表示されない

確認	対処法
瞬時の電圧低下、瞬時停電、電源を切った直後にすぐ電源を入れたときなど、環境によってはエラーや警告を表示できない場合があります。	主電源スイッチをオフにするか電源プラグをコンセントから抜いてから10秒以上経待機してください。その後、再度主電源スイッチをオンにするか電源プラグをコンセントに接続してください。電源が入ったら、ステータスマニターを確認してください。

「インターフェースボードにエラーが発生しました。」と表示される

確認	対処法
メッセージに表示されたスロットのインターフェイスボードの交換が必要となる可能性があります。	異常および警告の内容と対処方法は、以下を参照してください。 ☞ 「インジケーターの見方」 p.170 上記を確認後も異常が発生するとき：お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご連絡ください。 ☞ 『お問い合わせ先』

番号を確認して以下のとおり対処してください。問題が解決しない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせいただくか、次に記載の連絡先にお問い合わせください。

☞ [『お問い合わせ先』](#)

Event ID	要因	対処法
0432 0435	ネットワークソフトウェアの起動に失敗しました。	プロジェクトを再起動してください。
0434 0481 0482 0485	ネットワークの通信状態が不安定です。	ネットワークの通信状態を確認して、しばらくしてから再接続してください。
0433	転送された画像を再生できません。	ネットワークソフトウェアを再起動してください。
0484	コンピューターから通信が切断されました。	
0483 04FE	ネットワークソフトウェアが予期せず終了しました。	ネットワークの通信状態を確認して、プロジェクトを再起動してください。
0479 04FF	プロジェクトにシステムエラーが発生しました。	プロジェクトを再起動してください。
0891	同じSSIDのアクセスポイントが見つかりません。	コンピューターやアクセスポイントとプロジェクトを同じSSIDに設定してください。
0892	WPA/WPA2の認証方式が一致しません。	無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。
0893	TKIP/AESの暗号化方式が一致しません。	☞ [ネットワーク]メニュー - [無線LAN]メニュー p.150
0894	不正なアクセスポイントに接続したため通信が切断されました。	ネットワーク管理者に確認して指示に従ってください。
0898	DHCPの取得に失敗しました。	DHCPサーバーが正しく動作しているか確認してください。DHCPを使用しないときは、DHCPの設定をオフにしてください。 ☞ [ネットワーク]メニュー - [無線LAN]メニュー p.150、[有線LAN]メニュー p.154
0899	その他、接続に関するエラー	プロジェクトまたはネットワークソフトウェアを再起動しても問題が解決しない場合は、次に記載の連絡先にお問い合わせください。 ☞ 『お問い合わせ先』
089A	EAP認証タイプが不一致です。	無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。
089B	EAPのサーバー認証が失敗しました。	☞ [ネットワーク]メニュー - [無線LAN]メニュー p.150
089C	EAPのクライアント認証が失敗しました。	

Event ID	要因	対処法
089D	鍵交換が失敗しました。	
0920	時刻を保持する内部電源の残量が低下しています。	お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。  『お問い合わせ先』

メンテナンス

ここでは、メンテナンス方法など、本機を今後も長くお使いいただくための補足的な知識について説明しています。

本機が汚れたり、映像の映りが悪くなったら掃除をしてください。

⚠ 注意

掃除をするときは、主電源スイッチをオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。

注意

1年に1度はプロジェクター内部の掃除を行うことをお勧めします。長期間、内部の掃除を行わないと、ホコリがたまり火災や感電の原因となります。

本機の掃除

本機の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。ケースが変質、変色することがあります。

レンズの掃除

レンズの汚れは、乾いた柔らかい布などで軽くふき取ってください。

⚠ 警告

レンズに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機内部が高温になっているため、引火による火災の原因となります。

レンズに付着したゴミ・ホコリの除去には掃除機や手動タイプのエアブロワーをご利用ください。

注意

レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

エアフィルター/吸気口の清掃

下記のメッセージが表示されたり、フィルターインジケーターが橙色に点滅するときは、エアフィルターや吸気口の掃除をしてください。

「エアフィルターの清掃時期です。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

「内部温度が上昇しています。吸排気口付近の障害物を取り除き、エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

「エアフィルターが目詰まりしています。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

⚠ 警告

フィルターに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。

本機内部が高温になっているため、引火による火災の原因となります。エアフィルターなどに付着したゴミ・ホコリの除去には掃除機や手動タイプのエアブロワーをご利用ください。

注意

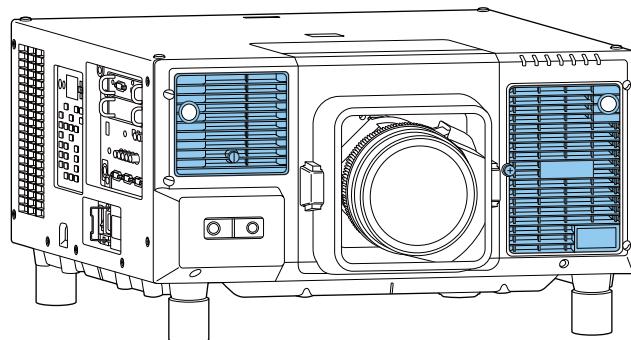
- エアフィルターにホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。
- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- 掃除にブラシを使用するときは、毛先の長い柔らかいものを使用し、軽くなでるように掃除をしてください。強くこするとホコリがエアフィルター内部に入ってしまい取れなくなります。



エアフィルターを天井側に向けた状態でお使いの場合は、エアフィルターが目詰まりする頻度が高くなります。

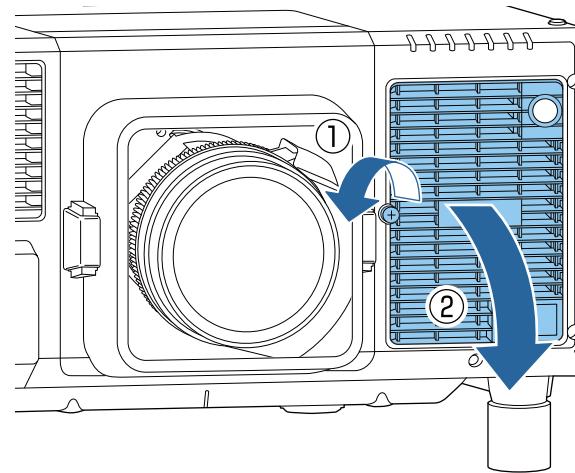
エアフィルターの清掃方法

本機のエアフィルターは、前面に2枚取り付けられています(下図)。本書では、右側のエアフィルターを例に清掃方法を説明します。



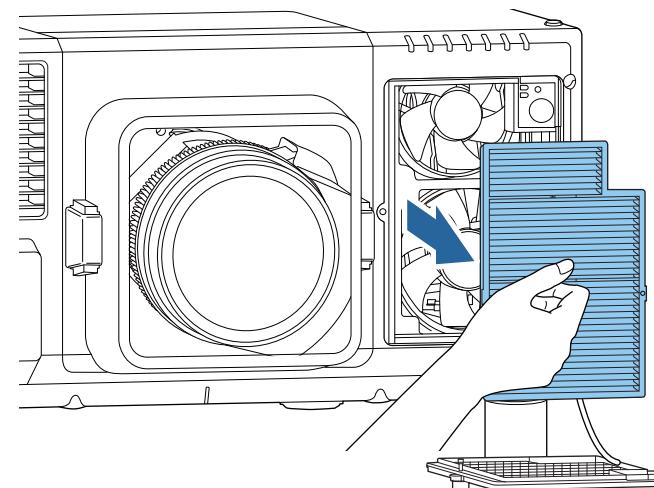
1 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源コードを外します。

2 固定ネジをゆるめて、エアフィルターカバーを開けます。



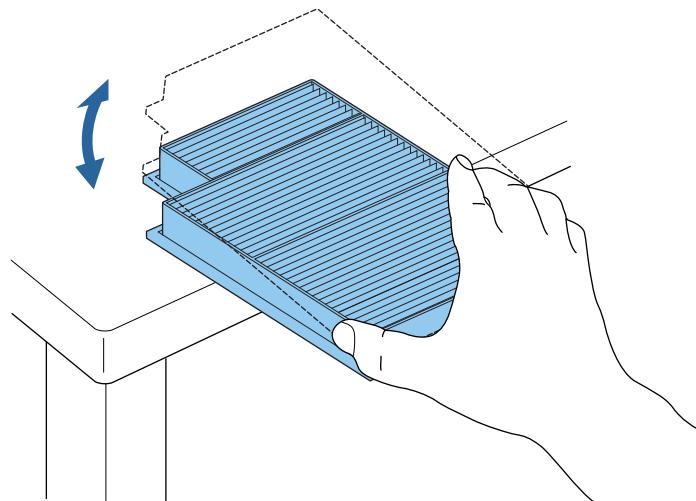
3 エアフィルターを取り外します。

エアフィルターの突起をつまみ、外側にまっすぐ引き出します。



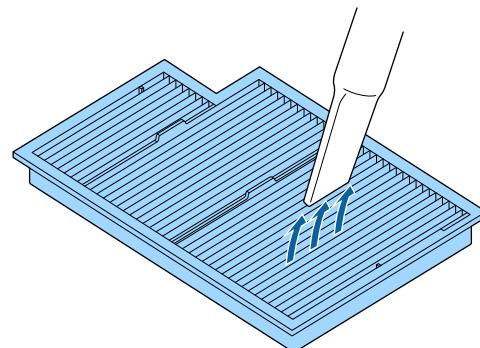
4 エアフィルターの表側(取り出し用のツマミのある面)を下にして、4~5回たたいてホコリを落とします。

持ち替えて、手で持っていた方も同様にたたいてホコリを落とします。

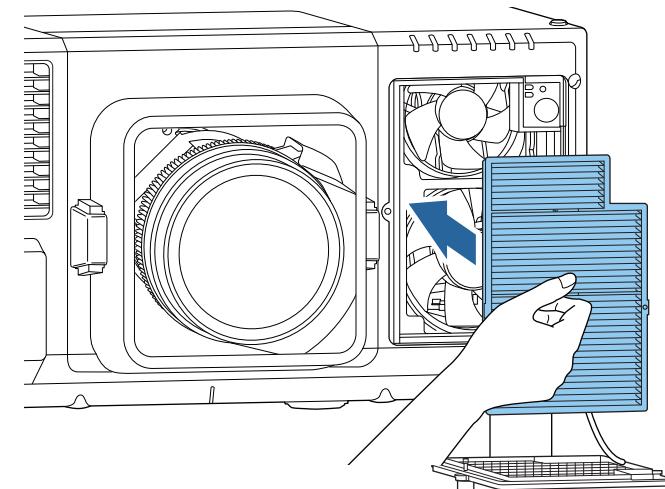
**注意**

エアフィルターを強くたたきすぎると、変形したり割れたりして使用できなくなります。

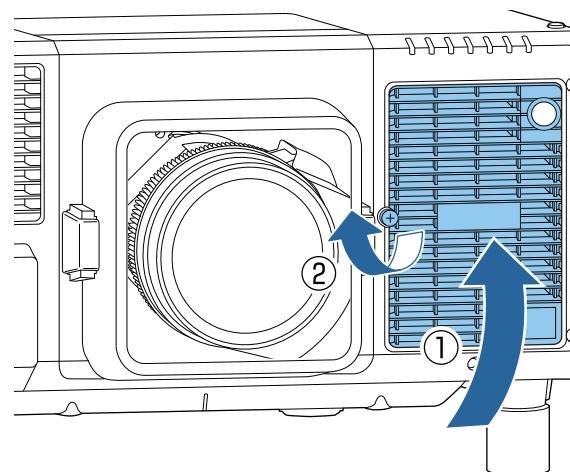
- 5** 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側から吸い取ります。



- 6** エアフィルターを取り付けます。
カチッと音がするまで押し込みます。



- 7** エアフィルターカバーを閉じて、固定ネジを締めます。



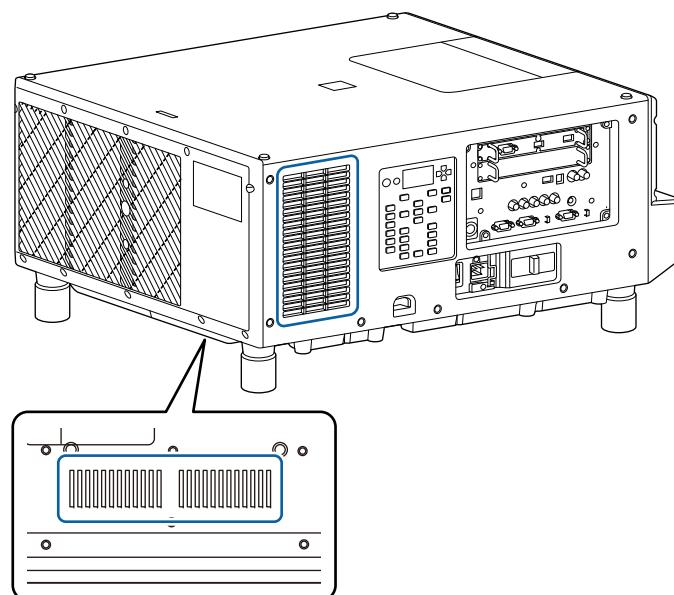


- 掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるときは交換時期です。新しいエアフィルターに交換してください。
👉「エアフィルターの交換」p.207
- エアフィルターの掃除は20,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除を行うことをお勧めします。
- エアフィルター清掃通知のインジケーターとメッセージは、環境設定メニューの[エアフィルター清掃通知]を[オン]に設定しているときに表示されます。
👉【拡張設定】 - 【表示設定】 - 【エアフィルター清掃通知】p.142

- 1 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源コードを外します。
- 2 掃除機か、柔らかいブラシでホコリを丁寧に取り除きます。

吸気口の清掃方法

本機の側面、底面にある吸気口にホコリが付着しているときは、ホコリを取り除いてください。



ここではエアフィルターの交換方法について説明します。

エアフィルターの交換

エアフィルターの交換時期

エアフィルターの掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるときは、エアフィルターを交換してください。

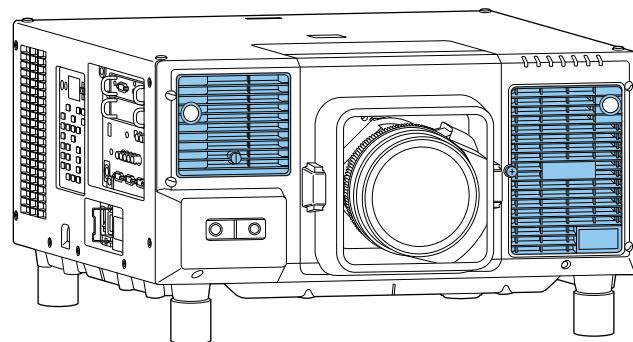
注意

イベント等の演出により、スモークの中で本機を使用する場合、約240時間の使用でエアフィルターを交換してください。（オジナオイルの大気中濃度が約0.000000013%の環境で本機を使用した場合の目安です。使用環境によってはエアフィルターの交換時間がさらに短くなります。）

スモークの中で本機を使用するとエアフィルターの集じん機能が低下し、本機の内部や電源にホコリが付着して、故障の原因となることがあります。

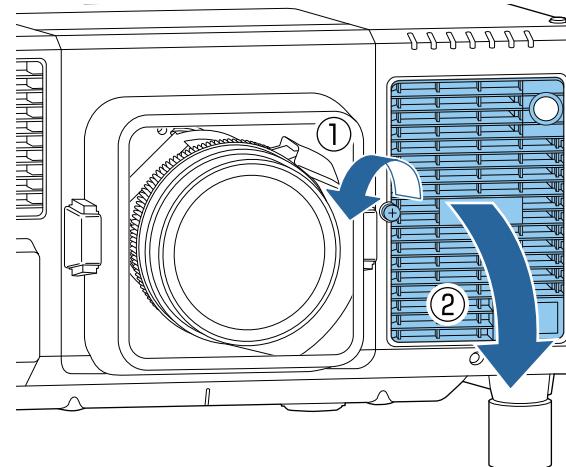
エアフィルターの交換方法

本機のエアフィルターは、前面に2枚取り付けられています。本書では、右側のエアフィルターを例に交換方法を説明します。



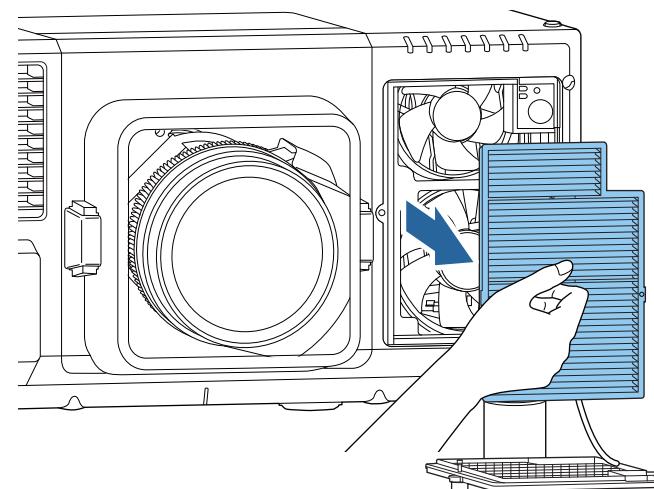
- 1 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源コードを外します。

- 2 固定ネジをゆるめて、エアフィルターカバーを開けます。

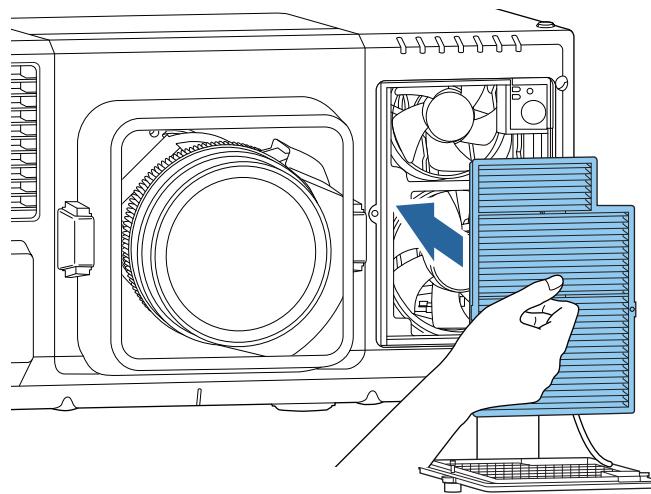


- 3 エアフィルターを取り外します。

エアフィルターの突起をつまみ、外側にまっすぐ引き出します。

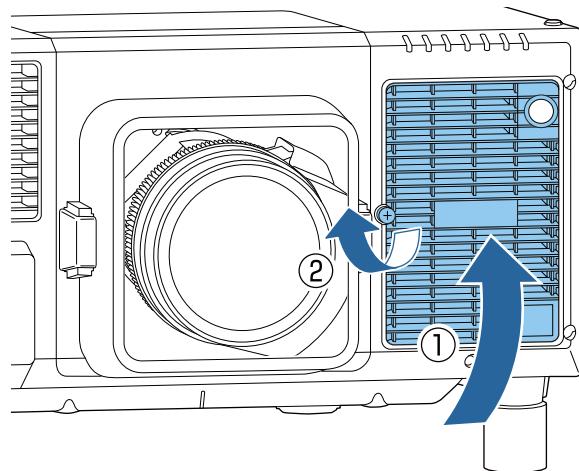


- 4** 新しいエアフィルターを取り付けます。
カチッと音がするまで押し込みます。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。
材質：ポリプロピレン

- 5** エアフィルターカバーを閉じて、固定ネジを締めます。



カラーキャリブレーション

経時変化による画面全体の色味を、工場出荷時の色味を基準に自動補正します。

自動調整機能の動作条件

カラーキャリブレーションの自動調整機能は以下の条件を満たすときに有効です。

- ・スクリーンの表面にそりやゆがみがなく、平らである
- ・拡散型のホワイトマットスクリーンを使用している
- ・投写サイズが100インチから300インチである
- ・本機が投写面に対して平行に設置されている



- ・以下のレンズを使用しているときは、自動調整が機能しません。ELPLX02、ELPLX02W、ELPLL08
- ・一部のレンズでは、レンズシフトの量が大きいと可動領域内でも自動調整が機能しない場合があります。
☞「投写映像の位置調整（レンズシフト）」p.36
- ・カラーキャリブレーションは、プロジェクターの電源オンまたはシャッター解除から30分以上たってから行うことをお勧めします。
- ・補正の精度を高めるために、映像投写時の部屋の明るさよりも明るさを落として補正することをお勧めします。
- ・本体前面の内蔵カメラを使用して自動調整を行います。カメラや投写映像を遮らないでください。
- ・自動調整は約1分30秒かかります。
- ・自動調整後、ユニフォーミティーとカラーマッチングは初期値に戻ります。
- ・スケジュール機能を使うと、設定した周期で自動的に画面全体の色味の変化を補正できます。
☞「スケジュール機能」p.107
- ・カラーキャリブレーションがうまくいかないときは、以下をご覧ください。
☞「自動補正がうまくできない」p.194

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【拡張設定】から【カラーキャリブレーション】を選択します。
- 3 【自動調整開始】を選択し、【➡】ボタンを押します。



調整パターンが表示され、補正が開始されます。補正前の投写映像が表示されたら終了です。



- エラーが出た場合は以下をご覧ください。
👉 「自動補正がうまくできない」 p.194
- 自動調整開始前の状態に戻すときは[元に戻す]を選択してください。[元に戻す]を選択した後で[やり直し]を選択すると、自動調整後の状態に戻ります。
- [カラーキャリブレーション]の調整値を初期値に戻すときは、[初期化]を選択してください。

液晶アライメント

液晶パネルの画素の色ずれを調整します。水平方向、垂直方向に0.125画素ずつ、それぞれ±3画素の範囲内で調整できます。



- 液晶アライメントで調整後は映像が劣化する場合があります。
- 画面からはみ出した画素分の映像は表示されません。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【拡張設定】から【表示設定】を選択します。
- 3 【液晶アライメント】を選択し、【↔】ボタンを押します。



- 4 [液晶アライメント]を有効にします。



- (1) [LCD Alignment] を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) [On] を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

5 調整する色を選びます。

- (1) [調整色] を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) [R] (赤)、[B] (青) のいずれかを選択し、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

6 [パターン色] で調整時に表示する格子の色を選びます。

- (1) [パターン色] を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) 格子の色を R (赤)、G (緑)、B (青) の組み合わせで選択します。
[R/G/B] : R、G、B の 3 色で表示します。実際の格子の色は白になります。
[R/G] : [調整色] を [R] にしているときに選択できます。R、G の 2 色で表示します。実際の格子の色は黄色になります。
[G/B] : [調整色] を [B] にしているときに選択できます。G、B の 2 色で表示します。実際の格子の色はシアンになります。

(3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

7

[調整開始] を選択し、【↔】ボタンを押します。

はじめに [画面全体をシフトする] を選択して、LCD パネル全体の調整をします。開始確認のメッセージが表示されたら、【↔】ボタンを押して調整を開始します。



調整中は映像がゆがむ場合があります。調整を終了すると、もとに戻ります。

8

【↑】【↓】【←】【→】ボタンで調整し、【↔】ボタンを押します。

9

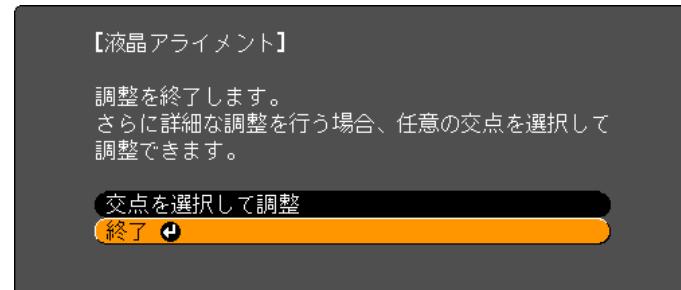
より詳細な調整を行う場合は、[4隅を調整する] を選択し【↔】ボタンを押して決定します。

10

【↑】【↓】【←】【→】ボタンで調整し、【↔】ボタンを押して次の調整ポイントへ進みます。

11

4 隅の調整後、[終了] を選択し、【↔】ボタンを押します。



【◆】:選択

【○】:決定

【メニュー】:終了

4 点での調整が不十分の場合は、[交点を選択して調整] を選択して調整を続けます。

ユニフォーミティー

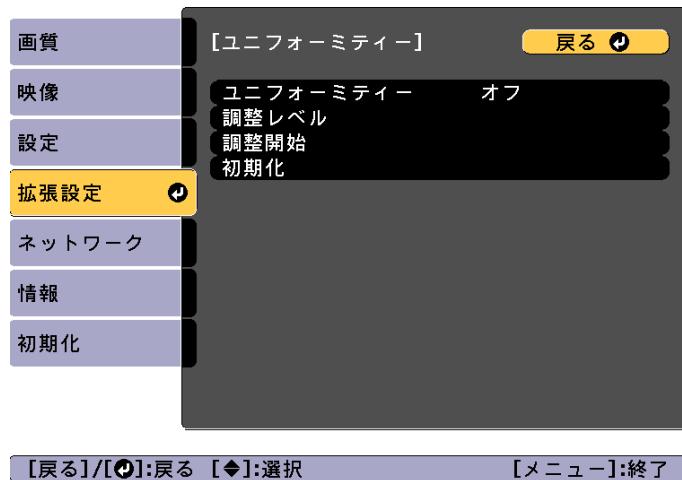
画面全体の色味を調整します。



ユニフォーミティーを調整後も色味が均一にならない場合があります。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【拡張設定】から【表示設定】を選択します。
- 3 【ユニフォーミティー】を選択し、【↔】ボタンを押します。

以下の画面が表示されます。



【ユニフォーミティー】: ユニフォーミティーをオン/オフします。

【調整レベル】: 白 - グレー - 黒まで8つのレベルがあります。それぞれのレベルに対して調整を行います。

【調整開始】: ユニフォーミティーの調整を開始します。

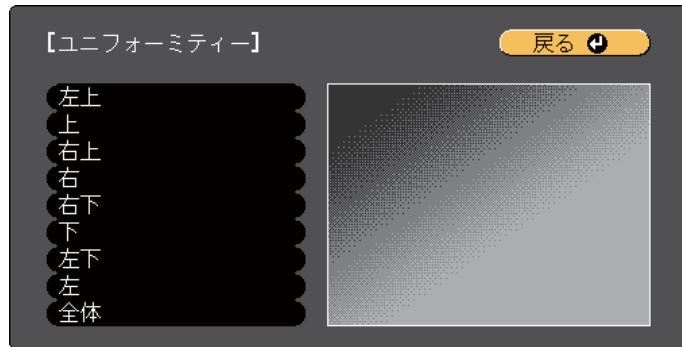
【初期化】: 【ユニフォーミティー】の調整値、設定値をすべて初期値に戻します。



【ユニフォーミティー】を調整中は映像がゆがむ場合があります。調整を終了すると、もとに戻ります。

- 4 【ユニフォーミティー】を選択し、【↔】ボタンを押します。
- 5 【オン】に設定し、【戻る】ボタンを押します。
- 6 【調整レベル】を選択し、【↔】ボタンを押します。
- 7 【◀】【▶】ボタンで調整レベルを設定します。
- 8 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。
- 9 【調整開始】を選択し、【↔】ボタンを押します。
- 10 調整する箇所を選択し、【↔】ボタンを押します。

先に周囲を調整してから、最後に画面全体を調整してください。



付録

Epson Projector Managementについて

Epson Projector Managementを使うと、ネットワーク上の複数のエプソンプロジェクターの状態をコンピューターのモニターに表示して確認したり、コンピューターから制御したりできます。

Epson Projector Managementは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

<http://www.epson.jp/download/>

Webブラウザーを使って設定を変更する(Epson Web Control)

本機とネットワーク接続したコンピューターやモバイルデバイスのWebブラウザーから本機の設定や制御が行えます。この機能を使えば、本機と離れた場所から、設定や制御の操作ができます。

以下のWebブラウザーを使用できます。

- Internet Explorer 11.0以降(Metroは除く)(Windows)
- Microsoft Edge(Windows)
- Safari(Mac)
- Chrome(Android)



[待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザーを使った設定や制御ができます。

☛ [拡張設定] - [待機モード] [p.142](#)

Epson Web Control画面を表示する

以下の手順で、Epson Web Control画面を表示します。

お使いの機器とプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。



ご使用のWebブラウザーで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、Epson Web Control画面を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。

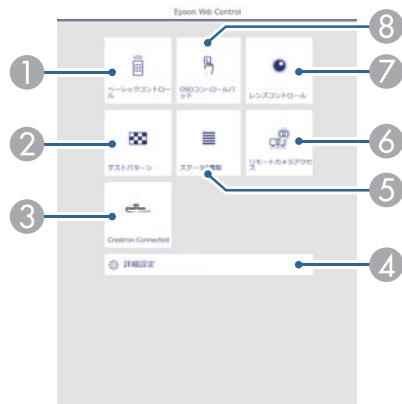
- 1 お使いの機器を、接続先のプロジェクターと同じネットワークに接続します。

接続方法は機器によって異なります。お使いの機器に添付の取扱説明書をご確認ください。タブレット端末をお使いのときは、Wi-Fiの設定をご確認ください。

- 2 お使いの機器でWebブラウザーを起動します。

- 3 WebブラウザーのURL入力欄に、接続先のプロジェクターのアドレスを入力して接続します。

ホーム画面が表示されます。



- ① ベーシックコントロール
☞「ベーシックコントロール画面」[p.216](#)
- ② テストパターン
☞「テストパターン操作画面」[p.219](#)
- ③ Crestron Connected
- ④ 詳細設定
詳細設定画面に移動します。
- ⑤ ステータス情報
☞「ステータス情報画面」[p.220](#)
- ⑥ リモートカメラアクセス
☞「リモートカメラアクセス画面」[p.221](#)
- ⑦ レンズコントロール
☞「レンズコントロール画面」[p.218](#)
- ⑧ OSDコントロールパッド
☞「OSDコントロールパッド画面」[p.217](#)

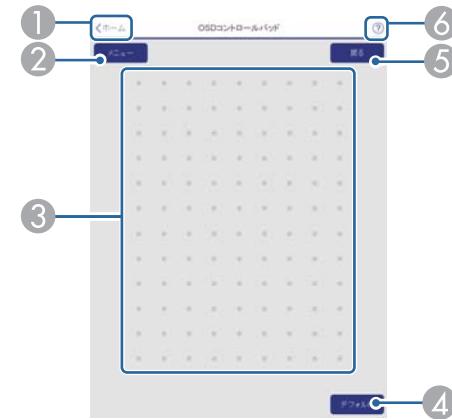
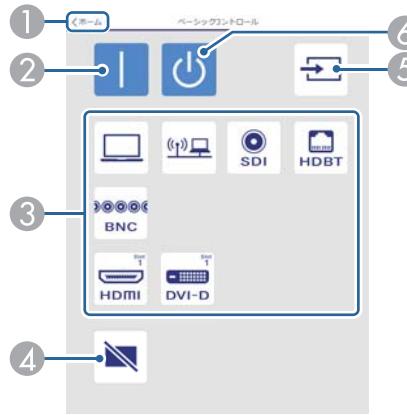


- ホーム画面から各機能を実行すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められることがあります。ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。(ユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。)
- ユーザー名は変更できません。パスワードの変更は、環境設定メニューのネットワークメニューから行ってください。
☞ [ネットワーク]-[基本設定]-[Web制御パスワード][p.149](#)
- Web制御機能では、パスワードを無効にしている場合も、ユーザー名の入力が必要です。
- 以下の項目は詳細設定画面からのみ設定できます。
 - Monitorパスワード(半角英数字で16文字以内)
☞ [ネットワーク]-[基本設定]-[Monitorパスワード][p.149](#)
 - IPv6設定(手動)
☞ [ネットワーク]-[IPv6設定][p.150、p.154](#)
 - HTTPポート追加(Web制御に使用するポート番号で、80(デフォルト)、843、3620、3621、3625、3629、4352、4649、5357、10000、10001、41794以外の番号)
☞ [ネットワーク]-[その他][p.156](#)

ベーシックコントロール画面

本機の基本操作を行います。

ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。
(ユーザー名は**EPSONREMOTE**、デフォルトのパスワードは**guest**です。)



- ① ホーム画面に移動します。
- ② 本機の電源をオンにします。
- ③ 目的の映像に切り替えます。
- ④ 映像を一時的に遮断/解除します。
- ⑤ 入力信号を自動検出します。
- ⑥ 本機の電源をオフにします。

- ① ホーム画面に移動します。
- ② 環境設定メニューを表示/終了します。
- ③ 指やマウスで環境設定メニューを操作します。
フリックして項目を選択し、タップして決定します。
- ④ 環境設定メニューのガイドに[初期値]：リセットと表示されているときに有効です。調整中の設定値を初期値に戻します。
- ⑤ 環境設定メニューで、1つ上の階層に戻ります。
- ⑥ OSDコントロールパッドの使い方を表示します。

OSDコントロールパッド画面

本機の環境設定メニューを操作します。



Epson Web Controlで設定できない環境設定メニューの項目は以下の通りです。

- ・画質メニュー - アドバンスト - ガンマ - カスタム
- ・映像メニュー - アドバンスト - BNC同期終端、EDID、DDCバッファー
- ・設定メニュー - ユーザーボタン
- ・拡張設定メニュー - 表示設定 - メッセージ表示位置
- ・拡張設定メニュー - 動作設定 - アドバンスト - 電源電圧監視、レンズタイプ
- ・拡張設定メニュー - 動作設定 - レンズキャリブレーション
- ・拡張設定メニュー - 言語
- ・無線LANメニュー - アクセスポイント検索

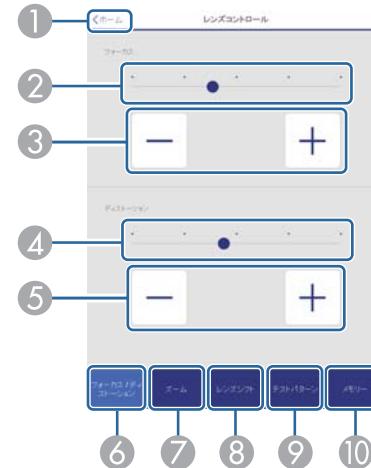
各メニューの項目の内容は本機の環境設定メニューと同じです。

☞「環境設定メニュー」 p.131

レンズコントロール画面

本機のレンズを操作します。

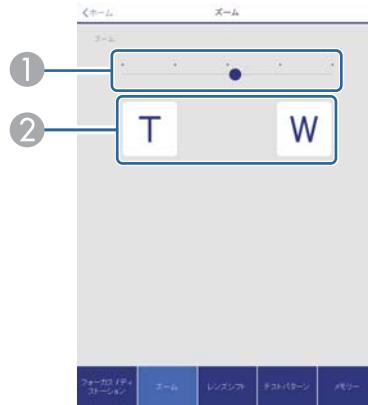
フォーカス/ディストーション操作画面



- ① ホーム画面に移動します。
- ② スライダーを動かしてフォーカスを調整します。
- ③ ボタンを押してフォーカスを調整します。
- ④ スライダーを動かして映像のひずみを調整します。
- ⑤ ボタンを押して映像のひずみを調整します。
- ⑥ フォーカス/ディストーション操作画面を表示します。
- ⑦ ズーム操作画面を表示します。
- ⑧ レンズシフト操作画面を表示します。
- ⑨ テストパターン操作画面を表示します。
- ⑩ メモリー操作画面を表示します。

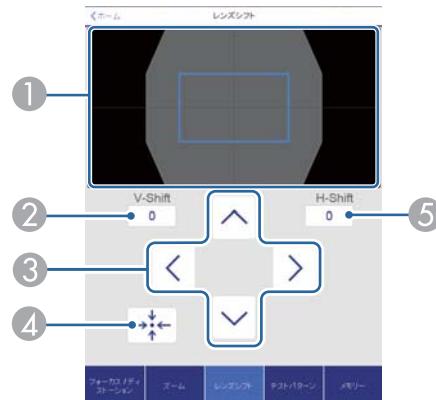
ズーム操作画面

ELPLX02/ELPLX02Wには対応していません。



- ① スライダーを動かしてズーム調整をします。
- ② ボタンを押してズーム調整をします。

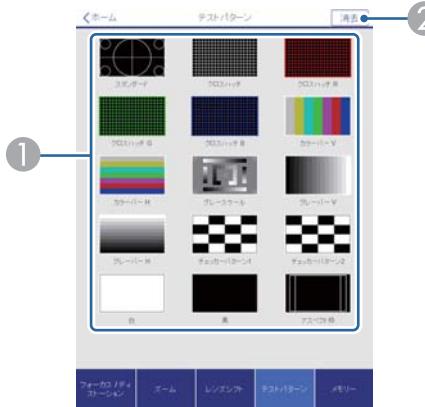
レンズシフト操作画面



- ① 映像の位置を青色の四角形で表示します。映像の位置を移動すると、移動先に赤色の四角形が表示されます。
- ② 映像の垂直位置を表示します。タップして数値を入力することで、位置を直接指定できます。
- ③ 映像の位置を上下左右に移動します。

- ④ 確認画面でOKボタンを押すと、レンズの位置をホームポジションに移動します。
- ⑤ 映像の水平位置を表示します。タップして数値を入力することで、位置を直接指定できます。

テストパターン操作画面



- ① 投写するテストパターンを選択します。
- ② テストパターンの投写を終了します。

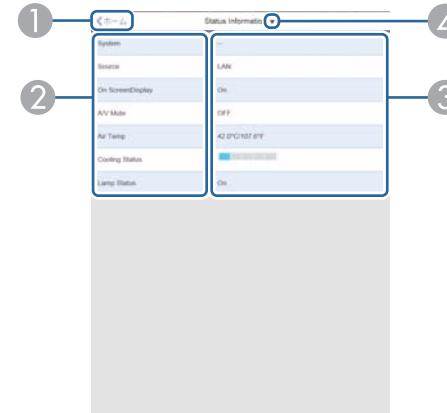
メモリー操作画面

メモリー機能の詳細は以下をご覧ください。

☞ 「メモリー機能」 p.105



- ① メモリーを呼び出します。
- ② メモリーを登録します。
- ③ メモリーを一覧で表示します。
- ④ メモリーを削除します。
- ⑤ メモリーの名称を変更します。



- ① ホーム画面に移動します。
- ② 項目名を表示します。
- ③ 各項目の状態を表示します。
- ④ 次の中からカテゴリーを選択します。

Status Information、Source、Signal Information、Network Wired、Network Wireless、Maintenance、Version、Air Temp Info、Voltage Warning Info

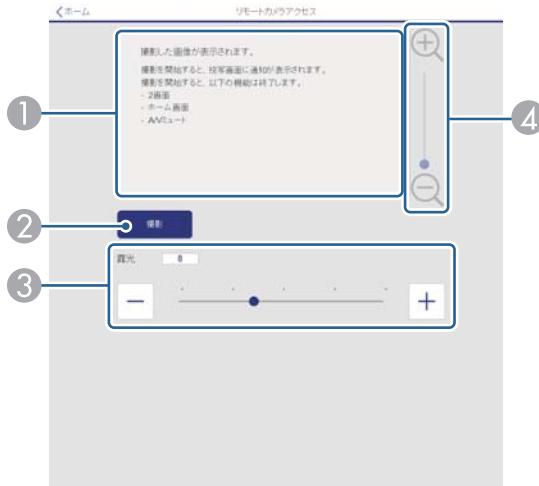
ステータス情報画面

本機の状態を確認します。表示内容の詳細は以下をご覧ください。

☞ 「ステータス情報の見方」 [p.177](#)

リモートカメラアクセス画面

投写している映像を撮影します。



- ① 撮影した画像が表示されます。
- ② [撮影]を押して、投写映像を撮影します。
- ③ 撮影時の露光を調整します。
- ④ 撮影した画像をズームイン・ズームアウトします。

遠隔地から投写映像を確認する

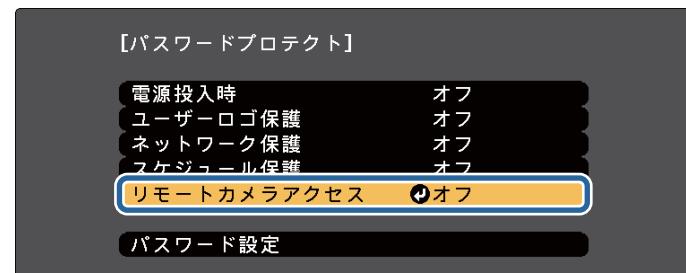
違う場所で投写している映像を撮影し、お使いの端末で確認できます。



- [ネットワーク]-[その他]メニューの[セキュアHTTP]が[オン]になっていることを確認してください。
- ELPLX02/ELPLX02Wを装着しているときは使用できません。
- 以下の機能を実行しているときは、リモートカメラアクセス機能は実行できません。
 - 内蔵カメラ使用時(タイリング、タイリングアシスト、スクリーンマッチング、カラーキャリブレーション)
 - レンズキャリブレーション
 - Epson Projector Managementのメッセージ配信機能
- リモートカメラアクセス機能を実行すると、以下の機能は解除されます。
 - 2画面
 - シャッター
 - オンスクリーン表示(メッセージを非表示にしているとき)

- 1 [パスワードプロテクト]画面で[リモートカメラアクセス]を[オフ]にします。

☞ 「パスワードプロテクトの設定方法」 p.111



- 2 [ネットワーク]から[リモートカメラアクセス]を選択します。

- 3 [パスワード設定]を選択し【➡】ボタンを押します。
半角英数字32文字以内でパスワードを設定します(* : スペースは使用不可)。



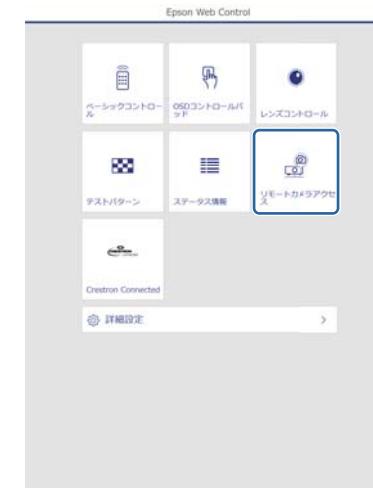
- 4 [リモートカメラアクセス]を[オン]にします。



- 5 ネットワークに接続されているコンピューターまたはモバイルデバイスでWebブラウザーを起動します。

- 6 ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。

- 7 [リモートカメラアクセス]を選択します。
ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。(ユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。)



- 8 [撮影]を押します。



- 9 パスワード画面が表示されたら、手順3の[リモートカメラアクセス]-[パスワード設定]で設定したパスワードを入力して、[OK]を押します。

投写画面上にメッセージが表示され、撮影が始まります。画像が取得できるまでに約6秒かかります。



- 必要に応じて露光の調整をしてください。調整したら再度撮影して、画像をご確認ください。
- 撮影中は、本機の電源をオフにする以外の操作はできません。
- 警告や注意などのメッセージは撮影されません。

メール通知機能で異常を通知する

メール通知機能の設定をしておくと、異常/警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所にいても本機の異常を知ることができます。

☛ [ネットワーク]-[通知]-[メール通知機能] [p.155](#)



- 送信先(宛先)は最大3つまで登録でき、一括して送ることができます。
- 本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合は、メール送信できないことがあります。
- [待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、制御ができます。

☛ [拡張設定] - [待機モード] [p.142](#)

異常通知メールの見方

メール通知機能をオンに設定していて本機が異常/警告状態になったときには、次のメールが送付されます。

メール差出人：[差出人]で設定したメールアドレス

メールタイトル：EPSON Projector

1行目：異常が生じたプロジェクターのプロジェクターナメ

2行目：異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス

3行目以降：異常の内容

異常の内容は、1行に1つずつ記載されています。メッセージの示す主な内容は以下のとおりです。

- Clean Air Filter(エアフィルター清掃通知)
- Constant brightness expired(明るさ一定終了通知)
- Internal error(内部異常)
- Fan related error(ファン異常)
- Sensor error(センサー異常)
- Laser error(レーザー異常)
- Laser warning(レーザー警告)
- Retardation Plate Error(位相差板異常)
- Internal temperature error(内部高温異常/オーバーヒート)
- High-speed cooling in progress(高温警告)
- Low Air Flow(エアフィルター風量低下)
- Low Air Flow Error(フィルター風量低下異常)
- No-signal(ノーシグナル)

本機に映像信号が入力されていません。接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。

- Lens shift error(レンズシフト異常)
- No lens(レンズ未装着異常)
- Pump Error(冷却システム異常)
- Shutter Warning(シャッター警告)
- Shutter Error(シャッター異常)
- Power Err. (Voltage)(電源電圧異常)

異常/警告の対処方法は、以下をご覧ください。

☞ 「インジケーターの見方」 [p.170](#)

SNMPを使って管理する

環境設定メニューで[SNMP]を[オン]に設定しておくと、異常/警告状態になったとき、設定したコンピューターに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でも本機の異常を知ることができます。

☞ [ネットワーク]-[通知]-[SNMP] [p.155](#)



- SNMPによる管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP機能を使って本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。
- 本機のSNMPエージェントはバージョン1(SNMPv1)に準拠しています。
- SNMPを使った管理機能は、無線LANのかんたんモードでは使用できません。
- 通知先のIPアドレスは2つまで登録できます。

ESC/VP21コマンド

ESC/VP21を使うと本機を外部機器から制御できます。

コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。本機は電源オンの状態になったときにコロン ':' (3Ah)を返信します。

このように本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後 ':' を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に ':' を返信します。

主な内容は以下のとおりです。

項目	コマンド		
電源のオン/オフ	オン	PWR ON	
	オフ	PWR OFF	
シャッター機能の オン/オフ	オン	MUTE ON	
	オフ	MUTE OFF	
信号切り替え	コンピューター	オート	SOURCE 1F
		RGB	SOURCE 11
		コンポーネント	SOURCE 14
	BNC	オート	SOURCE BF
		RGB	SOURCE B1
		コンポーネント	SOURCE B4
	LAN	SOURCE 53	
	SDI	SOURCE 60	
	HDMI(Slot1)	SOURCE 130	

項目	コマンド
HDMI(Slot2)	SOURCE 230
DVI-D(Slot1)	SOURCE 1C0
DVI-D(Slot2)	SOURCE 2C0
HDBaseT	SOURCE 80
DisplayPort1(Slot1)	SOURCE 170
DisplayPort2(Slot1)	SOURCE 1D0
DisplayPort1(Slot2)	SOURCE 270
DisplayPort2(Slot2)	SOURCE 2D0

各コマンドの最後に、復帰(CR)コード(0Dh)を追加して送信してください。

詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

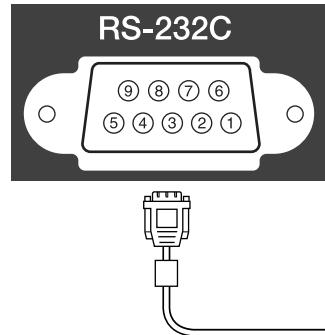
☞ [『お問い合わせ先』](#)

ケーブル配線

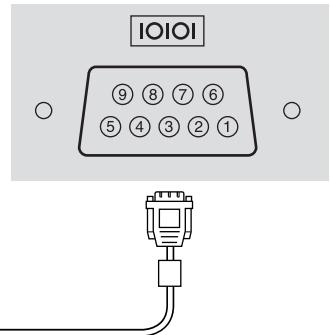
シリアル接続

- コネクター形状：D-Sub 9pin(オス)

- プロジェクター入力端子名：RS-232C
<プロジェクター側>



<コンピューター側>



<プロジェクター側> (PCシリアルケーブル)
ケーブルタイプ：
クロスケーブル

GND	5	—————	5	GND
TD	3	×××	3	TD
RD	2	×××	2	RD

<コンピューター側>

信号名	機能
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティー：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

PJLinkについて

JBMIA(社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会)によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLinkが策定されました。

本機は、JBMIAが策定したPJLink Class2の規格に適合しています。

PJLinkの検索機能で使用するポート番号は4352(UDP)です。

PJLinkを使うにはネットワーク設定が必要です。ネットワーク設定については以下をご覧ください。

- 「ネットワークメニュー」 [p.147](#)

PJLink Class2で定義されているコマンドのうち、以下の内容を除く全コマンドに対応しており、PJLink 規格適合性検証で適合を確認しています。

URL : <http://pjlink.jbmia.or.jp/>

- **非対応コマンド**

機能		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	音声ミュート設定	AVMT 21

- **入力端子名称および入力ソース番号の対応表**

入力端子名称	入力ソース番号
コンピューター	11
BNC	13
SLOT1-1*	21
SLOT1-2*	22
SLOT2-1*	25

入力端子名称	入力ソース番号
SLOT2-2*	26
SDI	34
LAN	52
HDBaseT	56

*スロットに取り付けられたインターフェイスボードの端子を示します。左側の端子から順番に、1~2の番号となります。

- 「メーカー名問合せ」で表示するメーカー名
EPSON
- 「機種情報問合せ」で表示する機種名
EPSON L20002U/L20000U

Crestron Connected®について

Crestron Connected®はCrestron®社が提供する統合コントロールシステムです。ネットワークで接続された複数の機器を一括して監視・制御できます。

本機はその制御用プロトコルに対応していますので、Crestron Connected®で構築されたシステム環境下でご利用いただけます。

Crestron Connected®の詳細は、Crestron®社のWebページを参照してください。(英語のみの表示となります。)

<https://www.crestron.com/products/line/crestron-connected>

Crestron Connected®の概要は次のとおりです。

- **Webブラウザを利用した遠隔操作**

コンピューターの画面上でリモコンと同様にプロジェクターを操作できます。

• アプリケーションソフトを利用した監視・制御

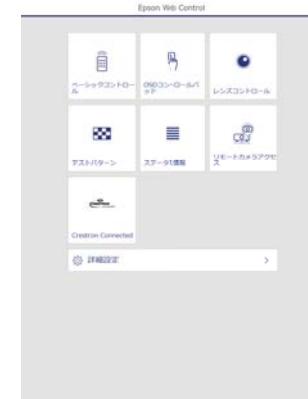
Crestron®社が提供するアプリケーションソフトCrestron RoomView® Express/Crestron Fusion® でシステム内の機器の監視、ヘルプデスクとの通信、緊急時のメッセージ送信を行えます。

本書では、Webブラウザーを利用してコンピューターの画面上で本機を操作する方法を説明します。



- 文字入力に使用できるのは半角英数字と記号のみです。
- Crestron Connected®使用中はEpson Projector Managementのメッセージ配信機能はご利用になれません。
- [待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、制御ができます。

👉 [拡張設定]-[待機モード] [p.142](#)



③

[Crestron Connected]を押します。
操作画面が表示されます。

コンピューターの画面上でプロジェクターを操作する

操作画面を表示する

操作の前に以下の点をご確認ください。

- コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。
- [ネットワーク]メニューの[Crestron Connected]を[オン]に設定してください。

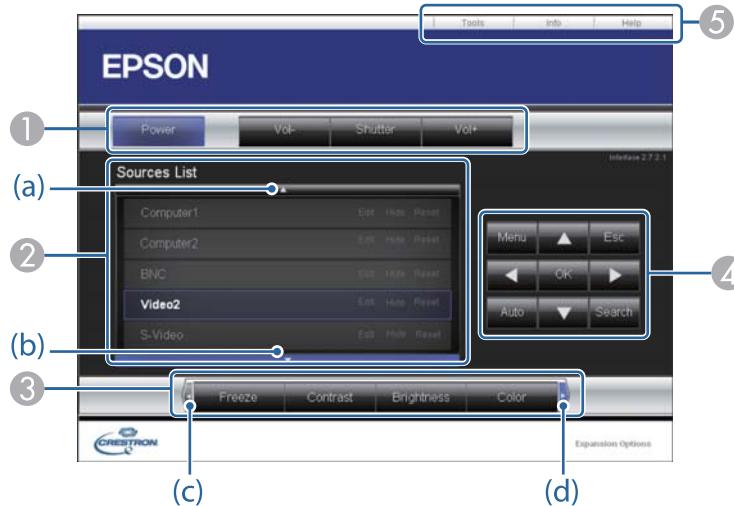
👉 [ネットワーク]-[その他]-[Crestron Connected] [p.156](#)

① コンピューターでWebブラウザーを起動します。

② Webブラウザーのアドレス入力部に、プロジェクターのIPアドレスを入力して、キーボードのEnterキーを押します。

Epson Web Controlのホーム画面が表示されます。

操作画面の使い方



- ① 各ボタンをクリックすると、以下の操作を行えます。

ボタン	機能
Power	電源をオン/オフします。
Shutter	映像を一時的に遮断/解除します。 ☞「映像を一時的に消す（シャッター）」p.102

- ② クリックした入力ソースの映像に切り替わります。画面に表示されていない入力ソースは(a)、(b)をクリックして上下にスクロールすると表示されます。映像信号が入力されているソースは青色で表示されます。ソース名は任意で変更できます。
- ③ 各ボタンをクリックすると、以下の操作を行えます。画面に表示されていないボタンは(c)、(d)をクリックして左右にスクロールすると表示されます。

ボタン	機能
Freeze	映像を一時停止/解除します。 ☞「映像を停止させる（静止）」p.103
Contrast	映像の明暗の差を調整します。
Brightness	映像の明るさを調整します。
Color	映像の色の濃さを調整します。
Sharpness	映像のシャープ感を調整します。
Zoom	[+]ボタンをクリックすると、投写サイズを変えずに映像を拡大します。[-]ボタンをクリックすると、[+]ボタンで拡大した結果を縮小します。

- ④ [▲][▼][◀][▶]ボタンをクリックするとリモコンの【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンと同様の操作を行えます。その他のボタンをクリックすると以下の操作を行えます。

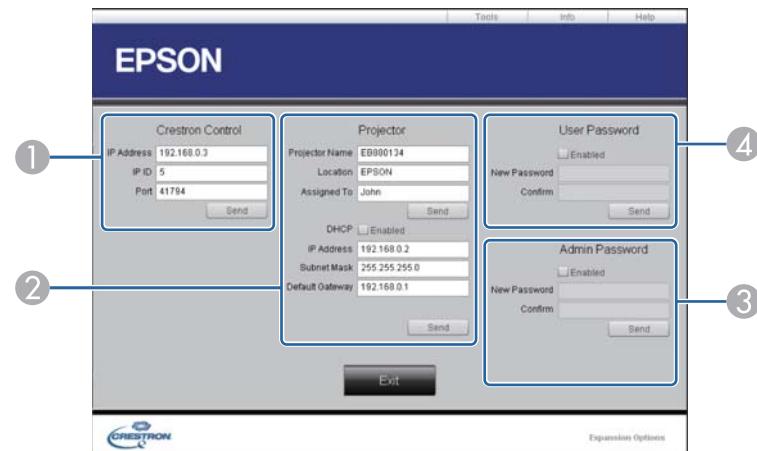
ボタン	機能
OK	リモコンの【➡】ボタンと同じ操作を行えます。 ☞「リモコン」p.24
Menu	環境設定メニューを表示/終了します。
Auto	Computer In端子から入力しているアナログRGB信号を投写しているときにクリックすると、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
Search	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☞「投写映像を切り替える」p.59
Esc	リモコンの【戻る】ボタンと同じ操作を行えます。 ☞「リモコン」p.24

- ⑤ 各タブをクリックすると以下の操作を行えます。

タブ	機能
Help	Help Deskウィンドウが表示されます。Crestron Connected®を利用する管理者に対して、メッセージの送受信を行えます。
Info	現在接続しているプロジェクターの情報を表示します。
Tools	現在接続しているプロジェクターに対して設定の変更を行います。次項を参照してください。

Tools画面の使い方

操作画面で**Tools**タブをクリックすると以下の画面が表示されます。現在接続しているプロジェクターに対して設定の変更を行えます。



① Crestron Control

Crestron®の集中制御コントローラーに対する各設定を行います。

② Projector

以下の項目を設定できます。

項目名	機能
Projector Name	現在接続しているプロジェクターを、ネットワーク上で識別するための個別の名前を任意に入力します。(半角英数字15文字以内)
Location	現在接続しているプロジェクターの設置場所名を任意で入力します。(半角英数字記号32文字以内)
Assigned To	プロジェクターの利用者名を任意で入力します。(半角英数字記号32文字以内)
DHCP	DHCPを使用するときは、 Enabled にチェックを入れます。チェックを入れると以降のアドレスの設定はできなくなります。

項目名	機能
IP Address	現在接続しているプロジェクターに割り当てるIPアドレスを入力します。
Subnet Mask	現在接続しているプロジェクターのサブネットマスクを入力します。
Default Gateway	現在接続しているプロジェクターのゲートウェイアドレスを入力します。
Send	Projector で変更した内容を確定するときにクリックします。

項目名	機能
New Password	操作画面を開くときに入力するパスワードを変更するときは、新しいパスワードを入力します。(半角英数字26文字以内)
Confirm	New Password で入力したパスワードを入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
Send	User Password で変更した内容を確定するときにクリックします。

③ Admin Password

Tools画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは、**Enabled**にチェックを入れます。
以下の項目を設定できます。

項目名	機能
New Password	Tools画面を開くときに入力するパスワードを変更するときは、新しいパスワードを入力します。(半角英数字26文字以内)
Confirm	New Password で入力したパスワードを入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
Send	Admin Password で変更した内容を確定するときにクリックします。

④ User Password

コンピューター上で操作画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは、**Enabled**にチェックを入れます。
以下の項目を設定できます。

Art-Netについて

Art-NetはTCP/IPプロトコルに基づいたイーサネット通信プロトコルです。

DMXコントローラーやアプリケーションシステムを使って本機を制御できます。

チャンネル定義

Art-Netで本機を制御するときのチャンネル定義は下記の通りです。

最初にチャンネル13を「操作可能」に設定してください。

チャンネル	機能	動作	パラメーター	初期値	動作内容
1	光量調整(Dimming)	0% - 100%	0 - 255	0	映像の明るさを設定します。
2	シャッター制御	シャッター	閉	0 - 63	シャッターを実行/解除します。
		無操作		64 - 191	
		シャッター	開	192 - 255	
3	ソース切替	無操作	0 - 23	0	指定したソースに切り替えます。
		HDBaseT	24 - 31		
		無操作	32 - 47		
		SDI	48 - 55		
		コンピューター	56 - 63		
		無操作	64 - 71		
		BNC	72 - 79		
		LAN	80 - 87		
		無操作	88 - 127		
		SLOT1-1※	128 - 135		
		SLOT1-2※	136 - 143		

チャネル	機能	動作	パラメーター	初期値	動作内容
		無操作	144 - 167		
		SLOT2-1※	168 - 175		
		SLOT2-2※	176 - 183		
		無操作	184 - 255		

チャネル	機能	動作	パラメーター	初期値	動作内容
4	レンズ位置	無操作	0 - 31	0	レンズシフトをホームポジションに移動します。
		ホームポジション移動	32 - 63		
		無操作	64 - 255		
5	水平レンズシフト	(+)-レンズ調整	移動量 大	0 - 31	指定した移動量に合わせて水平レンズシフトを実行します。
			移動量 中	32 - 63	
			移動量 小	64 - 95	
		無操作	96 - 159		
		(-)-レンズ調整	移動量 小	160 - 191	
			移動量 中	192 - 223	
			移動量 大	224 - 255	
		(+)-レンズ調整	移動量 大	0 - 31	指定した移動量に合わせて垂直レンズシフトを実行します。
			移動量 中	32 - 63	
			移動量 小	64 - 95	
		無操作	96 - 159		
		(-)-レンズ調整	移動量 小	160 - 191	
			移動量 中	192 - 223	
			移動量 大	224 - 255	

チャネル	機能	動作		パラメーター	初期値	動作内容
7	電動ズーム	(+)レンズ調整		移動量 大	0 - 31	指定した移動量に合わせて電動ズームを実行します。
				移動量 中	32 - 63	
				移動量 小	64 - 95	
		無操作			96 - 159	
		(-)レンズ調整		移動量 小	160 - 191	
				移動量 中	192 - 223	
				移動量 大	224 - 255	
		(+)レンズ調整		移動量 大	0 - 31	
				移動量 中	32 - 63	
				移動量 小	64 - 95	
8	電動フォーカス	無操作			96 - 159	指定した移動量に合わせて電動フォーカスを実行します。
		(-)レンズ調整		移動量 小	160 - 191	
				移動量 中	192 - 223	
				移動量 大	224 - 255	
		(+)レンズ調整		移動量 大	0 - 31	
				移動量 中	32 - 63	
				移動量 小	64 - 95	
		無操作			96 - 159	
		(-)レンズ調整		移動量 小	160 - 191	
				移動量 中	192 - 223	
				移動量 大	224 - 255	
9	電動ディストーション	(+)レンズ調整		移動量 大	0 - 31	指定した移動量に合わせて電動ディストーションを実行します。
				移動量 中	32 - 63	
				移動量 小	64 - 95	
		無操作			96 - 159	
		(-)レンズ調整		移動量 小	160 - 191	
				移動量 中	192 - 223	
				移動量 大	224 - 255	
		無操作			0 - 15	指定したレンズメモリー呼び出します。
					16 - 31	
					32 - 47	
					48 - 63	
10	レンズメモリー呼出	レンズメモリー1 呼出			0	
		レンズメモリー2 呼出				
		レンズメモリー3 呼出				

チャネル	機能	動作	パラメーター	初期値	動作内容
		レンズメモリー4 呼出	64 - 79		
		レンズメモリー5 呼出	80 - 95		
		レンズメモリー6 呼出	96 - 111		
		レンズメモリー7 呼出	112 - 127		
		レンズメモリー8 呼出	128 - 143		
		レンズメモリー9 呼出	144 - 159		
		レンズメモリー10 呼出	160 - 175		
		無操作	176 - 255		
11	電源制御	電源オフ	0 - 63	128	電源をオン/オフします。
		無操作	64 - 191		
		電源オン	192 - 255		
12	幾何学補正	オフ	0 - 15	255	幾何学補正を実行します。 幾何学補正メモリーを呼び出します。
		タテヨコ	16 - 31		
		Quick Corner	32 - 47		
		ポイント補正	48 - 63		
		曲面投写補正	64 - 79		
		コーナー投写補正	80 - 95		
		幾何学補正メモリー1 呼出	96 - 111		
		幾何学補正メモリー2 呼出	112 - 127		
		幾何学補正メモリー3 呼出	128 - 143		
		無操作	144 - 175		
13	ロック	操作不可	0 - 127	0	Art-Netの操作を有効/無効にします。
		操作可能	128 - 255		
14	フリーズ	無操作	0 - 31	128	映像を一時停止/解除します。
		フリーズオフ	32 - 95		

チャネル	機能	動作	パラメーター	初期値	動作内容
		無操作	96 - 159		
		フリーズオン	160 - 223		
		無操作	224 - 255		

※スロットに取り付けられたインターフェイスボードの端子を示します。左側の端子から順番に、1~2の番号となります。



Art-Netで本機を制御しながらリモコンや操作パネルで本機を操作すると、DMXコントローラーやアプリケーションソフトでの操作が本機にうまく反映されないことがあります。複数のチャネルの制御を本機に反映する場合は、設定をはじめる前にチャネル13を「操作不可」に設定し、複数のチャネルの設定が済んだら、再度チャネル13を「操作可能」に設定してください。以降はチャネル13の設定を変更せずに制御ができます。

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。これらのオプション類は2019年10月現在のものです。予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

オプション

レンズユニット

**ELPLX02、ELPLX02W、ELPLU03S、ELPLU04、ELPLW06、ELPLW08、
ELPLM10、ELPLM11、ELPLM15、ELPLL08**

各レンズの投写距離は、以下を参照してください。

👉 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.237](#)

コンピューターケーブル ELPKC02

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 1.8m)

コンピューターケーブル ELPKC09

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m)

コンピューターケーブル ELPKC10

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m)

お使いのコンピューターケーブルが短いときに使う延長ケーブルです。

ワイヤードリモコンケーブル ELPKC28

(10m、2本セット)

離れたところから確実にリモコンで操作したいときに使います。

USB延長ケーブル ELPKC31

USBケーブルの長さが足りないときに、USBケーブルに接続して延長します。

HDBaseTトランスマッター ELPHD01

HDMI信号や制御用信号をLANケーブル1本で長距離伝送するための、トランスマッターです。HDBaseT規格に準拠しています。(HDCP2.2には対応していません。)

書画カメラ ELPDC21

書籍やOHP原稿、スライドを投写するときなどに使います。

HDMI/DVI-Dインターフェイスボード※1 ELPIF01

DisplayPortインターフェイスボード※1 ELPIF03

本機のスロットに取り付けて使います。

低天井用天吊り金具※2 ELPMB47

高天井用天吊り金具※2 ELPMB48

本機を天井に取り付けるときに使います。天吊り金具は、天井への取り付け以外には使わないようにしてください。

※1インターフェイスボードの取り付け・取り外しは、特別な技術が必要となるため、専門業者にご依頼ください。

※2天吊り設置には特別な技術が必要となります。お買い求めいただいた販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。👉 [『お問い合わせ先』](#)

消耗品

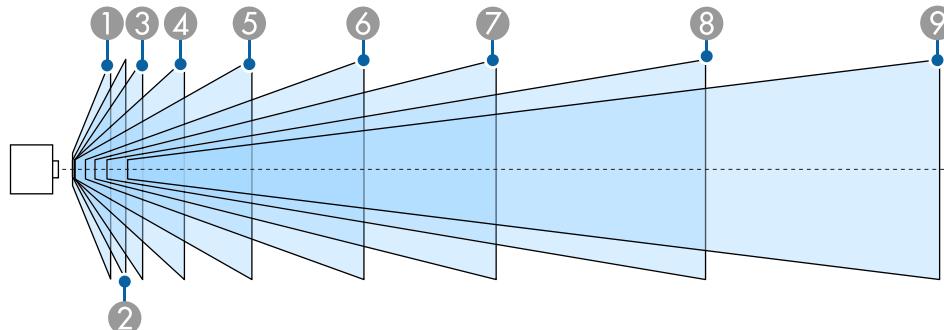
エアフィルター ELPAF58

使用済みエアフィルターと交換します。

レンズの種類と投写範囲

使用するレンズによって投写できる範囲が異なります。

アスペクト比16:10の場合の投写範囲は以下の通りです。



レンズ型番	スクリーンサイズ(型)	投写距離(cm)
① ELPLX02 ELPLX02W	100 - 1000	74 - 769
② ELPLU03S	80 - 1000	80 - 1256
③ ELPLU04	60 - 1000	80 - 1702
④ ELPLW08	60 - 1000	109 - 2639
⑤ ELPLW06	60 - 1000	149 - 3544
⑥ ELPLM15	60 - 1000	199 - 5563
⑦ ELPLM10	60 - 1000	306 - 8086
⑧ ELPLM11	60 - 1000	445 - 11807
⑨ ELPLL08	60 - 1000	664 - 16174

500型を超えると細かな文字や画像が鮮明に表示されない場合があります。

投写距離

次の計算式に表の数値を当てはめて投写距離を算出できます。

式および表の単位はすべてセンチメートル(cm)です。

- 最短投写距離 = スクリーン幅 × 投写距離比(ワイド)
- 最長投写距離 = スクリーン幅 × 投写距離比(テレ)



詳細な投写シミュレートが可能なツールもあります。
<http://www.epson.jp/products/bizprojector/simulator/>

レンズ別投写距離比

レンズ型番	投写距離比(ワイド/テレ)		
	16:10	16:9	4:3
ELPLX02 ELPLX02W	0.35	0.35	0.42
ELPLU03S	0.48 / 0.57	0.48 / 0.57	0.57 / 0.69
ELPLU04	0.64 / 0.77	0.64 / 0.77	0.77 / 0.93
ELPLW08	0.86 / 1.21	0.86 / 1.21	1.03 / 1.46
ELPLW06	1.19 / 1.62	1.19 / 1.62	1.42 / 1.95
ELPLM15	1.57 / 2.56	1.57 / 2.56	1.89 / 3.07
ELPLM10	2.42 / 3.71	2.42 / 3.71	2.91 / 4.45
ELPLM11	3.54 / 5.41	3.54 / 5.41	4.25 / 6.49
ELPLL08	5.27 / 7.41	5.27 / 7.41	6.32 / 8.89

スクリーンサイズ

型	幅x高さ		
	16:10	16:9	4:3
60	129 x 81	133 x 75	122 x 91
80	172 x 108	177 x 100	163 x 122
100	215 x 135	221 x 125	203 x 152
120	258 x 162	266 x 149	244 x 183
150	323 x 202	332 x 187	305 x 229
200	431 x 269	443 x 249	406 x 305
300	646 x 404	664 x 374	610 x 457
350	754 x 471	775 x 436	711 x 533
400	862 x 538	886 x 498	813 x 610
450	969 x 606	996 x 560	914 x 686
500	1077 x 673	1107 x 623	1016 x 762
550	1185 x 740	1218 x 685	1118 x 838
600	1292 x 808	1328 x 747	1219 x 914
650	1400 x 875	1439 x 809	1321 x 991
700	1508 x 942	1550 x 872	1422 x 1067
750	1615 x 1010	1660 x 934	1524 x 1143
800	1723 x 1077	1771 x 996	1626 x 1219
850	1831 x 1144	1882 x 1058	1727 x 1295
900	1939 x 1212	1992 x 1121	-
950	2046 x 1279	2103 x 1183	-
1000	2154 x 1346	-	-

タテヨコ補正

「タテヨコ補正」 p.63

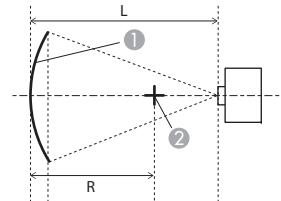
レンズ種類	垂直方向	水平方向
ELPLM15	-44° ~ 44°	-30° ~ 30°
ELPLX02/ELPLX02W	-16° ~ 16°	-16° ~ 16°
ELPLU03S	-28° ~ 28°	-28° ~ 28°
ELPLU04	-31° ~ 31°	-30° ~ 30°
ELPLW06	-41° ~ 41°	-30° ~ 30°
ELPLW08	-37° ~ 37°	-30° ~ 30°
ELPLM10	-45° ~ 45°	-30° ~ 30°
ELPLM11	-45° ~ 45°	-30° ~ 30°
ELPLL08	-45° ~ 45°	-30° ~ 30°

曲面投写補正

「曲面投写補正」 p.65

表内の数値は、図中のR/Lの最小値です。(ズーム最大で投写したときの、およその値です。)

水平曲面(凹面)



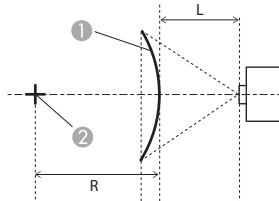
真上から見た図

- ① スクリーン
- ② 曲面を描く円の中心
- L 投写距離
- R 曲面を描く円の半径

レンズ種類	上下レンズシフト : ホームポジション	上下レンズシフト : 最上
	横から見た図	横から見た図
ELPLM15	0.27	0.28
ELPLX02/ELPLX02W	2.37※	2.84
ELPLU03S	0.95	0.99
ELPLU04	0.45	0.53
ELPLW06	0.33	0.34
ELPLW08	0.39	0.40
ELPLM10	0.19	0.20
ELPLM11	0.14	0.14
ELPLL08	0.10	0.10

※ 正しく補正できません。レンズの位置を最下に移動してください。

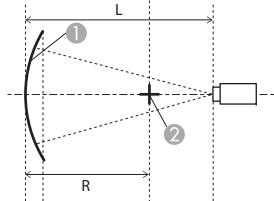
水平曲面(凸面)



真上から見た図

- ① スクリーン
 ② 曲面を描く円の中心
 L 投写距離
 R 曲面を描く円の半径

垂直曲面(凹面)



横から見た図

- ① スクリーン
 ② 曲面を描く円の中心
 L 投写距離
 R 曲面を描く円の半径

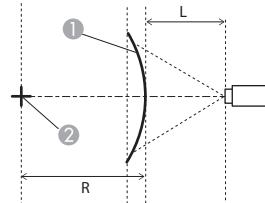
レンズ種類	上下レンズシフト： ホームポジション	上下レンズシフト：最 上
	横から見た図	横から見た図
ELPLM15	0.52	0.54
ELPLX02/ELPLX02W	8.2※	8.2
ELPLU03S	3.52	3.52
ELPLU04	2.21	2.35
ELPLW06	0.79	0.82
ELPLW08	1.32	1.39
ELPLM10	0.29	0.30
ELPLM11	0.18	0.19
ELPLL08	0.12	0.12

※ 正しく補正できません。レンズの位置を最下に移動してください。

レンズ種類	上下レンズシフト： ホームポジション	上下レンズシフト：最 上
	横から見た図	横から見た図
ELPLM15	0.19	0.22
ELPLX02/ELPLX02W	1.33※	2.09
ELPLU03S	0.47	0.52
ELPLU04	0.37	0.62
ELPLW06	0.24	0.29
ELPLW08	0.31	0.42
ELPLM10	0.13	0.15
ELPLM11	0.10	0.11
ELPLL08	0.08	0.08

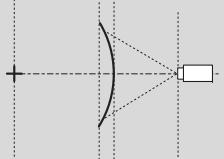
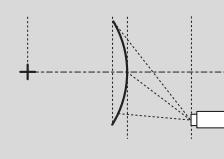
※ 正しく補正できません。レンズの位置を最下に移動してください。

垂直曲面(凸面)



横から見た図

- ① スクリーン
 ② 曲面を描く円の中心
 L 投写距離
 R 曲面を描く円の半径

レンズ種類	上下レンズシフト： ホームポジション	上下レンズシフト：最 上
		
ELPLM15	0.28	0.32
ELPLX02/ELPLX02W	4.22※	4.22
ELPLU03S	1.87	1.96
ELPLU04	1.10	1.29
ELPLW06	0.41	0.48
ELPLW08	0.68	0.80
ELPLM10	0.16	0.19
ELPLM11	0.11	0.12
ELPLL08	0.08	0.08

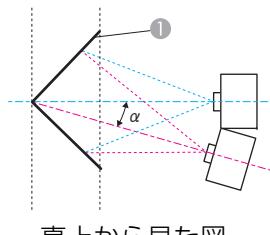
※ 正しく補正できません。レンズの位置を最下に移動してください。

コーナー投写補正

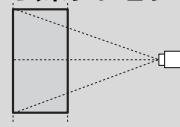
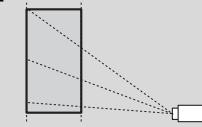
◆ 「コーナー投写補正」 p.68

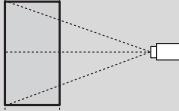
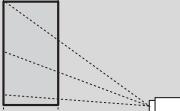
図中の α は本機を移動できる最大角度です。詳細な数値は下表をご覧ください。(ズーム最大で投写したときの、およそその値です。)

凹面水平コーナーの補正(角を中心線にして左右対称になるよう補正)



- ① スクリーン
 α 本機の移動可能角度

レンズ種類	上下レンズシフト： ホームポジション	上下レンズシフト：最 上
		
ELPLM15	31°	25°
ELPLX02/ELPLX02W	6°※	-
ELPLU03S	24°	16°
ELPLU04	29°	11°
ELPLW06	32°	21°
ELPLW08	31°	16°
ELPLM10	30°	30°
ELPLM11	29°	29°

レンズ種類	上下レンズシフト： ホームポジション	上下レンズシフト：最 上
		
	横から見た図	横から見た図

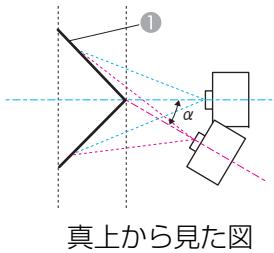
ELPLL08

29°

28°

※ 正しく補正できません。レンズの位置を最下に移動してください。

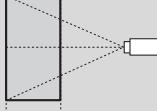
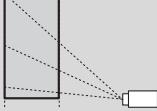
凸面水平コーナーの補正(角を中心線にして左右対称になるよう補正)



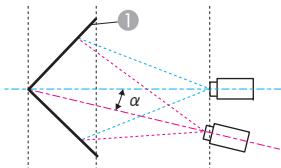
真上から見た図

① スクリーン

α 本機の移動可能角度

レンズ種類	上下レンズシフト： ホームポジション	上下レンズシフト：最 上
ELPLM15		
ELPLX02/ELPLX02W	-	-
ELPLU03S	-	-
ELPLU04	-	-
ELPLW06	11°	11°
ELPLW08	5°	5°
ELPLM10	19°	19°
ELPLM11	22°	21°
ELPLL08	23°	23°

凹面垂直コーナーの補正(角を中心線にして上下対称になるよう補正)

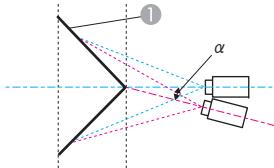


① スクリーン

α 本機の移動可能角度

横から見た図

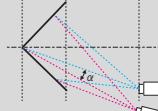
凸面垂直コーナーの補正(角を中心線にして上下対称になるよう補正)

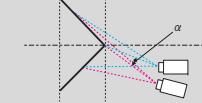


① スクリーン

α 本機の移動可能角度

横から見た図

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
		
ELPLM15	29°	14°
ELPLX02/ELPLX02W	-	-
ELPLU03S	32°	14°
ELPLU04	33°	2°
ELPLW06	31°	13°
ELPLW08	32°	9°
ELPLM10	25°	16°
ELPLM11	24°	17°
ELPLL08	23°	19°

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
ELPLM15		
ELPLX02/ELPLX02W	-	-
ELPLU03S	3°	-
ELPLU04	9°	-
ELPLW06	17°	3°
ELPLW08	14°	-
ELPLM10	22°	14°
ELPLM11	22°	16°
ELPLL08	22°	17°

対応解像度



対応する信号の詳細は『仕様一覧』をご覧ください。以下のWebサイトからダウンロードできます。

<https://www.epson.jp/products/bizprojector/setup/>

コンピューター映像(アナログRGB)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60/72/75/85	640x480
SVGA	60/72/75/85	800x600
XGA	60/70/75/85	1024x768
WXGA	60	1280x768
	60/75/85	1280x800
	60	1366x768
WXGA+	60/75/85	1440x900
WXGA++	60	1600x900
SXGA	70/75/85	1152x864
	60/75/85	1280x960
	60/75/85	1280x1024
SXGA+	60/75	1400x1050
WSXGA+※1	60	1680x1050
UXGA	60	1600x1200
1920x1080	50/60	1920x1080
WUXGA※2	60	1920x1200
SDTV (480p)	59.94	720x480
SDTV (576p)	50	720x576
HDTV (720p)	50/59.94/60	1280x720

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
HDTV (1080p)	50/59.94/60	1920x1080

※1 環境設定メニューの[入力解像度]で[ワイド]を選択しているときに限り対応します。

※2 VESA CVT-RB (Reduced Blanking) 信号のみ対応。

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SDTV (480i/480p)	59.94	720x480
SDTV (576i/576p)	50	720x576
HDTV (720p)	50/59.94/60	1280x720
HDTV (1080i)	50/59.94/60	1920x1080

DVI-D In端子、HDMI In端子、HDBaseT端子からの入力信号

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60	640x480
SVGA	60	800x600
XGA	60	1024x768
WXGA	60	1280x800
	60	1366x768
WXGA+	60	1440x900
WXGA++	60	1600x900
WSXGA+	60	1680x1050
SXGA	60	1280x960
	60	1366x1024

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SXGA+	60	1400x1050
UXGA	60	1600x1200
1920x1080	50/60	1920x1080
WUXGA※1	60	1920x1200
QXGA※2	60	2048x1536
WQHD※2	60	2560x1440
WQXGA※1※2	60	2560x1600
SDTV (480i/480p)	59.94	720x480
SDTV (576i/576p)	50	720x576
HDTV (720p)	50/59.94/60	1280x720
HDTV (1080i)	50/59.94/60	1920x1080
HDTV (1080p)※3	23.98/24/29.97/30/50/59.94/60	1920x1080
4Kx2K※2※3	23.98/24/25/29.97/30	3840x2160
4Kx2K※2	50/59.94/60	3840x2160
4Kx2K (SMPTE)※2※3	23.98/24	4096x2160
4Kx2K (SMPTE)※2	50/59.94/60	4096x2160

※1 VESA CVT-RB (Reduced Blanking) 信号のみ対応。

※2 HDMI、HDBaseT入力のみ対応。

※3 HDMI、HDBaseT入力のみHDR (HDR10、HLG) に対応。

SDI In端子からの入力信号

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)	モード	色差信号	ビット数	レベル
SDTV (480i)	59.94	720x480	SD-SDI	YCbCr 4:2:2	10ビット	-
SDTV (576i)	50	720x576				
HDTV (720p)	50/59.94/60	1280x720	HD-SDI			A
HDTV (1080i)	50/59.94/60	1920x1080				
HDTV (1080p)	23.98/24/25/29.97/30	1920x1080	3G-SDI		RGB 4:4:4	
HDTV (1080p)※	50/59.94/60	1920x1080				
HDTV (1080p)※	23.98/24/25/29.97/30	1920x1080				
HDTV (1080i)	50/59.94/60	1920x1080				

※ HDR (HDR10、HLG) に対応。

本機仕様

商品名	EB-L20002U	EB-L20000U
外形サイズ		幅620x高さ280x奥行き720mm(突起部含まず)
液晶パネルサイズ		1.03型ワイド
表示方式		ポリシリコンTFT アクティブマトリクス
画素数		2,304,000個 WUXGA(横1920x縦1200ドット)x3
フォーカス調整		電動
ズーム調整		電動
レンズシフト		電動(上下方向最大約60%、左右方向最大約18%※1)
光源		レーザーダイオード
光源出力		488W
波長		450-460nm
光源寿命※2		約20,000時間(光源モード:ノーマル、静音) 約43,000時間(光源モード:ロング)
電源		100-120V AC±10% 50/60Hz 12.0A 200-240V AC±10% 50/60Hz 9.7A
消費電力	100-120V	定格消費電力: 1,178W 待機時消費電力(通信オン): 2.0W 待機時消費電力(通信オフ): 0.5W
	200-240V	定格消費電力: 1,860W 待機時消費電力(通信オン): 2.0W 待機時消費電力(通信オフ): 0.5W
動作高度		標高 0~3,048m
動作温度範囲		0~+50°C※3(標高0m~1,500m、結露しないこと) 0~+45°C※3(標高1,501m~3,048m、結露しないこと)
保存温度範囲		-10~+60°C(結露しないこと)

質量	約50kg	約50kg
----	-------	-------

※1 ELPLX02/ELPLX02Wは上方向最大約20%、下方向最大約5%、左右方向最大約15%、ELPLU03Sは上下方向最大約24～32%、左右方向最大約10%

※2 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。

(大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2mg/m³の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。)

※3 使用する環境の温度が高くなったときは、徐々に光源の明るさを落とします。

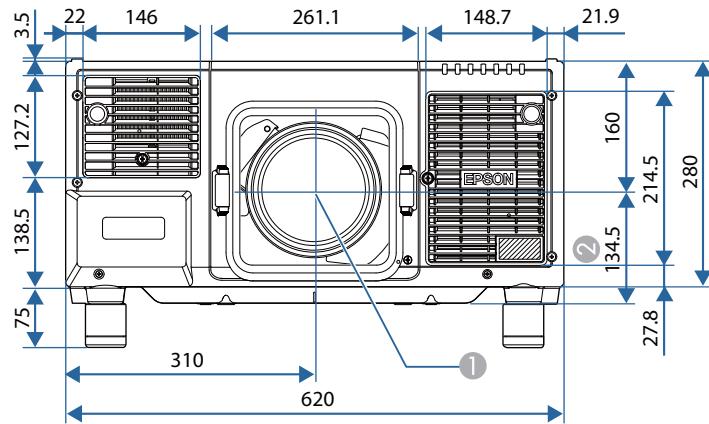
(標高0～1,500mでは約40°C、標高1,501m～3,048mでは約35°Cを目安としますが、使用環境等によって異なります。)

動作温度範囲を超えると、本機の電源が自動的にオフになることがあります。

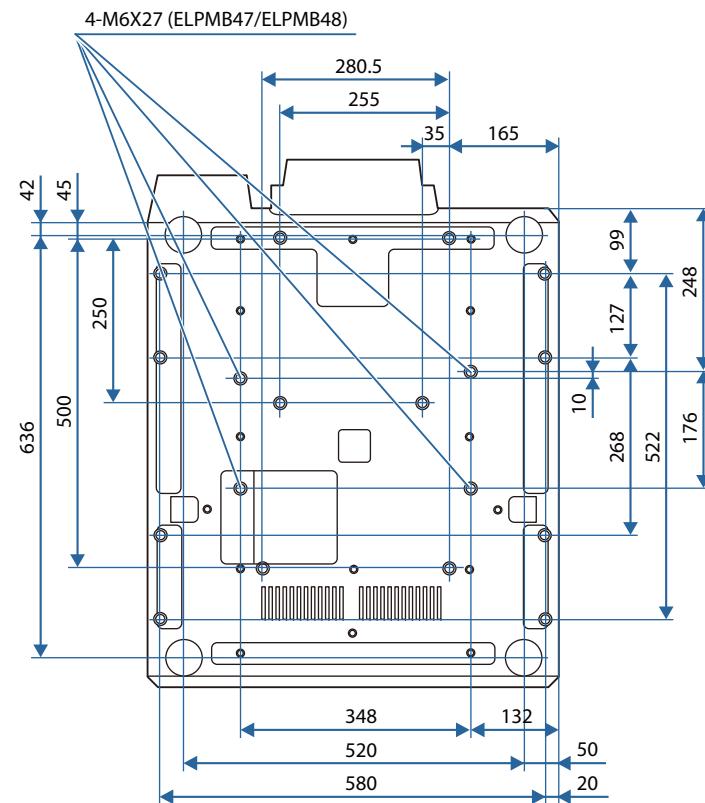
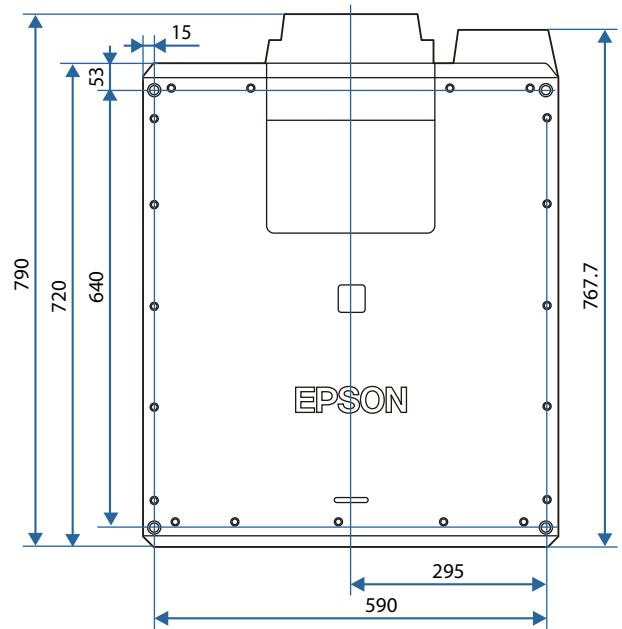
低温環境で使用中にファンから異音がすることがあります、故障ではありません。

接続端子 (プロジェクター)	Computer In端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス)青
	Computer Out端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス)黒
	BNC In端子	1系統	5BNC(メス)
	SDI In端子	1系統	1BNC(メス)
	SDI Out端子	1系統	1BNC(メス)
	LAN端子	1系統	RJ-45
	HDBaseT端子	1系統	RJ-45 HDCP2.2に対応
	RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin(オス)
	Service端子※	1系統	USBコネクター(Bタイプ)USB2.0に対応
	USB-A端子※	1系統	USBコネクター(Aタイプ) (最大900mA)USB2.0に対応
	Remote端子	1系統	ステレオミニピンジャック(3.5Φ)
接続端子 (HDMI/DVI-Dインターフェイス ボード)	Slot	2系統	インターフェイスボード専用端子
	HDMI In端子	1系統	HDMI HDCP2.2に対応
	DVI-D In端子	1系統	DVI-D 24pin シングルリンク HDCP対応
	DC Out端子(給電専 用)※	1系統	USBコネクター(Aタイプ) (最大500mA)

※ USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。



- ① レンズ中心
 ② レンズ中心から天吊り固定部(ELPMB47/ELPMB48用)までの距離



単位: mm

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源コードは販売国のお仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

Microsoft® Windows® Vista® operating system

Microsoft® Windows® 7 operating system

Microsoft® Windows® 8 operating system

Microsoft® Windows® 8.1 operating system

Microsoft® Windows® 10 operating system

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows Vista」、「Windows 7」、「Windows 8」、「Windows 8.1」、「Windows 10」と表記しています。また、これらを総称する場合はWindows、複数のWindowsを併記する場合はWindows Vista/7/8/8.1/10のように、Windowsの表記を省略することができます。

OS X 10.7.x

OS X 10.8.x

OS X 10.9.x

OS X 10.10.x

OS X 10.11.x

macOS 10.12.x

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「OS X 10.7.x」、「OS X 10.8.x」、「OS X 10.9.x」、「OS X 10.10.x」、「OS X

10.11.x」、「macOS 10.12.x」と表記しています。またこれらを総称する場合は「Mac」と表記します。

商標と著作権について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOUR VISION」はセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、Mac OS、OS X、iOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Microsoft Edge、Windows Media、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

Android、Chrome、Chromebook、Google Playは、Google LLCの商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。  HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標または登録商標です。

WPATM、WPA2TMはWi-Fi Allianceの登録商標です。

QRコードは株式会社デンソーウエーブの登録商標です。

CrestronおよびCrestron Connected、Crestron RoomView、Crestron Fusionは、Crestron Electronics, Inc.の登録商標です。

etherCON[®]はNeutrik AGの登録商標です。

Art-NetTM Designed by and Copyright Artistic Licence Holdings Ltd.

Extron[®] and XTP[®] are registered trademarks of Extron Electronics.

HDBaseTTM and the HDBaseT Alliance logo are trademarks of the HDBaseT Alliance.

The DisplayPort Certified Logo and DisplayPort Icons are Registered Trademarks of the Video Electronics Standards Association (VESA).

The word DisplayPort is a Registered Trademark of VESA in various countries around the world.

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

製品上に以下のシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	意味
①	■	IEC60417 No.5007	電源 ON 電源への接続を示す。
②	○	IEC60417 No.5008	電源 OFF 電源からの切り離しを示す。
③	○	IEC60417 No.5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④	!	ISO7000 No.0434B IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤	△	IEC60417 No.5041	注意(高温) 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥	△	IEC60417 No.6042 ISO3864-B3.6	注意(感電危険) 感電(電撃)の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦	△	IEC60417 No.5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。
⑧	△-○+△	IEC60417 No.5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨	△-○+△	---	No.8と同じ
⑩	■	IEC60417 No.5001B	電池(一般) 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	意味
⑪	■ +	IEC60417 No.5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内の向きを示す。
⑫	■ + -	---	No.11と同じ
⑬	○ ⊥	IEC60417 No.5019	保護接地 障害発生時の電撃(感電)保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭	○ ⊥	IEC60417 No.5017	アース No.13の使用が明示的に要請されない場合の接地(アース)端子であることを示す。
⑮	～	IEC60417 No.5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。
⑯	— — —	IEC60417 No.5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
⑰	□	IEC60417 No.5172	クラス II 機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラス II 機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
⑱	○ ⊖	ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
⑲	○ ⊖	ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
⑳	△ X ⊖	---	プロジェクター動作中の投写レンズ覗き込み禁止を示す。
㉑	□ ⊖ X	---	プロジェクターの上に物を置いてはならないことを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	意味
㉒		ISO3864 IEC60825-1	注意(レーザー放射) 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
㉓		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
㉔		IEC60417 No.5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
㉕		ISO3864 IEC60417 No.5057	注意(可動部品) 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
㉖		IEC 60417-6056	注意(可動ファンのブレード) 保護規定上、可動ファンのブレードから離れなければならないことを指示する。
㉗		IEC 60417-6043	注意(鋭利な角) 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
㉘		---	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止
㉙		ISO7010 No.W027 ISO3864	警告、光放射(UV、可視光、IRなど) 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
㉚		IEC60417 No.5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

数字・アルファベット

2画面	141
2画面設定	100
A/V出力設定	145
AMX Device Discovery	156
Art-Net	156, 231
Auto	22
BT.709	73
Computer In	19
Computer/BNC Out	19
Crestron Connected	226
DHCP	152, 154
DICOM SIM	73
EDID	140
Epson Web Control	215
Esc	23
ESC/VP21	224
Event ID	158
Extron XTP	145
Filterインジケーター	170
Focus	23
Geometry	23
HDBaseT信号品質	158
HDBaseT設定	145
HDBaseT端子	19
IPアドレス	152, 154
Lens Shift	23
Menu	23
PJLink	226
PJLinkパスワード	149
Quick Corner	141
Remote端子	19
RoomView	227

RS-232C端子	19
Shutter	23
Slot	19
SMTPサーバー	155
SNMP	224
Test Pattern	23
Zoom	23

ア

明るさ	137
アクセスポイント検索	153
アスペクト	77, 139
一括設定機能	160
色合い	137
色の濃さ	137
インジケーター	170
Web制御パスワード	150
Webブラウザー	215
エアフィルター・吸気口の清掃	203
エアフィルター清掃通知	143
エアフィルターの交換時期	207
エアフィルターの交換方法	207
映像メニュー	138
液晶アライメント	143
エッジブレンディング	89, 146
オーバースキャン	139
オーバーヒート	172
オプション品	236

力

解像度	244
拡張設定メニュー	142
確認音	144

各部の名称と働き	17
画質調整メニュー	137
画面サイズ	101
カラー調整	138
カラーモード	73, 137
環境設定メニュー	132
幾何学歪み補正	141
基本設定メニュー	149
黒レベル調整	146
ゲートウェイアドレス	152, 154
言語	146
高地モード	144
コーナー投写補正	68
コントラスト	137

サ

サブネットマスク	152, 154
左右画面入替	101
自動調整	139
シネマ	73
シャープネス	137
シャッター	102
仕様一覧	246
状態インジケーター	17
情報メニュー	157
消耗品	236
書画カメラ	236
初期化メニュー	158
シリアル番号	157
スクリーンサイズ	237
スクリーン設定	34, 143
スケジュール	107
スケジュール設定画面へ	146

スタートアップスクリーン	143
ステータス	157
ステータスマニター	177
静止	103
設置条件	34
設置設定	34
設置モード	143
設定メニュー	141
全初期化	159
全ロック	113
操作パネル	22
掃除	203
ソフトキーボード	149

タ

対応解像度	244
待機モード	145
ダイナミック	73
ダイレクトパワーオン	144
タテヨコ補正	141
通知メールアドレス1/2/3	155
テストパターン	36, 142
電源端子	18
電源投入時	111
電池の交換方法	26
天吊り	143
天吊り固定部	22
問い合わせコード	113
同期	139
同期情報	157
動作温度範囲	246
動作設定	144
投写距離	237

投写レンズ	30
トラッキング	139
トラップIPアドレス1/2	155

ナ

ナチュラル	73
入力解像度	139, 157
入力切り替え	22
入力信号	157
入力ソース	100, 157
ネットワーク情報	148
ネットワーク設定画面	148
ネットワークメニュー	147

ハ

排気口	18
背景表示	143
パスワードプロジェクト	111
日付&時刻	145
表示位置	139
表示設定	143
表示倍率	140, 146
フット	22
プレゼンテーション	73
プロジェクター	56, 58
プロジェクターID	43
プロジェクターキーワード	150
プロジェクターナイ	149
フロント	143
ヘルプ機能	169
ポート番号	155
保存温度範囲	246
ホワイトバランス	138

本機の掃除	203
-------	-----

マ

マルチプロジェクト	73, 146
マルチプロジェクト機能	85
無線LANメニュー	150
メール通知機能	155, 223
メールの見方	223
メッセージ配信	156
メッセージ表示	143
メニュー	132
メモリー	142
メモリー初期化	158

ヤ

ユーザー <button>ボタン</button>	142
ユーザー 	103
ユーザー  保護	111
有線LANメニュー	154
優先ゲートウェイ	156
ユニフォーミティー	143, 146

ラ

リア	143
リフレッシュレート	157
リモコン	24
リモコンID	44
リモコン受光部	17, 18
リモコンボタンロック	114
レンズ交換カバー	30
レンズシフト	36
レンズ操作ロック	114